

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード：

英文科目名称： The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
武井 英輔			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H107
添付ファイル			
カリキュラムマップ（日本国憲法）.pdf			
ルーブリック様式（日本国憲法）.pdf			

講義概要	憲法とは、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた、国の最高のルールである。本講義では、まず憲法とはどのような法であるか、日本とその他諸外国における憲法の歴史的展開を扱う。さらに、統治機構と基本的人権に関する概要や重要判例などを概説する。現代のグローバル社会における具体的課題（例えば個人情報保護、多様性の尊重、肖像権等）に関する素材を提供しながら、憲法の基本的知識をもって考え、発言できるための法的思考を学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション、憲法とは何か 授業の進め方、そもそも憲法とは何か、憲法の実在意義について学ぶ。 B：小	
	第2回	人権総論 基本的人権の意味について歴史的な変遷を学び、人権の基本的知識について学ぶ。 B：小	
	第3回	プライバシー権・新しい人権 プライバシー権や肖像権など新しい人権について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第4回	法の下での平等 法の下での平等の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第5回	思想良心の自由・信教の自由 思想良心の自由・信教の自由の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第6回	表現の自由① 表現の自由の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第7回	表現の自由② 表現の自由の基本的知識・報道の自由や取材の自由について重要判例を通じて考える。 B：小	
	第8回	表現の自由③と人身の自由 表現の自由の応用分野（低価値表現等）、人身の自由の基本的知識について重要判例を通じて考える。 B：小	
	第9回	職業選択の自由と財産権 職業選択の自由と財産権の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第10回	学問の自由と教育を受ける権利 学問の自由と教育を受ける権利について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第11回	参政権と生存権 参政権と社会権の基本的知識について、重要判例を通じて考える。 B：小	
	第12回	国会・内閣 三権分立とは何か、国会と内閣の役割や権能（立法権、行政権）、関係性についてを学ぶ。 B：小	
	第13回	内閣・裁判所 司法権の意味を確認し、日本の裁判制度、違憲審査制の類型、訴訟類型について、学ぶ。また、司法制度改革に伴い導入された裁判員制度の方法や課題についても考える。 B：小	
	第14回	地方自治・平和主義・財政 地方自治とはなにか。その存在意義はなにか。憲法9条とは。財政の仕組み等について学習する。 B：小	
	第15回	まとめ これまでの授業の総復習を行う。 B：小	
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。国家とは何か。戦争とは何か。憲法が保障する人権について理解し、人権保障の重要性を学ぶ。		

到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 日本国憲法とは何か、法秩序における憲法の位置付けを理解した上で、憲法に関する基本的な知識を身に付け、憲法に関する用語について説明することができる。現代のグローバル社会における具体的課題に関心を持ち、積極的に調べ、法的な観点から考え、述べることができる。</p> <p>3. 重要な憲法判例の概要を理解し、その判例（判例で扱う争点）について、自身の考えを持ち、論理的な思考に基づき、的確に議論・討論ができる。</p> <p>5. 人権問題を学ぶことを通じて、広い視野をもち、異なる価値観や多様性を尊重することができる。</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>定期試験 80%</p> <p>平常点評価 20%</p> <p>評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第1回目の授業内で説明する。
教科書	なし
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	基本は復習中心。時事問題に常に興味をもち、図書館や新聞記事、インターネットを活用して、予習復習を心がけてほしい。必要な時間は一時間以上。
履修上の注意、条件等	<p>六法全書を授業に持ち込むことが望ましい。</p> <p>現代のグローバル社会における具体的課題に常に興味を持ち、疑問があれば自分で調べること。身近な人と意見交換を行い、自身の考えを持ち、発信することを心掛けること。</p>
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子・本間美重子（補助）			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D102
添付ファイル			
curriculum map_1.pdf			
rubrick_1.pdf			

講義概要	<p>「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（1年生前学期）、「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（2年生後学期）を通して保育者にふさわしい情報リテラシーの獲得を目指す。情報モラル、必要な情報を探索する方法、収集した情報を分析評価する方法、そして効果的に表現する技法を演習を通して学んでいく。また、情報機器を取り入れた保育や教育のあり方についても考察していく。</p> <p>「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」においては、まずは一般的な情報リテラシーの獲得とツール習得を目標とする。他教科でも学習の基盤として使用するGmail、Google Classroom、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Googleフォーム、Google スライドの効果的な使い方を演習を通して学び、それらを活用した双方向型授業を実施する。担当講師は、ICT企業においてエンジニア実務経験を有する。また、英語の中学・高等学校教職免許を持つため、教育的視点と実践的視点の双方から授業を行なっていく。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	ガイダンス - 幼児教育と情報機器演習の関係性 国内および諸外国での保育現場における情報機器の活用状況をもとに、本授業の意義を説明する。また、現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート）。 F：あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておく（1時間）	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	学習環境の解説 - Google Classroom（授業環境）とは何か 学習環境（Google Classroom）と今後の授業の進め方について説明する。また、タイピング練習方法について説明する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第3回	フォーマルメールを学ぶ Gmailを用い、フォーマルメール（学内外の目上の方への丁寧なメール）の送り方について学ぶ。宛先の設定（To: Cc: Bcc）、文章の構成（宛名、挨拶文、本題、締めくくり）などメールを送る際のルールを学ぶ。 事前準備：学校から配布されたGmailアドレスとパスワードを準備する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第4回	情報モラルを学ぶ 1 学校で生活する上で必要な情報モラル（LINEやインスタグラムなどのSNSの利用やインターネット利用時の著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめフィードバックする。（形式は授業中に指示） A：少 E：あり F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第5回	レポート作成の基礎を学ぶ 1（情報の探索、分析、評価、整理） ある課題解決をするために情報探索し、分析・評価・整理したものをレポートとしてアウトプットする。またその際の注意事項（引用、著作権など）、Google ドキュメントを用いたレポート作成方法について学ぶ。また、第4回で提出された課題についてフィードバックする。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第6回	レポート作成の基礎を学ぶ 2（情報のアウトプット） 本学共通のレポートフォーマットを学ぶ。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第7回	文書作成の基礎を学ぶ 1（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（30分）	
	第8回	文書作成の基礎を学ぶ 2（情報のアウトプット） Google ドキュメントを用い、簡単な文書（画像を含む）を作成する。 F：あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	

	<p>予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。(30分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分) 文書作成の基礎を学ぶ 3 (情報のアウトプット) 幼稚園・保育園の「お便り」を題材に、これまで学んできた機能を使い必要な情報を効果的にアウトプットする方法を学ぶ。 F:あり(授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出) 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。(30分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分)</p> <p>第10回 情報モラルを学ぶ 2 幼稚園や保育園など職場に必要な情報モラル(インターネットやSNSの利用や著作権、肖像権、個人情報保護など)について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめて提出する。(形式は授業中に指示) A:少 F:あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。(30分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分)</p> <p>第11回 プレゼンテーションの基礎を学ぶ 1 (情報のアウトプット) Google スライドを用い、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また、第10回で提出された課題についてフィードバックする。 E:あり F:あり(授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出) 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。(30分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分)</p> <p>第12回 プレゼンテーションの基礎を学ぶ 2 (情報のアウトプット) Google スライドを用い、前回作成した資料をブラッシュアップする。 F:あり(授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出) 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。(30分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの基礎を学ぶ 3 (情報のアウトプット) 前回作成したプレゼンテーションを発表する。効果的に発表する方法を学ぶ。 A:多 D:多 F:あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。発表の準備をする。(60分) 復習：学びの振り返りとタイピング練習(30分)</p> <p>第14回 文書作成の復習 「文書作成の基礎を学ぶ」1から3を通して修得した内容を演習を通して復習していく。 復習：これまでの授業の総復習をし期末試験対策をする。(約3時間)</p> <p>試験 期末試験</p> <p>第15回 期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと(約2時間) E:あり</p>
教育目標との関連	本講では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現方法を修得する。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 一般的な情報機器の特性(メリット・デメリット)について理解し、説明することができる。 3. 大学生として、学内・学外に通用する文書・資料作成を行うことができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	期末試験 20%: 授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題 50%: 授業内で行う課題への取り組みを評価する。 授業への参加度 30%: グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取り組み態度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回授業にて、期末試験の解説を行う。
教科書	特になし
参考書	必要に応じて資料をオンライン配信する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	子どもや保育環境を取り巻く情報機器のあり方について常に関心を持ち、自分なりの考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。

備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合がある。
----------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子・本間美重子（補助）			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D204
添付ファイル			
rubrick_2.pdf			
curriculum map_2.pdf			

講義概要	<p>この授業では「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」で得たことをベースに、より実践的なスキルの獲得を目指す。保育現場で事務作業（書類作成、データ管理、情報共有など）を円滑に行うスキルや子供達の興味・関心を高めたり表現力を引き出すための情報機器を利用した技法を演習を通して学んでいく。なお、この授業においても「幼児と情報機器演習Ⅰ」と同様に、Google Classroom等を活用した、双方向型授業を実施する。</p> <p>担当講師は、ICT企業においてエンジニア実務経験を有する。また、英語の中学・高等学校教職免許を持つため、教育的視点と実践的視点の双方から授業を行なっていく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 ガイダンス - 幼児教育と情報機器演習の関係性 本授業の目的、学習のねらいなどについて解説する。 現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート） F:あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間）</p> <p>第2回 文書作成の復習（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第3回 文書作成の応用1（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、カレンダー（表）を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第4回 文書作成の応用2（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、幼稚園のお便りを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第5回 表計算ソフトの基礎1（情報の整理） Google スプレッドシートを用い、簡単な表を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第6回 表計算ソフトの基礎2（情報の整理、集計、分析） Google スプレッドシートを用い、簡単なデータの分析をする。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第7回 アンケートの作成（情報の収集、集計、分析） Googleフォームを用い、簡単なアンケートを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第8回 表計算ソフトの基礎3（情報の整理、集計、分析） 第7回で作成したアンケートの回答を集計、分析の演習を行う。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第9回 プレゼンテーションの復習（情報のアウトプット） Google スライドを用い、テーマに合った内容のプレゼンテーションを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第10回 プレゼンテーションの応用1（情報のアウトプット） Google スライドを用い、「幼児教育現場で情報機器を用いることに対する考察」をテーマに、情報収集、情報整理したもの、考察した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第11回 プレゼンテーションの応用2（情報のアウトプット）</p>

	<p>前回の続きで、プレゼンテーションをまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第12回 プレゼンテーションの応用3（情報のアウトプット） グループ作業：Google スライドを用い、第9回授業で作成した資料を意見交換、作業分担しながら一つのものにまとめる。 A:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第13回 プレゼンテーションの応用4（情報のアウトプット） グループでまとめたプレゼン資料を発表する。また、発表を聞き、その内容をレポートにまとめて提出する。 A:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（30分） 復習：タイピング練習（30分）</p> <p>第14回 文書作成の復習 「文書作成の応用」1&2を通して修得した内容を演習を通して復習していく。 復習：これまでの授業の総復習をし期末試験対策をする。（約3時間）</p> <p>試験 期末試験</p> <p>第15回 期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E:あり</p>
教育目標との関連	本講では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現方法を修得する。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 保育者として、情報機器の特性（メリットデメリット）について理解し、説明することができる 3. 保育者として、保育現場で有効な文書・資料や教材の開発・作成を行うことができる 4. 保育者として、情報機器を保育の場で有効に使うことに関心を持ち、活用方法を検討することができる</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 20%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題 50%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度 30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回授業にて、期末試験の解説を行う。
教科書	特になし
参考書	必要に応じて資料をオンライン配信する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	子どもや保育環境を取り巻く情報機器のあり方について常に関心を持ち、自分なりの考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合がある。

講義科目名称： 英語コミュニケーション I

授業コード：

英文科目名称： English Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
英語コミュ I カリキュラムマップ&ループリック.pdf			

講義概要	このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性があります。簡単な日常英会話を身につけましょう。中学校の英文法を身に付ければ、日常英会話の9割ができます。この授業では、基本の英文法を復習しながら、英会話を練習します。ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います。		
授業計画および学習形態	第1回	Unit 1 It's Nice to Meet You Be動詞を使った英文を勉強しながら、英語で自己紹介できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	Unit 2 Take A Hike 一般動詞の現在形を使った英文を勉強しながら、自分の1日の行動を英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第3回	Unit 3 Don't Wear Your High Heels 代名詞を使った英文を勉強しながら、自分の家族や友人を紹介できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第4回	Unit 4 There's Nothing in My Backpack 前置詞を使った英文を勉強しながら、自分の回りにあるものの位置関係を英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第5回	Unit 5 What a Small World! 英語の疑問文の使い方を勉強しながら、相手に英語で質問をして、必要な情報を聞き出せるようになります。 課題1 提出：自己紹介・日常生活について A:中 E:あり F:あり	
	第6回	Unit 6 Let's Eat 現在進行形を使った英文を勉強しながら、自分が今やっていることを英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第7回	Unit 7 It's a Date 過去形を使った英文を勉強しながら、その日自分がしたことを英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第8回	Unit 8 I Have to Study 助動詞を使った英文を勉強しながら、自分ができる、やらなければならないことを英語で言えるようになります。 A:中 E:あり F:あり	
	第9回	Unit 9 こども教育コース：What Do You Think of My Sketch? 疑問詞を使った英文を勉強しながら、場所や価格について英語で説明できるようになります。 国際こども教育コース：Ottawa? The Capital 接続詞を使った英文を勉強しながら、長い文を英語で言えるようになります。 食べ物注文するときを使う表現を勉強します。 A:中 E:あり F:あり	

	<p>第10回 Unit 10 Kanji is So Difficult 不定詞・動名詞を使った英文を勉強しながら、自分が好きなことや嫌いなことについて英語で説明できるようになります。 課題2提出: Last Weekend</p> <p>第11回 A:中 E:あり F:あり Unit 11 I' ll Make a Birthday Cake 未来形を使った英文を勉強しながら、これからの予定について英語で説明できるようになります。</p> <p>第12回 A:中 E:あり F:あり Unit 12 Saturday or Sunday? 接続詞を使った英文を勉強しながら、おすすめのお店について詳しく英語で説明できるようになります。</p> <p>第13回 A:中 E:あり F:あり Unit 13 I' m Not Good with Computers 現在完了形を使った英文を勉強しながら、自分の経験について英語で話せるようになります。</p> <p>第14回 A:中 E:あり F:あり Unit 14 Which is Better? 比較級・最上級を使った英文を勉強しながら、自分が好きな料理について、比較しながら英語で説明できるようになります。</p> <p>第15回 A:中 E:あり F:あり Unit 15 Surprise! 受動態を使った英文を勉強しながら、自分のお気に入りの本や音楽について英語で説明できるようになります。 課題3提出: Next Weekend 課題3提出: My Recommendation</p> <p>第16回 A:中 E:あり F:あり 期末試験 期末試験を行います。</p>
教育目標との関連	早期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、基本の英文法を身につけます。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 英語でコミュニケーションをできる基本的な表現や語彙を理解できる</p> <p>2. 海外や異文化に対する興味や関心を高めることができる</p> <p>3. 英語で自分のことを表現できる</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>宿題 20% 毎週短いライティングの宿題が出ます。</p> <p>平常点評価 20% グループワークの貢献度・参加度を評価します。</p> <p>期末試験 30% 選択問題の期末試験</p> <p>単語テスト 30% 毎週、単語テストがあります。</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験はGoogle Classroomの中で返却されます。メールで質問などを受けます。
教科書	こども教育コース「English First Starter」 Robert Hickling & Misato Usukura著 金星堂出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	毎週、前週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です!積極的に参加しましょう! この授業は対面で行います。

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ

授業コード：

英文科目名称： English CommunicationⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
英語コミュ II カリキュラムマップ&ループリック.pdf			

講義概要	<p>このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。2020オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。</p> <p>この授業では英語コミュニケーションIで勉強した文法の基本にして、保育園で使える英語を勉強します。毎週、テーマ別に表現と語彙を勉強して、練習します。</p> <p>ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>Please Speak More Slowly</p> <p>英語でコミュニケーションをするときの基本表現を勉強します。保育園での基本語彙を勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>Unit 1: Hi, I' m Yuri Tanaka</p> <p>挨拶・自己紹介で使う表現を勉強します。英語で自己紹介できるようになります。人に何かを頼む表現を勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第3回	<p>Unit 2: Where is the Multi-purpose Room?</p> <p>位置を伝える表現を勉強しながら、英語で簡単に園内の案内できるようになります。道案内に使う英語も勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第4回	<p>Unit 3: Good Morning. How Are You Today?</p> <p>登園時の簡単な会話を勉強します。体調を聞く・答えるを英語でできるようになります。自分の持ち物について英語で説明できるようになります。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第5回	<p>Unit 4: What Color Do You Like?</p> <p>工作時間の会話を勉強しながら、好き嫌いを英語で聞けるようになります。工作道具を英語で説明できるようになります。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第6回	<p>Unit 5: There' s a Ladybug on the Leaf</p> <p>場所を表す表現を勉強しながら、自分の回りにあるものを英語で説明できるようになります。園外散歩での会話で使う表現を勉強します。</p> <p>課題1提出：Daily Life at a Nursery School</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第7回	<p>Unit 6: It' s Time to Play Outside</p> <p>命令文を勉強しながら、外で遊ぶときの簡単な会話をできるようになります。園庭にあるものを表す語彙を勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第8回	<p>Unit 7: She Is Allergic to Eggs</p> <p>食材の語彙を勉強しながら、自分の食に関する好き嫌いを英語で説明できるようになります。手洗いや歯磨きのとき使う表現を勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第9回	<p>Unit 8: You Should Go to the Bathroom</p> <p>お昼寝時間の会話を勉強しながら、英語で児童にしなければならないこと・する必要があることを言えるようになります。英語のジェスチャーを勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第10回	<p>Unit 9: We Made Masks Today</p> <p>降園時の会話を勉強しながら、英語で1日の活動や様子を説明できるようになります。気持ちや表情を表す表現を勉強します。</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第11回	<p>Unit 10: If It Rains, What Happens?</p> <p>仮定の表現を勉強しながら、園の行事予定を英語で説明できるようになります。体操で使う表現を勉強します。</p> <p>課題2提出：Today at Nursery School</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>	
	第12回	<p>Unit 11: What Shall We Do Today?</p>	

	<p>Shall I/we…?とWill you…?の表現を勉強しながら、英語で他の保育士と簡単な打ち合わせをできるようにになります。時間を表す表現を勉強します。 A:中 E:あり F:あり</p> <p>第13回 Unit 12: I Feel Feverish 病気やけがのときに使う表現を勉強しながら、体調不良の児童と会話をできるようにになります。医療品と体の部分の語彙を勉強します。 A:中 E:あり F:あり</p> <p>第14回 Unit 13: This is Yuri from Cosmos Day Care Center 電話対応で使う表現を勉強しながら、簡単な電話を英語でできるようにになります。伝言で使う表現を勉強します。 A:中 E:あり F:あり</p> <p>第15回 Unit 14: Thank You Very Much for Everything お別れのときに使う会話を勉強しながら、お礼を英語で言えるようになります。音楽の活動に使う表現を勉強します。 課題3提出: Teacher and child conversation A:中</p> <p>第16回 期末試験 筆記試験を行います。</p>
教育目標との関連	初期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、保育園で勉強しと語彙を勉強します。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 教育・保育現場で使う英語の表現が理解できる</p> <p>2. 異文化理解を深めることができる</p> <p>3. 保育に関する基本的な英語の語彙を正しく使うことができる</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>宿題 20% 毎週短いライティングの宿題が出ます。</p> <p>平常点評価 20% グループワークの貢献度・参加度を評価します。</p> <p>期末試験 30% 筆記試験があります。</p> <p>単語テスト 30% 毎週、単語テストがあります。</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験はGoogle Classroomの中で返却されます。質問などをメールで受けます。
教科書	「Happy English for Childcare」 土屋 麻衣子 編 金星堂
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎週は先週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！ この授業は対面で行います。

講義科目名称： 文章表現法

授業コード：

英文科目名称： Japanese Writing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：E102
添付ファイル			
文章表現法2023.pdf			

講義概要	<p>自分の意思を言葉によつて的確に表現することは、学生としても保育者としてもあらゆる活動の基礎となる。しかし、普段から話したり書いたりしている日本語を改めて振り返る機会ほとんどないであろう。そこで本講義では、自身の用いている日本語を見直すことからはじめ、自身の考えを適切な文章で書き表すための基本的なルールを具体的な演習課題を通して習得し、各自の日本語力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>他の科目との関連：自分の思いを文章で書き表す行為は、本学で開講されているすべての講義の基盤となる。特に、「キャンパスライフデザイン」では、本講義での学びを生かし、実際にレポートを作成する。</p>
授業計画および学習形態	<p>第1回 オリエンテーションー保育者に必要な文章力とはー シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 保育者に必要な文章力とは何か、また日本語力を向上させるためにはどのようにしたら良いかについて学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。(約30分) 復習：自身の言葉への関心度・言語環境を振り返り、改善できるところはないか考える。(約30分) E:あり</p> <p>第2回 日本語を豊かにするためのツール 日本語を豊かにするためのツールとして、辞書と新聞の使い方を学ぶ。 復習：配布したプリントを見直しておく。(約1時間) A:中 D:中</p> <p>第3回 日本語の特徴と表記 諸外国語と比較した際の日本語の特徴を理解するとともに、正しい字形・表記で書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分) B:中 D:中</p> <p>第4回 文章表現の基本① 主語と述語の見分け方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第5回 文章表現の基本② 主語と述語が呼応したねじれない文章を書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第6回 文章表現の基本③ 話し言葉と書き言葉の違いと、文体について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第7回 文章表現の基本④ 副詞の呼応と、効果的な接続詞に使い方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第8回 文章表現の基本⑤ 単語を選択する際の留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第9回 作文演習① 原稿用紙の使い方を確認する。文例を参考にしながら、400字の作文を書く。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第10回 敬語の基礎 敬語の種類について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第11回 敬語の応用 敬語の使い方をシーン別に学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第12回 改まった手紙を書く① 改まった手紙の書き方について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第13回 改まった手紙を書く②</p>

	<p>実際に便箋を使って改まった手紙を書く。封筒の使い方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第14回 作文演習② 作文演習①で書いた作文をリライトする。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。(約30分) 復習：配布したプリントを見直しておく。(約30分)</p> <p>第15回 学びの振り返り 各自の到達度について振り返りを行い、今後の学習課題を明確にする。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』と今まで配布したプリントを見直しておく。(約30分) 復習：これまでの授業の内容を振り返っておく。(約1時間) E:あり</p>
教育目標との関連	各自の日本語力の向上を図ることにより、学習した知識を適切に相手に伝達することができる。また、読まれることを意識しながら文章を作成することは、自らを客観的に見る視点と他者に配慮する姿勢を養うことにつながる。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP3. 日本語の表記・文法などの基本的なルールを理解した上で表現できる DP5. 文章を作成する際に、読み手の立場を尊重できる</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ (到達目標) を参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>試験 60% ・期末試験を実施し、講義で取り上げた日本語の基礎が身についているかを評価する 小テスト 20% ・範囲を指定して出題する小テストに対する取り組みを評価する 提出課題 20% ・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験の答案用紙をもとに各自の課題を明確化するための個人面談を行う。
教科書	毎回プリントを配布する。
参考書	
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。本講義の受講前に『入学前課題～ことばと漢字～』に取り組み、自己採点しておくこと。
履修上の注意、条件等	クラス分けテストにより、上級と初級のクラスに分けて授業を行う。シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。 日本語の能力を高めるためには、日々の積み重ねが肝要である。従って、授業に休まず出席し、演習課題をこなすことが何よりも求められる。また、日常生活においても活字に触れる機会を増やすとともに、自身や他者の用いる日本語に意識的になってもらいたい。

講義科目名称： キャンパスライフデザイン

授業コード：

英文科目名称： Campus Life Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
大見由香 相澤京子 他担任（専任教員）			
授業形態：演習	担当形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H105
添付ファイル			
Campus Life CM.pdf			
Campus rubic map 2023 .pdf			

講義概要	<p>本科目は、建学の精神、教育理念を体現した初年次教育という位置づけである。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を果たしたいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャンパスライフデザイン」は、建学の精神、キャンパスライフスタートアップ、保育の基礎、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップの5つのシリーズで編成されている。1年生対象の本科目は、初年次教育として短大生活へのスムーズな移行を促すこと、そして自身がどのような人生設計を描くのか、キャリアイメージをふくらませていくことを目的とする。また、本科目の担当教員は、主に1年生の担任教員で構成され、全員が大学教員以外の社会人経験（一般企業等）を持ち、様々な視点から社会人基礎力の向上のための授業をおこなう。</p> <p>第12回目授業のみライブ配信で行う。</p> <p>他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目の基礎となるのが本科目である。レポートの書き方等、短大での学びの基礎を培う。また、園児との自然遊びの授業も含まれており、子どもと関わる実体験によって実習の基礎ともなっている。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 【対面】</p> <p>建学の精神に学ぶ① 研修（日帰り）チームビルディング・実習学内オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…この授業は、新入生のクラスごとに短大近郊の三輪緑地を活用して日帰りでおこなう研修である。チームビルディングにより、学生生活を支えあう仲間との信頼関係やアクティブラーニングの姿勢をつくる。また実習の流れや心構え、保育者を目指す学生としてのマナーを演習形式で学ぶ。 ●予習…オリエンテーションの資料にしっかり目を通し、事前準備を整える。（約30分） ●アクティブラーニング…A 多 C 多 D 中 E あり <p>第2回 【対面】</p> <p>建学の精神に学ぶ② 愛の教育、国際こども教育の学びへの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要… ・ねらいと内容・教員紹介 ・建学の精神：愛の教育 ・聖書贈呈式（写真撮影あり） ●予習…入学前課題で購入している「新・保育者の常識」を読む（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 ●予習…入学前課題で購入している「新・保育者の常識」を読む（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第3回 【対面】</p> <p>キャンパスライフ・スタート講座① 図書館との出会いと味わい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…学びの源である本学の豊かな図書館をどのように活用できるかを紹介する。 ●予習…事前に図書館を訪れ、どのような活用ができそうか調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…C 多 <p>第4回 【対面】</p> <p>保育の基礎① 子どもたちと一緒に遊ぼう1</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） 宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C 多 F あり <p>第5回 【対面】</p> <p>キャンパスライフ・スタート講座② 文章で表すことーレポートの書き方を知るー</p> <p>文章で表すこと（レポートの書き方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…本を読み、美しい文章を書く。レポートの課題の提示と、レポートの書き方について説明をおこなう。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり / F あり <p>第6回 【対面】</p> <p>キャンパスライフ・スタート講座③ 文章で表すことー課題文を読み、引用するー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…レポートの課題の中にある文献の引用について考え方を理解し、一般的なレポートの書き方をマスターする。実際にPCで文字入力をしながら課題を仕上げていく。 ●予習…前回までのレポートの書き方について授業を復習し、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E あり / F あり <p>第7回 【対面】</p> <p>保育の基礎② 子どもたちと一緒に遊ぼう2 梅ちぎりと梅ジュース作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本

	<p>となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） 宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C 多 F あり キャンパスライフ・スタート講座④ レポートの書き方</p> <p>第8回 【対面】</p> <p>●概要…表に書き込む形で、レポートの根幹になる内容を作成する。 ●予習…前回までのレポートの書き方について授業を復習し、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E あり / F あり</p> <p>第9回 【対面】</p> <p>保育の基礎③ 読み聞かせの基礎</p> <p>●概要…外部講師による実践的な講義により、読み聞かせの基礎となる発音・発声の仕方、気持ちを言葉にのせる方法を理解する。 ●予習…読み聞かせの方法や留意点について、図書館やインターネット等で調べておく。（約30分） ●アクティブラーニング…D 中</p> <p>第10回 【対面】</p> <p>キャンパスライフ・スタート講座⑤ 文章で表すことーレポートを完成するー</p> <p>●概要…これまでのレポートの書き方に関する授業の内容を受けて、レポートの課題の仕上げをおこなう。 ●予習…レポートの返却をうけ、指示の通り修正そおこない、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E あり F あり</p> <p>第11回 【対面】</p> <p>保育の基礎④ 子どもたちと一緒に遊ぼう3 水遊び</p> <p>●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） 宿題…学びを所定の用紙に記録する。（30分） ●アクティブラーニング…C 多 F あり（別日）</p> <p>第12回</p> <p>【ライブ配信】キャリア・プランニング講座① 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～</p> <p>●概要…保育者としての現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。学生の視点で、積極的に質問をしてもらいたい。 ●予習…学生支援スペースで、就職先のファイルや卒業生の残した資料を見ておく（約1時間） ●アクティブラーニング…B 少</p> <p>第13回 【対面】</p> <p>社会人基礎力アップ講座① お金の教養 期末試験</p> <p>●概要…授業の前半は人生を豊かにするためのお金の教養を身に着ける。また、後半は期末テストを実施する。 ●予習…若者向けのお金についての本を読んでみる（約1時間） ●アクティブラーニング…A 中</p> <p>第14回 【対面】</p> <p>社会人基礎力アップ講座② 社会人としての立ち居振る舞いとマナー（実習に向けて） フィードバック</p> <p>●概要…マナーについてのDVDを視聴した上で、社会人としての立ち居振る舞いとビジネスマナーについて学ぶ。 ●予習…ビジネスマナーについての本を読んでみる（約1時間） ●アクティブラーニング…A 中</p> <p>第15回 【対面】</p> <p>社会人基礎力アップ講座③ 救命救急講習</p> <p>●概要…約4時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、3日間に分かれて実施する。 ●復習…身近な施設のどこにAEDが設置されているか調べておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…A 多</p>
教育目標との関連	<p>本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「家庭にあっても社会にあっても、世界にあっても、自分のおかれた環境に地歩を固め、自分らしく生きることができる力をもった人材を育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 保育者として国内外で活躍するため、あるいは自ら子育てに関わるために必要な教養を身につけている DP2. 社会の変化や自身に求められている役割をもとに、自らの生き方について判断ができる DP3. 学んだ教養を活用して、大学生活や社会生活に必要な実践・表現ができる DP4. 現代の社会情勢に関心をいだき、自ら主体的に関わろうとする意欲をもっている DP5. 多様性を持った他者に対し、愛情をもって協力・協働を図ることができる</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>1. 評価方法 期末テスト 50% ・授業の理解度とともに、自身が感じたこと、考えたことを真摯にまとめているかを評価する。入学前課題はこの授業の期末テスト受験の条件となる。 レポート課題 50% ・所定のレポートの書き方の理解度と表現力を評価する。</p>
期末試験・期末レ	<p>期末レポートのフィードバックは後日配信する。</p>

ポートのフィードバック方法	
教科書	なし。授業回ごとにGoogle Classroomに資料や提出課題を掲載する。
参考書	なし。授業回ごとに参考文献を紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	外部講師の授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。遠隔授業回はGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。また、欠席票もGoogle Classroomから受け付ける。
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。第12回目授業のみライブ配信で行う。 主として対面授業であるが、感染症拡大状況によっては、オンライン（配信・Zoom同時双方向）を併用して分散して実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子 大見由香 八木真祈 2年担任			
授業形態：演習	授業形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H202
添付ファイル			
キャリアデザイン2023.pdf			

講義概要	<p>本科目は「キャンパスライフデザイン」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目で「キャリアデザイン」は、1年次の「キャンパスライフデザイン」に引き続き、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の3つのシリーズで編成されている。その中でも、2年生対象の本科目は社会人基礎力アップと就職活動シリーズが中心となる。本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。</p> <p>他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目を踏まえた上で、社会人への橋渡しをするのが本科目である。特に、「キャンパスライフデザイン」は本科目の土台となるものである。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 【対面】</p> <p>キャリア・プランニング① 就職活動の流れと進路希望調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…学生支援室や2年生担任とどのように就職活動を進めていくか、全体の流れを説明する。実習先も実習生がそこに就職することを意識している。園選び・見学、就職試験、内定から新人研修までの流れを説明。履歴書を書いてみて、どこが書けないのか学生自身が把握する。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…A 少 <p>第2回 【対面】</p> <p>キャリア・プランニング② 担任面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…様々な進路の概要と進路決定のスケジュールを確認した後、卒業後の進路（進学・就職）についての各自の考えを担当と共有する。面談中以外は、PCで履歴書作成（学歴など簡単なところ）などを行う。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第3回 【対面】</p> <p>就職活動シリーズ① 自己分析・他己分析のためのワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…履歴書を作成しはじめるには、まず自己分析が大切である。自己分析の際には、自分を客観的に見つめるために、友人から自己についてのコメントをもらうことで、お互いに自己理解を深める。 ●予習…インターネットなどで、自らの勤務希望地域にある園や施設について調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第4回 【対面】</p> <p>社会人基礎力アップ① お金の教養と求人票の読み取り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…求人票に出てくる言葉の意味は何か、そこからどのようなことを考えればいいのか、社会人として必要な視点を獲得する。 ●予習…学生支援スペースで就職希望地域の園の求人票をみて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第5回 【対面】</p> <p>就職活動シリーズ② 履歴書・エントリーシート作成のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…志望動機や自己PR、保育観など、履歴書・エントリーシートに必要な要素を考える。 ●予習…インターネットなどで、自らの勤務希望地域にある園や施設について調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第6回 【Meet】</p> <p>キャリア・プランニング③ 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。 ●予習…学生支援スペースで就職希望地域の園の求人票をみて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第7回 【対面】</p> <p>就職活動シリーズ③ 履歴書の作成と添削／夏休み中の就職活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…履歴書の作成と添削、修正をおこなう。また、夏休み中の就職活動について確認する。 ●予習…自身の長所や短所から、自己PRを書けるようにしておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 <p>第8回 【対面】</p> <p>就職活動シリーズ④ 担任面談と履歴書完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…担任と個人面談をし、志望動機や自己PRなどを中心に、履歴書を完成に近づける。担任より履歴書の添削が返却されるので、各自その修正を行う。 ●予習…担任との面談に備え、卒業後の進路について家族とも話をしておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…B 少 F あり <p>第9回 【対面】</p> <p>キャリア・プランニング④ 学内就職説明会</p>

	<p>●概要…学内就職説明会をおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期には、質問、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等を意識できるようになってほしい。協力園や施設のブースの複数を学生は練習としてまわり、話をうかがう。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少 就職活動シリーズ⑤ 面接時のマナーと留意点/内定後の対応について</p> <p>●概要…面接シミュレーションに向けて、面接時のマナーと留意点を学ぶ。また、内定後の対応についても学ぶ。 ●復習…面接時のマナーについて確認しておくこと。受験予定の園にあわせて志望動機等を考え、履歴書を完成させておく。(約1時間) ●アクティブラーニング…B 少 F あり 就職活動シリーズ⑥ 面接シミュレーション</p> <p>●概要…受験で最も大切な面接にむけて、学内で面接練習をおこなう。 ●復習…自身の面接の反省点と友人の面接から学んだことをまとめておく。(約1時間) ●アクティブラーニング…B 少 F あり 社会人基礎力アップ③ 文化祭におけるクラス企画のプレゼンと当日の参加</p> <p>●概要…文化祭でおこなう企画の内容について、各クラスが全員に共有するために代表者がプレゼンテーションをおこなう。文化祭のクラス企画に参加する。 ●予習…プレゼンテーションの基本を確認する。(約30分) ●アクティブラーニング…D 多 社会人基礎力アップ④ 労働法についての理解/コミュニケーション力テスト</p> <p>●概要…外部講師を招き、働く人として知っておくべき労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。後半は2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間の短大生活での成長を測る。 ●予習…労働に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間) ●アクティブラーニング…B 少 社会人基礎力アップ⑤ 税金の基礎知識とお金の増やし方</p> <p>●概要…納税についての講演から責任ある市民としての行動を考える。2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間の短大生活での成長を測る。 ●予習…税金や企画に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間) ●アクティブラーニング…A 少 社会人基礎力アップ⑥ 職場での良好な人間関係構築/各種アンケート</p> <p>●概要…早期離職対策として、就職後の人間関係構築について学ぶ。また、23の能力調査をはじめとしたアンケートや卒業関連の連絡、コミュニケーション力テストのフィードバックをおこなう。 ●予習…ホームカミングデーでやりたいことを考えておく。(約1時間) ●アクティブラーニング…A 多</p>
教育目標との関連	<p>本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる人材の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力を重ねることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。</p>
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 国内外での専門職としての保育者や自らの子育てに関わることを理解できる DP2. 社会の変化や周囲の状況を踏まえ、自身に求められる役割や生き方を判断できる DP3. 他者の意見を傾聴した上で自らの意志(特にキャリアについて)を表現できる DP4. 子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、積極的に関わろうとする意欲をもつ DP5. 自身が受けた愛情を理解し、愛情をもって他者に奉仕できる</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>最終レポート 20% ・1年間の授業を通して、自身のキャリア形成に対する意識が高まったかどうかを評価する。 提出課題 50% ・出席フォーム等に課題を提示し、講義内容について感じたこと、考えたことを自身の言葉でまとめられているかを評価する。 受講態度 30% ・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み姿勢や貢献度を評価する。</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>Googleクラスルームにて最終レポートの解説動画を配信する。</p>
教科書	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	<p>各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。</p>
履修上の注意、条件等	<p>「キャンパスライフデザイン」を履修していること。 外部講師の講演や面接練習などの授業は、スーツを着用すること。</p>
オフィスアワー	<p>担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。</p>

備考・メッセージ	第6回はMeet、それ以外は対面で授業を行う。 自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。
----------	--

講義科目名称： 体育理論

授業コード：

英文科目名称： Theory of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春又は秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H108
添付ファイル			
ルーブリック体育理論校3.pdf			
カリキュラムマップ体育理論校3.pdf			

講義概要	<p>「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを年間を通して考えていく。実技と理論を通しながら、各自の体育に関する考えを整理し実践して、その過程を記録する。体育実技と合わせて、1年間の各自が体育課題の設定を行い、それをどのように解決したか、達成したのか、もしくはしなかったのかを記録をもとに、保育者として必要な体力を考える。</p> <p>体育理論では、自らの課題を実技で試した結果から、各自が施行錯誤し調査し考察を重ねて、経験からどのような成果や発見があり、さまざまな体育理論と関連があったのかをまとめて、プレゼンテーション作成をする。</p> <p>各自の成果発表を比較検討することで、深い理解につなげる。</p> <p>体調管理や睡眠指導経験に基づき、記録を科学的に読み解く方法の体得を目指す。</p> <p>当該科目は、「体育実技」と関連が深く、また、「幼児と健康」や「幼児と表現」分野、そしてプレゼンテーションのための「幼児教育と情報機器演習Ⅰ及びⅡ」とも関連する。</p> <p>担当教員はモダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。</p>
------	--

授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>体育実技の授業との関連及びその進め方・評価方法について 課題説明と動画視聴 プレゼンテーションのための解説 予習30分：カリキュラムを読んでくる。 復習30分：本日の課題を行い提出する。 C:多 F:有</p>
第2回	<p>体と動きの仕組みを知る</p> <p>運動A:少 B:多 E:少 F:多生理学 キネシオロジー①、及び身体データのまとめ方法について 予習30分：前回のスライド等を見返し、前回の内容を確実にしておく。 復習30分：本日の課題を行い提出する。 E:多 E:有 F:有</p>
第3回	<p>睡眠と活動 (運動強度と消費カロリー)</p> <p>睡眠障害と睡眠リズムの獲得 消費カロリーとMETS (運動強度) 睡眠時間と体温の表とグラフの作成の補足 予習30分：前回のスライド等を見返し、中間テストに備えておく。 復習30分：本日の課題を行い提出する。 E:有 F:有</p>
第4回	<p>小テスト</p> <p>小テスト及び解答 解説 運動発達のメカニズムとプロセス 睡眠リズムの獲得対策 行動と脳内ホルモン 予習30分：小テストに備える。 復習30分：テストの結果を受け、今後のプレゼンテーションに備える。 E:有 F:有</p>
第5回	<p>プレゼンテーション①</p> <p>年間目標についての個人課題を、3分程度のプレゼンテーション前半の作成を行う 体力について やせる太るの科学 運動と栄養 予習30分：作業内容について理解し、見本のブログを参考にしっかりと見ておく。 復習30分：解説されたところを、しっかりと作業できているか確認する。 E:有 F:有</p>
第6回	<p>プレゼンテーション②</p> <p>個人課題の3分程度のプレゼンテーション後半の作成を行う プレゼンテーション作業の質問等 予習30分：前回の作業の続きを振り返りながら、次の作業に備えてブログの見本を見ておく。 復習30分：プレゼンテーション前半と後半を繋げて、筋が通るかを確認する。 D:中 E:有 F:有</p>
第7回	<p>体育理論のまとめ①</p> <p>プレゼンテーションの発表 (有志) プレゼンテーションの発表及び全員の提出確認、プレゼンテーションの質疑応答・振り返りを実地 予習30分：自分の発表に備えて、スピーカーノートを読む練習し、質疑応答に備える。 復習30分：他の発表と比較して、提出用のプレゼンテーションを修正して提出する。 D:中 E:有 F:有</p>
第8回	<p>体育理論のまとめ②</p>

	<p>各国の生涯スポーツと体力について まとめで課題の解説と総評 予習30分：全てのスライドを見て、まとめ方を理解しておく。 復習30分：最後にやり残した部分はないかを確認する。 D:中 E:有 F:有</p>
教育目標との関連	<p>体育の知識・技能にのみならず、理解を伴う自分自身の健康・体力課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた各自の体育知識の理解を深め、多に応用していく実践できることを目標とする。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを説明できる。 2. 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康や体力に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、表現できる。 4. 体育的トピックに関心と意欲を持ち、そのトピックを配慮できる。 5. 生涯体育・運動課題・健康問題に関する事項を理解し達成するために、集団行動やグループ活動で助け合うことができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末レポート（プレゼンテーション提出を含む） 50 % 授業内で示した基本知識の理解を評価する。 小テストと課題提出、授業内発表及び態度 50 % 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>小テストは、その場で答え合わせをして、次回に返却する。 プレゼンテーションは、発表時にフィードバックを伝える。 未発表者のプレゼンテーションは、そのスピーカーノート等を視聴して評価の対象とし、フィードバックは限定コメント等で伝える。</p>
教科書	<p>https://nikaidou2020.blogspot.com/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内にて課題ドキュメントを配布する。</p>
参考書	<p>二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座 初級及び 中級テキスト』amazon 電子書籍 『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>授業内容を、予習30分程度、復習30分程度してくる。指示されたプリントやサイトは必ず読んでくること。</p>
履修上の注意、条件等	<p>個人課題の発表が評価の主な対象になりますので、積極的に発表される事を目指してください。 季節や天候に左右される体育実技授業との関連により、授業内容が多少入れ替わる事が生じる場合がある事をご理解くださいませ。</p>
オフィスアワー	<p>質問等に関しては、授業の前後、又は googleclassroomの限定コメントにより受け付ける</p>
備考・メッセージ	<p>積極的に発表することが、求められます。 90分授業×8回（基本は対面授業で行い、必要があればハイブリット授業（配信・オンデマンドなど）で行う。）</p>

講義科目名称： 体育実技

授業コード：

英文科目名称： Activities in Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期または秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：実技	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H106
添付ファイル			
ルーブリック体育実技校2.pdf			
カリキュラムマップ体育実技 校2.pdf			

講義概要	<p>「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを、実技と理論を通しながら、各自の考えを実践する。</p> <p>体育実技として、理論化されている部分と実際の自分のデータを見比べて、保育者としての体育や自分に必要な体力を考える。</p> <p>実技では、各自の体育関連する課題を見出し解決するために、試行錯誤することで、どのような方法が適切なのかを考え、目標に到達する過程に適合するように記録することを理解する。</p> <p>レクリエーション等のゲームを発案し、それを元に他者の発表から学ぶ。</p> <p>基礎体力などは、毎回、準備運動や整理運動などを基礎から体験することで、「各自が考える体育」を考察する。</p> <p>体形や体調管理についての指導経験をもとに、様々なトレーニング方法も紹介する。</p> <p>当該科目は、特に「体育理論」と「幼児と健康」、そして「幼児と表現」や「子どもの保健」と関連が深く、また、実習科目に関しても、当該科目で培おうとする肉体的・精神的体力が必要であるため、全般的に関連を持つ科目である。</p> <p>担当教員は、モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。また、親子ヨガやキッズボディーコーディネーション資格の講師も勤める。</p>
------	--

授業計画および学習形態	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方や評価方法について説明する。課題設定と振り返りシートを作成する。各自の健康や体力等に関する課題を考える。 用語説明（体脂肪、BMI）目標設定のアンケート 予習30分：カリキュラムを読んで、必要な物をそろえる。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。 E：有</p> <p>第2回 身体について考える① 目標設定と方法 自分の体を認識するために、様々なワークを行い、各自の課題設定を決定する。（身体測定や体力測定を含む） 課題と年間予定を考える。体力の分類 記録方法 座位ウォームアップと解説① 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。縄跳びの練習をしておく。 E：有 F：有</p> <p>第3回 身体について考える② 体育と人間力 自分の体と向き合って、目標を達成するための方法を考える。 人間力とは 体力を考える 座位ウォームアップについてアンケート。リスクとハザード及び、防災ピクニックについて 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。縄跳びの練習をしておく。 E：有 F：有</p> <p>第4回 健康行動に関する質問と書き方 ウォームアップと縄跳びについて どのように健康を保持できるのか、その前に現在の自己イメージと理想及び現実のデータを比較する 座位ウォームアップと解説② 縄跳び（前跳び） 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。実技テストのステップを練習する。 C：多 E：有 F：有</p> <p>第5回 公衆衛生と体育 防衛対策ミッション 各国の公衆衛生の取り組みについて 体育科目の特性において、三密を避けられない事を認識し、各自の環境において、どのような対策をしているかをREPORTする。自主トレーニングのすすめ 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。実技テストのステップを練習する。 C：多 D：多 E：有 F：有</p> <p>第6回 保育者に必要な体力について 防衛対策ミッションの解説 公衆衛生と体育の解説 防衛対策ミッションの講評 数値化の為の記録シートの書き方を確認 縄跳びのコツ：駆け足跳び 予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。実技テストのステップを練習する。</p>
-------------	--

第7回	<p>C:多 E:有 F:有 体育の環境整備 及び 運動方法① 運動遊びと体育遊び① レクリエーション活動を考える 幼児期運動指針について 保育者のなりやすい疾病 体育実技の服装TPO 運動方法①縄跳びの運動消費カロリーについて METsとは 縄跳びのコツ (片足跳び) 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多 E:有 F:有</p>
第8回	<p>体育のアクティブラーニングを考える① 運動遊びと体育遊び② レクリエーション活動をシミュレーションする① 授業回数7回までの整理 幼児期運動指針② 運動のトレーニングの量について考える 縄跳びのコツ (後ろ跳び) 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多 E:有 F:有</p>
第9回	<p>体育のアクティブラーニングを考える② 運動遊びと体育遊び③ レクリエーション活動をシミュレーションする② 運動方法② 運動プログラムの手順① 「WANT TO」か「HAVE TO」かを考える 縄跳びのコツ (あや跳び) 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 C:多 E:有 F:有</p>
第10回	<p>体育のアクティブラーニングを実践する③ 鬼あそび① レクリエーション活動のグループ毎の発表と実地① 幼児期運動指針のポイント 遊びと運動 基礎代謝と消費カロリーを知り計算する 縄跳びのコツ (交差跳び) 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A:多 E:有 F:有</p>
第11回	<p>体育のアクティブラーニングを実践する④ 鬼あそび② レクリエーション活動のグループ毎の発表と実地② 日常の基本的な動きと運動 体内組織を考える 体育のアクティブラーニングのまとめ 縄跳びのコツ (二重跳び) 縄跳びのコツのまとめ A:多 B:小 E:有 F:有</p>
第12回	<p>運動方法③ 運動プログラム作成の手順② 鬼あそび③ レクリエーション活動のグループ毎の評価と講評 必要なエネルギー量について考える 縄跳びの講評② 備品の扱い方と説明 縄跳びのコツまとめと復習 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A:多 B:小 D:中 E:有 F:有</p>
第13回	<p>運動方法④ 運動プログラム作成の手順③ 水遊び① もしくは、気配切り① 子どもに活かす保育者の体育経験 運動ルーティンと消費カロリーの確認 ストレッチとは抗重力筋について B:中 C:中 D:多 E:有 F:有</p>
第14回	<p>運動方法⑤ ストレッチングと筋力トレーニングについて 水遊び② もしくは気配切り② 「チーム」と「グループ」の違いについて ストレッチング解説及び講評 筋力トレーニングの意味 ダメージのないスクワット 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのステップを練習し、体力をつける努力をする。 A:多 C:多 E:有 F:有</p>
第15回	<p>運動方法⑥ 身体エクササイズ基礎 筋力トレーニング (無酸素運動) とダンス (有酸素運動) 水あそび③及び気配切り③の予備日 15回までの記録シートの確認 筋力トレーニング (背筋、腹筋) HIITトレーニングについて 有酸素運動 (エアロビクスやダンス) について 疲労と回復について 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 C:多 D:中 E:有 F:有</p>
第16回	<p>身体エクササイズ① チームビルディング (有酸素運動・無酸素運動) チームビルディングにおける競争と協力 有酸素運動と無酸素運動 (筋力トレーニング) について 負荷と強度を考える ダンスステップの紹介 能力アップと運動の関係 最終課題説明① 予習30分:見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分:本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 A:中 B:中 E:有 F:有</p>
第17回	<p>身体エクササイズ② (基本運動) 基本運動を学ぶ。基本運動とステップの実技テストの説明 対面授業の解説① 周辺視と歩運動 (前後左右) 進度調整</p>

	<p>予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 D:中 E:小 F:有</p> <p>第18回 身体エクササイズ③（自由表現運動） 対面授業の解説②基本運動から表現運動など、各自の自由な動きの編み出し方法を学ぶ 基本運動とステップの実技テスト② ツーステップ</p> <p>予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 D:中 E:有 F:有</p> <p>第19回 身体表現① 対面授業の解説③ リズムとステップ 身体表現の導入として、動きの成り立ちと分解を学ぶ 基本運動テスト及びダンス課題曲のテスト①</p> <p>予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。縄跳びや実技テストのダンスを練習し、体力をつける努力をする。 D:中 E:有 F:有</p> <p>第20回 身体表現② 実習をめざして① 身体表現の発展方法とシークエンス作成方法を学ぶ リズムダンスや体操のカテゴライズ、及び身体表現のパターン認識と構造を理解して創作できる 基本運動テスト及びダンス課題曲のテスト②</p> <p>予習30分：見本のブログを見て、必要な物を確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認する。見本のブログをみて、ポートフォリオの準備をする。 D:中 E:有 F:有</p> <p>第21回 身体表現③ と まとめ 実習をめざして② これまでの作成したデータ等をポートフォリオとしてまとめ、各単元の理解を深める。 体育の様々な評価方法を学ぶ。 各グループ活動のまとめ、各自の身体記録データ及び運動記録の整理を行い、提出する。 予習30分：見本のブログを見て、必要なデータ等のポートフォリオを確認し準備する。 復習30分：本日のデータを記録している確認し、グループワークで未提出の課題がないかを確認する。 D:中 E:有 F:有</p>
教育目標との関連	<p>知識や技能に関して、自分自身の健康や体力の課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育知識や技能を高め、実践できることを目標とする。 スポーツや身体ワークを行うことで、仲間づくりやコミュニケーションの重要性を理解できる。 生涯を通じて運動する事の重要性を理解する。 グループ活動により、社会性や人間力のみならず、各自の関心や意欲について考える事ができる事も目標とする。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを説明できる。 2. 心身に関する課題を思考して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、表現できる。 4. 体育的トピックに関心と意欲を持ち、そのトピックを配慮できる。 5. 生涯体育・運動課題・健康問題に関する事項を理解し達成するために、集団行動やグループ活動で助け合うことができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>実技テスト及び期末ポートフォリオ提出 50 % : 面接及び、動画投稿による最初の段階と最後の段階での達成度を評価する。得意不得意に関連せず各自にその実技の達成度で評価を判断する。 授業態度 25 % : 取り組む意欲、積極性や環境整備等を評価する その他の提出課題 25 % : 内容は課題を的確に捉え、量は指定された量とすることを評価する。</p> <p>*欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。 また、体育実技は科目の特性から、「見学」に関しては、教員の判断により、遅刻と同等の判断をする場合がある。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>実技テスト等は規定用紙に評価を記入して各自に返却する。 ポートフォリオは、学年末に評価を書き添え返却する。 ポートフォリオのフィードバックについては、グループワークで伝える。</p>
教科書	<p>https://nikaidou2020.blogspot.com/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グループワーク内、及び、上記ブロガー記事より、資料及び課題ドキュメントを配布する。</p>
参考書	<p>二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座 初級及び 中級テキスト』amazon kindle 『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>授業内容を、予習30分程度、復習30分程度して整理しておく。指示された実技課題の自主練習をしておく。 授業中にプリント配布予定。</p>
履修上の注意、条件等	<p>運動に相応しい服装（体操服・体育室専用の靴下・アクセサリ不可・髪はきちんとまとめる） 体育室では、靴下で運動を行う予定なので、替えの靴下を持参 外での活動に備えて、体育のある日は、運動靴で登校下さい。 実地する季節や天候により、カリキュラム内容の多少の変更や入れ替えが生ずる場合がある事をご理解ください。</p>
オフィスアワー	<p>面接授業の前後にて質問等を受け付ける。質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付け</p>

	る
備考・メッセージ	自発的に参加することで、学べる授業展開をするので、積極性を心がけること。 90分授業×21回授業 基本は対面授業で行い、必要があればハイブリット授業（配信・オンデマンド）で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A103
添付ファイル			
教育原理.pdf			

講義概要	<p>教育の基本的概念を学ぶ。教育とは何か、という根本的なことから自身の教育観にまで発展して、その在り方について様々な角度から考える。例えば教育の歴史や思想、乳幼児期の教育の特性、教育制度、教育法規、教育行政の基本についても取り上げていく。</p> <p>“教育”と“学ぶ”という両面から、人としての教養を高め、他を尊重するきもちを養い、共に学び合うことを大切にする。</p> <p>担当教員は日米の乳幼児教育の経験を持ち学んできた。その経験を活かして、様々な角度から”教育”について共に考えていきたい。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション・教育の意義と目的 本講義の概要について理解する。 教育とは何か、その目的と目標について、また、人間形成との関係について考える。 予習：シラバスを事前に読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:中 E:あり F:あり</p> <p>第2回 養護と教育について 乳幼児発達の特徴について理解し、乳幼児教育の基本について学ぶ。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第3回 教育と福祉との関連とは 教育と福祉との関連について学び、時代の変化に伴う保育・教育の在り方の違いに気付く。また保育者の現代的役割について考える。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) A:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第4回 諸外国の教育思想 諸外国の様々な教育思想について学ぶ。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第5回 日本の教育思想 日本の教育思想について、その歴史と共に学ぶ。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第6回 子ども観と教育観 子どもはいつから登場したのか。その歴史を紐解きながら子ども観について考え、同時に教育とのかかわりについて考える。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第7回 教育制度の基礎 過去から現代にいたるまでの教育制度の変遷について知る。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第8回 教育の法律と行政 教育に関する法律を知り、現代の教育の意義について考える。 学校と地域との連携及び学校安全への対応を考える。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) A:中 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第9回 諸外国の教育制度 諸外国の教育制度について理解を深める中で、その課題について考える。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) B:中 E:あり F:あり</p> <p>第10回 教育実践① 幼稚園における保育内容について理解を深める。 予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する (約1時間) A:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第11回 教育実践② 様々な教育方法について理解を深める。</p>

	<p>予習：事前の配布資料を読む（1時間）復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間）B：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 生涯学習① 生涯学習とは何か、学習と教育の違いについて理解を深める。</p> <p>予習：事前の配布資料を読む（1時間）復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回 生涯学習② 自身にとっての生涯学習とはなにか考える。</p> <p>予習：事前の配布資料を読む（1時間）復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第14回 現代における教育に関する課題 新聞記事などを活用し、現代における教育課題について理解したうえで、これからの保育・幼児教育・保育者の在り方について考える。</p> <p>予習：事前の配布資料を読む（1時間）復習：授業内で行う「本日のメモ」を読み直し、必要に応じて配布プリント等で内容を確認する（約1時間）</p> <p>第15回 振り返りと今後 15回目授業内で期末試験のフィードバックを行う。また、試験と各単元の振り返りをしながら自身の今後の課題について考える。</p> <p>予習：今までの授業を振り返る（1時間）復習：授業内で行うまとめ試験の振り返りに関するメモを読み直す（約1時間） A：中 B：中 E：あり</p>
教育目標との関連	教育の基本的概念を理解し、特に幼児期における教育は、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」であることを十分に理解する。そのうえで、人の生涯にわたる発達を支援するというのがどのような営みであるか理解する。また、教育に関する歴史や様々な思想に興味を持ち、自身の教育観について考える。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 教育とは何かを考える際に、今までの経験をもとに授業で得た知識を加えて自ら考えることができる。</p> <p>4. 現代社会の問題点について意識を向け、自らの考えと他者の考えを総合して意欲的、主体的に議論を進めることができる。</p> <p>5. 社会の一員としての自覚をもち、他者と協働しながら自身の役割について具体的に考えることができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>提出物 40%</p> <p>授業に向かう姿勢（積極性）10%</p> <p>期末試験 50%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	個別に期末試験の返却を行い、15回目授業内で期末試験のフィードバックを行う。
教科書	『幼稚園教育要領解説』 著作権所有 文部科学省 フレーベル館 本体240円+税
参考書	<p>『教育原理』（新・基本保育シリーズ）児童育成協会：監修</p> <p>『保育所保育指針解説』 著作権所有 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『保育教育要領解説』 著作権所有 厚労省・文科省・内閣府 フレーベル館</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前にシラバス内容を確認し、必要な資料を熟読しておくこと。
履修上の注意、条件等	常に問題意識を持ち、常に自分の頭で考えるということが求められる。卒業必須であると同時に、実習前に必要な知識が詰まっていることや幼免・保資必須科目であることを十分に意識すること。
オフィスアワー	基本的にアポイントメントを取り、研究室で受け付ける
備考・メッセージ	全ての回で対面授業

講義科目名称： 教職概論

授業コード：

英文科目名称： Approach to Teacher's Competency in kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A104
添付ファイル			
カリキュラムマップ 教職概論.pdf			
ルーブリック 教職概論 .pdf			

講義概要	<p>「教職概論」では、教職の意義、教員の役割及び教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について学ぶ。保育に携わる者として社会が求める教職のありかたについては、各時代の教育法規に規定され、教育制度や教育目標達成に向けて専門職としての保育者の専門性、カリキュラム全体を通して履修科目の振り返りを行い、保育者としてあるべき姿について考えを深める。幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力の向上をめざす。</p> <p>他の科目との関連：「教育原理」で学ぶ教職の意義、教職の歴史、教員養成の変遷などの項目をさらに掘り下げて学び、幼児教育者としての資質、求められる役割について習得する。また、教育実践能力に関しては実習関連科目に深くかかわる。</p> <p>講師は私立幼稚園での担任、公立小学校での支援員、親子教育研究所における子育て支援活動など18年にわたり現場での仕事を続けている。その実務経験を活かし、保育現場での保育者として求められている姿を、より分かりやすく実践を踏まえながら授業に取り入れている。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 教職とは何か 教員の職務の意義や特質について学び、理解を深める。さらに自分自身がなぜ教職を目指したのか、その動機について振り返る。また、各回の学習を確実にするための学習ポートフォリオによる履歴を残す。 予習：教職概論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） F：あり</p> <p>第2回 保育者の資質・能力と求められる役割① 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：3歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり</p> <p>第3回 保育者の資質・能力と求められる役割② 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：3歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり</p> <p>第4回 保育者の資質と求められる役割③ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。3歳児と比べ、その成長を読み取る4歳児の特徴と保育者との関わりを考える（4歳児） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：4歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり</p> <p>第5回 保育者の資質と求められる役割④ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。5歳児の特徴と保育者との関わり方を学ぶ（5歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート E：あり</p> <p>第6回 保育者の資質と求められる役割⑤ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（5歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：5歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり</p> <p>第7回 保育者の資質と求められる役割⑥ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。3年間の記録の中で、あそびの種類や方法、ものづくり、保育者の関わり方、友人関係などを要素におきまとめる。 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート E：あり 復習：2～7回のワークシートをまとめる（約1時間）</p> <p>第8回 保育者の資質と求められる役割⑦ 前回の授業でまとめたものを基にグループにて考察。 予習：前回の授業内容から視聴覚資料映像の年齢による特徴的なシーンをまとめておく（約1時間） 復習：新たな視点をまとめておく（約1時間） F：あり</p>

	<p>第9回 保育者の資質と求められる役割⑧ 前回グループでまとめた内容を、掲示発表。クラスでの発表内容を各自記録する。 予習：2～8回の授業内容をまとめておく（約2時間）</p> <p>第10回 保育現場に生かせる教材・表現方法の習得につなげる 「特別講座 紙芝居の出来るまで」</p> <p>児童画家 夏目尚吾氏による特別講座 紙芝居の制作過程を知る。保育現場における紙芝居の効果、読み聞かせの方法、紙芝居の選び方を学ぶ 予習：紙芝居について、[保育内容 言葉]の授業で学んだ内容をまとめておく（約30分） 復習：専門家の仕事について、気づいたこと保育現場での、紙芝居の重要性をまとめる（約30分）</p> <p>第11回 得意分野を活かせる保育者を目指して 自己分析につなげる 予習：自身の得意分野、小さい頃の好きだった遊びについてまとめておく（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる（約30分） F：あり E：あり</p> <p>第12回 保育現場での安全教育について 日常の保育の中で想定される危険から子どもの命を守ることに学ぶ。東日本大震災の教訓から、保育現場で必要とされる訓練や、子ども達への指導方法を、映像を通して考える。 予習：危険と思われる事項についてまとめる（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる F：あり</p> <p>第13回 信頼される保育者を目指して 保育現場で必要とされる保育者について、11回の授業を通してまとめる。また、信頼されるために必要な自身の課題を取り上げ、その内容についてまとめる 予習：今までのワークシートをまとめる（約1時間） F：あり</p> <p>第14回 理想の保育者像とは 理想の保育者像”をワークシートに記入。 予習：授業全体を通して、理想となる保育者像についてまとめておく（約1時間） 復習：今までのワークシートの内容をまとめる（約1時間） F：あり</p> <p>第15回 まとめ② 教育者として自己課題について これまでの授業内容のまとめとして、求められる保育者の姿を明確に、保育実習における自己課題についてまとめる。 F：あり</p>
教育目標との関連	<p>幼児にとって、初めての集団生活の場となる幼稚園は、友だちや保育者と一緒に楽しく伸びやかに園生活を送れるように環境を整え、教育的愛情を持ち心をこめて関わる事が求められる。子どもの個性を見つめながら、その発達を細やかに支援することができるようになるために、学生は本学の教育目標でもある、知識と教養、豊かな感性を身につけ、さらに保育者としての実践的な技能を習得しなければならない。何よりも教員として幼児の成長を支えていくために、健全な心と体に支えられた強い意志の力が必要なのである。このように、本学の教育目標の達成と本科目により示される教員の資質及び能力は密接に関わっているのである。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 教員の職務の意義や内容について幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力として関連づけ、身につける基礎を学び、向上しようとする態度と意識を説明できる。</p> <p>2. 教員の職務の意義や内容について、幼児の理解と保育の方法の実際について映像などの情報をもとに、自分なりに判断類別し考察することができる。</p> <p>3. 映像教材を通して、保育技術の実践を学び、自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。</p> <p>4. 保育現場での話題および事例を通して教育に対してより身近な関心を持ち、教職に対する意欲を高めることができる。</p> <p>5. 保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 70% 講義全般を理解しているか評価する 提出課題 30% 毎回の授業の中でワークシート記入を実施し、授業の理解度や授業の感想を評価する。</p> <p>評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>第15回の講義にて、試験問題内容を用いて解説と振り返りを行う。</p>
教科書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年3月23日発行 240円(税別)</p>
参考書	<p>授業内で紹介</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各回の予習、復習は上記のとおりである。</p>
履修上の注意、条件等	<p>教育職を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。</p>
オフィスアワー	<p>毎回の授業後に設ける</p>
備考・メッセージ	<p>どのような保育者を目指すのか、自分自身で確立するために、常に学ぶ姿勢を大切にすること。 全て対面授業となる</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B101
添付ファイル			
保育の心理学. pdf			

講義概要	<p>乳幼児期から青年期に至る心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につける。各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導や教育、人との相互的にかかわりや体験、環境の意義など基礎的な考え方を理解する。スクールカウンセラーや発達相談の実務経験を有する教員による具体的な体験事例を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや、調和のとれた子どもの育ちを支えるための視点を養う。</p> <p>他の科目との関連：「子ども家庭支援の心理学」では本講義で学んだ理論を発展させ、子どもをめぐる家族関係について発達の観点から理解し、包括的に捉える視点を養う。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 発達を理解することの意義 人間の発達は生涯続くものであるが、どの時期も同じ重さを持つわけではない。初期の発達と後期の発達とは意味や課題が異なることを理解する。 予習：「保育の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと (約1時間) 復習：教科書第1章を読み、授業の内容を振り返ること (約1時間) A:少 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第2回 発達と環境 人間は環境の中でさまざまなことを体験して学ぶ。環境に主体的にかかわることにより、心身の発達が促進されることを映像を視聴しながら学ぶ。 予習：教科書第2章と第3章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1.5時間) A:中 B:中 E:あり F:あり</p> <p>第3回 発達理論と子ども観 発達に関する国内外の代表的理論を踏まえ、グループワークを通して自分なりの子ども観・保育観を持てるようにする。 予習：教科書第4章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) A:中 B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第4回 知覚、認知の発達 かつて新生児は何も見えないと考えられていたが、最近になって赤ちゃんは驚くべき能力を備えて産まれてくることがわかってきた。乳幼児期の認知の発達について、映像を見ながら学ぶ。 予習：教科書第5章と第11章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第5回 身体的機能と運動機能の発達 身体機能と運動機能の発達の過程と特徴について理解する。 予習：教科書第6章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第6回 愛着の形成と発達 愛着の形成がその後の発達に及ぼす影響について理解する。 予習：教科書第7章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第7回 社会情動的発達 情動とは、極めて主観的な複雑な心の動きである。人間の基本的な情動の発達や機能、情動表出について、映画視聴を通して楽しく学ぶ。 予習：自分の中にどのような情動があるか、その情動は日常生活でどのような役割を果たしているかを考えること (約1時間) 復習：教科書第8章を読み、授業の内容を振り返ること (約2時間) A:中 B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第8回 社会性の発達 社会性は社会的相互作用の中で発達していく。特に仲間関係によって身に付く力は、幼児期以降、児童期・青年期の対人関係、コミュニケーションスキルの発達につながっていくことを理解する。 予習：教科書第9章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) A:中 B:中 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第9回 言語・コミュニケーションの発達 産まれてすぐのまだ言葉を話せない赤ちゃんも、全身を用いて豊かな能動的コミュニケーションを実現している。そうしたコミュニケーション能力を備えて誕生してくる赤ちゃんは、言葉によらないやり取りを活発にするうちに、やがて言葉を獲得していく。このプロセスを映像を見ながら理解する。 予習：教科書第10章を読んでおくこと (約1時間) 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること (約1時間) B:少 E:あり F:あり</p>

	<p>第10回 認知の発達 子どもは大人とは異なった思考や感受性を有する時期がある。子どもの見ている世界に入り込み、その感情に共鳴しながら、子どもの認知機能（思考や記憶）の発達を理解する。 予習：教科書第11章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第11回 学習に関する理論 さまざまな学習の形態や概念、およびその過程を説明する国内外の代表的理論の基礎を理解する。 予習：教科書第12章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第12回 主体的な学習を支える指導 主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 予習：教科書第12章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 乳幼児の学びの過程と特性 乳幼児の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える保育について考える。 予習：教科書第14章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育、まとめ 子どもの発達をめぐる課題、発達課題に応じた保育、生活における学びについて、これまでの授業を振り返りながら総合的に考える。 予習：教科書第15章を読んでおくこと（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメ、テキスト、GoogleClassroomに配信された資料等を整理し、これまでの授業内容を振り返ること（約1時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 試験のフィードバックと学習成果の振り返り 期末試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E：あり</p>
教育目標との関連	保育者には、どんな時も愛情深く子どもの傍らに寄り添う温かさや、伸びゆく子どもの可能性を信じる強さが求められる。それを裏打ちする心理発達の道筋についての的確な理解や正しい知識を習得する。また、これらの知識の習得が学生自身の発達について改めて考える機会となり、自らの発達を自覚的に捉え直し、人生を主体的に自分らしく生きる意志の力を身に付ける。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1:子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎について説明することができる。 DP2:子どもの心理を理解し、保育場面に応じた適切な判断ができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	期末試験 50%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題 20%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度 30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	保育士を育てる① 『保育の心理学』 谷田貝公昭（監修）瀧口綾・福田真奈（編著）一藝社、2020年3月2,100円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。教科書・レジュメ・GoogleClassroomにアップした資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育） I

授業コード：

英文科目名称： Education for Children with Special Needs I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
赤松 広美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F107
添付ファイル			
特別支援教育 I .pdf			

講義概要	この科目は、I・IIで構成される特別支援教育（障害児保育）のIにあたる。Iでは特に、障がいの特性について事実を学び、障害児保育の基礎を養う。さらに現在の国内外における療育・障がい児者支援の実態に即して障害児保育を理解する。 授業担当者は障害者入所施設、児童発達支援センターでの勤務経験を有しており、授業内で実際の事例を提示し、支援者に求められる感性・資質・知識・技術・倫理観について解説を行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	担当者の障害児保育観、および障害概念の変遷 障害児保育観を考え、障害概念の変遷について学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：シラパスを読み授業の全体を知る。復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第2回	なぜ特別な支援が必要なのか なぜ特別な支援が必要なのか。その意義などについて学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第3回	発達を理解する 成長と発達の違い、発達とは何かなどについて学ぶ B:少 E:あり F:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第4回	発達の違いを理解する 発達の違いを理解する意義、発達の違いを知るための方法などについて学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第5回	障がいの特性を理解する（1） 肢体不自由について学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第6回	障がいの特性を理解する（2） 知的障がい（知的発達症）について学ぶ B:少 E:あり F:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第7回	障がいの特性を理解する（3） 視覚障がいについて学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第8回	障がいの特性を理解する（4） 病弱虚弱、聴覚障がいについて学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第9回	障がいの特性を理解する（5） 重症心身障がい、言語障がいについて学ぶ B:少 E:あり F:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第10回	障がいの特性を理解する（6） ASD（自閉スペクトラム症）について学ぶ B:少 E:あり 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第11回	障がいの特性を理解する（7） ADHD（注意欠如多動症）について学ぶ B:少 E:あり	

	<p>第12回 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 障がいの特性を理解する（8） LD（限局性学習症）について学ぶ B：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する アメリカにおける早期療育、東南アジアにルーツを持つ子どもと保護者への支援 アメリカにおける障害児への早期療育の実際、東南アジアにルーツを持つ子どもたちと家族への合理的配慮の実際について学ぶ B：少 E：あり</p> <p>第14回 予習復習合わせて2時間 予習：教科書を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 授業の総括 これまでの授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 E：多少あり</p> <p>第15回 予習復習合わせて2時間 予習：これまでの授業の資料と教科書を読み返す 復習：ノート整理、資料整理をし学びをまとめ、関連資料を探し目を通す。 学びの振り返り 試験の解説 授業の学びを総括し振り返る。自己の学びの評価を行うと同時に今後の課題を明らかにする。 E：あり</p> <p>試験 予習復習合わせて2時間 予習：今までの学びを振り返り自己の学び、課題を考える。関連個所を資料などで確認する。学びを整理し今後の課題を明確にする。復習：これまでの学びをまとめ試験に臨む準備を整える。 期末試験</p>
教育目標との関連	障害児保育をめぐる基礎的な知識を身に付け、深く考え、対話することにより、保育者としての確かな知識を身に付ける。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の発達保障の担い手としての保育士に必要な知識と方法の基礎を理解し、説明できる 2. 障害児保育を単に統合ではなく、インクルーシブな保育として理解し、説明できる 3. 子ども理解の視点として親子の生活と発達と障害の関連について理解し、説明できる 4. 障害児保育の現状・課題を把握し、説明できる 5. 福祉と人権の思想を理解し、説明できる <p>（添付資料のカリキュラムマップを参照すること）</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 50%</p> <p>授業態度 20%</p> <p>振り返りシート、課題 30%</p> <p>（添付資料のルーブリックを参照すること）</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業後にフィードバックを行う
教科書	「障害児保育ワークブック」 著者：星山麻木 発行：萌文書林（2019年） 2,090円
参考書	授業内で適宜紹介する

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もある。
オフィスアワー	研究室で受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称： 教育課程総論（保育の計画と評価）

授業コード：

英文科目名称： Curriculum in the Kindergarten, Nursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見 容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F106
添付ファイル			
教育課程総論（保育の計画と評価）.pdf			

講義概要	<p>幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における保育や教育課程・全体的な計画の意義や編成について学び、こどもたちの主体性を活かした教育課程及び全体的な計画の在り方について考える。教育課程及び全体的な計画の編成とそれを踏まえた指導計画の作成を実際に行うことにより、具体的に理解する。</p> <p>他科目との関連：保育内容5領域において学んだねらい及び内容は、園生活の全体を通して総合的に展開されなければならない。教育課程総論(保育の計画と評価)では、5領域を総合的に捉え、指導計画を作成していくことを学ぶ。</p> <p>授業担当者は、日米の乳幼児教育の経験を持ち学んできた。その経験を活かして、子どもの主体性を大切にしたい計画について共に考えていきたい。「こども理解に基づいた評価」「幼保こ小連携」という視点から保育の計画を考える授業を行う。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション 保育の質の向上に向けた計画・実践・省察・評価 講義概要を理解する。 こどもたちの学びは、こども自らが環境に主体的に関わって生み出される遊びの中にある。保育の質の向上を目的とした計画・実践・省察・評価のプロセスを学ぶ。 予習：教育課程総論（保育の計画と評価）のシラバス全体を読み、講義概要を理解する。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：中 E：あり F：あり</p> <p>第2回 「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画 全体的な計画及び教育課程が持つ役割・機能・意義について理解するとともに、保育所及び幼稚園における全体的な計画と教育課程の在り方を理解する。 予習：事前の配布プリントを見ながら自分の考えをまとめ全体的な計画・教育課程の考え方についての理解を深める。また、授業時に配布したプリントを読み、教育課程の編成の仕方を理解する。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第3回 幼稚園における教育課程と指導案 子どもたちの幼稚園における教育への理解を深め、教育課程と指導案の在り方を理解するとともに、その編成/立案の仕方について学ぶ。 予習・復習：自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：多 E：あり F：あり</p> <p>第4回 保育所における計画と評価 子どもたちの保育所における教育への理解を深め、教育課程と指導案の在り方を理解するとともに、その編成/立案の仕方について学ぶ。 予習・復習：自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：多 E：あり F：あり</p> <p>第5回 長期・短期指導計画作成の基本とその方法（評価の必要性） 長期指導計画と短期指導計画の関係性について学ぶ。さらに長期指導計画と短期指導計画の作成にあたり、保育における評価の必要性について理解する。 予習・復習：指導計画作成の実際について理解する。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第6回 乳幼児の計画と評価の実際 乳幼児の発達と生活の特徴を踏まえた計画と評価について考える。また、子ども一人ひとりに合わせた計画のために必要な「子どもの姿を読み取る」ことの必要性について考え、その実際に学ぶ。 予習・復習：乳幼児の保育計画について理解すると共に、実際に子どもの姿を読み取りまとめる課題に取り組む。（約2時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第7回 指導計画の作成と方法 指導計画の作成と方法について学ぶ。実際のエピソードに基づき、子ども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら指導計画を立てていく一連の流れについて理解し、指導計画作成の方法を習得する。復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） 予習・復習：指導計画の作成の基本とその具体的方法について理解する。（約1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第8回 1日の指導計画作成に向けて 1日の保育の様子を観察し、時系列の記録を作成することを通して、1日の指導計画に必要な観点</p>

	<p>を学ぶ。 予習・復習：授業後に時系列の保育記録を作成する。（約2時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） A：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>発達連続性を踏まえた小学校との接続期カリキュラム 接続期における発達の連続性について理解する。幼保小連携の実際を踏まえ、幼小連携の可能性について考える。 予習・復習：配布資料を読み、接続期カリキュラムについて理解する。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：多 E：あり F：あり</p> <p>第9回</p> <p>5歳児の指導計画の作成1 5歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画（活動案）を作成する。実際のエピソードに基づき、子ども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら指定した時期の活動計画を作成する。 予習・復習：5歳児の発達の特徴を理解する。（約2時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第10回</p> <p>5歳児の指導計画の作成2 5歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画（週案・日案）を作成する。実際のエピソードに基づき、子ども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容及び1日の指導計画を考える。 予習・復習：事前の配布プリントを読み、5歳児の発達の特徴を理解する。（約2時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第11回</p> <p>5歳児の指導計画の作成3 5歳児の指導計画（週案・日案）を作成する。作成した指導計画についてオンラインでプレゼンテーションを行う。課題の指導計画（週案・日案）は、添削をした上で返却をする。 予習・復習：指導計画（週案・日案）のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。作成した週案に基づき、日案の細案の作成を行う。（約6時間） A：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回</p> <p>全体的な計画について1 保育の評価の在り方について考え、子どもの育ちを小学校につなぐ資料である「保育所児童保育要録」の記載の留意点について学ぶ。 予習・復習：全体的な計画について理解する。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：多 E：あり F：あり</p> <p>第13回</p> <p>全体的な計画について2 全体的な計画について実際にかき、ピアチェックをする。 予習・復習：全体的な計画について理解を深める。（約1時間）復習：授業内で実施する「本日のメモ」の紙を読み直し、新しく出てきた用語について理解する（1時間） B：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回</p> <p>期末試験振り返りと指導要録・保育要録の理解 期末試験の振り返りを行う。 保育の評価の在り方について考え、子どもの育ちを小学校につなぐ資料である「保育所児童保育要録」および「幼稚園幼児指導要録」について学ぶ。 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回</p>
教育目標との関連	<p>教育課程（保育の計画と評価）の基礎基本を理解し、将来保育者になるために必要な知識を獲得しなければならない。 全体的な計画・教育課程の編成及び指導計画の作成においては、こどもの発達の連続性を理論的に理解することが求められる。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性</p> <p>1. 教育課程・全体的な計画の在り方と意義について説明できる。 2. 保育の目標を達成するために必要な方法を判断できる。 3. 乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験50%：期末試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。 提出課題45%：授業内で指示した課題や指導計画の提出において、授業で学んだことを踏まえて立案できているか評価する。 平常点評価5%：ディスカッション及びプレゼンテーションにおける発表内容及び積極性を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>試験は個別に返却し、15回目の授業で期末試験のフィードバックを行う。</p>
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	<p>保育者としてこどもの発達を踏まえた指導計画の作成が求められる。授業内で各年齢の部分案・日案（活動案）の提出がある。 卒業必須科目であると同時に、幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための必須科目となることを意識して取り組むこと。</p>

オフィスアワー	限定コメントで受け付ける。 研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	対面授業を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下 晶子、八木 真祈			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F101
添付ファイル			
カリキュラムマップ自然遊びと生活環境保全I最終版.pdf			

講義概要	<p>・乳幼児の成長にとって「自然遊び」活動は非常に重要である。保育者になる学生自身が「自然遊び」の意義を理解し、保育のあり方の観点から考えていく。子どもの生活環境の安全に向けた内容を取り上げ、保育者として現場で生かせるように理解する。</p> <p>・他の科目との関連：1年前期「幼児と環境」の内容を春から秋の季節感を味わいながら体験的に学習する内容になっている。さらに2年後期の「自然遊びと生活環境保全Ⅱ」では秋から冬の季節の活動であり、1年の季節を通した内容になっている。また、これら科目を土台にしながら専攻科「保育内容特論」では保育者の視点から環境構成や活動計画を立案できるようにしていただきたい。</p> <p>・担当教員は、保育現場での実践的な経験があるので、現場経験から、保育において、自然の良さやまた、自然での遊びの安全性等も、実際の子どもの遊びの事例を多く伝えることを通し、自然遊びの魅力を学んでもらいたい。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>オリエンテーション・(タケノコ堀)</p> <p>授業内容を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第2回	<p>タケノコ堀・名札づくり</p> <p>タケノコ堀の活動を通し春の季節を知る。春の季節に触れる。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第3回	<p>名札づくり</p> <p>子どもたちと戸外での遊び体験を楽しみにし(想像しながら)名札の作成をする。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第4回	<p>自然遊びにより自然の美しさ、不思議さ 図鑑づくりを通し、自然の持つ美しさ、不思議さを知る。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第5回	<p>花壇に花を植えよう</p> <p>植物の発芽、葉脈、茎の形から数量・図形等の理解や、植物の興味関心を持つ 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第6回	<p>自然遊びにおいて安全に遊ぶための情報、知識を学ぶまた、外国の自然について知る</p> <p>植物の安全性について調べる。収穫物等の食中毒などについても、興味、関心を持ち、保育をすすめる上で、必要な知識を学ぶ。海外の自然についての情報を知ることで、保育との関連性を学ぶ。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第7回	<p>自然の中のフィールドビンゴ①</p> <p>フィールドビンゴカードづくりを通し、自然の魅力を見つける(保育、子どもたちに伝える) 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第8回	<p>自然の中のフィールドビンゴ②</p> <p>フィールドビンゴカード持参し、自然散策をしながら自然の魅力を知る。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第9回	<p>園外保育、散歩の事故防止</p> <p>園外保育、散歩の目的や安全な保育について理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第10回	<p>自然災害から子どもを守る</p> <p>自然などの身近な事象に関心を持ち、DVD視聴を通し、対処方法を学ぶ。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第11回	<p>園外保育、散歩の事故防止</p> <p>園外保育、散歩の目的や安全な保育について学び理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第12回	<p>自然に親しみ、校舎の周囲の自然物集め</p> <p>自然物をつかって壁飾り製作を知ることを通して自然に親しむ。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第13回	<p>壁飾り製作</p> <p>自然物をつかって壁飾り製作を通して自然に親しむ。感性を楽しむ。</p>

	<p>第14回 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり 七夕行事に親しむ 幼児に七夕行事とは何かを説明できるように解説する。</p> <p>第15回 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり F:あり 総括まとめと振り返り 期末テストの解説を理解する。この授業のまとめをする 復習：教師からの限定コメントによるフィードバックについて理解する (約2時間) D:多 E:あり</p>
教育目標との関連	子どもの生活環境に安全性を求めたライフスタイル及び「自然遊び」に関する教材活用としての知識・理解並びに作品づくりを通して表現力を修得する。
到達目標 (学修成果) 知識・理解 1. 知識 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 子どもの生活環境保全について関心を持ち、事故事例などから安全性を理解し、説明できる。 2. 課題を通して、環境構成の方法や教材活用の視点から考え、工夫できる。 3. 春から夏の自然の美しさや面白さの発見を通して、生命の尊重の大きさを理解し、表現できる。</p> <p>到達目標は添付ファイルのカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する (70%) ②授業に対する前向きさ、関心・意欲、そして、生活環境保全、自然遊びの重要性等に対する理解度で、総合的に評価をする。 (30%)</p> <p>評価基準は添付したルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	16回目の授業時に模範解答を配布し、解説を行う。疑問点など、さらに、学生からの質問等に答える。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	教材及び資料 (授業時配布する資料)
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り (120分予習復習をすること)
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として意欲をもって出席するようにしましょう。 私語、携帯電話等の使用は、特にこの授業では、使用不可。自然の理解ですから、自然に積極的にかかわること。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。
オフィスアワー	128研究室で受け付ける。時間は研究室前、扉に掲示する。グーグルクラスルームの限定コメントでも受け付ける
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加してください。

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称： Contents of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下晶子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F103
添付ファイル			
2023カリキュラムマップ保育内容総論.xlsx			
2023ルーブリック保育内容総論.xlsx			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所、認定こども園における保育内容の理解を深め、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。 ・グループでの作業を通して、保育現場での実践力・応用力を養う。またグループメンバーと共に、子どもの生活や遊びから、子どもの姿をイメージし、具体的な保育者の援助や配慮等を学ぶ。さらに、グループ討議や課題作成を通して協働する力を養う。 ・保育を構成する理論や歴史、環境と生活からの経験的な学び、それらを支える保育方法などについて、幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をはじめとする様々な資料を基に学ぶ。 ・他の科目との関連は、保育内容の総論であることから、保育内容（領域）に関連する科目は勿論、保育、子どもの発達に関わるすべての科目に関連する。また、保育実習にも関連することから、保育内容総論の理解は重要である。 ・担当教員は、保育者実務が35年以上の保育者としての実務（園長経験あり）の豊富な経験を生かし、具体的な保育実践の事例や映像等、理論と実際の保育を講義内容に組み込む。このことから、子どもの発達、保育内容等を含め保育全体について理解深める。
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回 対面	<p>オリエンテーション・保育内容の概要と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の内容・構成について理解する ・子どもを取り巻く環境について知る ・保育の社会的意義と保育者の専門性などの重要性を知り、当事者として学ぶ意識を高める <p>予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握し理解する (1時間) 復習：学びの振り返りをする (1時間) A:中 B:中 E:あり、F:あり</p>
第2回 配信	<p>保育内容の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の歴史の変遷について学び、社会情勢と保育内容の関係性を理解する ・環境による保育と5領域とへの歩みについて学び、その意味を理解する <p>予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる (1時間) 復習：配布されたプリントの復習する。学びの振り返りをする (1時間) A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p>
第3回 配信	<p>子どもの発達と保育内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の発達の特徴を理解し、保育内容との関係性を理解する ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む <p>予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる (1時間) 復習：本日の授業で分かったことについて、学びのレポート」をまとめる (次回提出) (1時間) A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p>
第4回 対面	<p>子どもの発達と保育内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的・深い学びについて理解する ・幼児期の発達の特性を理解し、保育内容との関係性を理解する ・社会情動性（非認知能力）の重要性を学ぶ ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む <p>予習：事前に支持された資料、図書を読む (1時間) 復習：本日の授業で分かったことについて、学びのレポート」をまとめる (次回提出) (1時間) A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p>
第5回 配信	<p>子どもの生活の中の行事と保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育と行事について学ぶ ・行事の捉え方について理解する。保育の中の行事と日本の伝統行事について考える <p>予習：事前に支持された課題についてレポートにまとめる (1時間) 復習：本日の授業で分かったことについて、学びのレポート」をまとめる (次回提出) (1時間) ・ワークシートをもとに考察する A:多、B:中、D:中 E:あり、F:あり</p>
第6回 配信	<p>インクルーシブ保育・ダイバーシティ（多様性）と保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の影響と子どもの育ち、保育内容の関係性を学ぶ ・インクルーシブ保育の概要と個別支援計画や支援体制について事例から理解する ・社会の多様性と子ども一人一人の多様性理解と保育内容の関係を学び理解する <p>予習：事前の配布資料を読む (1時間) 復習：本日の授業で分かったことについて、学びのレポート」をまとめる (次回提出) (1時間) A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p>

	<p>第7回 対面 保育内容と記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容と記録の関係について学び、記録のとり方と作成を学ぶ ・記録の活かし方の基本を事例から学び、実践に繋げる意味を理解する <p>予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第8回 配信 評価の意味と意義（1）評価法の種類と価値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の意味と意義について理解する ・保育の事前・遊び・事後評価など、評価の視点について学ぶ ・PDCA、チェックリストを始め、保育における様々な評価の視点を知り、重要性を理解する <p>A:中、B:中、D:中 E:あり、F:あり 予習：配布資料、ノート等の整理をして、ミニテストに備える（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間）</p> <p>第9回 配信 評価の意味と意義（2）質的評価とプロジェクト・アプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視座から幼児期の学びと育ちについて学ぶ ・対話による探求的保育であるプロジェクト・アプローチを総合的に学ぶ <p>予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第10回 対面 保育内容と指導計画案（1）指導計画案と保育内容の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の育ちについて大切なことを考えた指導計画案について学ぶ ・指導計画案の作成と活かし方の重要性について理解する <p>予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） *部分指導案作成する A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり（指導案作成）</p> <p>第11回 対面 保育内容と指導計画案（2）指導計画案・保育内容と評価の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画案の作成と保育内容、そして評価との関係性について学ぶ ・評価の活かし方について理解する <p>予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第12回 配信 諸外国の保育・多様な保育（支援が必要な子どもの保育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の保育に学び、世界の動向への意識を高める ・多様な保育と保育者の専門性について学ぶ ・仲間の中で育ちあう保育について考察する <p>予習：指示された課題について事前に調べ学習をする（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第13回 配信 子どもの育ちと保育内容（保育者の役割）</p> <p>社会変化の中で子どもの生活実態を理解を深め、保育内容を考える</p> <p>予習：指示された課題について自分の意見を発表できるようにまとめておく（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第14回 対面 さまざまな保育環境について</p> <p>諸外国の保育の環境 日本の幼稚園、保育所等の保育の環境から保育を考える DVD視聴等から学ぶ</p> <p>予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：本日の授業で分かったことについて、「学びのレポート」をまとめる（次回提出）（1時間） A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり</p> <p>第15回 対面 授業のまとめ振り返り</p> <p>授業内にて期末試験の解説をする。試験と各単元の振り返りをしながら自己の課題について考える。</p> <p>予習：今までの授業の振り返る。（1時間） 復習：今までのまとめを振り返り、資料等読み返す（1時間）</p>
教育目標との関連	<p>複雑化した現代社会により、保育は多機能化している。保育者は「一人ひとりの子どもの発達に責任を持ち、子どもの最善の利益」を保障することが必須である。そこには、子どもが社会に順応することを求めるだけでなく、生活を創造し、社会を変革しながら生き生きと生活する基礎を培うことが保育内容であると捉えることが求められる。保育者も子どもと共に生活する中で、学び成長する者として、保育内容を展開することが大切である。ゆえに保育内容総論では、歴史、思想、保育方法等の知識を習得し思考し、自分の意見をもてるように学ぶ。</p>

到達目標（学修成果） 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	授業の到達目標 1. 子ども理解と保育との関連性を理解し具体的な保育の過程に繋げ説明できる。 3. 保育内容の方法と原理、及び保育者の役割を理解し、5領域の内容が総合的に理解でき論理的な考えに基づき論じ合うことができる。 5. 保育者としての態度の必要性を理解し、その基礎を理解することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	①期末テスト 50% ②授業内容全般について理解度を評価（課題レポート等の内容）20% ③ミニテスト：授業内で与えた課題について、自分なりの考察がなされているかを評価 10% ④受講態度：グループワーク、ディスカッション等において、理解度や取り組みの積極性等を評価 20%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回の授業で期末試験のフィードバックを行います。
教科書	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」解説書
参考書	安心感と憧れが育つひと・もの・こと 齋藤政子編著（明星大学出版部）2,484円
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎回の授業における課題には、真摯に取り組んでください。授業で不明な用語・内容理解のための復習が欠かせませんので、分からないことをそのままにしないようにしましょう。
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として出席するようにしてください。 ・私語・携帯電話等の教室内使用は不可。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は授業展開に応じて変更する場合があります。
オフィスアワー	研究室にて受け付けます。（時間は、研究室掲示板で確認すること。） 限定コメントでも受け付けます。
備考・メッセージ	対面授業と配信（ハイブリット）

講義科目名称： 幼児と健康

授業コード：

英文科目名称： Infants and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
近藤洋子			
授業形態 講義	担当形態 単独	実務経験 なし	ナンバリング：A203
添付ファイル			
2023幼児と保健カリキュラムマップ・ループリック.pdf			

講義概要	<p>現代の幼児を取り巻く社会状況や教育的課題をふまえ、領域「健康」の指導に必要な基礎的知識・基礎的技能を身につけることを目指す。主に、幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、運動発達と身体活動、安全な生活を軸に展開する。</p> <p>後学期の「保育内容（健康）の指導法」では、乳幼児が「自ら健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う」ための保育実践に向けて、グループワーク等を通して実践的な指導方法を学ぶ。本科目ではその基盤となる知識・技能を学び理解を深める。</p> <p>他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに、「子どもの健康と安全」「保育内容（健康）の指導法」「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」などの基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 【対面授業】 幼児期までに育てたい10の姿（健康な心と体）の理解－健康の定義と乳幼児の健康の意義－ 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 乳幼児期の健康の意義とともに、諸外国の動向との比較も行いながら、乳幼児を取り巻く生活環境や健康の現状や課題について理解する。 予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針では「健康」をどのようにとらえているか確認する。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:中 B:中 E:あり</p> <p>第2回 【オンデマンド配信授業】 身体・運動・精神－ 乳幼児期の身体発育および、脳の発達、精神・運動機能、生理的機能などの発達について理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:少 B:少 E:あり</p> <p>第3回 【オンデマンド配信授業】 日常生活における運動と遊びとしての運動 国内の幼児期運動指針とともに、WHOのガイドライン等による諸外国の動向をふまえ、幼児期の運動の意義や具体的な方法について理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:少 B:少 E:あり</p> <p>第4回 【対面授業】 幼児期の生活習慣の獲得および生活リズム形成とその意義 将来にわたる社会面、生活面での心地よい生活と自立に向けた基本的な生活習慣や生活リズムの獲得について理解する。 乳幼児期の生活習慣の獲得時期の目安を理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:中 B:中 E:あり</p> <p>第5回 【オンデマンド配信授業】 安全・健康について（保育施設や学校における安全管理と危機管理：リスクとハザード） 保育の場における安全管理・危機管理のあり方や、子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性を理解する。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:少 B:少 E:あり</p> <p>第6回 【オンデマンド配信授業】 病気の予防（感染症の予防） 幼児期に特徴的な病気として、主に感染症をとりあげ、その予防法について理解する。 病気を予防するための乳幼児期における健康教育のあり方について考える。 予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間） A:少 B:少 E:あり</p> <p>第7回 【オンデマンド配信授業】 幼児期の発達障害 幼児期の発達障害（自閉スペクトラム障害、ADHD、学習障害など）について理解し、気になる子</p>

	<p>どもへの対応のあり方について学ぶ。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:少 B:少 E:あり</p> <p>【対面授業】保育実践に向けて まとめ</p> <p>子どもの健康の保障、全面発達の保障について、大人の役割、保育者の役割について理解する。授業のまとめ「幼児と健康」について、これまでの授業や課題提出などに関し総括と振り返りを行う。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：これまでに学んだ内容について振り返り、今後の学びやキャリアにどのように生かすか考える。（1時間）</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p>
教育目標との関連	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、運動発達、安全な生活等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。
到達目標（学修成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 2. 幼児期の体の諸機能、運動の発達と生活習慣の形成を理解する思考力と発達段階に応じた判断力を高める。 3. 安全な生活と事故や病気の予防に必要な技能と相手に伝える能力を高める。 4. 幼児を取り巻く健康に関する社会状況や教育的課題に関心を持ち、意欲的に授業に取り組む。 5. 幼児が自らの健康を保つよう気づきを促し、必要感や達成感を育めるように、グローバルな視野と豊かな人間性を生かし社会に貢献する姿勢をもつ。 <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。</p>
評価方法および評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最終課題（期末）レポート（授業内容全体の理解度）40%、授業内の課題（グループワークやディスカッションへの貢献度・参加度）20%、授業の振り返りに関する課題（授業の理解度や取り組みの積極性）40% 2. 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。添付資料のルーブリックによる評価基準を参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業内の講評とともにGoogle Classroomからコメントを配信
教科書	教科書は使用せず、授業中の配布資料、並びにGoogle Classroom配信資料をテキストとする。
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 参考URLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	シラバスや配布資料を参照し、準備学習に取り組む。授業によっては情報収集を事前課題とする場合がある。健康や保育関連の既知の用語だけでなく、新しい用語を確認し、調べておくこと。特に、オンデマンド配信授業については、配付資料で示した参考資料などを参照し、主体的・発展的に学びを深めるように心がけてほしい。復習としては、毎回の振り返り課題に取り組み、授業内容の理解度を確認すること。
履修上の注意、条件等	授業に関する資料等はすべてGoogle Classroomに掲示する。事前配付資料を参照し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後、もしくはメールで受け付ける。
備考・メッセージ	1・4・8回目は対面授業、その他はオンデマンド配信授業。 子どもの健康を守り、心身の健康状態を向上させるのための情報を収集しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
渡邊 眞理			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A106
添付ファイル			
カリキュラムマップ幼児と人間関係.pdf			
ルーブリック様式幼児と人間関係.pdf			

講義概要	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、乳幼児教育で保障すべき、養護・教育の内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で、幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。子どもの人間関係の発達過程の理論と実践について、実務経験のある本授業担当者から保育現場における事例を通して学ぶ。子どもが主体的に学び、人間関係を育む保育者としての当事者意識を高める。他の科目との関連：乳幼児の人間関係は他の領域とも関係が深く、生活や遊びを通して総合的に発達することを理解した上で、本講座で学んだ理論を他の領域と関連付けながら具体的な保育場面につなげていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>第1回 【対面】</p> <p>イントロダクション・子どもと人間関係 (対面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と幼児の人間関係・自分自身の人間関係について振り返る ・人を知ること、人間関係について事例から考える <p>予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する (30分間) 復習：学びの振り返り (1時間) A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第2回 【配信】</p> <p>乳幼児期における人間関係① (配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・幼児教育の基礎を知る ・保育者の援助について学ぶ ・子どもを取り巻く社会を考える <p>予習：保育所、幼稚園、認定こども園について調べる (50分間) 復習：学びの振り返り (1時間) A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第3回 【配信】</p> <p>乳幼児期における人間関係② (配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の始まりから人間関係を学ぶ ・育まれる人間関係及び育む人間関係を知る。 ・環境から人間関係について理解する <p>予習：自分自身の幼児期にける体験を思い出しまとめる。 *前の授業で指示を出す (50分間) 復習：学びを振り返り整理し、まとめる (1時間) A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第4回 【対面】</p> <p>子どもの発達と人間関係 (対面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」の考え方について理解する <p>予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の人間関係を読む (50分間) 復習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の人間関係をまとめる。(1時間) A：多、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第5回 【配信】</p> <p>人間関係の成り立ちと展開 (配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の人間関係の成り立ちを振り返り人間関係の成り立ちを学ぶ ・乳児期の人間関係の育ちと人との関わりの道筋を理解する <p>予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における10の姿を読む (50分間) 復習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における10の姿のワークプリントをまとめる。(1時間) A：多、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第6回 【配信】</p> <p>幼児の人間関係の育みを理解する (配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の育ちと人との関わりを知る ・自立心の芽生えと人間関係について学ぶ <p>予習：乳児の発達について資料に目を通す。関係個所については授業内で指示を出す (1時間) 復習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における10の姿のワークプリントを完成させる。(1時間)</p>

	<p>A：中、B：中、D：中 E：あり、F：あり</p> <p>第7回 【対面】</p> <p>幼児の人間関係の育み① 授業の総括・振り返りと最終課題（対面）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもと関わるきっかけを考え人間関係の発達を理解する。 ・保育者が子ども通しをつなぐかわりについて学ぶ。 ・最終課題に取り組む。その後、解説を聞き、多面的視点から保育を捉える。 <p>予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく。最終課題に備える（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：中、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p> <p>第8回 【対面】</p> <p>幼児の人間関係の育み②（対面）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終課題についての解説を行う。 ・人間関係についての理解を深める。 <p>予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく（40分間） 復習：演習全体の学びの振り返り。（1時間） A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり</p>
教育目標との関連	保育所保育指針が示す乳児保育における養護及び教育について、保育者が行う援助や関わりについて、保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識、技法、態度を身につける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、人間関係を円滑にする役割を果たすことができるようになる。
到達目標（学修成果） 知識・理解 1. 知識 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 子どもの人間関係の発達論について理解し、自分の言葉で説明・解説できる</p> <p>3. 子どもとの関係性を育むための言葉づかいや表情等について、指摘できる</p> <p>5. 保育者は子どもの人間関係の育ちのための人的環境であることを自覚して、多様な他者を尊重し、受け入れることができる</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>毎回の授業の振り返り、小レポート 48%（各回8×6）</p> <p>授業態度、積極的な授業参加 12%</p> <p>最終課題（レポート・ワークシート） 40%</p> <p>添付のルーブリック参照</p> <p>*欠席等の取扱いについては「学生ハンドブック 授業について」に準ずる。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において最終課題の解説を行い学びを整理する。
教科書	「幼稚園教育要領解説 平成30年 フレーベル館 文部科学省/著 264円」「保育所保育指針解説 平成30年 フレーベル館 厚生労働省/編 352円」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 平成30年、フレーベル館 内閣府/著 文部科学省/著 厚生労働省/著 385円」及び解説書
参考書	授業にて随時紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	復習：振り返りを行い、不明な用語、内容について理解しておくように努める（1時間）、予習：毎授業における課題に取り組み、授業に臨むこと（1時間）
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等による変更もあります。
オフィスアワー	研究室に掲示する
備考・メッセージ	対面授業（第1回、第4回、第7回、第8回）と配信（左記以外の回）を併用する。（ハイブリッド授業）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年生	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下 晶子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A107
添付ファイル			
幼児と環境 ルーブリック (1).pdf			
幼児と環境 カリキュラムマップ (1).pdf			

講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における環境について具体的に理解しつつ、子どもの発達と関連付けながら領域「環境」の意義と「ねらい」「内容」を学んでいく。保育の実践の様子や事例に触れることで、子どもの発達を促す保育者の援助やかかわりについても学び、保育者としての専門性の基礎を身に付ける。 ・本科目担当者は、35年以上の保育者としての実務経験があり、保育現場における具体的な保育、子どもの姿等より保育の環境に関わる事例や、映像等で理解をふかめていく。 ・他の科目との関係は、保育内容に関わる科目すべてに関わり関連づけながら理解を深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回対面 保育における環境とは何か 保育における「環境」とは何を指すのかを具体的に理解し、その重要性を考える。 さまざまな保育から学ぶ (レッジョ・エミリアの保育に学ぶ。モンテソッソーリに学ぶ。 予習：シラバスとテキスト第1章を読み、これからの学習に対して理解する。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。(1時間) E:あり 第2回配信 子どもの発達と環境 領域「環境」の考え方について理解し、子どもの発達との関連を考える。 予習：教育要領の領域「環境」部分とテキスト第2章を読む。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を確認する。課題プリントを仕上げる。(1時間) E:あり F:あり 第3回配信 人とのかかわり—人的環境としての友達・保育者 園生活において友達や保育者とかかわる様子を具体的に知り、人的環境の意義や重要性を考える。 予習：自身の幼児期における身近な人とのかかわりについて思い起こし、どのようにかかわり、影響し合ったかを考え、ノートにまとめる。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。(1時間) E:あり F:あり 第4回対面 もののかかわり—遊びにおける子どもの発達 園生活において、子どもが玩具(もの)とどのようにかかわり、発達していくかを映像視聴から考える。 予習：テキスト第3章を読む。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。(1時間) E:あり F:あり 第5回配信 自然とのかかわり—子どもの興味や意欲に基づく活動の展開 子どもは自然物に対してどのように興味をもちかかわっていくのか、保育者はどのようにして子どもの主体性を尊重しながら保育を展開していくのかを、事例を通して考える。 予習：自身の幼少期に「自然(植物・ペット以外の生き物)とかかわった経験について思い出し、自分にとってどういう意味があったかを考える。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。(1時間) E:あり F:あり 第6回配信 文化・社会とのかかわり—地域の文化や伝統に親しむ 文化や社会を環境として考える意義を理解し、身近な地域の伝統文化や風習について調べ、レポートにまとめる。 予習：テキスト第5章を読む。社会や文化を環境として捉え、自身との関わりを考える。(1時間) 復習：課題(身近な伝統文化について調べる)に取り組み、仕上げる。(2時間) E:あり F:あり 第7回対面 子どもの育ちを支える環境—授業の総括・振り返りと最終課題 子どもの発達と環境の在り方について理解する 予習：第1回から第6回までの学習内容を総合的に振り返り、理解を確かにする。(2時間) 復習：事業内容を振り返り、特にできなかった事項について理解を確実にする。(1時間) E:あり 第8回配信 子どもの育ちを支える環境のまとめ(期末レポート課題の振り返りと解説) これまでの授業の振り返りを行い、各自の成果と課題を明確にする。 予習：これまでの学習と学習成果について振り返る。(1.5時間) 復習：学習成果を振り返り、今後の自己課題を明確にする。(1.5時間) E:あり
教育目標との関連	領域「環境」の視点から、子どもの発達や保育者の役割を理解し、保育者としての資質を高めることを目指す
到達目標 (学修成果)	DP1. 保育における「環境」の重要性を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と関連付けて考えることができる。 1. 知識 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 DP2. 領域「環境」に示される「ねらい」「内容」を踏まえ、さまざまな環境にかかわる幼児の姿から発達を捉えることができる。 DP3. 幼児の主体的・対話的で深い学びを実現できる保育者の援助やかかわりについて理解し、自分の考えを述べることができる。

5. 人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	評価 ①課題等の提出物…40% ②対面時の事業態度10% ③試験（レポート課題）…50% 評価基準 添付のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	・期末レポートにより試験となる。 ・期末レポートの解説は、8回目の授業時にて、丁寧に解説を行い、学生の疑問点等Google Classroomにて個別でも受け解説を行う。
教科書	・『体験する 調べる 考える 領域「環境」』田宮 縁 萌文書林 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年
参考書	授業にて紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	配信授業の回では、授業内で課された課題を当日中に提出することで「出席」とする。 詳細は初回の授業にて説明する。
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する。個別のGoogle Classroomにて個別に受け付ける。
備考・メッセージ	・ハイブリッド形式(配信授業：第2・3・5・6・8回授業、対面授業：第1・4・7回)で行う。 ・提出課題に対するフィードバックは、授業内で行う。

講義科目名称： 幼児と言葉

授業コード：

英文科目名称： Young Children and Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期/秋学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：A109
添付ファイル			
幼児と言葉2023.pdf			

講義概要	<p>領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証と言える「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳幼児の言葉の発達過程を学ぶ。さらに、乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする絵本や紙芝居などの児童文化財や言葉遊びの実践に関する基礎的知識を身につける。</p> <p>他の科目との関連：「保育内容（言葉）の指導法」では本講義で学んだ理論を具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためには、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーションー人間にとって「言葉」とは何か？ シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束についての説明を受ける。 ワークショップを踏まえて言葉とは何かを考える。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。(約30分) A:中 F:あり</p> <p>第2回 言葉の機能 前回のワークショップを踏まえて、言葉の機能について学ぶ。 絵本カードの課題についての説明を受ける。 復習：テキストpp17-21を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) A:中 F:あり</p> <p>第3回 乳幼児の言葉の発達① ビデオを視聴し、乳幼児の言葉の発達の全体像を把握する。 予習：自分自身の幼少期の言葉について保護者等に聞いておく。(約30分) 復習：ビデオ確認プリントの内容を復習しておくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) A:少 E:あり F:あり</p> <p>第4回 乳幼児の言葉の発達② 出生後から前言語期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp39-41を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第5回 乳幼児の言葉の発達③ 初語から一語文の時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp42-45を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第6回 乳幼児の言葉の発達④ 二語文から多語文が出てくる時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp45-46を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第7回 乳幼児の言葉の発達⑤ 書き言葉に関心を持ち、習得する時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp47-49を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第8回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財① 児童文化財の種類と乳幼児にとっての意義を学ぶ。 復習：テキストpp99-102を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第9回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財② 絵本の読み聞かせの方法を学び、実際に実践する。 復習：テキストpp102-103を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) D:多 F:あり</p> <p>第10回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財④ 日本と外国の様々な絵本を知るとともに、各年齢別の絵本の選び方を学ぶ。 復習：テキストpp102-103を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) D:多 F:あり</p> <p>第11回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財③ 絵本と紙芝居の違いと、紙芝居の演じ方を学ぶ。 復習：テキストpp102-103を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) F:あり</p> <p>第12回 言葉に対する感覚を豊かにする実践① 言葉の美しさや楽しさを実感するためのワークショップを行う。 復習：自身の身近にある言葉から、言葉の面白さが分かる例を探す。絵本を読み、記録をとること。(約1時間) A:中 F:あり</p> <p>第13回 言葉に対する感覚を豊かにする実践② 言葉遊びの種類を知るとともに、実際に実践する。</p>

	<p>復習：テキストpp116-121を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中 F:あり</p> <p>第14回 言葉に対する感覚を豊かにする実践③ 児童文化財や言葉遊びの保育への取り入れ方を学ぶ。 復習：これまでの授業の振り返りを行う。絵本を読み、記録をとること。（約2時間） B:中 F:あり</p> <p>第15回 学びの振り返り 授業の総括を行うとともに、本科目の到達目標と各自の到達度を確認する。 絵本カードの課題を提出し、感想をまとめる。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。（約1時間） E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	乳幼児の言葉の発達やそれを支える児童文化財等の基礎的知識を習得することにより、社会生活に必要な教養と保育者として確かな知識を身につける。また、言葉に対する感覚を豊かにする実践を行うことは、学生自身の豊かな感性を育てることにつながる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 言葉のもつ意義と乳幼児の言葉の発達について理解し、説明できる</p> <p>DP1. 乳幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践に関する基礎的知識を習得し、説明できる</p> <p>DP3. 乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財を実践できる</p> <p>DP4. 乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財に関心を持つ</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>試験 60% ・ 期末試験を実施し、授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する</p> <p>提出課題 30% ・ 絵本を読んだ記録をきちんと取れているかを評価する</p> <p>授業への参加度 10% ・ 授業内での実践や課題に対する取り組み姿勢を評価する</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Googleクラスルームにて期末試験の解説動画を配信する。
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」 第2版』（駒井美智子編、みらい）定価2,200円（税込）
参考書	<p>『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示 厚生労働省）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。提出課題以外にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	受講者全員に絵本の読み聞かせの実践をしてもらう予定である。シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。授業の進め方の都合により、50分授業を15回実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
大見由香、成清北斗、安田真紀子			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス	実務経験：各教員共に有（講義概要欄参照）	ナンバリング：A108
添付ファイル			
yohyogen22. pdf			

講義概要	<p>幼稚園教育要領と保育者保育指針等に於ける感性と表現に関連する領域「表現」について理解する。領域「表現」に関する乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。</p> <p>学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どもの表現するモデルとなれることを目指す。当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。</p> <p>また、当該科目を基本として、「表現の指導法Ⅰ」及び「表現の指導法Ⅱ」に続く科目となる。</p> <p>全8回のうち配信授業6回、対面授業2回で行う。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイトムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p> <p>成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。</p> <p>安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 【対面】オリエンテーション・表現とは何か 授業の概要 保育の基本と表現 (担当：大見、成清、安田) 領域「表現」及び、表現総論 身近なものの音に出会う 予習・復習:幼稚園教育要領の領域「表現」の部分を読んでおく (30分) 宿題:授業で取り組んだキャンパス音マップを完成させ、指定の方法で提出する。(30分) C:小 E:あり F:あり C:小 E:あり F:あり</p> <p>第2回 【配信】造形表現① 多様な表現方法について (担当:成清) 予習:多様な表現について自分なりに調べておく (30分) 復習:授業の内容について振り返り要点をまとめる (30分) E:あり F:あり</p> <p>第3回 【配信】造形表現② 多様な表現者について (担当:成清) 予習:多様な表現者について自分なりに調べておく (30分) 復習:授業の内容について振り返り要点をまとめる (30分) E:あり F:あり</p> <p>第4回 【配信】複合的表現 (パネルシアター) ① 様々な要素を用いた表現について (担当:安田) 予習:様々な表現の要素とは何かを調べ学習する (30分) 復習:授業内で学んだ表現の要素をまとめる (30分) E:あり F:あり</p> <p>第5回 【配信】複合的表現 (パネルシアター) ② 表現とコミュニケーションについて (担当:安田) 予習:表現とコミュニケーションの関係を自分なりに考え、調べ学習する (30分) 復習:授業内で学んだ表現とコミュニケーションの関係についてまとめる (30分) E:あり F:あり</p> <p>第6回 【対面】音楽表現① うたを用いた表現、諸外国の音楽表現について (担当:大見) 予習:声や歌を用いた表現についてネットやYouTubeで調べてみる (30分) 復習・宿題:授業でみたビデオの感想をクラスルームより提出する。(30分) A:多 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第7回 【対面】音楽表現② 器楽合奏について (担当:大見) 予習:楽器を用いた表現についてネットやYouTubeで調べてみる (30分) 復習:授業で行った活動の振り返りをクラスルームより提出する。(30分) A:多 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第8回 【対面】領域「表現」の授業全体のまとめと小テスト</p>

	<p>領域「表現」の授業全体を振り返りを行う。(担当：大見 成清 安田) 小テスト受けて領域「表現」について確認する。 予習・復習：幼稚園教育要領の領域「表現」について再確認しておく(30分) 宿題：期末レポートを作成、提出する(60分) E:あり F:期末レポートを作成し、提出する。</p>
教育目標との関連	<p>「社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付ける」ために、感性をどのように磨き、どのような表現活動を為しうるのかを、実際に思考錯誤することで修得する。それには、自身の精神力・努力が重要である。様々な物事に好奇心を持ち関連づけていくことで、「表現」の領域を経験的に学ぶ。</p> <p>他の科目との関連：「実習・実践・研究に関する科目」の基礎知識として「保育内容(表現)」の教育内容・方法を学び、実習に備える。</p>
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得する。 DP1. 造形表現、音楽表現、複合的表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を理解し、修得する。 DP3. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、自身の表現力や感性を養うことに努力できる。 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>1. 課題及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する(各担当教員による45%) 2. 小テスト(25%) 3. 期末レポート(各担当教員による30%) *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は、添付資料のルーブリックを参照のこと。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>期末レポートのフィードバックは動画にて配信する。</p>
教科書	<p>『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 監修 教育芸術社 2019年 2,200円 テキスト プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省 2017年 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省 2017年 320円(税別) 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 2017年 385円 共にフレーベル館</p>
参考書	<p>授業中に適宜資料を配布する。</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的内容および必要な時間	<p>事前事後学習は、各教員が授業内で示す</p>
履修上の注意、条件等	<p>実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することで評価の対象となる。</p>
オフィスアワー	<p>質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける</p>
備考・メッセージ	<p>全8回授業であるため、欠時オーバーにならないよう提出日、受講日のスケジュール管理をしっかり行うこと。 第1回、第6回～第8回は対面授業、第2回～第5回目はオンデマンド配信授業。対面授業はクラスにより授業回が前後することがある。Google Classroomの掲示やメール通知よく見ること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
近藤 洋子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F208
添付ファイル			
2023保育内容（健康）の指導法_カリキュラムマップ_ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>乳幼児において「自ら健康な心と体を育て、安全な生活をつくり出す力を養う」ために、発育・発達の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容や、遊びや生活の中での効果的な指導法を理解するとともに、指導に必要な知識・技能を修得する。</p> <p>教科書や関連図書・資料や実習等での実践的な学びをもとに、知識・理論と実践を関連付け、保育内容（健康）の指導法について考える。さらに、国内外の子どもの健康に関する課題、感染症・アレルギー・事故予防、保健活動の実践などについて、グループワークや課題レポートに取り組み、グローバルな視野やダイバーシティの視点から、子どもに対する理解を深めながら保育のあり方について考える。</p> <p>他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに演習を進める。「子どもの健康と安全」、「幼児と健康」、「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」の基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション 保育内容（健康）の概要について 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 幼稚園教育要領や保育所保育指針等を理解する。「子どもの健康な育ちを保障する」ための課題について考える。健康阻害要因について、諸外国との比較を行うことにより、子どもの健康についてグローバルな視点からとらえ、健康課題についての理解を深める。</p> <p>予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針では「健康」をどのようにとらえているか確認する。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>第2回 ライフサイクルからみた健康 ライフサイクルを通して健康や発育・発達の特徴を学び、「健康な子ども、元気な子どもの姿とは」何か、それを実現するための保育のあり方について考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>第3回 基本的な生活習慣 健康の基礎になる基本的な生活習慣（運動・食・睡眠・生活リズム）の現状やその重要性について学び、乳幼児期の生活習慣に関連する問題への保育者としての関わり方について考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>第4回 幼児と運動・遊び 幼児の運動発達とともに、様々な遊びの中での多様な運動経験の重要性を理解し、運動発達に応じた運動や遊びの指導のあり方について考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。1時間）</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>第5回 幼児と食生活を考える1 幼児の食生活の現状について学ぶ。さらに、朝食や共食の意義を確認し、孤食などの食生活面の問題への対応について、家庭との連携・協力の視点も含めて考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:多 B:多 E:あり F:あり</p> <p>第6回 幼児と食生活を考える2 子どもの食生活の現状や課題をふまえ、子どもや保護者に向けての健康教育・保健指導のあり方について考えることにより、家庭と保育現場との連携の重要性について考察を深める。領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p> <p>A:多 B:中 C:中 D:中 E:あり</p>

第7回	<p>幼児と食生活を考える3</p> <p>幼児期の食生活面の問題として、偏食や少食などについて、食べる意欲や楽しく食べるという視点から保育者としての関わり方や多職種連携について考える。また、食物アレルギーの現状や対応法についても学ぶ。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第8回	<p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>幼児の睡眠・生活リズムと健康</p> <p>子どもの生活リズムについて、睡眠・覚醒リズムの発達から理解する。さらに保護者と子どもの生活リズムの関わりについても考えることにより、家庭と保育現場との連携の重要性について考察を深める。保育者を志す、受講生自身の生活リズムについても見直しや振り返りを行う。さらに、子どもの生活リズムと健康の関係について、スマホやゲームの利用状況をふまえ、望ましいメディアとのつきあい方やICT活用のあり方について理解する。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第9回	<p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>子どもの感染症とその予防</p> <p>子どもの感染症やその予防策について理解した上で、保育の中の健康教育のあり方について考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第10回	<p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>子どもの事故防止と安全教育</p> <p>子どもの事故の特徴について理解し、事故防止の視点から保育環境の構成を確認する。さらに、子ども自身の事故回避能力を育むための安全教育について考える。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第11回	<p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>子どもの生活と育ちを考える1</p> <p>幼稚園や保育所等の年間計画や年間行事の中に、日本の文化を伝える行事や遊びが含まれていることを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第12回	<p>A:多 B:中 C:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>子どもの生活と育ちを考える2</p> <p>保育の中の食育活動について、実践的な事例をふまえ、これまで学んだ基本的な生活習慣とのつながりなどを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第13回	<p>A:多 B:中 C:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>子どもの生活と育ちを考える3</p> <p>保育の中で実践されている保健活動や安全教育などの事例をふまえ、子どもの健康増進のための指導法のあり方について考える。領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第14回	<p>A:多 B:中 C:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>子どもの健康を支援する</p> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や保幼小連携について学び、乳幼児期の健康は児童期の健康や生涯の健康につながっていることや保育者としての支援のあり方について理解する。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：授業の振り返り（課題）に取り組み、学修内容を確認する。（1時間）</p>
第15回	<p>A:中 B:中 E:あり</p> <p>授業のまとめ 振り返り</p> <p>授業内容を振り返り、保育における健康の意義を改めて考え、保育者の役割について考察を深める。</p> <p>予習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。復習：</p>

	<p>これまでに学んだ内容について振り返り、今後の学びやキャリアにどのように生かすか考える。 (1時間)</p> <p>A:中 B:中 E:あり</p>
教育目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、「健康」領域のねらい及び内容について理解し、乳幼児期の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現することを旨とし、指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 ・保育全体の目標や保健活動と関連付けながら、乳幼児期の発育・発達に応じた健康面に関する保育計画を立案することができるようになる。 ・児童期を見据えた支援や、子どもが他者及び多様性を尊重し協力・協働を図れるような指導ができるようになることを目指す。 ・さらに、保育者として自身の心身の健康を保持増進することの重要性についても理解できるようになる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」領域のねらい及び内容や発育・発達に関する知識を習得し理解できる。 2. 子どもの健康に関する知識をもとに、保育者として留意・配慮すべき事項や保育のあり方について考え、子どもや保護者への望ましい関わり方を判断することができる。 3. 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な場면을想定した保育を構想するための技能の向上を目指すことができる。 4. 子どもの「健康」に関心をもち、グローバルな視野やダイバーシティの視点から、課題や対策を考えることができる。 5. 子どもの全人的な発達の保証という保育者の役割を理解し、自らの健康も管理できる保育者を目指すことができる。 <p>到達目標は、添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末レポート（授業内容全体への理解度） 40%、授業内の課題（グループワークの完成度およびグループワークへの貢献度）30%、授業の振り返りに関する課題（授業の理解度や取り組みの積極性） 30% 2. 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。添付資料のルーブリックによる評価基準を参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業内の講評およびGoogle Classroomにて配信。
教科書	『子どもの保健』児童育成協会監修、松田道雄、金森三枝編集、中央法規、2019、2200円
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 参考資料やURLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	シラバスやテキストおよび事前配布資料を参照し、準備学習に取り組む。授業によっては情報収集を事前課題とする場合がある。健康や保育関連の既知の用語だけでなく、新しい用語を確認し、調べておくこと。復習としては、毎回の振り返り課題に取り組み、授業内容の理解度を確認すること。
履修上の注意、条件等	授業に関する資料等はすべてGoogleClassroomに掲示する。事前配付資料を参照し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むこと。
オフィスアワー	授業終了後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの健康を守り、心身の健康状態を向上させるのための指導法に関連する情報を収集しておくこと。

講義科目名称： 保育内容（人間関係）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Human Relationship)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
恵良 紗希子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F104
添付ファイル			
2021正カリキュラムマップ保育内容（人間関係）の指導法.pdf			
2021正ループリック様式保育内容（人間関係）の指導法.pdf			

講義概要	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、保育等の経験者である講師から、幼児の発達過程にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な方法について学び、子どもの姿を多面的に考察し、保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>他の科目との関連：乳幼児は総合的に生活や遊びを通して発達することから、他の領域と密接に関連する。本講座で学んだ理論を他の領域と関連づけながら具体的事例を通して理解を深める。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>授業の概略説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境との出会いと関わり合いを学び、人間関係の基礎を理解する 「私」にとっての人間関係とは 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領解説書に目を通しておくこと（50分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク</p> <p>B：ディスカッション</p> <p>C：フィールドワーク</p> <p>D：プレゼンテーション</p> <p>E：振り返り</p> <p>F：宿題 G：PBL（課題解決型学習） H：反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上</p> <p>中：15分～44分</p> <p>少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>育ち合うとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと保育者の関わり合いを考え、乳幼児の自己とそれを支える保育者の役割を理解する 予習：テキスト第1章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第3回	<p>乳幼児期の発達と人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 「乳幼児と保育者の出会いと関わり」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第2章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第4回	<p>子どもと保育者の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子どもの自己主張を支える」保育者の援助について理解する 予習：テキスト第3章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第5回	<p>遊びの中の人との関わり合い①</p> <ul style="list-style-type: none"> 「遊びの中の人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 3歳児の事例から 予習：テキスト第4章 §1.2.3を熟読すること（30分程度必要） 復習：ミニテストに備え、今まで学習した範囲を復習すること（2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第6回	<p>遊びの中の人との関わり合い②</p> <ul style="list-style-type: none"> 「遊びの中で共有すること」と保育者の援助について理解する 4歳児の事例から ★ミニテスト実施 予習：テキスト第4章 §4を熟読すること（30分程度必要） 復習：今まで学習した範囲及びミニテストの内容を復習する。 A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第7回	<p>遊びの中の人との関わり合い③</p> <ul style="list-style-type: none"> ミニテストのフィードバック 「遊びをつくること」と保育者の援助について理解する 5歳児の事例から 予習：ミニテストの振り返り。テキスト第4章 §5を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第8回	<p>生活を通して育つ人との関わり合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭や園生活を通しての人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第5章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第9回	<p>個と集団の育ち①</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一人ひとり理解する」「個と集団の関係」の重要性と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第6章 §1.2を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 	
	第10回	<p>個と集団の育ち②</p> <ul style="list-style-type: none"> 「集団で活動する楽しさ」や「協同性を育む」ことの重要性と保育者の援助について理解する 	

	<p>予習：テキスト第6章§3,4を熟読すること。ミニテストに備えること（30分程度必要） 復習：ミニテストに備え、今まで学習した範囲を復習すること（2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第11回 人との関わり合いを見る視点① ・「他者との信頼関係および依存と自立」と保育者の援助について理解する A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり ★ミニテスト実施 予習：ミニテストの準備。テキスト第7章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 人との関わり合いを見る視点② ・ミニテストのフィードバック ・「自我の発達、葛藤、集団の中での役割と責任・道徳性の芽生え」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返り、テストの準備（2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 幼児教育の現代的課題と療育及び諸外国の保育 ・領域「人間関係」における現代的課題と療育に対する視座を諸外国（フィンランド：ネウボラ）の乳幼児教育からも考察し、理解を深める。・テスト 予習：・今までの授業内容をテキストをもとにまとめる。テキスト第8章を熟読すること（2時間程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 授業の総括 ・資料及びノートを整理し授業全体を振り返り「自己の課題と自学の目標」の明確化を試みる。 予習：すべての授業を振り返り試験に向けて学びの整理をする。（1時間） 復習：試験に出た問題を振り返り関連箇所をテキストなどで確認する（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 今後の課題の明確化 ・学びを総括し自己の学びのを評価すると同時に今後の課題を明らかにする。 予習：テキスト、ノートなどに目を通して学びを整理し今後の課題を明確にする。 B：あり E：あり</p> <p>試験 期末試験</p>
教育目標との関連	乳幼児期教育はその後の人格形成の基盤となすということを理解し、保育者として必要な子どもや保育の内容・方法について乳幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容に関する知識、態度を習得する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、多様性を尊重したコミュニケーションによって人間関係をより豊かに円滑にすることができるようになる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 乳幼児が人と関わる力を育む為には、保育者が重要な役割を果たすことを理解し、説明できる 3. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人間関係の発達について、個と集団の中での育ちを観点として討論できる 5. 保育者には幼児のモデルとなる役割があるという自覚をもって、自主的・自律的に行動し、多様な他者と協調することができる</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	授業への参加態度・取り組み28% ミニテスト22% 試験50%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』 無藤隆監修、岩立京子編者代表 2018年出版 2,200円 萌文書林
参考書	資料を適宜配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	授業では、幼児教育と自分がどのようにつながるか、自分だったらどうするかという当事者意識をもって、参加すること。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解度等により、変更することもあります。
オフィスアワー	研究室に掲示する
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育内容（環境）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Enviroment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下 晶子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F105
添付ファイル			
保育内容（環境）の指導法 ルーブリック (1).pdf			
保育内容（環境）の指導法 カリキュラムマップ (2).pdf			

講義概要	<p>・幼稚園教育要領や保育指針を踏まえ、保育において重要となる具体的な環境を取り上げ、子どもの主体的なかわりと発達への関連を学ぶ。さらに、環境へのかかわりを支える保育者の役割を理解した上で、実際に保育を構想し、模擬保育として実践することを通して、保育者としての専門性を養う。</p> <p>・本科目担当は、35年以上の保育者としての実務経験があり、保育現場における具体的な保育、子どもの姿等より保育の環境に関わる事例や、映像等で演習等を行うことで保育内容「環境」への理解を深めることができる。</p> <p>・他の科目との関係は、保育内容に関わる科目すべてに関わることで関連づけながら保育について理解を深めていくことができる。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>領域「環境」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 教育要領や保育指針を踏まえ、「領域」と「環境」のねらい・内容と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の考え方について理解する。</p> <p>予習：シラバスとテキストを読む。(0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を確かにする。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第2回</p> <p>乳児保育における「3つの視点」と「環境」 保育所保育指針に示されている乳児保育の3つの視点について、特に環境とのかかわりから理解する。</p> <p>予習：テキスト第7章と保育所保育指針を読む。(1時間) 復習：学習内容を振り返り、理解を確かにする。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第3回</p> <p>ものとかかわりと子どもの発達 事例を用いて遊びの中でのものとかかわりの様子を知り、子どもが発達していくことを理解する。</p> <p>予習：テキスト第8章を読む。(1時間) 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第4回</p> <p>保育者の環境構成と遊びの援助—グループワーク 園の室内・屋外では、保育者による環境構成がどのようになされ、そこからどのような子どもの遊びが生まれ展開していくのかを、グループワークによって考える。</p> <p>予習：図書館等で環境づくりに関する本を探し、読む。(1時間) 復習：授業でまとめた発表内容をさらに充実させる。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第5回</p> <p>保育者の環境構成と遊びの援助—グループごとの発表 環境構成と遊びに援助についてグループで話し合しまとめた考えを発表する。発表を聞き、他のグループのメンバーも意見を出し合う。</p> <p>予習：発表の準備や練習をする(1時間) 復習：自他の発表を振り返り、考えや理解を深める。(1時間) A多、B多、D多、Eあり</p> <p>第6回</p> <p>身近なものをを用いる遊びと保育者の援助 身近な廃材や道具を用いて、子どもと車をつくる活動を構想し、実際に製作する。</p> <p>予習：材料集めや作り方の情報収集を行い、製作の準備をする。(1時間) 復習：準備段階からの自己の取り組みを振り返り、課題を明らかにする。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第7回</p> <p>環境としての文字・数量 幼稚園での実践を知り、子どもが文字や数量に遊びや生活の中で触れ、体得していくことを理解し、保育者の役割を考える。</p> <p>予習：自身の幼少期を思い出し、文字や数にどのようにかかわり、習得したかを考える。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める。(1時間) A多、B中、C中、Eあり</p> <p>第8回</p> <p>自然物を活かした遊具の製作と遊びの展開 身近な自然物を収集し、それらを用いた遊具製作や遊びを計画し、実施する。</p> <p>予習：自然物を収集し、遊びを構想する。(1時間) 復習：準備段階からの自己の取り組みを振り返り、課題を明らかにする。(1時間)</p>		

	<p>第9回 A中、B中、Eあり、Fあり 教材研究 「文化・伝統を感じる活動」の立案—ICTを活用する 前期「幼児と環境」において作成したレポートを用いて、保育場面において地域の文化や伝統に触れ理解を深める活動を計画する。</p> <p>予習：レポートを踏まえ、どのような活動を行うか構想する。(0.5時間) 復習：計画を仕上げる。(1.5時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第10回 保育指針・教育要領における領域「環境」 保育指針や教育要領を用いて、領域「環境」について「育みたい資質・能力」との関連や、具体的な「ねらい」「内容」から学ぶ。また、領域「環境」と他の領域とのつながりや小学校における「教科」とのつながりについても理解する。</p> <p>予習：保育指針、教育要領、テキスト第9章を読む。(1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を確かにする。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第11回 「文化・伝統に親しむ活動」の模擬保育(前半の学生) 作成した指導案をもとに、1人ずつ模擬保育を行う。互いに評価し合い、フィードバックすることによって、高め合う。</p> <p>予習：模擬保育の準備・練習を行う(1時間) 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする。(1時間) B多、C多、Eあり</p> <p>第12回 「文化・伝統を感じる活動」の模擬保育(後半の学生) 前回に続き、作成した指導案をもとに、1人ずつ模擬保育を行う。互いに評価し合い、フィードバックすることによって、高め合う。</p> <p>予習：模擬保育の準備・練習を行う(1時間) 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする。(1時間) B多、C多、Eあり</p> <p>第13回 領域「環境」をめぐる保育や子どもの今日の課題・諸外国の保育環境について理解を深め、海外の今日的課題 E領域「環境」をめぐる保育や子どもの発達に関係する今日の課題について知り、考察する。 諸外国の保育環境や、子どもを取り巻く環境(地域を含め)について情報を学び海外の子育て環境や課題について学び、知識を高める。</p> <p>予習：小テストへ向けて、これまでの復習を行う。(1時間) 復習：小テストを振り返り、考えや理解を深める。(1時間) A多、B多、Eあり、Fあり</p> <p>第14回 レポートに関する説明・作成 これまでの学習の中から、関心のあるテーマを選定し、調べる・作る・考えることを通してさらに探求を深める。</p> <p>復習：レポートを完成させる(2時間) A多、B多、Eあり、Fありあり</p> <p>第15回 本科目のまとめ—領域「環境」と保育者の役割 レポート発表 期末試験の解説(フィールドバック)</p> <p>予習：これまでの学習を総合的に振り返り、自身の学習成果と課題を考える。(1時間) 復習：今後の学習に向けて、自身の意欲や課題を明確にする。(1時間) A多、B多、C多、Eあり、Fあり</p>
教育目標との関連	保育について領域「環境」の視点から専門性を深め、保育者としての実践力の基礎を習得することを目指す。
到達目標(学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1:領域「環境」について、教育要領・保育指針をもとに、子どもに育みたい資質・能力およびそれを実現するためのねらいや内容に関して理解している。</p> <p>DP2:保育における環境の重要さがわかり、身近な環境に主体的にかかわることによって子どもの発達や学びが促されていくことを説明できる。</p> <p>DP3:環境をつくりだす保育者の役割を理解し、保育を計画し展開する実践力の基礎を習得している。</p> <p>DP4:保育の実践や課題について、積極的に自身の考えを述べ、他者と意見を交わすことができる。</p> <p>*添付資料を参照のこと</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験…20% ・授業への積極的参加…20% ・課題・レポート等の提出…30% ・小テスト…30% <p>評価基準 添付のルーブリックを参照のこと</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業時にて、試験の模範解答を配布し解説をする。個別においても、質問等を受けて解説する
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2018年

	・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年
参考書	授業にて紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として、意欲を持って参加しましょう。 授業態度は、これから保育者を目指す人であれば、子どもの見本となる人であるので、態度、姿勢は重要です。意識しましょう。
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応します。対応時間人については、研究室掲示板に掲示します。他、個別コレクションにて受け付けます。
備考・メッセージ	提出課題に対するフィードバックは、授業内にて行う。 対面授業です。保育所になる意識で参加しましょう。

講義科目名称： 保育内容（言葉）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期/秋学期	2年	1単位	卒業選択 幼免必修 保育士必修
担当教員			
山下 晶子、相澤京子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：F203
添付ファイル			
保育内容（言葉）の指導法カリキュラムマップ・ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>・乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</p> <p>・他の科目との関連：「幼児と言葉」で学んだ理論を本演習では具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するために、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。</p> <p>・担当教員は、保育の実務経験35年以上の保育者、園長としての経験を活かし、子どもの具体的な姿、保育実践等、事例や、動画映像等を活用し、保育環境をイメージしやすいよう講義、演習する。このことから保育の理解を深めてもらいたい。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション—保育における「言葉」とは何か シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束について説明を受ける。 領域「言葉」のねらい及び内容を学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：テキストpp25-35を読んでおく。（約30分） E:あり F:あり	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	育みたい資質・能力と領域「言葉」との関係 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」との関係性を理解する。 復習：テキストを読んでおく。（指定されたページを読む）（約1時間） E:あり	
	第3回	子どもの言葉の発達過程① 実習での体験を踏まえ、子どもの言葉の発達過程についてまとめる。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり	
	第4回	子どもの言葉の発達過程② 子どもの言葉の発達過程を踏まえ、生活に必要な言葉の習得について理解する。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり	
	第5回	言葉を育む環境構成と保育者の援助① 子どもが話したい、聞きたいという意欲を生み出す援助方法、また言葉がうまく伝わらないもどかしさに対する援助方法を学ぶ。 復習：テキストを読む。（指定されたページを読む）。（約1時間） B:少	
	第6回	言葉を育む環境構成と保育者の援助② 文字などで伝える楽しさを生み出す援助方法を学ぶ。 復習：テキストを読む。（指定されたページを読む。）（約1時間） B:少	
	第7回	言葉を育む環境構成と保育者の援助③ 特別な配慮が必要な子ども、外国にルーツのある子どもへの援助方法を学ぶ。 復習：テキストを読む。（指定されたページを読む）（約1時間） B:少	
	第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 絵本や紙芝居などの児童文化財の保育の中での活用方法や留意点を学ぶ。 復習：授業で紹介された絵本や紙芝居を読んでみる。（約1時間） E:あり	
	第9回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 紙芝居の演じ方を練習する。 復習：実演してみても気づいたことについてまとめておく。（約1時間） A:多	
	第10回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財③ 紙芝居を実演し、相互評価を行う。 復習：実演してみても気づいたことについてまとめておく。（約1時間） A:中	
	第11回	言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊びを実際に行うとともに、保育の中での活用方法を学ぶ。 復習：授業で扱った以外の言葉遊びを実践する。（約1時間） A:多	
	第12回	子どもの言葉を育む保育の構想と実践① 指導案作成に向けて、教材研究を行う。 復習：教材研究の不足分を補っておく。（約1時間） A:多	

	<p>第13回 子どもの言葉を育む保育の構想と実践② 子どもの言葉を育むための具体的な保育場面を想定した指導案を作成する。 予習：指導案の基本的な書き方について確認しておく。(約30分) 復習：作成した指導案を見直しておくこと(約30分) A:多</p> <p>第14回 子どもの言葉を育む保育の構想と実践③ 模擬保育を実践し、その内容について振り返りを行う。 予習：模擬保育に向けての準備を行う。(約1時間) 復習：模擬保育の内容を踏まえ、指導案を書き直す。(約1時間) E:あり</p> <p>第15回 学びの振り返りと今後の課題 授業についての総括を行うとともに、各自の学習到達度について振り返り、今後の学習課題を明確にする。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、明確になった学習課題について補っておくこと。(約1時間) E:あり</p>
教育目標との関連	乳幼児の言葉を育む保育者の援助を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想することは、保育者としての確かな知識を実践的な技能に結びつけることになる。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、説明できる DP1. 乳幼児の言葉を育む環境構成と保育者の援助についての基礎的な知識を理解し、説明できる DP3. 乳幼児の発達や学びの過程を理解した上で、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想できる DP4. 言葉に対して関心をもち、自身の言葉を豊かにしようと努めることができる</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>試験 30% ・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する 提出課題 40% ・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する 授業への参加度 30% ・模擬保育等のグループ活動への貢献度を評価する</p> <p>評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>期末レポートによる試験とする。 最後の15回目にて、解説を行い、最終的に、保育内容「言葉」について理解を深め、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけるの目標となるが、説明、解説において、質問等また疑問に思ったこと等、個別においても受ける。 共有が必要な場合は、最終回に共有する。</p>
教科書	『保育内容「言葉」と指導法 理解する・考える・実践する』 2200円(税別) 中央法規出版
参考書	<p>『幼稚園教育要領解説』(平成29年3月告示 文部科学省) 『保育所保育指針解説』(平成29年4月告示 厚生労働省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。その他にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	128研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。

講義科目名称： 保育内容（表現）の指導法Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion)Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
大見由香、成清北斗、安田真紀子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：全員有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F202
添付ファイル			
hyogenlmr22.pdf			

講義概要	<p>保育内容を総合的に捉え各領域との関わりから、表現活動を中心に乳幼児に即した展開や指導方法を学ぶ。身体的・音的・物的・時間空間的認識から五感へと、全ての環境資源を利用して、表現活動の特徴や面白さを確認し、乳幼児に指導するための、構想・計画・実践を身に付ける。各教員の経験からくる「暗黙知（プロの技）」から、学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どものよき表現するモデルとなれることを目指す。第2回目から第13回目は3つのグループに分かれ各分野4回のゼミ授業を受ける。ゼミ受講の順番はグループにより異なる。</p> <p>他の科目との関連：当該科目は、「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅱ」に繋がる重要な科目である。また保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」などとも深く関連する。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイトショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p> <p>成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。</p> <p>安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。</p>
------	---

<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとF</p>	<p>第1回【対面】 オリエンテーション オリエンテーション：担当教員の紹介 領域「表現」と当該科目の概要と各ゼミの内容について説明を受ける。 予習・復習： 授業で紹介されたゼミの内容をよく確認しておく。（30分） 自分のゼミグループの順番を確認し、次回のゼミ活動について考えておく。（30分） A：少、F：あり</p> <p>第2回【対面】 ゼミ活動：造形表現の探索方法（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップについて学ぶ 準備学習（計1時間） 予習：子どもを対象とする造形ワークショップについて自分なりに調べておく（30分） 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる（30分） A：少 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第3回【対面】 ゼミ活動：造形表現の展開方法（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップの素材や技法について学ぶ 準備学習（計1時間） 予習：子どもを対象とする造形ワークショップの素材や技法について自分なりに調べておく（30分） 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる（30分） A：多 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第4回【対面】 ゼミ活動：造形表現の発展方法①（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップの企画や進行について学ぶ 準備学習（計1時間） 予習：子どもを対象とする造形ワークショップの企画や進行について自分なりに調べておく（30分） 復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる（30分） A：多 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第5回【対面】 ゼミ活動：造形表現の発展方法②（成清） ゼミ内作品発表 準備学習（計1時間） 予習：発表の準備、練習をしておく（30分）</p>
--	---

<p>の宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>復習：授業の内容について振り返り要点をまとめる（30分） A：多 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第6回【対面】 ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の探索方法（安田）</p> <p>パネルシアターの表現要素を探索し、子どもを対象としたパネルシアター作成方法について学ぶ 予習：パネルシアターとは何か調べ学習をする（30分） 復習：パネルシアター実演を振り返り、次回のゼミ活動への構想を練る（30分） A：少 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第7回【対面】 ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の展開方法（安田）</p> <p>子どもを想定したパネルシアター制作とその活用方法について学ぶ 予習：パネルシアター制作について調べ学習をする（30分） 復習：その日の作業を振り返り、次回の作業の計画を立てる（30分） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第8回【対面】 ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法①（安田）</p> <p>パネルシアターの表現方法と実践の方法を学ぶ 予習：パネルシアターの演じ方について調べ学習をする（30分） 復習：その日の作業・演じ方練習を振り返り、次回の作業・練習の計画を立てる（30分） A：多 B：多 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第9回【対面】 ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法②（安田）</p> <p>ゼミ内作品発表 予習：演じ方の練習をする（1時間） A：多 B：少 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第10回【対面】 ゼミ活動：音楽表現の探索方法（大見）</p> <p>音楽表現の技法について音の素材や曲作りのプロセスを事例を通して学ぶ 宿題：授業で取り組んだ曲を完成させ、動画を提出する。（1時間） E：あり F：あり</p> <p>第11回【対面】 ゼミ活動：音楽表現の展開方法（大見）</p> <p>協同創作の方法：即興で音を楽しむ、世界のさまざまな音に触れる チームでさまざまな音作りの方法を模索する。 宿題：YouTubeなどでさまざまなエスニックサウンドを探求する（1時間） A：多 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第12回【対面】 ゼミ活動：音楽表現の発展方法①（大見）</p> <p>発想を豊かにする創作の発展方法：ICTを利用した音楽表現 チームでストーリーに合わせたBGMや効果音を作成し、音の絵本を作る。 宿題：授業で取り組んだ音の絵本を完成させ、動画を提出する。（2時間） A：中 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回【対面】 ゼミ活動：音楽表現の発展方法②（大見）</p> <p>ゼミ内作品発表、評価方法について学ぶ ワークショップに向けて 宿題：授業で鑑賞した音の絵本を評価する。（1時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第14回【対面】 模擬保育に向けた表現の指導方法</p> <p>模擬保育に向けた表現の指導方法 各ゼミ内容の学年発表 指導方法のまとめ 期末レポートについての説明 宿題：期末レポートを完成させる（2時間） B：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回【対面】 まとめと評価法</p> <p>乳幼児の表現活動分野の広がり 期末レポートの解説・振り返りを行う。 秋学期に向けてクラス内でグループ分けを行い、ディスカッションする 予習・復習：秋学期で行うワークショップについて調べ何ができているか考えておく。（1時間） B：中 E：あり F：あり</p>
<p>教育目標との関連</p>	<p>（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらいや内容を包括的に理解している。 2) 領域「表現」を乳幼児の発育・発達に応じて、指導の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育の評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」における「接続期」の課題を理解している。</p> <p>（2）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 造形表現、音楽表現、複合的表現や環境に関わる表現等の活動に必要な指導技術や知識を理解している。 2) 自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3) 協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身に付ける。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 5) 子どもが主体的・対話的に表現することの意味を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。</p>

到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP3. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得できる。 DP2. 自身の得手不得手を自覚し、創意工夫により思考し、力量形成している。 DP2. 子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による30%） 2. 発表及び課題提出を評価する（各担当教員による30%） 3. 期末レポート40% *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業内で期末レポートの解説と振り返りを行う。
教科書	プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 385円 共にフレーベル館
参考書	『生活事例からはじめる 一保育内容一 表現』 徳安敦・関口明子編著 青踏社 1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	Google Classroomの通知や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、幼児必修、保育士必修
担当教員			
大見由香、成清北斗、安田真紀子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：全員有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F207
添付ファイル			
hyogen2mr22.pdf			

講義概要	<p>乳幼児期に於ける育みたい資質や能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある内容を表現と関連して理解を深める。乳幼児期の発達を踏まえて、援助・指導できる実践的な場面を想定して、乳幼児の主体性を鑑みて保育構想を立案する方法を身に付ける。</p> <p>これまで「表現の指導法Ⅰ」で学んだノウハウを、学生が主体となり幼稚園児向けのワークショップを作りあげる活動をすることで、実践的な活用ができるようになることを目的としている。</p> <p>各回講義の後グループワークを行い、作業記録をポートフォリオにまとめる。</p> <p>他の科目との関連：当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。また5領域と実習に関する科目全てと関連する。「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅰ」から総括に繋がる重要な科目である。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティタイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p> <p>成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。</p> <p>安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する</p>
	<p>第1回 オリエンテーション① シラバスの解説、領域「表現」のねらいから指導方法を考え、各自の課題を設定する（課題） ワークショップについての説明を受ける 分野グループに分かれプロジェクトに向けてチームルディングを行う 予習・復習：グループで話し合ったプロジェクトで導入できそうなものを調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：小 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第2回 オリエンテーション② 表現の各領域について 各国の音楽教育の事情 各自の構想と協働学習を設定し、模擬保育の構想を想定する 構成と主題（テーマ）について 予習・復習：諸外国の表現について調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第3回 表現と協同遊び 遊びから組み立てる表現について考える 予習・復習：表現の領域での協同遊びについて調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第4回 インクルーシブ保育と表現の可能性 各領域との関連性を考える 記録方法（ドキュメンテーションとポートフォリオ） 予習・復習：ドキュメンテーションについてネットで調べておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第5回 表現とイメージーション 子どもの想像力を促すための表現方法を考える グループプロジェクトの中間発表に向けた準備 予習・復習：発表の内容を考え、プロジェクトの準備を行う（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第6回 表現とコミュニケーション 子どもの発想力を促すための対話と援助 学内発表と推敲：各グループのプロジェクト計画を発表する 予習・復習：発表の方法を考え、プロジェクトの準備、練習を行う（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分）</p> <p>第7回 模擬保育 準備①</p>

場合に【あり】と表記されます。	<p>子どもの動機を整理する表現構想 プロジェクトの修正 予習・復習：グループのこれまでの企画を自分なりに練ってみる（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多 E：あり、F：あり</p> <p>第8回 模擬保育 準備② 子どもの思いを形にする、指導演（進行表）作成方法 予習・復習：グループの指導演に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多 E：あり、F：あり</p> <p>第9回 模擬保育 準備③ グループごとにリハーサルを行う 指導演の修正 予習・復習：指導演に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多 E：あり、F：あり</p> <p>第10回 模擬保育 準備④ 子どもの発見を反映する、指導演の修正 予習・復習：指導演に目を通しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多 E：あり、F：あり</p> <p>第11回 模擬保育 準備④ クラス単位 ワークショップの会場準備とリハーサル 予習・復習：各自の役割を確認しておく（30分） 宿題：活動記録をまとめる（30分） A：多 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第12回 模擬保育 発表（ワークショップ）① ワークショップ準備と園児の受け入れ 実技テストとしての評価対象 宿題：活動記録をまとめる（30分）・ワークショップの振り返りを行いクラスルームに提出する（30分） A：多 D：多 E：あり、F：あり</p> <p>第13回 模擬保育 発表（ワークショップ）② 園児に向けたワークショップを行う 宿題：活動記録をまとめる（30分）・ワークショップの振り返りを行いクラスルームに提出する（30分） B：中 E：あり、F：あり</p> <p>第14回 保育の向上を目指して① 保育の表現と評価方法：同じ分野間でワークショップの振り返りを行う。 期末レポートドキュメンテーションとポートフォリオ作成方法のまとめ 課題：期末レポート（2時間） B：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 保育の向上を目指して② まとめと振り返り ・ドキュメンテーションとポートフォリオの用法 ・期末レポートのフィードバック ・他グループのワークショップを見る 課題：他グループのワークショップの感想をクラスルームに提出する（1時間） E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	<p>（1）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領におけるねらいと内容を理解する。 1) 幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらいや内容を包括的に理解している。 2) 幼稚園教育要領のねらいから、各領域と領域「表現」の関連性を理解して指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価を理解している。 4) 小学校を意識して、なだらかな「接続期」を目指して保育内容を構想することを身に付ける。 （2）乳幼児の発達や学びを理解して、領域「表現」に関わる指導法を構想し、保育内容の向上に努めることができる。 1) 領域「表現」の指導上の留意点を乳幼児の発達や学びの過程において理解できる。 2) 自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」指導・援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3) 協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身に付ける。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 5) 子どもが主体的に表現することの意義を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP3. 造形表現、音楽表現、複合的表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を修得する。 DP5. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、個性や現状に応じた表現を実践できる。 DP5. 子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>1. 課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による30%） 2. 発表及び課題提出を評価する（各担当教員による30%） 3. 期末レポート40% *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。</p>
期末試験・期末レポートのフィード	<p>第15回目の授業にてフィードバックを行う。</p>

バック方法	
教科書	テキスト プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 385円 共にフレーベル館
参考書	参考書・参考資料等 『生活事例からはじめる 一保育内容一 表現』 徳安敦・関口明子編著 青踏社 1,900円+税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各分野の教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	全ての回を対面で行う。 Google Classroomにおけるや参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日に向けて早めに準備を行う。

講義科目名称： 保育・教育方法技術論

授業コード：

英文科目名称： Theory on the Methods and Techniques of Childcare and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
百瀬志麻 松山綾子			
授業形態：講義・演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：F205
添付ファイル			
2022保育・教育方法技術論カリキュラムマップ (2).pdf			
2022保育・教育方法技術論ルーブリック (2).pdf			

講義概要	<p>この科目では、これまでに他の科目で学んだことを踏まえ、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深める。</p> <p>また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて自ら考え、保育の感覚をつかむことを目指す。</p> <p>担当教員は、授業で学んだ知識・技能を現場でどのように活かすことが出来るかについて学生に学んでもらえるよう、保育者としての実務経験に基づいた実践的な内容を交えた授業を展開する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション、保育・教育方法とは何か？ 授業の概要、評価、担当教員について知る。保育・教育方法とは何かについて学ぶ。 予習：保育・教育方法技術論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。 (約1時間) A：少 D：あり E：あり F：あり	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 G：PBL（課題解決型学習） H：反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	子ども理解にもとづいた保育方法と評価 子ども理解にもとづいた保育方法とはなにかについて学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間) A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第3回	子どもにふさわしい園生活と保育形態 子どもにふさわしい園生活について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第4回	養護と教育が一体となった保育の方法 保育は養護と教育が一体となったものであることについて知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間) A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり	
	第5回	環境を通した保育の方法 環境を通して保育を行うとはどのようなことであるかについて学ぶ。 また、多文化理解を育むような環境とはどのようなものであるかについての知識を得る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間) A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり	
	第6回	遊びを通した保育の方法 遊びを通して子どもが学ぶ際の保育者の援助の仕方について学習する。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間) A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり	
	第7回	個と集団を活かした保育の方法	

	<p>個と集団両方を育てる保育の方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第8回	<p>0・1・2歳児の発達に応じた保育方法 0・1・2歳児の発達を考えた保育方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>3・4・5歳児の発達に応じた保育方法 3・4・5歳児の発達を考えた保育方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>保育の計画・実践・評価 多種多様な子どもの興味・関心を活かす保育の計画・実践・評価について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>家庭・地域と連携した保育 様々な文化的背景をもつ家庭や、特色のある地域と連携した保育方法について学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>小学校との接続のデザイン 幼児期と小学校の教育との連携方法について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>配慮を要する子どもへの保育方法 様々なこどものニーズに答えられるよう、保育者として多文化理解力が不可欠である。 本授業では配慮を要する子どもに対しての保育の方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>教材や情報機器を活かした保育方法 教材や情報機器を活かした保育方法について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第15回	<p>授業全体の総括 予習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業で学んだことを各自で振り返り、自分の保育にどのように活かせるかについて考え、書き留め、共有できるようにしておく。(約1.5時間)</p> <p>A：中 B：多 E：あり</p>
教育目標との関連	<p>これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深めることは、保育者に必要な力を高めることである。</p>

	また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて考え、保育の感覚をつかむことは保育者として必要な資質を高めることにつながる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1：保育・教育方法の基礎的理論と実践について理解している。 DP3：これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方について理解している。 DP4：様々な場面における保育・教育に関心を持ち、保育者になる者として自ら考え、子どもの目で世界を見ようとしている。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 最終レポート40% 提出課題30% 参加姿勢30% を基本とし、総合的に評価する。 2. 添付資料のカリキュラム・マップ（到達目標）を参照。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	成績の開示及び質問があればメールで受け付ける。
教科書	『新しい保育講座⑥ 保育方法・指導法』（2021年）大豆生田啓友・渡邊英則編 ミネルヴァ書房 ¥2420（税込）
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、2017年 『保育所保育指針』厚生労働省、2017年 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府、2017年（全てウェブ上から無料でダウンロード可能）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	準備学習は、授業計画を参照のこと。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する。 シラバスの内容は、履修生のスケジュールや理解度などにより変更の可能性がある。 授業内容や授業形態などを変更する場合は事前に連絡をします。
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業で学んだ内容を常に自分事として捉え、保育者として自分がどうありたいかについて考えてください。将来保育者として活躍されるとき、主体的に学び続ける姿勢から子どもたちも物事に主体的に取り組むようになります。一緒に楽しく学びましょう！

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
森脇 晋			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B 201
添付ファイル			
子ども理解と相談・援助_カリキュラムMap&ルーブリック.pdf			

講義概要	幼児教育の礎となる幼児理解について、子ども観、子どもの発達、遊びと生活の意味と意義を理論と実践から学び、実践者としての基礎力を養う。様々な保育現場における子どもの姿等の事例を用いて、子どもを理解するための知識・技能・態度を身につける。また、近年保育者に子育て支援等の役割が強調される中、相談援助や支援のための基本的な考え方やカウンセリング・マインドをふまえた対応が求められている。そこで、幼児理解に欠かせない保護者との連携や子育て支援の方法について、保育、相談の実務経験を有する教員よりワーク等を通して実践的に学んでもらう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>第1回 「子どもの理解と相談・援助」を学ぶにあたってのガイダンス ・「子どもの理解と相談・援助」の授業を円滑に受講できるようにする。 ・保育における子どもの理解の大切さを理解する。 予習：教科書P2～11を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第2回 子どもに対する共感的理解 ・子どもの理解にもとづく養護及び教育の一体的展開を理解する。 ・子どもに対する共感的理解と子どもとのかかわりを理解する。 予習：教科書P12～26を読んで、事例及び傾聴について考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第3回 子どもを理解する視点(子どもとのかかわり)① ・子どもの生活や学びの視点から子どもの理解を深める。 ・子ども相互のかかわりと関係づくりに関する理解を深める。 予習：教科書P28～54を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第4回 子どもを理解する視点(子どもとのかかわり)② ・保育の集団における経験・葛藤・つまづきに関して子どもの理解を深める。 ・環境としての保育者と発達に関する理解を深める。 予習：教科書P55～76を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第5回 子どもを理解する視点(保育の環境)① ・保育の環境の理解と構成に関する理解を深める。 ・保育の環境の移行や変化に関する理解を深める。 予習：教科書P78～97を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第6回 子どもを理解する視点(保育の環境)② ・生涯にわたる生きる力の育成に関する理解を深める。 予習：教科書P98～116を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第7回 子どもを理解する方法(アセスメント) ・観察法・心理検査に関する理解を深める。 ・アセスメントに関する理解を深める。 予習：教科書P118～128を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第8回 子どもを理解する方法(記録) ・発達の記録をとるポイントの理解を深める。 ・動画視聴したものを記録して、記録の取り方への理解を深める。 予習：教科書P129～139を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第9回 子どもを理解する方法(評価・共有) ・省察・評価に関する理解を深める。 ・職員間・保護者との情報共有に関する理解を深める。 予習：教科書P140～172を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第10回 子どもを理解にもとづく発達援助(発達の課題に応じた援助) ・発達の課題に応じた援助とかかわりに関する理解を深める。 ・発達援助における協働に関する理解を深める。</p>

	<p>予習：教科書P140～172を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第11回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助（発達障害） ・発達障害のある子どもに関する理解を深める。 予習：教科書P193～203を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第12回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助（多文化共生理解） ・多文化共生理解が必要な子どもに関する理解を深める。 予習：第11回の授業後に配信する資料を閲覧しておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり ・多様化、国際化する社会における子ども理解と課題について学ぶ。 ・保育者として、多様な国籍を持つ子どもや帰国子女の子ども・家族とのかかわりを考える。 予習：第13回の授業後に配信する資料を閲覧しておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第13回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助（問題行動） ・「問題行動」を理解する糸口。 ・「問題行動」への対応を考える。 予習：第12回の授業後に配信する資料を閲覧しておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第14回 発達の連続性と就学への支援 ・発達の連続性・個別的配慮に関する理解を深める。 ・就学支援・地域連携に関する理解を深める。 予習：教科書P204～221を読んで、事例を考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第15回 「子どもの理解と相談・援助」の総括 ・期末レポートを振り返ると共に、諸外国の取り組みを比較して、総括する。 予習：「子どもの理解と相談・援助」への思いをまとめておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>
教育目標との関連	<p>幼児理解について知識を理解し、子ども、同僚、保護者および関係機関と関わる姿勢、スキルを身につける。 特に、面接や記録等、実践現場で役立つ知識を構築できるようにする。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 子ども理解の意味と意義、発達を理解し、現状の保育の課題との関係性を考察することができる。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方で思考・判断することができる。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解し、幼児理解のための様々な言葉・方法を理解することができる。 4. 子どもの理解に基づく保育者の援助方法や態度を具体的に理解することができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。</p>
評価方法および評価基準	<p>期末レポート 50% 持ち込み不可の試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。 授業内調査 20% 7・14回に実施するもの各10%で、該当範囲の理解度を評価する。 課題提出物 30% 授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、その提出内容を評価する。 *課題配信は欠席した者にもするので、自習をして提出すること。（成績の30%を占めるため） *添付資料のルーブリックを参照のこと。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>授業内調査：調査後に答案用紙のみ回収し、模範調査をClassroomから配信する。 期末レポート：課題を第12回後、Classroomから配信し、当該Classroomに提出したものを評価し、第15回の授業中に解説+振り返りをする。</p>
教科書	<p>「書き込み式 子どもの理解と援助」 井戸ゆかり 編著、萌文書林、2022年、1800円（税別）</p>
参考書	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介する。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。（第2回以降は、授業開始時に振り返りテストを行う。）</p>
履修上の注意、条件等	<p>Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。</p>
オフィスアワー	<p>授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。（Classroomでの質問も可）</p>
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼）

授業コード：

英文科目名称： Practical Seminar for the Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下晶子、赤松広美			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G207
添付ファイル			
2023保育・教職実践演習（幼）カリキュラムマップ.pdf			
2023保育・教職実践演習（幼）ルーブリック - ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>・「良い保育者」とはどのような保育者でしょう。保育者に求められる力とはどのような力でしょう。「現場で役立つ実践力」に磨きをかけることを目標に、実際に子どもの姿を想像して保育を行うという意識を持ち、今までの学修と実習の集大成としての演習を行います。実際の園外保育を計画し実際に実践をする。このような授業に主体的に参加し、仲間と協力しながら計画的に準備を進めます。最後には、これまでの学びを振り返りながら履修カルテの作成に取り組み、専門家としての自覚を持ちます。</p> <p>・担当教員は、保育者実務が35年以上の保育者としての実務（園長経験あり）の豊富な経験を生かし、擬態的な事例や映像等により保育を伝えていき、現場をイメージできるように授業をすすめます。</p> <p>・ほかの科目との関係は、すべての科目を重篤するだろうことを前提であり、実践演習ということでは、特に教育実習、保育実習とは、関係が深い。実習を経て、実際の子ども、保育をこの科目を通し、集大成であることを意識して学んでほしい。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回 保育・教職実践演習のねらい 演習の概要及びねらいについて理解する。 これまでの講義・演習・実習を通して学んだ内容について分析を通して、自己課題を明らかにし、不足している知識・技能を補完していくために必要な学習に自ら取り組めるようにする。 予習・復習：参考資料などに興味を持ち、関心のあるページに目を通す（各1時間） B:中 E:あり F:あり</p> <p>第2回 子ども理解と保育者の援助、役割 保育・教育の実践を支える保育者の役割について学ぶ（事例を通してグループワーク） 予習：事前配布資料に目を通し、各自の考えをまとめておく（1時間） 復習：討議、共通認識されたことの振り返りをする（1時間） B:中 C:中 E:あり F:あり</p> <p>第3回 保育士試験に挑戦してみよう 国家試験問題に挑戦することにより、保育・教育の基本にかかわる理念や法的根拠等、改めて学ぶ 予習：事前の配布資料に目を通す（1時間） 復習：解答の理解（1時間） B:中 C:中 E:あり F:あり</p> <p>第4回 保育者に必要な資質能力① 子どもの思いの理解と保育者の願い（事例検討 グループワーク） 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：振り返りをする（1時間） B:中 C:中 E:あり F:あり</p> <p>第5回 保育者に必要な資質能力② 演習課題の理解をし、保育のねらいを踏まえた指導計画の作成 予習：参考資料を読み込む（1時間） 復習：参考資料を読み込む（1時間） B:中 C:中 E:あり F:あり</p> <p>第6回 保育者に必要な資質能力③（指導案作成（完成させる）） 実際に園で保育を展開することを考え、子どもの様子を想像しながら演習内容についての計画を立てる。また、実際に保育を展開するにあたっての質問等をまとめる。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：次に向けて完成して指導案の見直しをする（1時間） A:多 F:あり</p> <p>第7回 保育者に必要な資質能力④模擬保育実演 実際に園で保育を展開することを考え、子どもの様子を想像しながら演習内容についての計画を立てる。また、実際に保育を展開するにあたっての質問等をまとめる。（グループにて） 予習・復習：参考資料に目を通す（各1時間） A:多 F:あり</p> <p>第8回 子どもの育ちと行事「園外保育」を考える グループに分かれ、実際に保育計画（指導案）の作成を行う。（グループワーク形式） 予習：演習に必要なものを準備する（2時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多 F:あり</p> <p>第9回 園外保育計画作成（グループ活動） グループに分かれ、実際に保育計画（指導案）の作成を行う。（グループワーク形式） 予習：演習に必要なものを準備する（2時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多 F:あり</p> <p>第10回 園外保育計画完成 グループで作成したものを発表 予習：演習に必要なものを準備する（2時間）</p>

	<p>復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多 F:あり</p> <p>第11回 園外保育実践演習（予定：近隣の公園） 計画書を持参し、実際に子どもの活動と照らし合わせて、実践する。（グループで行動） 予習：計画書の点検とシミュレーションを行う、授業を振り返る（1時間） 復習：実践の振り返りを行う A:多 F:あり</p> <p>第12回 実践の振り返り（省察） 振り返りのまとめを行い、発表を行う。お互いに意見を出し合う。 予習：振り返りをまとめる（2時間） 復習：指定用紙に発表を聞いてのまとめをする（1時間） B:多 D:多 E:あり</p> <p>第13回 保護者対応について 現代における保護者のニーズに気付き、保育者の子育て支援の役割について理解を深める。 予習：事前に配布する参考資料に目を通し、講義に対する質問を考える（1時間） 復習：指定用紙に講義を聞いての感想と、自身の課題についてまとめる（1時間） B:中 E:あり</p> <p>第14回 理想の保育者像についての討論 理想の保育者とはどのような保育者か、理想の保育環境とはどのような環境か、互いに意見を出し合い、自身の保育観を養う。 予習：今までの授業を振り返り、資料に目を通す（1時間） B:中 F:あり</p> <p>第15回 総括、これまでの全体の振り返り、履修カルテの記入 これまでを振り返り、履修カルテにまとめる。さらに、はじめに立てた自己課題と、実際の学修を振り返り比較し、専門職としての保育者を目指す者としての次の課題を設定する。 予習：今までの授業と併せて、2年間に学んだ科目について振り返る（1時間） 復習：履修カルテを清書し提出する（1時間）</p>
教育目標との関連	<p>実習をはじめとするこれまでの学びを振り返り、保育者の求められる資質能力について理解し、自己課題をみつける。 またグループ討議、グループワーク、演習など現場を意識した学びを通し、保育者としての自覚と実践的な指導力を身につける。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1 子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができるクラスの経営の基礎を理解し、説明できる。 2 「幼稚園教育要領」に対応した教科や保育の的確な指導力・実践的なマネジメント力を身につけ、論理的に考えることができる。 3. 現場における教員間の協調性、保護者・地域住民や地域の社会資源との連携の重要性を理解したうえで、対人関係を構築できる。 4. 実際の教育現場で自身が教育活動を行うことを想定して課題に向き合い、成長し学び続ける保育者像を具体的に描くことができる。 5. 教員に求められる資質・能力・技術に照合して、自己の課題を具体的に明確にして学び続けることができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末（まとめ）レポート40% 課題提出 20% 演習への取り組み・参加度 20% 発表に向けての取り組み・参加度 20%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>期末レポートあり。 最終授業時に今までの授業内容の振り返り、最終レポート課題についての解説を行う。また個別の質問等受けて、解説する。</p>
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業計画の記載の通り
履修上の注意、条件等	子ども達より具体的な姿を想像することが大切になります。今までの経験を思い出し、集大成としての授業であることに意識を持ちましょう。
オフィスアワー	担当教員の研究室にて質問等受け付ける。また、時間等は掲示版にて掲示する。限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	対面授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D103
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			
カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>保育者として必要となる造形の基礎的な知識や技能を身につけるため、幼児の発達段階における造形表現の理論や保育現場で用いられる様々な素材や道具の扱い方を学ぶとともに、演習を通じ自ら造形の楽しさを知る。当科目は「幼児造形Ⅱ」に加え、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ」、「保育内容（表現）表現の指導法Ⅱ」との関連性を持つ。</p> <p>担当講師はアーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。それらの経験を活かし造形の魅力について幅広く伝えていく。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回【対面】</p> <p>オリエンテーション/ポートフォリオ制作について</p> <p>全15回の授業説明を行った後、世界各国の様々な幼児造形の理論について学ぶ コミュニケーションを図るための造形ワークショップを実施する 授業の記録として提出するポートフォリオ（期末レポート扱い）の制作方法と情報機器の活用について学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）シラバスに目を通しておく。（30分） （復習）授業内容やスケジュールなどを再度確認する。（30分） A：少、B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第2回【対面】</p> <p>身近な描画材による表現①人物画</p> <p>観察の練習と描画材に慣れることを目的に、色鉛筆による人物クロッキーを行う。 準備学習（計1時間） （予習）色鉛筆やクレヨンなどの描画方法について調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） A：多、B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第3回【対面】</p> <p>身近な描画材による表現②風景画</p> <p>様々な発見と色彩を用いた表現に慣れることを目的に、キャンパス内の自然や環境をクレヨンで描く。 準備学習（計1時間） （予習）色鉛筆やクレヨンなどの描画方法について調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少、C：多、E：あり、F：あり</p> <p>第4回【対面】</p> <p>ステンシル版画でオリジナルエコバッグ①版画の仕組み</p> <p>様々な版画の仕組みについて学び、アイデアスケッチを作成する 準備学習（計1時間） （予習）様々な版画の作例について調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第5回【対面】</p> <p>ステンシル版画でオリジナルエコバッグ②ステンシル制作</p> <p>アイデアスケッチをもとにステンシル（型）作成する 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返り、版のイメージを膨らませておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p> <p>第6回【対面】</p> <p>ステンシル版画でオリジナルエコバッグ③着彩</p> <p>ステンシルを用いて絵の具で着彩し完成させる 準備学習（計1時間） （予習）今前回は振り返りしておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p> <p>第7回【対面】</p> <p>モダンテクニックで表現する世界①技法の練習</p>		

	<p>第8回【対面】 絵画技法の基本となる様々なモダンテクニックについて学び、絵の具の使い方を確認する 準備学習（計1時間） （予習）絵画制作の技法を自分なりに調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少 E：あり F：あり モダンテクニックで表現する世界②アイデアスケッチ</p> <p>第9回【対面】 心の中を表現するためのアイデアスケッチを行う 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返り、アイデアスケッチのイメージを膨らませておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり モダンテクニックで表現する世界③制作</p> <p>第10回【対面】 アイデアスケッチをもとにモダンテクニックを用いた絵画制作を行う 準備学習（計1時間） （予習）アイデアスケッチをもとに、どのモダンテクニックを用いることができるかを考えておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり モダンテクニックで表現する世界④細部の表現</p> <p>第11回【対面】 前回の作業を継続し、より細部まで表現し完成させる 準備学習（計1時間） （予習）アイデアスケッチをもとに、どのモダンテクニックを用いることができるかを考えておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり ポップアップ・グリーティングカード①仕掛けについて</p> <p>第12回【対面】 様々なポップアップ（飛び出す）の仕掛けについて学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）ポップアップカードやグリーティングカードについて調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少 E：あり F：あり ポップアップ・グリーティングカード②アイデアスケッチと試作</p> <p>第13回【対面】 アイデアスケッチと仕掛けの試作を制作する 準備学習（計1時間） （予習）必要であれば参考資料を用意しておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり ポップアップ・グリーティングカード③ポップアップの作成</p> <p>第14回【対面】 試作をもとにポップアップの仕組みを制作する 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり ポップアップ・グリーティングカード④細部の表現</p> <p>第15回【対面】 アイデアスケッチをもとに細部を表現し完成させる ポートフォリオを提出する 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり まとめ</p> <p>提出したポートフォリオおよび授業について振り返る 準備学習（計1時間） （予習）これまでの授業を振り返っておく。（30分） （復習）これまでの授業を振り返り、子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：中 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	<p>幼児造形について学ぶことは、社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付けることにつながる。 また、課題制作を通じた学びは、自分を知り、豊かな感性を育てることと、保育者としての実践的な技能を身に付けることにつながる。</p>

到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 幼児期の発達段階における造形表現の特徴について理解し、説明できる DP3. 造形の基礎的な技法や表現について理解し、説明できる DP4. 幼児の造形について関心意欲を持つことができる 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	課題（作品）（70%） ポートフォリオ（期末レポート扱い）（20%） 授業への関心、意欲、態度（10%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において振り返る。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 共にフレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	準備学習の具体的な内容および必要な時間については授業計画に記載。
履修上の注意、条件等	演習授業のため、学生各自の主体的な参加を求める。
オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	全15回の授業はすべて対面での実施となる。 安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： 幼児造形Ⅱ（再履修）

授業コード：

英文科目名称： Infant of modeling Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務形態：あり	ナンバリング：D105
添付ファイル			
カリキュラムマップ.pdf			
ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>保育者として求められる造形の応用的な知識や技能を身につけるため、幼児の発達段階における造形表現の事例や保育現場で求められる様々な素材や道具の扱い方の応用を学ぶとともに、演習を通じ自らの個性や特徴を生かした造形に取り組む。 当科目は「幼児造形Ⅰ」に加え、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ」、「保育内容（表現）表現の指導法Ⅱ」との関連性を持つ。</p> <p>担当講師はアーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。それらの経験を活かし造形の魅力について幅広く伝えていく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学習形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回【対面】</p> <p>オリエンテーション</p> <p>全15回の授業説明を行った後、世界各国の様々な幼児造形の事例について学ぶ コミュニケーションを図るための造形ワークショップを実施する 情報機器を活用した見せる指導案としてのプレゼンテーションボード（期末レポート扱い）作成について学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）シラバスに目を通しておく。（30分） （復習）授業内容やスケジュールなどを再度確認する。（30分） A：少、B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第2回【対面】</p> <p>粘土で本物そっくりお弁当づくり①立体造形について</p> <p>身近なものを造形することを目的に、様々な立体造形や道具の使い方について学びアイデアスケッチを完成させる 準備学習（計1時間） （予習）多様な食品の色、形、質感などを確認しておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第3回【対面】</p> <p>粘土で本物そっくりお弁当づくり②形づくり</p> <p>石粉粘土を用いてお弁当の大まかな形を作る 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。お弁当箱やそれに代わる容器、必要であれば色々な素材・画材を用意しておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり、F：あり</p> <p>第4回【対面】</p> <p>粘土で本物そっくりお弁当づくり③細部の表現</p> <p>ヘラやサンドペーパーなどを用いてお弁当の細部を表現する 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり、F：あり</p> <p>第5回【対面】</p> <p>粘土で本物そっくりお弁当づくり④着彩</p> <p>石粉粘土に絵の具で着彩しニスを塗って完成させる 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり、F：あり</p> <p>第6回【対面】</p> <p>ポップアップ・クリスマスカード①仕掛けについて</p> <p>様々なポップアップ（飛び出す）の仕掛けについて学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）ポップアップカードやグリーティングカードについて調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少 E：あり F：あり</p>

第7回【対面】	<p>ポップアップ・クリスマスカード②アイデアスケッチと試作</p> <p>アイデアスケッチと仕掛けの試作を制作する 準備学習（計1時間） （予習）必要であれば参考資料を用意しておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第8回【対面】	<p>ポップアップ・クリスマスカード③ポップアップの作成</p> <p>試作をもとにポップアップの仕組みを制作する 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第9回【対面】	<p>ポップアップ・クリスマスカード④細部の表現</p> <p>アイデアスケッチをもとに細部を表現し完成させる 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第10回【対面】	<p>壁面装飾・プッシュステンド①壁面装飾とプッシュステンド</p> <p>様々な壁面装飾の事例とプッシュステンドの技法について学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）壁面装飾、ステンドグラスの事例について調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：少 E：あり F：あり</p>
第11回【対面】	<p>壁面装飾・プッシュステンド②アイデアスケッチ</p> <p>展示を意識した作品としてアイデアスケッチを完成させる 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第12回【対面】	<p>壁面装飾・プッシュステンド③制作</p> <p>台紙をカットしセロファンを貼り付けていく 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第13回【対面】	<p>壁面装飾・プッシュステンド④細部の表現</p> <p>前回の作業を継続し、より細部まで表現し完成させる 準備学習（計1時間） （予習）前回は振り返っておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） E：あり F：あり</p>
第14回【対面】	<p>プレゼンテーションボード作成</p> <p>プレゼンテーションボード作成 作成したプレゼンテーションボードを互いに鑑賞する 準備学習（計1時間） （予習）プレゼンテーションボードの作成例について調べておく。（30分） （復習）子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり</p>
第15回【対面】	<p>まとめ</p> <p>プレゼンテーションボードおよび授業について振り返る。 準備学習（計1時間） （予習）これまでの授業を振り返っておく。（30分） （復習）これまでの授業を振り返り、子どもの場合どのような表現ができるか、また子どもへ指導する時の留意事項を考える。（30分） B：中 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	<p>幼児造形について学ぶことは、社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付けることにつながる。また、課題制作を通じた学びは、自分を知り、豊かな感性を育てることと、保育者としての実践的な技能を身につけることにつながる。</p>

到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 幼児期の発達段階における造形表現の事例について理解し、説明できる DP3. 造形の発展的な技法や表現について習得し、説明できる DP4. 幼児の造形について関心意欲を持つことができる 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	課題（作品）（70%） プレゼンテーションボード（期末レポート扱い）（20%） 授業への関心、意欲、態度（10%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において振り返る
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 共にフレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	準備学習の具体的な内容および必要な時間については授業計画に記載。
履修上の注意、条件等	演習授業のため、学生各自の主体的な参加を求める。
オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	全15回の授業はすべて対面での実施となる。 安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見 由香 ※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D104
添付ファイル			
Music 1 Omi CM.pdf			
Music 1,2 Omi Rubric.pdf			

講義概要	<p>子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。</p> <p>ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。</p> <p>グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習を行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。</p> <p>他の科目との関連：本科目の理論は「幼児音楽入門（ピアノ）」と内容が重複する部分もあるが、本科目の方がはやく進む。また、実技は「幼児音楽Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。</p> <p>大見先生の実務経験：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやディタイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回【対面】 グループ授業（1） 音の高さ・春のうた ぶんぶんぶん・ちょうちょ・チューリップ・こいのぼり*（*ピアノは上級向け） 表現活動の中での保育者のピアノの活用法や歌唱活動と子どもの声域について理解する。発声と呼吸についての基礎を学ぶ。音の高さについて学ぶ。 春のうたを歌いピアノ演奏のポイントを学ぶ。 予習・復習：シラバス、Google Classroom の概要を読んでおく。ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり ピアノレッスン（1）姿勢と手の形 グループ授業や日程表で提示された課題曲を教員の前で演奏し、アドバイスを受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第2回【対面】 グループ授業（2）音の長さ・付点のリズム・子どもの生活のうた あくしゅでこんにちは・おかたづけ・おはようのうた* 音の長さ、付点のリズムについて学ぶ。 予習・復習：ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの生活のうたと春のうたを聴いておく。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり ピアノレッスン（2）譜読みと指づかい 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第3回【対面】 グループ授業（3）全音と半音・変化記号・へ長調の音階と調号・打楽器の奏法 きらきらぼし・ハッピーバースデー・おはながわらった*、おべんとう* 打楽器（すず、カスタネット、タンブリン）の奏法を学び、「おはながわらった」などの歌に合わせて演奏する。 全音と半音、変化記号の意味と書き方を学ぶ。へ長調、へ長調の音階と調号について学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。変化記号の意味、使い方、書き方を復習する。ユーチューブプレイリストの春のうたを聴いておく。 宿題：プリント「へ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり</p> <p>第4回【対面】 ピアノレッスン（3）強弱をつける 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第5回【対面】 グループ授業（4）ト長調の音階と調号・拍子記号・子どものうた・外国の子どものうた 前半授業のふりかえりを行い進度の確認をする。 ト長調の調号、音階について学ぶ。拍子と指揮法について学ぶ。 こどもの歌、ふしぎなポケット・おおきな古時計、大きな太鼓、外国の子どものうたを歌う。</p> <p>第6回【対面】</p> <p>第7回【対面】</p>

	<p>強弱記号について学び、打楽器（大太鼓、小太鼓）で演奏する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ト長調の練習」を練習する。ユーチューブブレイリストの子どものうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり ピアノレッスン（4）レガートとノンレガート</p> <p>練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり グループ授業（5）繰り返し記号・表現をつけて歌う</p> <p>表現をつけてうたう：おつかいありさん*、あめふりくまのこ* 6月のうた「かたつむり」などを歌う。繰り返し記号について学ぶ。 予習・復習：グループ発表で歌う曲を準備する。繰り返し記号のプリントを行う。ピアノの課題を練習する。（2時間） A：中 D：中 E：中 F：あり ピアノレッスン（5）メロディと伴奏のバランス</p> <p>練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり グループ授業（6）グループ発表テスト</p> <p>各グループで選んだこどものうたを表現を工夫して演奏する。他グループの演奏の評価をする。 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 E：あり F：あり ピアノレッスン（6）「おはようのうた」</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 F：あり グループ授業（7）夏のうた・ニ長調の音階と調号・3連音符</p> <p>おばけなんてないさ・おもちゃのチャチャチャ・おはようのうた ニ長調の調号、音階について学ぶ。3連音符について学ぶ。ハ長調のカデンツを学ぶ。 グループ発表の準備 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ニ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり ピアノレッスン（7）テスト曲の準備</p> <p>”テストで弾く曲の最終確認。課題曲でまだ合格していない曲を完成させる。 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 E：あり F：あり”</p> <p>期末試験 実技発表テスト マスタークラス形式でテストを行う。お互いの演奏を聞き合い、教員から講評を受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：あり</p> <p>第15回【対面】 幼児音楽Ⅰのまとめ 実技発表テストや課題曲の演奏の振り返りを行い、幼児音楽Ⅱへの課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：中 D：中 F：あり</p>
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園生活のなかで子どものうたがどのように歌われているか説明できる。 2. 子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 3. 子どもたちのために『子どものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 4. 保育現場で子どもが楽しく歌えるように工夫できる。 <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>練習課題の取り組み・進捗 45% 実技発表（期末試験）うたのグループ発表、ピアノの演奏テスト 20% 提出課題 15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験のフィードバックは最終回授業にて行う。
教科書	<p>『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。</p>
参考書	<p>改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示 厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）</p>

	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週2曲以上は合格するよう取り組むこと。 全授業対面を予定しているが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室（時間は研究室に掲示する）。Google Classroomの質問欄にて受け付ける。 ピアノ担当教員：レッスンの前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本真理子、大平美樹、栗村葉子、小椋由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見 由香 ※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D106
添付ファイル			
Music 1,2 Omi Rubric.pdf			
Music 2 Omi CM.pdf			
講義概要	<p>子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。</p> <p>ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。</p> <p>グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ」で習得した技術を向上させ、「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイトムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p>		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】 グループ授業（1）幼児音楽Ⅰの復習・秋のうた 春学期の復習（リズム、くり返し記号）。 秋のうた「まつぼっくり」「山の音楽家」「きのこ」へ長調の調号、主音についての復習。 夏季休暇課題の「ハ長調のカデンツ」のテストを受ける。 予習・復習：シラバスを読んでおく。ピアノの課題を練習する。（2時間） ハ長調のカデンツをマスターしておく。（手元ビデオ参照） A：少 D：少 E：あり F：あり ピアノレッスン（1）「山の音楽家」 夏季休暇中に練習してきた曲のレッスンを受ける。練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第2回【対面】 第3回【対面】 グループ授業（2）臨時記号と調号のルール・秋のうた 臨時記号のルールを学び調号との違いを確認する。 秋のうた「どんぐりころころ」、「やきいもグーチャーバー」、合唱曲を歌う。 ニ長調について「おはようのうた」で調号、ポジションを確認する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。YouTubeプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 F：あり 第4回【対面】 ピアノレッスン（2）「おべんとう」 練習してきた曲のレッスンを受ける。2週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第5回【対面】 グループ授業（3）生活のうた 「おべんとう」「おかえりのうた」 各調の音階とカデンツ、移調について。 合唱曲を歌い、歌詞の意味に沿った表現をつける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり 第6回【対面】 ピアノレッスン（3）「おべんとう」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第7回【対面】 グループ授業（4）コードと転回形の練習・秋のうた 各調のカデンツと転回形のテストを受ける。カデンツをもとに伴奏をつける。 合唱曲をうたい響きや声の重なり合いを楽しむ。 また歌詞の意味を味わう。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。各調のカデンツの練習をマスターする。（2時間） 宿題：今までの取り組み状況と成果を振り返りアンケートに入力し、今後の課題を見出す。 A：少 D：少 F：あり		

	<p>第8回【対面】 ピアノレッスン（４）「おかえりのうた」 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第9回【対面】 グループ授業（５）強弱記号とアーティキュレーション・冬のうた アーティキュレーションについて学ぶ。 冬のうた「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」「お正月」を歌う。 歌のテストの実施方法、評価の観点（ループリック）の説明を受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） 宿題：今まで取り組んだうたを練習し、うたのテスト曲を選んでエントリーする。 A：少 D：少 F：あり</p> <p>第10回【対面】 ピアノレッスン（５）「おかえりのうた」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第11回【対面】 グループ授業（６）復習プリント・冬のうた 冬のうた「まめまき」「うれしいひなまつり」「おもいでアルバム」を歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの冬のうたを聴いておく。（2時間） C：多 D：少 F：あり</p> <p>第12回【対面】 ピアノレッスン（６）テストに向けて 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 ピアノのテスト曲を決め流。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。テスト曲をエントリーする。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回【対面】 グループ授業（７）歌のテスト・まとめと復習 準備してきた曲の中から一曲暗譜で独唱し、その場でフィードバックを受ける。 復習プリントを行う。テスト曲や幼児音楽Ⅱの課題曲を練習し、よりスムーズに演奏できるようにする。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。Google Classroomよりテスト曲のエントリーをする。（2時間） A：少 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回【対面】 ピアノレッスン（７）まとめと復習 ピアノ：テスト曲のレッスンを受ける。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回【対面】 ピアノ発表テストと振り返り ピアノ：子どものうたを1曲を演奏会形式のテストで演奏する。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。期末レポートの説明。 予習・復習：ピアノのテスト曲を練習する。（2時間） 宿題：期末レポートを作成・提出する。（1時間） A：少 D：中 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。また周囲の音に耳を澄ませ、季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 園生活のなかで子どもの歌がどのように歌われているか理解している。 子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 保育現場で子どもが楽しく歌えるように演奏できる。 <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループリックによる評価基準	<p>練習課題の取り組み・進捗 45% 実技発表 授業内に行ううたのグループ発表、ピアノの演奏テスト 20% 提出課題 15% 期末レポート 20% (子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる) 評価基準は添付資料のループリックを参照すること</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末レポートのフィードバックは配信にて行う。
教科書	<p>『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円(税抜) 『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円(税抜) 授業中に適宜プリントを配布する。</p>
参考書	<p>改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円(税抜) 『幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)解説』(フレーベル館、2018年) 『保育所保育指針(平成29年4月告示 厚生労働省)解説』(フレーベル館、2018年) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)解説』(フ</p>

	レーベル館、2018年)
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週2曲以上は合格するよう取り組むこと。全授業対面で行うが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。カデンツのテストはGoogle Classroom内のビデオ資料を活用して期日内に合格すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室（時間は研究室に掲示する）。もしくはGoogle Classroomの質問欄にて受け付ける。 ピアノ担当教員：授業の前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本真理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択
担当教員			
宮本真理子（グループ学習）		※ピアノの個人レッスン担当教員は備考欄参照（※リトミック：栗村葉子）	
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D203
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅲ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽Ⅲ」ループリック.pdf			

講義概要	<p>この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループ学習で『こどものうた』の譜読みに取り組み、ピアノの個人レッスンで完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。（1年次の「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ」の内容を引き続いて学ぶ。）</p> <p>グループ学習の担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。16回の授業の他に特別授業として「リトミック」の授業を行う。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>春季課題の生活のうた3曲（「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」）</p> <p>グループ：（上級・初級）授業の内容と進め方について説明を受ける。 「おかえりのうた」の要点を学び両手で弾く。 ピアノ：（上級・初級）ピアノ担当教員の前で、春季課題の生活のうた3曲を演奏し、アドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 生活のうた3曲を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>	<p>第2回</p> <p>生活のうた</p> <p>グループ：（上級・初級）「おはようのうた」「おべんとう」の要点を学ぶ。 ピアノ：（上級・初級）「おかえりのうた」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 生活のうた3曲を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>	<p>第3回</p> <p>生活のうた・春のうた</p> <p>グループ：（上級・初級）「せんせいとおともだち」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「おはようのうた」「おべんとう」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 生活のうた3曲と「せんせいとおともだち」を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>
	<p>第4回</p> <p>春のうた・子どものうた</p> <p>グループ：（上級・初級）「すてきなパパ」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「せんせいとおともだち」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>		
	<p>第5回</p> <p>子どものうた・生活のうた</p> <p>グループ：（上級・初級）「はをみがきましょう」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「すてきなパパ」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>		
	<p>第6回</p> <p>生活のうた・夏のうた</p> <p>グループ：（上級）「あめふりくまのこ」、（初級）「かたつむり」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「はをみがきましょう」を仕上げる。 実習園からの課題がある場合には、その課題を優先してレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>		
	<p>第7回</p> <p>夏のうた</p> <p>グループ：（上級）「たなばたさま」、（初級）「とんぼのめがね」の譜読みをする。 ピアノ：（上級）「あめふりくまのこ」、（初級）「かたつむり」を仕上げる。 実習園からの課題がある場合には、その課題を優先してレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p>		
	<p>第8回</p> <p>夏のうた・実習課題（子どもたちの前で弾くには・・・）</p> <p>グループ：子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 ピアノ：（上級）「たなばたさま」、（初級）「とんぼのめがね」を仕上げる。 実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中 F:あり</p>		

	<p>第9回 実習課題（子どもたちの前で弾くには・・・） グループ：子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中 F:あり</p> <p>第10回 実習課題・子どものうた・行進曲 グループ：（上級）「ミッキーマウスマーチ」と「シューベルトの子守歌」、（初級）「みつばちのマーチ」の譜読みをする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中 F:あり</p> <p>第11回 教育実習の振り返り・行進曲・ペダル奏法 グループ：教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 （上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）「ミッキーマウスマーチ」、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A:中 E:あり F:あり</p> <p>第12回 行進曲・ペダル奏法 グループ：（上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）「ミッキーマウスマーチ」、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A:中 F:あり</p> <p>第13回 行進曲・トーンチャイム グループ：（上級・初級）トーンチャイムの演奏を楽しむ。 ピアノ：（上級）「ミッキーマウスマーチ」、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題（行進曲）を中心に練習する。（毎日1時間） A:中 F:あり</p> <p>第14回 行進曲・ピアノの練習方法について グループ：保育者として今後どのようにピアノを練習すべきか、また効果的な練習方法などについて学ぶ。 ピアノ：（上級）「ミッキーマウスマーチ」、（初級）「みつばちのマーチ」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題（行進曲）を練習する。（毎日1時間） A:中 F:あり</p> <p>第15回 実技発表 グループ：なし ピアノ：実技発表として、（上級）「ミッキーマウスマーチ」、（初級）「みつばちのマーチ」を演奏する。 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。 D:多 E:あり</p> <p>第16回 期末レポート課題 この科目で学んだ成果や今後の課題についてまとめて提出する。 E:あり</p>
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. (DP3)子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。</p> <p>2. (DP5)心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。</p> <p>3. (DP3)保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>ピアノの個人レッスンの課題に対する取り組みと進度を評価する。 50%</p> <p>実技発表と期末レポート課題を評価する。 20%</p> <p>グループ学習での取り組みを評価する。 30%</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実技発表後に個人レッスンの担当教員よりアドバイスを受け、期末レポート課題により更に振り返りを行う。
教科書	<p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2021 1,500円(税抜)</p> <p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2022 1,500円(税抜)</p>
参考書	適宜プリントを配付する。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分～45分、実習前と実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	保育士選択となっているが、実習に向けた内容や実習園からの課題を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は、研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	※ピアノの個人レッスン担当教員：大見由香, 大平美樹, 栗村葉子, 小梶由理, 原嶋唯, 藤澤桐子, 矢浪桂子 ・全16回を対面授業で行う。 ・その他に特別授業としてリトミックの授業を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士選択
担当教員			
グループレッスン（ピアノ）： 宮本眞理子・大見由香 グループ学習（トーンチャイム）： 宮本眞理子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D207
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅳ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽Ⅳ」ループリック.pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループレッスンで、『こどものうた』の譜読みに取り組み完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。 主担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	トーンチャイム（1） グループ：楽器について、演奏方法について学ぶ。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第2回	秋のうた ピアノ：（上級・初級）「どんぐりころころ」の譜読みをし、仕上げる。 （上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」の譜読みをする。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第3回	トーンチャイム（2） グループ：正確な譜読みを心がける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第4回	秋のうた・子どものうた ピアノ：（上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」を仕上げる。 （上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましよう」の譜読みをする。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第5回	トーンチャイム（3） グループ：部分練習をする。美しい音を出す振り方を学ぶ。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第6回	秋のうた・子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましよう」を仕上げる。 （上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」の譜読みをする。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第7回	トーンチャイム（4） グループ：部分練習を重ね、曲が出来上がる喜びを知る。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第8回	子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」を仕上げる。 （上級）「にじ」、（初級）「思い出のアルバム」の譜読みをする。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第9回	トーンチャイム（5） グループ：全曲通し練習をする。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり
第10回	トーンチャイム（6） グループ：幼稚園の誕生会のリハーサルをする。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり

	<p>第11回 トーンチャイム（7） グループ：幼稚園の誕生会で演奏する。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり</p> <p>第12回 子どものうた・冬のうた・実技発表の曲 ピアノ：（上級）「にじ」、（初級）「思い出のアルバム」を仕上げる。 （上級）「うれしいひなまつり」の譜読みをする。（上級・初級）実技発表の曲を練習する。</p> <p>予習・復習 実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多 F:あり</p> <p>第13回 冬のうた・実技発表の曲 ピアノ：（上級）「うれしいひなまつり」を仕上げる。 （上級・初級）実技発表の曲を練習する。</p> <p>予習・復習 実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多 F:あり</p> <p>第14回 実技発表の曲 ピアノ：（上級・初級）実技発表の曲を仕上げる。</p> <p>予習・復習 実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多 F:あり</p> <p>第15回 実技発表 グループ：なし ピアノ：（上級・初級）実技発表として、「こどものうた2曲（課題曲1・自由曲1）を演奏する。 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>第16回 A:多 D:多 E:あり 期末レポート課題 この科目で学んだ成果や今後の課題についてまとめて提出する。 E:あり</p>
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. (DP3)子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。</p> <p>2. (DP5)心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。</p> <p>3. (DP3)保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>ピアノのグループレッスンの課題に対する取り組みを評価する。 50%</p> <p>実技発表と期末レポート課題を評価する。 20%</p> <p>グループ学習での取り組みを評価する。 30%</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実技発表後に個人レッスンの担当教員よりアドバイスを受け、期末レポート課題により更に振り返りを行う。
教科書	<p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2021 1,500円(税抜)</p> <p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2022 1,500円(税抜)</p>
参考書	適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分、実技発表前は1時間）練習すること。レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	幼免選択・保育士選択となっているが、秋・冬の『こどものうた』を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	全16回を対面授業で行う。

講義科目名称： 英語コミュニケーション I (国際コース)

授業コード：

英文科目名称： English Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English Communication I.pdf			

講義概要	<p>As students of the Global Early Childhood Education course, you will have several chances to study abroad. For your first general English course, we will focus on basic English needed to live comfortably in an English-speaking country.</p> <p>We will learn basic phrases that are useful for many situations, while learning the vocabulary to deal with certain situations from talking about rules to shopping.</p> <p>Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	Class 1	<p>Introducing Yourself</p> <ul style="list-style-type: none"> -Talk about your university and major -Talk about your club -Talk about your free-time activities <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 2	<p>A Geography Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> -Talk about geographical location -Talk about climate -Explain your travel schedule <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 3	<p>Arriving</p> <ul style="list-style-type: none"> -Talk about travel experiences -Fill out arrival cards -Understand instructions and advice <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 4	<p>People</p> <ul style="list-style-type: none"> -Introduce people -Talk about jobs and personality -Talk about present activities <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 5	<p>House Rules</p> <ul style="list-style-type: none"> -Describe the location of things -Understand house rules -Understand how to use your room <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 6	<p>Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> -Explain using "If" sentences -Talk about your schedule -Ask about meaning <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 7	<p>First Lesson Day</p> <ul style="list-style-type: none"> -Talk about self-study activities -Understand directions -Talk about location <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 8	<p>Activities and Trips</p> <ul style="list-style-type: none"> -Say what you want to do -Express necessity 	

	<p>-Express obligation</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 9 Housework</p> <p>-Make requests -Ask permission -Offer to help</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 10 Food and Drink</p> <p>-Describe food and drink -Ask for and offer food -Give your impression of food</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 11 Money and Shopping</p> <p>-Shop for clothes -Compare shopping items -Talk about size</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 12 Safety on Campus</p> <p>-Talk about an incident -Give details about an incident -Describe lost property</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 13 Talking about Your Hometown</p> <p>-Talk about your hometown -Explain what you can do there -Talk about places of interest</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 14 Information</p> <p>-Understand notices and messages -Explain the content of notices and messages -React to notices and messages</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 15 Farewell</p> <p>-Say Goodbye -Thank people -Talk about future hopes and plans</p> <p>A:多い B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 16 Final Exams Final Exam</p>
教育目標との関連	Student will learn the basic English skills needed to study abroad.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad.</p> <p>4. Students will acquire a greater understanding of cultural differences.</p> <p>2. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>40% Final Exam</p> <p>30% Vocabulary Quizzes</p> <p>20% Homework</p> <p>10% Participation</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	The final exam will be returned via Google classroom. All questions will be accepted by email.
教科書	Ready for Takeoff!! English for Study Abroad Alan Jackson 内田ひろ子 著 金星堂 出版
参考書	
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will post office hours on her office door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ（国際コース）

授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English Communication II.pdf			

講義概要	<p>In English Communication I, you learned the basic English skills you will need to live abroad. In this course, you will gain the basic English skills required to talk about Japan and Japanese culture. Many foreigners are interested in Japan and Japanese culture, so it is good to be prepared.</p> <p>Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	Class 1	<p>Greetings and Manners</p> <ul style="list-style-type: none"> - Common greetings in Japan - General manners - Omotenashi - Grammar: Basic sentence structures <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 2	<p>Seasonal Events in Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> -National holidays in Japan -Seasons in Japan -Traditional holidays -Grammar: Sentence types <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 3	<p>Popular School Events</p> <ul style="list-style-type: none"> -School life in Japan -School subjects -Sports festival -Grammar: Tenses <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 4	<p>Eating in Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> -Japanese Dietary Habits -Popular Japanese food -Foreign food in Japan -Grammar: Modals <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 5	<p>Sightseeing</p> <ul style="list-style-type: none"> -Popular Japanese tourist sights -Traveling in Japan -Popular Japanese traditional experiences -Grammar: Nouns/Articles/Plural <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 6	<p>Ancient Agriculture</p> <ul style="list-style-type: none"> -History of Farming in Japan -Rural life in Japan -Grammar: Infinitive and Gerund <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 7	<p>Politics</p> <ul style="list-style-type: none"> -Japanese government -Laws in Japan -Grammar: Active voice/ Passive voice <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p>	
	Class 8	<p>Economy</p>	

	<p>-Sales tax/Income tax -Part-time jobs -Grammar: Conjunctions</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 9 Sports -Popular sports in Japan -Japanese athletes -Grammar: Conjunctions</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 10 Changes in Japanese Sports -History of sports in Japan -Traditional sports in Japan -History of sumo -Grammar: Comparative</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 11 Favorite Places to Visit -Popular areas to visit in Japan -Traveling in Japan -The bullet train -Grammar: Superlative</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 12 Japanese Cooking -Tradition Japanese ingredients -Popular homemade dishes -Umami -Grammar: relative pronouns</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 13 Japanized Foreign Culture -Foreign food in Japan -Foreign holidays and festivals in Japan -Grammar: Relative adverbs</p> <p>A:多 B:少 E:あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>Class 14 Final Exams Final Exams</p> <p>Class 15 Review -Final Exam return -Review of the course</p>
教育目標との関連	Students will gain the ability to talk about and explain Japanese culture.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will acquire the English skills needed to talk about and explain different aspects of Japanese culture.</p> <p>4. Students will acquire a greater understanding of cultural differences.</p> <p>2. Students will be gain a new understanding and appreciation of Japanese culture.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Final Exam: 40%</p> <p>Vocabulary quizzes: 20%</p> <p>Writing assignments: 20%</p> <p>Homework: 20%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	
教科書	「Real-Time Japan in Basic English」 JACET 編 朝日出版社 出版
参考書	
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.

備考・メッセージ

This class will be conducted in person.

講義科目名称： 教育実習指導

授業コード：

英文科目名称： Instruction for Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	幼免必修
担当教員			
石見容子、安田真紀子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G202
添付ファイル			
23ルーブリック(教育実習指導.pdf)			

講義概要	<p>教育実習に向け、これまで学んできた理論や技術を教育実習でどのようにいかしていくか具体的に考え、自己課題を設定する。実習生として有るべき姿、実習に臨む姿勢について考え、準備を整える。また、教材研究の時間を十分に取、保育を計画することの重要性に気づき、実践力につなげていく。</p> <p>他科目との関連：保育実習指導Ⅰ（保）で、保育実習に向けた事前事後指導において学んだ心構えや、実践的な保育技能の修得の上に、さらに幼稚園教諭として望ましい教師像を形成できるようにする。担当教員（石見）は、国内外の幼稚園において、10年以上の実務経験がある。幼児理解に基づいた環境の大切さや、子どもを主体とすることの重要性について、演習や討論を通してともに学びを深めていく。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>オリエンテーション 「教育実習指導」の授業内容について 教育実習の概要と、学内で定めた実習の履修基準について理解する。 幼稚園教諭の多様な役割について理解する。 課題：保育者に求められる資質についてレポート作成 復習：シラバスと手引きを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（約1時間） B：少 F：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>保育実習と教育実習の違い 保育実習と比較し、教育実習の内容を理解する。実習に向けての目的意識をもつ。また実習生としての責任と役割を自覚する。幼稚園教諭に求められる知識と態度について考え、現在の自分と比較することによって教育実習前の自己課題を明確化する。 課題：授業内で視聴するDVDについてレポート作成 予習：手引き内、保育実習と教育実習のページを読み、違いについて書き出す（約1時間） 復習：本日のノートで大切な箇所に下線を引く。授業内で視聴したワークに取り組む（約1時間） B：少 F：あり</p>	
	第3回	<p>記録すること、計画することの意義 指導力、技術力の大切さについて、自身の力を振り返り、次の課題を考えるきっかけとする。また、幼児理解を基に記録をとることの大切さを確認する。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：保育実習の日記で大変だったこと、困ったこと、工夫したことを挙げておく（約1時間） 復習：教科書内、日記の書き方のページと指導計画の立て方のページを読む（約1時間） B：少 F：あり</p>	
	第4回	<p>記録の書き方のポイント 日記についての書き方を確認し、これからの自身の課題について考えるきっかけとする。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：教科書の日記の書き方について読み、わからないところにチェックしておく（約1時間） 復習：本日のワークに取り組む、大切と思う箇所に下線を引く（約1時間） B：少 F：あり</p>	
	第5回	<p>実習に向けて、自己課題の設定 個人票の作成を主な活動とする。 その中で、各々の実習に向けての目的や目標を明確にし、達成のための具体的手立てを考える。 課題：授業内で仲間の意見を聞きながら各自の目標を考える。 予習：教科書を読み、前回の保育所実習を思い出しながら次の実習について期待を持つ（1時間） 復習：教育実習前の自己課題について考える。（約1時間） D：多 F：あり</p>	
	第6回	<p>日記の書き方①-1 日記の書き方を再確認し、実際に動画を視聴しながら日記にまとめてみる 課題：DVDを視聴し、ワークに取り組む 「実習の課題」を作成する。 予習：日記の書き方のページを読み、不安な点や、保育所実習でうまくできなかった場面を記しをしておく（1時間）</p>	
	第7回	<p>復習：ワークに取り組む（約1時間） D：多 F：あり 日記の書き方①-2 日記の書き方を修得し、実際に動画を視聴しながら日記にまとめる練習をする。 課題：授業内ワークに取り組む 予習：教科書の日記のページを読み、書き方の確認をする（1時間） 復習：ワークに取り組む（約1時間） B：少</p>	
	第8回	<p>日記の書き方②-1 違った形での日記の書き方（エピソード記述式）について理解する 課題：日記の書き方ワークに取り組む 予習：教科書のエピソード記述のページを読み、わかりづらい箇所に記しをする（1時間） 復習：本日のワークに取り組む（1時間） B：少 F：あり</p>	
	第9回	<p>日記の書き方②-2</p>	

	<p>エピソード記述式の日誌について理解を深める 予習：前回のプリントを見直す（1時間） 復習：ワークに取り組む（1時間） A：多 F：あり</p> <p>第10回 学内オリエンテーション グループごとに教育実習をイメージし、実習に向けての目標を確認する 予習：手引きの教育実習について書かれたページを読む（1時間） 復習：実際の実習に向けて、目標と、自身の成長のための具体的手立てをまとめる（約1時間） A：多 F：あり</p> <p>第11回 指導計画の立て方 指導計画の立て方、書き方を確認する 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：ねらいと内容についての書き方を確認する（1時間） A：多 F：あり</p> <p>第12回 幼児理解と指導計画の関連について 実際の保育の様子を一部見て、指導案におこす 課題：自分なりに考えた保育者の配慮などを書き込み、指導案を完成させる 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：指導案の作成。（1時間） A：多 F：あり</p> <p>第13回 模擬保育 前回に書いた指導案を、仲間と相互添削し、新たな学びを得る 予習：指導案のページを読み、書き方やポイントを確認する（1時間） 復習：仲間からももらったコメントを読み返し、次の課題について考える（1時間） B：多</p> <p>第14回 直前オリエンテーション 今までの学びの確認を行う 予習：今までの授業で使用した資料（教科書やプリント）を見直す（2時間） 復習：実習に向けて、必要なものを整理し、支度を整える（1時間） B：少 H：少ない E：多</p> <p>第15回 実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える 実習を通した気づきや学びについてのプレゼンテーションを行う。 幼稚園教諭として必要な知識と態度を身につけるために、教育実習の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 予習：実習に行くことを想定した服装など準備する（1時間） 復習：1回目～14回目までの授業ノートを読み返し、振り返る（1時間） D：多</p>
教育目標との関連	<p>保育者として、理論に基づいた確かな知識を身につける。実技指導は、授業内で学んだものを模擬保育などの実践を通して保育技術修得を目指す。 また実習生としての立場を理解し謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な教養を身に付ける。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3. これまでに獲得した保育の知識と技術を適切に活用することができる。 4. 実習の目的・意義を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身に付け、他者と協調することができる。</p>
評価方法および評価基準	<p>期末レポート 20% 提出課題 40% 指導案や授業内における課題等の理解度で評価する。 受講態度 40% 実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>各実習後、実習訪問指導担当教員と個別に面談を行う</p>
教科書	<p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円 『自分を生かす実習ハンドブック』関口はつ江監修 大学図書出版 2000円</p>
参考書	<p>『幼稚園教育要領』</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各回、予習復習は上記の通り。</p>
履修上の注意、条件等	<p>教育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。</p>
オフィスアワー	<p>限定コメント及び対面授業の際に受け付ける。</p>
備考・メッセージ	<p>原則、対面授業で実施する。なお、諸般の状況を鑑み、遠隔授業になる場合もある。授業内容は、学生の理解度などにより、変更の可能性はある。</p>

講義科目名称： 教育実習

授業コード：

英文科目名称： Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	4単位	幼免必修
担当教員			
石見容子、安田真紀子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G201
添付ファイル			
教育実習ループブック.pdf			

講義概要	各幼稚園での指導を受ける。保育観察・保育参加・責任実習などを通して、幼児理解をはじめ、記録や計画の大切さに気付く。実際の保育を経験することにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた各々実習課題を追究する。幼稚園では子どもの命を預かり、かけがえない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢をもち、体調に留意しながら実習に臨む。授業担当者(石見)は、国内外の幼稚園における実務経験、並びに現場においての実習指導経験を有する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	幼稚園の機能と役割 1. 実習園の概要を知る 2. 幼稚園の1日の流れを把握する 3. 保育室の環境構成について理解する 4. 園と家庭・地域・小学校との連携の意義と方法について理解する 幼児理解と援助方法 1. 幼児の遊びに参加し、こどもの実態について理解する 2. 遊びや生活における発達段階の違いを理解する 3. 配属クラスの特徴及び個々のこどもの特徴について理解する 4. 保育における保育者の援助の在り方を理解する 5. 特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方について理解をする 保育計画の作成・実践・記録・評価 1. 実習記録の取り方、省察について学ぶ 2. 月案・週案を参考に、こどもの実態に応じた指導計画を作成する 3. 指導計画の立案、保育実践、評価、改善を通してカリキュラムマネジメントについて理解する。 幼稚園教諭の役割と職業倫理 1. 幼稚園教諭の職務内容を理解する 2. 教員間の役割分担や連携について理解する 3. 幼稚園教諭の職業倫理を学ぶ ※以上の内容について、3週間の実習を行う。教員が巡回指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	幼稚園での実習を通して、幼児と愛情を持って接するなかで、幼児の心身の発達についての具体的な知識と確かな保育技術を修得する。また、保育現場に自ら身を置くことにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験は、保育者としての使命感や倫理観を養うとともに、保育者への適性を見直すこととなり、自己理解を深めることに繋がる。
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 実習園の特色及び、幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 幼児理解に基づいた保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3. これまでに獲得した保育の知識と技能を保育現場において適切に活用することができる。 4. 幼稚園教諭の職務や専門性を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5. 幼稚園において教職員と協働し、深い愛情をもって子どもたちに接することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループブックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価 40% 実習日誌など 60% 授業内でループブックを示し評価方法を解説する。 ※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィード	実習後、実習訪問指導担当教員と個別に面談を行う

バック方法	
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	教育実習指導の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、合わせて教育実習指導を履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、教育実習指導も修得できない。
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。また、実習中の質問は実習センターでメールまたは電話にて受け付ける。
備考・メッセージ	より良い教育実習を実施できるよう、自ら努力する姿勢が求められます。主体的、積極的な態度で実習に臨みましょう。

講義科目名称： 保育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
恵良 紗希子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A105
添付ファイル			
ルーブリック 保育原理.pdf			
カリキュラムマップ 保育原理.pdf			

講義概要	前半では、保育の意義・目的や制度および保育の思想や歴史の変遷を学ぶことによって保育について広く捉えていくことを目指す。続いて、保育の内容や方法について「養護と教育」「保育の環境」「子ども理解」を中心に、主に保育所保育指針に拠りながら理解していく。終盤では、保育者としての専門性に関する理解を深め、現代の保育や子どもをめぐる状況を多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力を養うことをめざす。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	保育者の資格と保育の法令・制度【対面】 保育者の資格と、保育所・幼稚園・認定こども園に関する法令や制度を理解する。 予習：シラバスとテキスト第1章第1節、第5章を読む。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第2回	保育の理念・目的と社会的意義【配信】 保育は理念や目的・目標等について、理解する。特に現代における保育の社会的意義について考える。 予習：テキスト第1章第2・3節を読み、概要を理解する。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、自身の考えを深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第3回	海外の保育思想：ルソーとフレーベル【配信】 ルソーとフレーベルについて、子ども観と保育方法を中心に学ぶ 予習：テキスト第3章第1節を読み、概要を理解する。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ、理解を深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第4回	海外の保育思想：オーベルランとオーエン【対面】 オーベルランとオーエンについて、フレーベルと比較しながら、その思想や実践の特徴を学ぶ。 予習：テキスト第3章第2節を読み、概要を理解する。(約30分) 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ理解を深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第5回	日本の保育の歴史【配信】 明治期に、幼稚園や託児所が誕生した背景や特徴を知る。また、二葉保育園など歴史的功績を残した保育施設やそこでの実践について学ぶ。 予習：テキスト第4章を読み、重要事項を整理する。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。(約1.5時間) B:少 E:あり	
	第6回	日本の保育思想：倉橋惣三と城戸幡太郎【配信】 倉橋惣三と城戸幡太郎について、比較をしながらそれぞれの思想や実践を学ぶ。 予習：テキスト第3章を読み、重要事項を整理する。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第7回	保育所保育指針にみる保育の基本【対面】 保育所保育指針に則り、保育所保育の基本事項を学ぶ。 予習：保育所保育指針を読み、理解している箇所と理解していない箇所を明確にする。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、新たに学んだ事項を中心に、理解を深め定着させる。(約1時間) E:あり	
	第8回	保育所保育の基本：養護と教育【配信】 養護と教育を一体に行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第6章を読む。(約0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。(約1時間) B:中 D:少 E:あり	
	第9回	保育所保育の基本：環境を通して行う保育【配信】 環境を通して行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第7章第1節を読む。自身の経験と結びつけながら理解する。(約0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。(約1時間) B:中 D:少 E:あり	
	第10回	保育者の役割と専門性：子ども理解と援助【対面】 保育者の子ども理解や援助について、保育者の実践事例をもとに考え、理解を深める。 予習：テキスト第2章を読む。特に第1節を丁寧に読み、要点を捉える。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、これまでの自身の実践も振り返りながら理解を深める。(約1時間) B:少 E:あり	
	第11回	保育者の役割と専門性7：保育者のチームワーク【配信】	

	<p>保育者のチームワークについて、保育所で実際に起った事故の事例をもとに考える。 予習：テキスト第9章を読む。(約0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、考えを深める。(約1時間) B：中 E：あり</p> <p>第12回 現代の子どもと保育をめぐる問題：資料収集とレポート作成【配信】 現代の子どもと保育をめぐる問題について学ぶ。さらに、各自で特に関心のあるテーマを決め、情報を収集し、レポートを作成する。 予習：テキスト第12章を読み、関心のあるテーマについて考える。(約1時間) 復習：レポートを仕上げる。(約2時間) B：小 E：あり F：あり</p> <p>第13回 現代の子どもと保育をめぐる問題：発表とディスカッション①【対面】 各自が作成したレポートをグループ内で発表し、意見交換をする。 予習：レポートを見直し、発表の準備をする。(約2時間) 復習：自身と他者の発表を振り返り、内容に対する理解を深める。(約1時間) B：中 D：多 E：あり</p> <p>第14回 現代の子どもと保育をめぐる問題：発表とディスカッション②【対面】 各自が作成したレポートをグループ内で発表し、意見交換をする。 予習：試験に向けて、これまでの学習内容を定着させる。(約2時間) 復習：自身と他者の発表を振り返り、内容に対する理解を深める。(約1時間) B：中 D：多 E：あり</p> <p>第15回 本科目のまとめ【対面】 期末試験のフィードバック これまでの学習を振り返り、成果を確認するとともに、今後の自己課題を明確にする。 予習：第1回から第14回までの学習を確認する。(約1時間) 復習：これまでの授業内容を振り返り、学びの定着を高める。(約1時間) E：あり</p>
教育目標との関連	保育についての知識や保育者の専門性について理解を深めるとともに、保育者をめざす自己を見つめることを目標とする。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1：保育の意義・制度・思想・歴史等について理解している。</p> <p>DP2：保育の基本に基づき、保育者としてふさわしい考え方を身に付けている。</p> <p>DP4：子どもや保育について広く関心をもち、向上心や課題意識を持って取り組むことができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>1. 課題等の提出物…50% 試験…50%</p> <p>2. 添付の評価基準を参照のこと</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『保育原理 はじめて保育の扉をひらくあなたへ 第2版』咲間まり子監修 中野明子・林悠子編 みらい 2019年 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育者論

授業コード：

英文科目名称： General Theory of Early Childhood Caregivers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：対面	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A201
添付ファイル			
コピー2020ルーブリック保育者論 (1). pdf			
2020カリキュラムマップ 保育者論 .xlsx			

講義概要	<p>「保育者論」は、保育者としての意義、役割及び専門職としての資質について学ぶ。多種多様な時代を生き抜いていく子どもたちが最初に経験する社会生活に関わる中で、保育者の重要性を考え、求められる保育者像を明確にする。保育職を目指すものとして、自己の振り返り、自身に必要となる専門的な学びを深める。他の科目との関連：「保育原理」で学ぶ保育に必要な基礎的事項や、保育全般の理念など、保育者としての角度から学ぶ。</p> <p>「保育実習Ⅰ」「教育実習」での経験をもとに、保育現場での実践から、保育者の資質能力について学びを深める。</p> <p>講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から、子供の成長に合わせた保育の事例を基に、保育現場での実践につながる内容を授業に取り入れている。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 保育者とは 保育者とはどのような人のことをいうのか。保育者の仕事の本質・特性について考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業の内容を確認する。 予習：教科書P3～12 (30分) 教科書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分)</p> <p>第2回 保育者になるために 幼稚園教諭免許、保育士資格について学ぶ。また、保育者に求められる心構えやサービスについて考えを深める。予習：教科書P23～28(30分) 教科書ワークあり 30分 復習：授業内容に合わせて教科書の内容をまとめる(30分) F：あり</p> <p>第3回 幼稚園について 幼稚園について実習経験を基に具体的に学ぶ。また、幼児の集団生活の中での保育者の指導方法について考えを深める。予習：教科書P37～40 (30分) 書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F：あり</p> <p>第4回 保育園について 保育士の仕事について、教科書を通して具体的に学ぶ。また、保育実習Ⅰの経験から、保育士の姿、子どものかかわり方をまとめ、各自の課題を明確にする。予習：教科書P72～74 書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F：あり</p> <p>第5回 子どもの内面や発達を理解する保育者① 子どもの発達について考えを深める。教科書の事例から子どもの姿と保育者のかかわり方を読み取り、子どもの発達を支える重要性を学ぶ。予習：教科書P77～85を読む (30分) 書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる (30分) F：あり</p> <p>第6回 子どもの内面や発達を理解する保育者② 視聴覚教材による、入園間もない幼児の姿から、保育者の関わり方を学ぶ。特に内面の様子を読み取り、グループディスカッションを行う。 A・Bあり 予習：5回目の講義内容をまとめる 書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) 復習：グループワークでの意見を基に、自分の考えをまとめる</p> <p>第7回 個と集団を活かす保育者 個と集団の違いやとらえ方を、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育要領などからまとめる。保育者のかかわり方で集団での個の成長発達につながる重要性を学ぶ。予習：教科書P113～121 (30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F：あり</p> <p>第8回 遊びを援助する保育者 子どもにとっての「あそび」とは、子どもの興味関心を捉え、次への姿を予測する保育の効果を学ぶ。予習：教科書P95～100 復習：授業内容をノートにまとめておく(30分) F：あり</p> <p>第9回 家庭や地域と連携・支援する保育者 家庭や地域との連携、園とのかかわり方を学ぶ。特に現代における子育て支援の必要性について、社会資源としての園の在り方について考える。予習：教科書P133～138 復習：授業内容をノートにまとめておく(30分) 教科書ワークあり(30分)</p>

	<p>第10回 多様な子どもの理解と支援する保育者 現代社会における子どもの問題や社会的課題により生じる子どもの多様性について学ぶ。そのうえで、保育現場での対応、保育士のかかわり方を理解する。また、オランダ・フランスなど海外での保育事情に触れ、保育に対する考え方を学ぶ。予習：多様な子どもについてその事例をノートに書き出しておく。(30分) 復習：受儀容内容のノートをまとめておく(30分) F：あり</p> <p>第11回 保育の中の安全と危機管理 DVD『東日本大震災の検証』を視聴し、保育現場での災害対策、避難訓練の重要性を学ぶ。また、日頃の保育の中での危険を検討し、より安全は保育とは何かについて理解を深める。 Bあり 予習：保育現場で想定される危険について考える(30分) 教科書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) 復習：講義内容から学んだ危機管理についてまとめる(1時間)</p> <p>第12回 教材研究 遊び体験 恩物で遊ぶ① フレーベ考案の教育玩具 恩物について学ぶ。第5恩物～第9恩物を実際に使って遊びを体験する。 予習：フレーベルについて今までに学んだ事をまとめる(30分) 復習：講義内容から恩物の重要性についてまとめる(30分)</p> <p>第13回 教材研究 遊び体験 恩物で遊ぶ② グループワークによる遊び体験。第5恩物から第9恩物の中から1種類をグループで使い、作品を作る。個人の発想を合わせて1つの物を作る楽しさを体験する。他のグループの作品を見ることで、恩物の種類による遊びの発展を学ぶ。 A・Bあり 書ワークあり 30分 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) 予習：恩物の重要性を理解し、現代の玩具とのつながりを考える 復習：作品づくりに関して工夫したところ、課題となった事をまとめる</p> <p>第14回 成長する保育者と同僚性と専門性 保育現場でのチームワークの重要性を学ぶ。保育の中の協同性、協調性について考えを深める。さらに保育の専門性のP209～216向上の重要性について学びを深める。 F：あり 予習：教科書P193～201を読む 30分 教科書ワークあり (30分) 復習：授業内容のノートをまとめる(30分) F：あり</p> <p>第15回 振り返り 試験の振り返りをし、14回の授業をまとめる。 予習 試験について自己評価をしておく(1時間)</p>
教育目標との関連	保育者の職務の意義や内容について知識を深く理解し、保育者としての基本を身につける。また、保育者の職務の意義や内容について自身が考察し、保育者としての適切な判断ができることが重要と考える。そのうえで保育現場で必要となる環境構成や、子どもの遊びを支える技術を実践に身につける学びを深め、実践力へとつなげる。さらに保育に関わる視聴覚資料や参考資料により、子どもの育ちに興味関心を持ち保育者に対する意欲を高める。保育者論の学びを通して、保育者としての責任感を持ち、自覚しながら行動することは保育現場でも求められる。
到達目標 (学修成果)	1. 保育者としての本質を理解し、保育の専門性を深める知識を身につける 2. 保育内容の向上を目指し、保育現場での実践につながる方法を理解する
1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	
評価方法および評価基準	割合 評価基準 筆記試験 70% 14回目終了後に筆記試験を実施 課題 20% 各授業毎に出された課題の提出期限と内容を評価する。 授業態度 10% 毎回の授業態度 授業中の約束の厳守などを評価する。
1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の講義内で、試験問題を基に解答を確認し、自己の学びの結果を振り返る。
教科書	アクティバート保育学02 『保育者論』 大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸 [編著] ミネルヴァ書房 2019年4月30日出版 定価2000円(税別)
参考書	保育所保育指針 厚生労働省 編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価320円(税別) 幼稚園教育要領 文部科学省編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価240円(税別) 認定こども園保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省編 フレーベル館 2018年3月29日発行 定価350円(税別)
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	教科書の指定ページをよく読み予習をすること。 毎回の授業記録をノートにまとめ、授業内容を復習する。
履修上の注意、条件等	保育者を目指す学生としての自覚を持ち、授業に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に質疑応答の時間を設ける
備考・メッセージ	全て対面授業とする

講義科目名称： 社会福祉

授業コード：

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森脇 晋			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A101
添付ファイル			
社会福祉_カリキュラムMap&ループリック.pdf			

講義概要	<p>本科目は、社会福祉系科目の入り口であり、後続する社会福祉系科目を学修し、実習や就職後に活用できるようにするために、社会福祉系科目の共通概念を捉えることが極めて重要といえる。一方、社会福祉課題は常に変化し、制度・実施体制を理解・活用することは子どもの成長に対して日々直接的に関わっている保育者にとっては苦手分野であることが多い。こうしたことを鑑みて、本科目では社会福祉の普遍的な概念を意識し、「子どもの最善の利益」を追求する社会福祉の専門職の在り方の全体像を把握できることを志向する。</p> <p>【他科目との関連】「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」、「子ども家庭支援論」等の科目を学修する上での基本的な概念を学ぶ。 【実務経験】母子生活支援施設の施設長、全国母子生活支援施設協議会の総務委員長、高齢・障害者在宅ケア施設の評議員等の経験等で培った実践知を元に、社会福祉の概念を教授する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 社会福祉を学ぶにあたってのガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会福祉」の授業を円滑に受講できるようにする。 ・現代社会の動向および社会福祉の理念と概念について学ぶ。 <p>予習：教科書P10～24を読んで、社会福祉の学習領域を捉える。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第2回 妊娠期～幼児期に関する福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期～幼児期における福祉について理解する。 ・特別養子縁組に関する動画を視聴して、養子縁組の思いを知る。 <p>予習：教科書P26～46を読んで、妊娠期～幼児期における福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第3回 子どもの人権に関する福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権に関する福祉について理解する。 ・児童虐待に関する動画を視聴して、子どもの人権擁護を考える。 <p>予習：教科書P48～86を読んで、子どもの人権擁護に関する福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第4回 社会保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障・年金制度・医療保険の仕組みについて理解する。 ・社会保障に関する動画を視聴して、社会保障の将来を考える。 <p>予習：教科書P88～100を読んで、社会保障を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第5回 障害児・者福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者に対する福祉を理解する。 ・障害児に関する動画を視聴して、社会保障の将来を考える。 <p>予習：教科書P102～125を読んで、障害児・者福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第6回 女性への福祉的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性への福祉的支援を理解する。 ・DVに関する事例検討を通して、母子福祉を考える。 <p>予習：教科書P126～132を読んで、障害児・者福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第7回 第1～6回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～6回を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 <p>予習：第1～6回の授業を振り返っておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第8回 低所得者の福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低所得者に対する福祉を理解する。 ・生活保護にかかる福祉を理解する。 <p>予習：教科書P176～198を読んで、低所得者の福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第9回 高齢者福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する福祉を理解する。 ・高齢者施設に関する動画を視聴して、高齢者福祉を考える。 <p>予習：教科書P200～217を読んで、高齢者福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>

	<p>第10回 地域福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の概要・機関・団体に関して理解する。 ・保育者による地域福祉活動に関して理解する。 <p>予習：教科書P134～152を読んで、地域福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第11回 ソーシャルワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの概要・体系を理解する。 ・相談援助におけるバーステックの7原則・ソーシャルワークの実践モデルと視点について学び、理解する。 <p>予習：教科書P154～171を読んで、ソーシャルワークを知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第12回 福祉サービスの利用支援と権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉における利用者支援について学び、理解する。 ・利用者の権利擁護・苦情解決・第三者評価・成年後見制度等について理解する。 <p>予習：第11回の授業後に配信する資料を閲覧しておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第13回 地域福祉の動向と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の動向について理解する。 ・地域福祉の担い手と推進策について理解する。 <p>予習：第12回の授業後に配信する資料を閲覧しておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第14回 第8～13回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8～13回を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 <p>予習：第8～13回の授業を振り返っておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第15回 社会福祉の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験を振り返ると共に、諸外国と比較しながら国内の課題を総括する。 ・社会福祉におけるリスク、モンスターペアレント、クレーム対応を考える。 <p>予習：社会福祉への思いをまとめておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>
教育目標との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念を理解し、社会福祉系科目の学修に繋げる。 2. 社会福祉的視点をもって地域および家庭に接することができる。 3. 社会福祉の理論と各種技術の基本を理解し、他者と円滑なコミュニケーションを志向できる。 4. 社会や福祉に広く関心を持ち、積極的に貢献しようとする意欲を養う。 5. 子どもの最善の利益を追求する福祉の専門職として、何を成すべきかを考え実践できる素地を身につける。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷・社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。 2. 社会福祉の制度や実施体系等を具体的に説明でき、社会福祉的な思考・判断に役立てることができる。 3. 社会福祉における相談援助の基礎理論を理解し、その実践ができる。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができる。 5. 社会福祉の動向と課題について多角的な視座で関心を持つことができる。 <p>*添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 60% 持ち込み不可の試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。</p> <p>授業内試験 25% 7・14回に実施するもの各7%、2～13回(7回除く)11%で、該当範囲の理解度を評価する。</p> <p>課題提出物 15% 授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、その提出状況の評価する。 *課題配信は欠席した者にもするので、自習をして提出すること。(成績の15%を占めるため)</p> <p>*添付資料のルーブリックを参照のこと。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>授業内試験：試験後に答案用紙のみ回収し、模範解答をClassroomから配信する。</p> <p>期末試験：設問用紙・答案用紙・模範解答を15回の授業中に配布し、解説+振り返り後、答案用紙のみ回収する。</p>
教科書	「図解で学ぶ保育 社会福祉」 直島正樹・原田旬哉 編著、萌文書林、2017年、2100円（税別）
参考書	「社会福祉とわたしたち」 一瀬早百合著、萌文書林、2022年
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。(第2回以降は、授業開始時に振り返りテストを行う。)
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。(Classroomでの質問も可)
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。

講義科目名称： 子ども家庭福祉

授業コード：

英文科目名称： Welfare for Families and Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森脇 晋			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A102
添付ファイル			
子ども家庭福祉_カリキュラムMap&ループブック.pdf			

講義概要	<p>近年、家族や日常生活の多様化・地域の繋がりの希薄化から、日々の子育てに対する助言や協力を得難くなっている。そうした中、子育ての負担や不安・孤立感等で、児童虐待や子どもの貧困等が大きな社会問題になっている。そこで、本講では保育者に必要な子ども家庭福祉に関する基本的事項を動画も交えて網羅的に教授する。 【他科目との関連】「子ども家庭福祉」は「社会福祉」の一分野で、保育士にとって必要不可欠な基礎知識である。本講で学んだ知識を元に、「子育て支援」、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」、「子ども家庭支援論」等を学ぶので、児童福祉専門職である保育士の専門性を身に付けていく上で、本科目の学びの定着化は必須といえる。 【実務経験】母子生活支援施設の施設長や全国母子生活支援施設協議会での取組み、母子生活支援施設のスーパーバイザ等の実務経験を元に、子ども家庭福祉の現状や課題等を現場の臨場感をもって教授する。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 子ども家庭福祉を学ぶにあたってのガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども家庭福祉」の授業を円滑に受講できるようにする。 ・社会福祉全体の中での「子ども家庭福祉」の基本的枠組み・定義・保育士の役割等を理解する。 <p>予習：教科書P12～34を読んで、子どもの人権擁護について考えておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	<p>第2回 子ども家庭福祉の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国および国内の子ども家庭福祉の歴史を理解する。 ・石井十次に関する動画を視聴して、先人の思いを知る。 <p>予習：教科書P36～60を読んで、子ども家庭福祉の変遷を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	<p>第3回 子ども家庭福祉の制度と法律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭福祉の制度と法律を理解する。 ・留岡幸助に関する動画を視聴して、先人の思いを知る。 <p>予習：教科書P62～82を読んで、子ども家庭福祉の制度と法律を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>
	<p>第4回 子ども家庭福祉を実施する機関と施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭福祉を実施する機関と施設を理解する。 ・乳児院に関する動画を視聴して、子ども家庭福祉を実施する施設を知る。 <p>予習：教科書P84～101を読んで、子ども家庭福祉を実施する機関と施設を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	<p>第5回 児童福祉施設の現状と専門職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の現状と専門職を理解する。(諸外国と国内の比較を含む) ・児童養護施設に関する動画を視聴して、子ども家庭福祉を実施する施設を知る。 <p>予習：教科書P102～108を読んで、子ども家庭福祉を実施する機関と施設を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	
	<p>第6回 児童福祉施設の課題と将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の課題と将来像・運営指針を理解する。 ・里親等に関する動画を視聴して、児童福祉施設での養育との比較をする。 <p>予習：母子生活支援施設の課題と将来像・運営指針等を読む。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	<p>第7回 第1～6回の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～6回を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 <p>予習：第1～6回の授業を振り返っておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	
	<p>第8回 子育て家庭へのサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、保育サービス、母子保健・ひとり親家庭等へのサービスや各種手当を理解する。 ・グループディスカッション等で保育所・幼稚園・認定こども園に関する学びを深める。 <p>予習：教科書P110～136を読んで、子ども家庭福祉を実施する機関と施設を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) A：中、B：中、D：中、E：あり、F：あり、H：あり</p>	<p>第9回 地域の子育て支援サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援サービスの現状と課題を理解する。 ・地域子育て支援拠点に関する動画を視聴して、地域子育て支援サービスの学びを深める。 <p>予習：教科書P138～147を読んで、地域子育て支援サービスを知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。(予習・復習 各1時間程度) C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>	
	<p>第10回 児童虐待・DV・社会的養護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待・DV・社会的養護の現状と専門職を理解する。 		

	<p>・母子生活支援施設に関する動画を視聴して、児童虐待・DV・権利擁護への理解を深める。 予習：教科書P148～153を読んで、児童虐待・DV・社会的養護にかかわる施設を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第11回 障害児の福祉</p> <p>・障害児福祉の現状と障害児福祉を要することもへの保育者としての対応を学ぶ。 ・障害児に関する動画を視聴して、障害児理解を深める。 予習：教科書P154～163を読んで、障害児に対する福祉を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第12回 子育て支援と子どもに関するその他の諸課題</p> <p>・少年非行・子どもの貧困・ヤングケアラー・外国籍の子ども等に関する理解を深める。 ・ヤングケアラーに関する動画を視聴して、「子どもの最善の利益」を考える。 予習：教科書P164～177を読んで、子どもに関する諸課題を知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第13回 地域における連携・協働とネットワーク</p> <p>・子どものケア・要保護児童対策地域協議会・子どもの権利擁護に関する理解を深める。 ・要保護児童地域対策地域協議会の取り組み事例を学ぶ。 予習：教科書P180～204を読んで、地域における連携・協働とネットワークを知る。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第14回 第8～13回の振り返り</p> <p>・第8～13回を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 予習：第8～13回の授業を振り返っておく。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p> <p>第15回 子ども家庭福祉の総括</p> <p>・期末試験を振り返り、授業内試験やグループディスカッション等で補強する。 ・子ども家庭福祉にかかるアセスメント、ストレス・アンガーマネジメントを学ぶ。 予習：子ども家庭福祉への思いをまとめておくこと。 復習：授業を振り返って、事後課題に取り組むこと。（予習・復習 各1時間程度） C：少、E：あり、F：あり、H：あり</p>
教育目標との関連	保育士や幼稚園教諭は、在園児の養育・教育に携わるだけでなく、在園児の家庭や地域の子育て家庭への養育支援等の役割も求められている。さらに、各種課題をもつ子育て家庭と直接関係をもつことから、単に技術や知識を習得するだけではなく、「子どもの最善の利益」のために、保護者のみならず各種関係機関と連携する力量も求められる。そうした児童福祉専門職の基礎知識や倫理意識が身につけられることを目標とする。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を説明できる。 2. 子どもの人権擁護を自ら進んで取り組むことができる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等を使用できる。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について問題意識を持つことができる。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について問題意識を持つことができる。 <p>*添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 60% 持ち込み不可の試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。</p> <p>授業内試験 25% 7・14回に実施するもの各7%、2～13回(7回除く)11%で、該当範囲の理解度を評価する。</p> <p>課題提出物 15% 授業時に毎回振り返り課題をClassroomから配信し、その提出状況を評価する。 *課題配信は欠席した者にもするので、自習をして提出すること。（成績の15%を占めるため）</p> <p>*添付資料のルーブリックを参照のこと。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>授業内試験：試験後に答案用紙のみ回収し、模範解答をClassroomから配信する。</p> <p>期末試験：設問用紙・答案用紙・模範解答を15回の授業中に配布し、解説+振り返り後、答案用紙のみ回収する。</p>
教科書	「図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉」 直島正樹・河野清志 編著、萌文書林、2019年、2100円（税別）
参考書	「子ども家庭福祉-子ども・家族・社会をどうとらえるか」 垣内国光・岩田美香他 編、生活書院、2020 「新版よくわかる子ども家庭福祉」 吉田幸恵・山縣文治 編著、ミネルバ書房、2019
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	予習：該当する教科書の箇所を読んでおくこと。該当する章がない講では、予め参考資料を提示する。 復習：授業を振り返って事後課題に取り組むこと。（第2回以降は、授業開始時に振り返りテストを行う。）
履修上の注意、条件等	Classroomを多用してアクティブラーニングを志向するので、積極的に参加することを期待する。
オフィスアワー	授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。（Classroomでの質問も可）
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの内容を多少変更することがある。

講義科目名称： 子育て支援

授業コード：

英文科目名称： Child care support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生・専攻科	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F210
添付ファイル			
2020カリキュラムマップ 子育て支援改訂版.pdf			
2020ルーブリック子育て支援改訂版.pdf			

講義概要	<p>現代社会における多様化する家族の形の中で、子育てを楽しむ、保護者自身が積極的に子どもへ関わる事ができるよう、保育者が専門的に支援することの重要性が問われている。この状況に対応できる保育者になるために、保護者とのかわり方、支援方法の実践を学ぶ。子どもを通して関わる保護者との関係を理解し、適切な支援への重要性を理解する。また、現代では家庭での養育力（子育て力）の低下が社会的に大きな課題となっている。保育所・幼稚園・認定子ども園は、地域での子育て支援にも積極的に実践することが求められている中で、保育者としての専門性を活かした適切な対応とその責任を学ぶ。さらに、SDGsにかかわる課題より、世界の子育て支援環境についても理解を深める。</p> <p>講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から保護者のニーズに合わせた支援の重要性を実践事例として授業に取り入れている。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>子育て支援とは 保護者が必要とする子育て支援における保育者の役割と、保育相談支援の重要性を考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業内容・授業進行・評価方法・評価基準を確認する 予習：教科書P1～5 20分 E:あり 復習 60分</p>
第2回	<p>保護者との相互理解と信頼関係の形成 子育て支援において基本となる、保護者との相互理解と信頼関係の構築について学ぶ。バイステックの7原則を理解し、支援の際の保育者の基本的態度を身につける 予習：教科書P14～16 20分 教科書ワーク① F:あり 復習 60分</p>
第3回	<p>保護者の抱える支援ニーズへの気づき 保護者の抱える子育ての不安や、悩みなどに気づき、その背景や家庭環境から適切な支援とつなげていく。国の子育て支援に対する施策と現状について学び、そのうえで、それぞれに適した支援を考える。また、諸外国における子育て支援の状況について理解する。 予習：教科書P26～29 20分 F:あり 復習 60分</p>
第4回	<p>社会資源とは何か、また関係機関との連携について理解する 現代の社会ではなぜ子育てを社会で取り組むことが重要となるのか？保育現場と社会との関係性など、地域との連携について学ぶ。また、子育て支援に必要な社会資源についてまとめる。 予習：教科書P84～85 20分 教科書ワーク② E:あり 復習 60分</p>
第5回	<p>園における子育て支援 ① 在園児の保護者に向けて設定される子育て支援の実際を、教科書の事例から学ぶ。特に、通常の保育の中で実践できる保護者支援について、その技術・方法を学び、適切な保育者対応について考えを深める。 予習：教科書P96～98 20分 復習： 60分 F:あり</p>
第6回	<p>園における子育て支援 ② 保育現場の環境設定から保護者支援につながる要因について考える。保護者支援につながるための適切な環境設定について学ぶ。 予習：教科書P104～105 20分 教科書ワーク③ F:あり 復習 60分</p>
第7回	<p>地域における子育て支援 地域における“子育て支援の拠点”とは何かを考え、現代社会における、子育て家庭への支援の重要性と、保護者の適切な子ども理解への援助を、園全体の役割として担うことを学ぶ。特に、一時預かり・子育てひろば・子育て相談の実施の重要性について事例から考えを深める。 予習：教科書P108～113 20分 教科書ワーク④ E:あり F:あり(教科書ワーク⑤) 復習 60分</p>
第8回	<p>特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 複雑な家庭環境、障害のある子どもの家庭、多様化する家庭に対する支援について学ぶ。それぞれの子育ての課題を適切に判断し、より安心して子育てが出来る環境設定の提案など、保育者の責任ある対応を理解する。 予習：教科書p120 132 156 20分 Fあり 復習 60分</p>
第9回	<p>子どもの虐待予防と対応 児童虐待における原因、保護者の背景、子育ての環境について学ぶ。保育者として適切な行動から虐待防止への基本姿勢を学ぶ。また、実際の事例から虐待について把握することが重要となる。 予習：教科書P144～147 20分 Fあり 復習 60分</p>
第10回	<p>子育て支援における個別面談について①支援計画について 保育相談支援における、ケースワークの展開・計画案について学ぶ。保護者の状況を把握し、課題を明確化し、実際の支援へつなげる流れを理解する。 予習：教科書P36～38 p48～49 20分 E:あり 復習 60分</p>
第11回	<p>子育て支援における個別面談について②評価、カンファレンスについて 園における相談支援の評価について学ぶ。また、保護者支援における職員間の連携や重要性について考える。</p>

	<p>第12回 予習：教科書P60～63 P72～74 20分 教科書ワーク⑥ F：あり 子育て支援における個別面談について③ 個別面談実践 個別面談の方法を学ぶ。実践に向けて準備を行う 予習：配布資料読み取り 20分 F：あり 復習 90分</p> <p>第13回 子育て支援における個別面談④ 実践 1グループごとに事例から面談実践を行う。それぞれが、保育者・保護者・観察者となる。各回のポイントをまとめる。ワークシートあり A・Bあり 予習：教科書P168～171 20分 復習60分 A：多</p> <p>第14回 個別支援実践発表 13回目目に行った個別面談の実践内容をグループ毎にまとめて発表 他のグループの課題を共有する。 A・Dあり 予習：13回目の内容をまとめ、発表の準備をする</p> <p>第15回 まとめ 振り返り 試験内容を振り返る。今までの授業についてまとめる。</p>
教育目標との関連	本講義では、現代における子育て支援の重要性を正しく理解し、保育者としての知識を身につけるとともに、子育て支援に対する適切な対応を保育者自身が考えることにより、保育現場での適切な判断力を養う。また、授業内容の中でも重要とされる、個別相談の技術を身につけ、保護者に伝わりやすい表現を用いて子育て支援に携わる。現代における多様な社会変化による子育ての課題に対して積極的に関心を持ち、保育現場での適切な対応に意欲的に取り組むことが重要である。そのためにも、保育者として、直接保護者と関わり、多様化する保護者を尊重することができるよう学びを深める。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	2、社会における子育て支援の重要性を理解、その課題に関心をもって保育者としての正しい判断ができる 3、保育現場で行われる、子育て支援に対する適切な技術を身につける
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	筆記試験 70% 14回目終了後に筆記試験を実施する 提出物 課題 20% ワークシートや、教科書ワークなどの課題の提出期限と課題の内容について評価する 授業態度 10% 授業中の約束の厳守、課題実践の態度などから評価する。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の講義で、試験問題を用いて振り返りをする。自身の回答を手元に、理解できている内容、学びが到達していない事項を把握し、秋学期の学習内容からその部分を補う。特に、保育者論の講義では子育て支援についても取り上げるため、その中で学びを深める。
教科書	新基本保育シリーズ19 「子育て支援」 監修 公益財団法人児童育成協会 編集 西村重稀 青井夕貴 出版：中央法規 2019年2月20日発行 定価2,000円(税別)
参考書	保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価320円(税別) 幼稚園教育要領 文部科学省編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価240円(税別) 認定こども園保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省編 フレーベル館 2018年3月29日発行 定価350円(税別)
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業前：前回の授業内容の振り返り、教科書の指定されたページをよく読んでおく。30分 授業後：毎回ノートをまとめ、授業内容の理解を確認する。30分 授業で配布する資料・新聞記事はまとめて保管し、毎回の授業に持参すること。
履修上の注意、条件等	日頃からニュース等における、保育・子育ての問題に関心を持ち、現代の社会状況、多様な子育て環境を理解すること。
オフィスアワー	講義の前後に教室で質問を受ける。
備考・メッセージ	全て対面授業で行う アクティブラーニングの内容は、遠隔授業の際にはこの通りではない。 普段の園生活を通して、子ども・保護者に寄り添うことが何よりも重要となり、その中から子育て支援につなげることができる保育者を目指す。現代の子ども理解や多様な家庭環境への対応の学びを深め、保育現場での保護者支援の実践に丁寧に取り組む姿勢を身につけましょう。また、園が担う地域での子育て支援の重要性を正しく理解する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A202
添付ファイル			
社会的養護 I map. pdf		カリキュラムマップ	
社会的養護 I R. xlsx		ルーブリック	

講義概要	<p>子どもが児童虐待等の理由で、家庭における養育が受けられない場合、社会が代わってその子を養育する。これが社会的養護である。この授業では、社会的養護の社会的背景・制度・施設を理解した上で、各施設で行われている子どもたちへの支援内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を常に考えながら社会的養護の原理を実践できる保育士の育成を目標として、全体の学びの中で、この授業を位置付けるものである。教科担当教員は、家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援、NPO法人における活動から、障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。</p> <p>他の科目との関連：この科目を学ぶ前提の知識として社会福祉論・児童家庭福祉などがある。2年次の相談援助、社会的擁護内容を学ぶ上での基本となる科目であると同時に保育実習（施設）においても実習を遂行する上で基本的な知識となる。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>社会的養護の理念と概念</p> <p>社会的養護とは何かをテーマに、先ず各自で親元で生活できない子どもたちの背景についてイメージした上で、今後の学習の進め方について解説する。</p> <p>予習：シラバスを読んで、社会的養護の全体像を把握しこの科目のイメージを持つておくこと。（約1時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第2回	<p>社会養護の歴史の変遷</p> <p>社会的養護について福祉が制度化される過程で、これまでどのように歩んできたか理解した上で現状を概観する基礎を学ぶ。</p> <p>予習：前期の社会福祉論から社会福祉の制度化の歴史についてワークシートを作成し整理する。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第3回	<p>児童家庭福祉の一分野としての社会的養護</p> <p>社会養護の問題は単なる親子関係の問題ではなく家庭や地域レベルでの支援が必要であることを学び理解する。</p> <p>予習：児童虐待の事例から、その問題の根源がどこにあるかワークシートを作成しながらイメージする。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第4回	<p>児童の権利と社会的養護</p> <p>子どもの権利とはどのようなものか、その権利の保障方法について考え理解する。</p> <p>予習：子どもの権利とはどのようなものか「子どもの権利ノート」からワークシートを作成し整理する。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第5回	<p>社会的養護の制度と法体系</p> <p>社会的養護の根幹にある「パレンスパトリエ」の考え方を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。</p> <p>予習：未成年犯罪の事例を読み、その背景についてワークシートを作成して整理する。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第6回	<p>社会的養護の仕組みと実施体制</p> <p>社会的養護の基本的な仕組みについて理解する。</p> <p>予習：東京都のホームページから社会的養護の体制を調べ、ワークシートを使って整理する。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第7回	<p>施設養護の原理</p> <p>施設養護において生活する子どもたちにとってのアイデンティティ形成と強化、親子関係を再構築する為のアタッチメント形成支援などについて理解し、子ども一人一人のライフストーリーワークの必要性について学ぶ。</p> <p>予習：ライフストーリーワークを行う為に必要な資料を揃える。（約2時間）</p> <p>B少 E有 F有</p>	
	第8回	<p>施設養護の実際1（障害系施設：継続的なケアの必要性）</p> <p>ドキュメント動画を通して、障害系施設で生活する利用者について理解する。</p> <p>障害系施設においては、児童から成人までの永続的なケアが実施されている。なぜ永続的なケアが必要なのか保育士の支店を理解する。</p> <p>予習：「障害」について、各自のイメージをワークシートに記入する。</p> <p>施設養護において生活する子どもたちの背景を理解し、その原理（アドミッションケアからアフターケアまで）と役割について学び、「自立支援』の考え方を理解する。</p> <p>B多 E有 F有</p>	
	第9回	<p>施設養護の実際2（乳児院：施設養護から家庭養護へ）</p> <p>ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもと里親との親子関係構築について理解する。さらに保育士がどのような役割を果たしているかを考察する。</p> <p>予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約2時間）</p>	

	<p>時間) A多 E有 F有 第10回 施設養護の実際3 (児童養護施設：施設養護の課題) ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもが退所・自律に向けてどのような課題があるか理解する。そのうえで保育士や施設職員がどのような自立支援をしているか、その実際を見た上で考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。(約2時間)</p> <p>A多 E有 F有 第11回 施設養護とソーシャルワーク1 (アドミッジョンケアからインケアに向けて) 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にアドミッジョンケアからインケアに向けて、入所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。(約2時間)</p> <p>A多 E有 F有 第12回 施設養護とソーシャルワーク2 (リービングケアからアフターケアに向けて) 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にリービングケアからアフターケアに向けて、退所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。(約2時間)</p> <p>A多 E有 F有 第13回 倫理の確立 倫理とは社会生活上の行動規範であるが、ここでは、社会的養護の専門職としての倫理について考える。 予習：教科書(P.182～)を参考にワークシートを作成する。(約2時間)</p> <p>B少 E有 F有 第14回 総括と学習到達度の確認テスト 1回目～14回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>第15回 学びの振り返り 各自の到達度チェック(自己評価及び学修成果の確認)</p>
教育目標との関連	<p>社会的養護における教育目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いかなる環境の子供であっても、その人格を尊重し、その健やかな育ちを保障する為の基礎力を養う。 2. 個々の子どものニーズや背景を受容し、養育支援を行える基礎力を養う。 3. 子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 4. 社会的養護の実現に向けて、職場や関係機関との連携の為に必要な基本的な知識とコミュニケーション力の基礎を養う
到達目標 (学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識 2. 思考・理解 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の制度や実施体制について説明できる。 2. 社会的養護の形態と、その原理について理解し、保育士としてその原理に基づいた思考・判断ができる。 3. 子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 4. 社会的養護の現状とその課題について把握し、問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準	<p><評価方法> 定期試験：60% 定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20% (Google classroomのフォームから入力します) 授業に臨む前の予習の態度(授業参加への積極性)、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20% 授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。</p> <p><評価基準> 別途、ルーブリックに従う</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Classroomにて各自にフィードバックする
教科書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護Ⅰ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,200円
参考書	授業中に適宜指示する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	授業資料は、Google classroomにあります。授業前に目を通してください。 社会的養護は、社会福祉・児童家庭福祉をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	子どもたちとその背景にある環境を、保育の専門職として幅広い視点で考えてみてください(個人の主観的な感情ではなく)。
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業 ただし、授業中の振り返りシート等は、Google classroomから入力します。また、各回の授業資料についても、Google classroomにあります。必要に応じて印刷してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F204
添付ファイル			
社会的養護Ⅱmap.pdf		カリキュラムマップ	
社会的養護ⅡR.xlsx		ルーブリック	

講義概要	<p>社会的養護に関する基本的な重要（必要）事項の学習とそれに関する演習課題への考察を通して、児童福祉施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を学ぶと同時に、施設の保育士に求められる倫理・資質を学ぶ。</p> <p>【他の科目との関連】 「社会的養護」における社会的養護の制度と実施体系、施設養護の基本原則、児童の権利擁護等に関する基本的な学びを、演習課題への考察等を通してさらに深めていく。 【教員の実務経験】 家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援NP0法人における活動から障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>子どもの権利擁護 子どもの権利擁護 〈演習・課題シート1〉 社会的養護における子供の権利擁護について理解し、その基本的なあり方について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：権利擁護とは何か、社会福祉ならびに社会的養護1の教科書を読んで理解しておく（1時間）</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 G：PBL（課題解決型学習） H：反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>保育士の倫理と責務 社会的養護における子供の理解 〈演習・事例検討〉 社会的養護のもとで生活する子供の理解の方法や」その家庭環境について理解を深める。 B：少 E：あり F：あり 予習：施設入所児童の入所理由や措置理由を調べる（1時間） 復習：「あたりまえの生活」の「あたりまえ」とは何か考える（1時間）</p>	
	第3回	<p>施設養護の特性および実際1 社会的養護の内容 ①日常生活支援 〈演習〉 日常生活のモチ意味、日常生活を支えるとは具体的に何をすることなのかを学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：日常生活を過ごすために、どのような知識や技能が必要か（生活能力）、児童の年齢に応じて具体的にまとめる（1時間） 復習：日常生活支援がなぜ必要日考える（1時間）</p>	
	第4回	<p>施設擁護の特性および実際2 社会的養護の内容 ②心理的支援 〈演習〉 社会的養護で行われる基本的な心理的紫衣bんを事例を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：愛着障害、パーソナリティ障害について調べる（1時間） 復習：被虐児童の被害的世界観について考える（1時間）</p>	
	第5回	<p>施設養護の特性および実際3 社会的養護の内容 ③自立支援 〈演習・課題シート1〉 自立支援について事例を通して「自立」とは何かを学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：自立とは何か、社会福祉並びに児童家庭福祉の教科書を読んでまとめておく（1時間）</p>	
	第6回	<p>個別支援計画の作成1 施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等 〈演習・事例検討〉 施設擁護の中で、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設について、それぞれの施設の支援対象や特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：乳児院の法的根拠ならびにケアについて児童家庭福祉並びに社会的養護Iの教科書を読み理解する（1時間）</p>	
	第7回	<p>個別支援計画の作成2 講施設養護の生活特性および実際 ②障害児施設等 〈演習・事例検討〉 児童心理治療施設や障害児施設の特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：法律で定義される障害の種類について離開する（1時間） 復習：障害児（者）のケアや社会参加について、どのような課題があるかまとめる（1時間）</p>	
	第8回	<p>家庭用後の生活特性及びj実際 家庭養護の生活特性および実際 〈演習・事例検討〉 家庭養護について確認し、一般家庭との違い、保育士に求められる役割、里親家庭の抱える課題について演習を通して学ぶ。 E：あり F：あり 予習：児童家庭福祉ならびに社会的養護Iの教科書を参考に里親の種類を離開する（1時間） 復習：里親養育を推進するにあたってどのような社会的課題があるか考える）1時間）</p>	
	第9回	<p>アセスメントと個別自立支援計画の作成</p>	

	<p>アセスメントと個別支援計画の作成〈演習・事例検討〉 アセスメント（事前評価）とは何かを学び、演習を通して、個別支援計画、自立支援家一句について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：第4回の演習を参考に施設擁護の下で生活する児童の特性について振り返る（1時間） 復習：教科書のコラムを参考に依存欲求の強い児童に対する支援を考える（1時間）</p> <p>第10回 記録および自己評価 記録および自己評価（演習） 記録の意義と役割、専門職としての自己評価、部門の評価方法について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間）</p> <p>第11回 社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術者とその実際 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践（演習・事例検討） B：少 E：あり F：あり 予習：保育所保育指針の「養護」に関わる部分を読み理解を深める（1時間） 復習：保育所保育しと施設保育士の専門性の共通点と違いについてまとめる（1時間）</p> <p>第12回 記録と自己評価 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践〈演習・事例検討・課題シート2〉 社会的養護における保育士の役割や位置づけを確認した上で、被虐待児童に対する対応について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間）</p> <p>第13回 ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）〈演習・課題シート3〉 社会的養護の領域におけるソーシャルワークの知識や技術を演習を通して理解する。 B：少 E：あり F：あり 予習：ソーシャルワークのプロセスについて離開する（1時間） 復習：ソーシャルワークの原理やプロセスが、実際にどのように活用されるか考える（1時間）</p> <p>第14回 社会的養護における家庭支援 社会的養護における家庭支援と社会的資源〈演習〉 社会的養護の支援対象は児童だけではなく、保護者。家庭も含まれる事を確認した上で、演習を通して家庭支援のための前提である総合的なアセスメントについて学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：あなたがイメージする「幸せな子育て家庭」について文章_イラストなどでまとめる（1時間） 復習：家庭が抱える課題とどのような支援が必要かを考える（復習）</p> <p>第15回 学びの振り返り 今各自の到達度チェックと学修成果の確認</p>
教育目標との関連	（要保護児童とその家族への支援を行う）施設の保育士の児童ケアにおける基本姿勢やそこで求められる倫理・資質の理解は、そのまま（施設・保育所等を問わず）保育士に広く求められる倫理・資質に直結するものと考えられる。授業や演習課題に主体的に取り組むことが、保育士としての「豊かな感性と愛の心」を育てることにつながる。
到達目標（学修成果）	1. 社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。 2. 施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるために養護の基本原則に基づいた思考や判断ができる。 3. 施設保育士に必要なケースカンファレンスの基本的なスキルとして他者の意見を尊重し協調することができる。 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性
評価方法および評価基準	<p>＜評価方法＞ 期末レポート 40% ワークシート・課題シート1～3 60% ワークシート：指定した主要な演習課題についての各自の考察 理解度確認テスト：各テーマ理解度の確認 また、授業に対する関わり方（積極性や協調性など）も総合的に評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ループリックに従う。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Classroomにて各自にフィードバックする
教科書	新・基本保育シリーズ18「社会的養護Ⅱ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,000円
参考書	適宜、プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的養護Ⅰ」の学習内容を復習・確認する。 ・新聞等の児童家庭問題に常に関心をもって受講すること。
履修上の注意、条件等	毎回の演習課題に主体的に取り組むこと
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業 授業中のワークシート等は、Google classroomから入力します。また、各回の授業資料についても、Google classroomにあります。必要に応じて印刷してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B202
添付ファイル			
子ども家庭支援の心理学.pdf			

講義概要	<p>乳幼児期から老年期までの生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得した上で、各時期における発達課題や初期経験の重要性を理解する。また、現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。そして、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、および、子どもの心身の健康に関わる課題について考える。スクールカウンセラーや発達相談を有する教員による具体的な家庭支援の事例を通して、子ども家庭に一番身近な保育士がどのような役割を担うべきなのか考えていく。</p> <p>他の科目との関連：「保育の心理学」で学んだ子どもの発達に関わる心理学の基礎を踏まえ、本講では子どもをめぐる家族関係について発達の観点から理解し、包括的に捉える視点を養う。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>ガイダンス、乳幼児期から学童期前期の発達</p> <p>基本的信頼感や自己肯定感はどのように形成されるのか、乳幼児期の発達の概要を理解する。</p> <p>予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握する。(約1時間)</p> <p>復習：テキスト第1章を読み、授業内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>B:少 E:あり F:あり</p>	
	第2回	<p>学童期後期から青年期の発達</p> <p>ピアジェやエリクソンの発達理論を基に、学童期後期から青年期の発達の概要を理解する。</p> <p>予習：テキスト第2章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>A:少 B:少 E:あり F:あり</p>	
	第3回	<p>成人期・老年期の発達と生涯発達</p> <p>成人期・老年期の発達の概要を理解する。また生涯発達心理学の考え方を学ぶ。</p> <p>予習：テキスト第3章・第4章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>B:少 E:あり</p>	
	第4回	<p>家族・家庭の意義と機能</p> <p>家族・家庭の機能の変容と子育てへの影響、家庭支援の必要性について考える。</p> <p>予習：テキスト第5章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>E:あり F:あり</p>	
	第5回	<p>現代の家庭における人間関係</p> <p>親子関係及び夫婦関係の時代的変化と子どもの発達への影響を考える。</p> <p>予習：テキスト第7章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>E:あり F:あり</p>	
	第6回	<p>子育て経験と親としての育ち</p> <p>親としての成長、家庭教育の重要性について考える。</p> <p>予習：テキスト第8章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>B:少 E:あり</p>	
	第7回	<p>子育てを取り巻く社会的状況</p> <p>子育て家庭をとりまく社会環境はどのように変化しているのか学ぶとともに、その変化が子育てにどのような影響を及ぼしているのか考える。</p> <p>予習：テキスト第6章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>B:少 E:あり</p>	
	第8回	<p>ワークライフバランスと子育て</p> <p>仕事と子育てのバランス、個々の家族メンバーの自己実現について考える。</p> <p>予習：テキスト第9章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>	
	第9回	<p>多様な家庭環境と子どもの育ち</p> <p>家庭環境の多様化と複雑化と子どもの育ちへの影響を学ぶ。</p> <p>予習：テキスト第10章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>E:あり</p>	
	第10回	<p>特別な支援を必要とする家庭</p> <p>周囲の理解が得にくい特殊な状況を抱えた家庭への対応の仕方について考える。特に、状況の把握、情報提供、他機関との連携の仕方について学ぶ。</p> <p>予習：テキスト第11章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p> <p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。(約1時間)</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>	
	第11回	<p>地域社会における家庭支援</p> <p>家庭支援を支える社会資源、家庭と地域の連携について考える。</p> <p>予習：テキスト第12章を読み、疑問点等を整理しておく。(約1時間)</p>	

	<p>復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） D：多 E：あり</p> <p>第12回 子どもの身体発育、こどもの生活環境とその影響 子どもの身体発育を理解する。また、生活環境と育ちへの影響について考える。 予習：テキスト第13章・第14章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） B：少 E：あり</p> <p>第13回 子どもの心の健康と課題 心身症、精神疾患、児童虐待等の子どもの心の健康について理解する。 予習：テキスト第15章を読み、疑問点等を整理しておく。（約1時間） 復習：授業中に配布されたレジュメを見直し、授業の内容を振り返る。（約1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回 現代社会と保育者の役割、まとめ 子どもと家庭をめぐる現代の社会状況と課題を整理しながら、子ども・家庭に一番身近な保育者がどのような役割を担うべきなのか、これまでの授業を振り返りながら考える。 復習：テキストやレジュメ、GoogleClassroomに配信された資料などを整理し、これまでの授業の総復習をする。（約3時間） E：あり</p> <p>第15回 期末試験のフィードバックと学習成果の振り返り 試験のフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して、習得できたこと、課題などを考えて授業に臨むこと。（約2時間） E：あり</p>
教育目標との関連	<p>子どもは社会に生まれ社会の中で育つが、子どもにとって最初に出会う最も身近な社会が家庭であるといえる。家庭の中での保護者やきょうだいなどのやり取りを通して子どもは発達していく。家庭における子どもの発達と家族の役割について理解し、目の前の家族のニーズに合わせた支援ができる保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、ワークライフバランスについて自分なりに考えられるようにする。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1：家庭における子どもの発達と家族の役割について、説明することができる。 DP3：子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々への支援について、自ら考え、論じることができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末試験 50%：授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。 提出課題 20%：授業内で行う課題への取組みを評価する。 授業への参加度 30%：グループワークへの貢献度や、授業内での発言など、授業への取組み態度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>第15回目の授業時に期末試験のフィードバックを行う。</p>
教科書	<p>保育士を育てる② 『子ども家庭支援の心理学』 谷田貝公昭（監修）藤田久美・瀧口綾（編著）一藝社 2020年 2,100円</p>
参考書	<p>授業中に適宜、資料を配布する。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各回の予習・復習は上記の通り。教科書・レジュメ・GoogleClassroomで配信された資料等を有効に活用し、授業内容の理解に努めること。</p>
履修上の注意、条件等	<p>子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。</p>
オフィスアワー	<p>104研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。</p>
備考・メッセージ	<p>授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。</p>

講義科目名称： 子どもの保健

授業コード：

英文科目名称： Pediatric Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦 由美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B102
添付ファイル			
136PediatricHealth.xlsx			

講義概要	<p>保育の本質である、子どもの命を育む「養護」のための知識と、その方法を具体的に学ぶのが「子どもの保健」である。子どもは、絶えず発達・成長していく特性があり、先天的な条件や環境の影響を受けやすさを考慮し、その子なりに健やかに育つような働きかけと実践活動について学ぶ。子どもが自立した生活が送れるよう、保健的側面から適切な対応について理解を深める。</p> <p>担当教員の専門は、公衆衛生学（社会医学）と解剖生理学（基礎医学）である。更に、精神医学（児童精神医学も含む）、整形外科などの臨床医学も長年教授した経験をもつ。子どもの健康を衛（まもる）にはどうしたらよいか？、子どもの疾病をメカニズムから理解するにはどうしたらよいか？公衆衛生学と解剖学的見地から、「子どもの命」を深く理解できるよう授業を展開していく。加えて、「子どもの命を護れる保育者」としての素養を身につけられるよう、現場力（保育現場での疾病対応や応急処置）も養っていく。</p> <p>他の科目との関連：子どもの命を護るための予防と、その対応策を学ぶ「子どもの保健と安全」を理解するための基礎的な知識・技術を、この「子どもの保健」で習得していく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的とは 健康の概念とは 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的について知る。世界保健機関（WHO）における健康の概念について学ぶ。 第1講①②、第2講① B:少 予習：子どもの保健のシラバス全体をよく読んでおく。 科目でどのような知識を習得するのか把握しておくこと。（約1時間）</p> <p>第2回 健康の概念とは 健康指標とは ヘルスプロモーションおよび健康指標について理解する。 子どもの健康と貧困について学ぶ。 第2講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書を読んでおくこと。 保育所保育指針の第1章、第3章に目を通しておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題</p> <p>第3回 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 現代社会と子どもの健康に関する現状を知る。 母子保健・子どもの健康にかかわる統計について学ぶ。 母子保健法、母子保健対策について理解する。 第3講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 F:あり</p> <p>第4回 身体的発育および運動機能の発達と保健 子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 我が国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 子どもの身体発育や運動発達に影響するものを理解する。 第5講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 自身の母子健康手帳に何が記入されているのかを見ておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題</p> <p>第5回 生理機能の発達と保健 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系の生理機能を理解する。 中枢神経、内分泌系、免疫系、水分代謝、体温調節の生理機能を理解する。 睡眠のリズム、排泄機能、皮膚機能を理解する。 第6章①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 風邪や腹痛など、日常よく起こる体調不良について調べておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題</p> <p>第6回 健康状態の観察 子どもの健康状態の把握の方法について学ぶ。 子どものバイタルサインの特徴と正常値について学ぶ。 脱水の症状とその対応について学ぶ。 第7講①③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 体調不良時の観察ポイントをまとめておくこと。（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題</p> <p>第7回 心身の不調等の早期発見 脱水の対応 子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について学ぶ。 子どもの預かり時、引き継ぎ時の健康状態をきちんと伝えることについて学ぶ。 普段と様子が違う時に、検温し、経過を把握することについて学ぶ。 第7講①② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 健康診断をするメリットについてまとめておくこと。（約2時間）</p>

	<p>第8回 A:中 E:あり 振り返り問題 発育・発達の把握と健康診断 子どもの健康診断と関連機関との連携を学ぶ。 検診を通じた子育て支援を理解する。 第8講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 子どもに関連する障害児施設などについて調べておくこと。(約2時間)</p> <p>第9回 B:中 E:あり 振り返り問題 子どもの主な疾病の特徴(1) 免疫 感染症と予防 子どもの免疫の発達について理解する。 世界の動向を踏まえつつ、感染症の種類と感染経路を知る。 子どものかかりやすい感染症の特徴を知る。 第12講①、第14講①② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 出席停止など、学校の出欠に関わる疾患について調べておくこと。(約2時間)</p> <p>第10回 B:中 E:あり 振り返り問題 子どもの主な疾病の特徴(2) 救急対応 感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 予防接種について理解する。 救急疾患とその対応について学ぶ。 第14章③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 予防接種をする意義について、昨今問題になっていることについて調べる。(約2時間)</p> <p>第11回 B:中 E:あり 振り返り問題 子どもの主な疾病の特徴(3) 先天性疾患 新生児の病気、先天性疾患と対応を知る。 第10章①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 先天性疾患について調べておくこと。(約2時間)</p> <p>第12回 B:中 E:あり 振り返り問題 子どもの主な疾病の特徴(4) アレルギーと適切な対応 アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 第12章② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 アレルギー対応食について調べておくこと。(約2時間)</p> <p>第13回 B:中 E:あり 振り返り問題 保護者との情報共有 子育て支援 保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。 慢性疾患や障害児など様々な健康状況と支援について学ぶ。 子育てをする家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 第3章③、第9章②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 地域にどのような子育て支援があるか行政について調べておくこと。(約2時間)</p> <p>第14回 B:中 E:あり 地域における保健活動と子どもの虐待防止 地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行なっているか理解する。 子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 子どもは社会のものなのか、家族のものなのか、グローバルな視点で思考する。 第4章②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 第2章の身体の発育や発達に関する項目を見ておくこと。(約2時間)</p> <p>第15回 B:中 E:あり 振り返り問題 授業について総括を行う。 保育所における感染症ガイドラインおよびアレルギーガイドラインの理解 まとめ 保育所における疾病予防の鍵となるものには、アレルギー疾患と感染症である。 既に習った各疾患をベースに、ガイドラインの視点から現場に必要な知識をについて学ぶ。 第12章②、第14章③</p> <p>第16回 期末試験</p>
教育目標との関連	<p>子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの発育・発達の特性に応じた対応に関する知識、技法、態度を修得する。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下で幼児教育者として適切な対応ができるための知識、技法、態度を習得する。</p>
到達目標 (学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について自分なりに考察することができるようになる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心を持ち意欲的に取り組めるようになる。 5. 「子どもの命を護れる保育者」の素養を身につくことができる。
評価方法および評価基準	<p>講義内容の理解度の評価：振り返り問題(20%) 期末試験(70%) 授業参加の(関心度 意欲 受講態度)の評価：10%</p> <p>1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>クラスルームに回答を配信</p>

教科書	松田博雄・金森三枝編著 子どもの保健 中央法規 2019 2,200円
参考書	授業中、適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	講義までに授業計画を確認して事前学習をしておくこと。テキストをよく読んで、キーワードを用いてまとめておくと良い。復習は、授業の振り返りをして、教科書やプリント類をよく読んで知識をしっかりと定着できるようにする。予習復習は2時間程度が望ましい。
履修上の注意、条件等	授業におけるICTの準備を整えることが望ましい。ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	質問などは、原則、授業日に受け付ける。ICTを活用、遠隔授業で限定コメントを受け付ける。
備考・メッセージ	保育の基盤となるのが「子どもの保健」です。「子どもたちの命を護れる保育者」になるため、一緒に学びを深めていきましょう。全て対面授業で行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦 由美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：F209
添付ファイル			
137Child Health and Safety. xlsx			

講義概要	<p>「子どもの健康と安全」は、子どもたちの心と身体の健康を増進することを目的とした分野である。一年生で学んだ「子どもの保健」を基礎として、子どもが疾病にならないよう保健衛生を保ち看護するといった医療的な側面を、演習を通して更に理解を深める。子どもは、絶えず発達・成長していく特性がある。先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに順調に健やかに育つような働きかけと実践活動について演習を通して学ぶ。子どもが自立した生活が送れるように、社会における周囲の大人の適切な対応について、実践例をふまえて理解を深める。</p> <p>他の科目との関連：乳幼児教育の原理から実践に必要な技能まで、「乳児保育」「保育の心理学」「子どもの保健」など、子どもの「健康」に深く関連する。「教職概論」をもとに幼児教育者としてより深く子どもの保健を理解する資質、社会から求められる役割について習得する。演習では、チームとして情報を共有し協働活動できる保育者を目指し、グループワークやディスカッションを行う。</p> <p>保育実践における健康観察のポイントや健康に過ごすための育児支援について、具体例から理解を深める授業を行う。保育における園内施設・設備（遊具等）玩具などの安全性についての知識と考察を行う。また、様々な自然災害（地震・大雨など）世界的な規模で発生するウイルスによる疾病対策の理解を深める。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回 救命救急講習 約4時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、6日間に分かれて実施する。 復習…身近な施設のどこにAEDが設置されているのか調べておくこと。（約1時間） アクティブラーニング…A 多</p> <p>第2回 救急救命講習 約4時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、6日間に分かれて実施する。 復習…身近な施設のどこにAEDが設置されているのか調べておくこと。（約1時間） アクティブラーニング…A 多</p> <p>第3回 学校における危機管理および安全管理①（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成） 幼児の視野を体験することで危機予知を発見する。それを基にハザードマップを作成する（グループ活動） A:多 B:多 E:あり</p> <p>第4回 予習：ハザードマップとは何か調べておくこと（約1時間） 学校における危機管理および安全管理②（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成および発表） ハザードマップの作成と発表（グループ活動） 保育現場で発生する「注意義務（予見可能性+結果回避可能性）」を果たしているかでグループ発表を各自評価する。 A:多 B:多 E:あり 予習：危険予見方法および危機回避方法について調べておくこと（約1時間）</p> <p>第5回 事例から学ぶ危機管理：5大事故および災害対策 事例をもとに事故予防力と事故発生対応力を学ぶ。 A:多 B:多 E:あり 予習：自身が通っていた学校での災害訓練の種類と何を学んだのかまとめておくこと（約1時間）</p> <p>第6回 スタンダードプリコーションの理解と実践（標準的感染予防策）—手洗い演習およびグローブ着脱法— 感染予防策を演習によって手技を学ぶとともに衛生管理の理解を深める。 A:多 B:多 E:あり 予習：身近にある「手洗いポスター」を探し、そこにはどんな教えがあるのか調べておくこと（約1時間）</p> <p>第7回 意識急変対応の理解①（アレルギー疾患：食物アレルギー、アナフィラキシーショック） 慢性疾患でもあるアレルギー疾患の基本的知識と意識急変対応が求められるアナフィラキシーショック（特に食物アレルギー）の理解を深める。 A:多 B:多 E:あり 予習：保育園で対応が求められるアレルギー疾患を調べておくこと（約1時間）</p> <p>第8回 意識急変対応の実践①（シュミレーション実習：アナフィラキシーショック） シュミレーション実習を通して、アレルギー重症度の判断力、重症に対する対応（エピペン、第1次救命処置）を会得する。第1次救命処置は振り返りとして学び直す。 過A:多 B:多 E:あり 予習：エピペンとは何か調べておくこと（約1時間）</p> <p>第9回 意識急変対応の理解②（窒息：誤嚥・誤飲、溺水）</p>

	<p>乳幼児死因の上位を占める「窒息」を引き起こす、誤嚥・誤飲そして溺水について学ぶ。</p> <p>A:多 B:多 E:あり 予習：窒息の病態について調べておくこと（約1時間） 意識急変対応の実践②（シュミレーション実習：窒息対応） 第1次救命処置である「乳児そして小児における異物除去法」を会得する。第1次救命処置は振り返りとして学び直す。</p> <p>復習・予習：乳児および小児における異物除去法の手技を振り返り予習しておくこと（約1時間）</p>
第10回	
第11回	<p>A:多 B:多 E:あり 慢性疾患児への対応①（喘息） 気管支喘息の病態とその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>
第12回	<p>予習：喘息の病態について調べておくこと（約1時間） 慢性疾患児への対応②（アトピー性皮膚炎） アトピー性皮膚炎のとその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>
第13回	<p>予習：アトピー性皮膚炎の病態について調べておくこと（約1時間） ケガの応急処置（シュミレーション実習：外傷） 外傷（骨折、捻挫、打撲）の応急処置（止血法、包帯法、三角巾固定法）について理解と手技を会得する。</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>
第14回	<p>予習：自身でガーゼ、包帯、三角巾を用意し、外傷手当について調べておくこと（約1時間） 保健計画・評価 各自の母子手帳をもとに自身（または子ども）発育状況を把握する。発達相談の事例をもとに発育アドバイスをグループごと話し合う。</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>
第15回	<p>予習：自身で母子手帳を用意し、発育評価項目と評価法を調べておくこと（約1時間） 総括 学びの振り返り 子ども達の命を守る力が養ったか学習到達点を確認する。</p> <p>A:多 B:多 E:あり</p>
第16回	<p>復習：授業内で配布された「総括資料」を確認すること（約1時間） 期末試験</p>
教育目標との関連	<p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、ガイドラインや近年のデータを踏まえ、理解する。 衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策について、具体的に理解する。 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画、評価等について具体的に理解する。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の知識を衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策等の観点から習得しその意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について根拠に基づいて考察する。 3. 保育における保健的観点を踏まえたガイドラインや近年のデータをもとに、保育環境や援助方法について理解し効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心をもち意欲的に取り組めるようになる。 5. グローバルな視野を持ち、根拠に基づいた保健情報を子どもとその保護者に提供できるよう積極的に学び続ける。</p>
評価方法および評価基準	<p>定期試験70%、授業内のグループ発表および課題・演習に取り込んだ態度30%。</p>
1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>クラスルームに回答を配信</p>
教科書	<p>子どもの健康と安全 中央法規</p>
参考書	<p>健やかな育ちを支える領域「健康」 ミネルヴァ書房</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>授業で提示された資料や扱った内容について、ネットや新聞から関連した話題を見つけ、最終の評価レポートに役立てたい。</p>
履修上の注意、条件等	<p>ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくことよい。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日</p>
備考・メッセージ	<p>子供の健康と安全といった保健に関する知識や技能は、子どもの健やかな発達や成長を支援するために欠かせないものです。演習を含めた対面授業を通して一緒に学びを深めていきましょう。</p>

講義科目名称： 子どもの食と栄養

授業コード：

英文科目名称： Infant Nourishment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期または秋学期	2年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
田中 芳子・大西 智子（補助）			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：無	ナンバリング：B203
添付ファイル			
「子どもの食と栄養」カリキュラムマップ.pdf			
「子どもの食と栄養」ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>人は適切な食事により、健全な生活を営むことが出来る。小児期は、発育・発達という特性も加わるので、栄養摂取は特に重要である。更に小児期は食生活の基礎が作られる時期でもあり、この時期の食環境がその後の生涯にわたる心身の健康を大きく左右する。以上を理解し、子どもの成長に即して「食」を実践してゆく力を養う。</p> <p>他の科目との関連：「子どもの保健で学ぶ、乳汁栄養、離乳、幼児期の栄養をより実践的に学び、体験する。」</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>子どもの健康と食生活の意義 (対面・配信)</p> <p>1-1食と栄養を学ぶ上で、『子ども』とはどのような存在か理解し、何を学ぶべきか確認する。 子どもの身体発育と栄養状態の把握の仕方を学ぶ。 1-2食に関する体の構造、消化・吸収のしくみを確認する。 F:あり</p> <p>復習:P1-P19を読み課題に取り組む (1時間)</p> <p>第2回</p> <p>調理実習室準備 (実習1) 食に関する器官の発育と発達 (対面・配信)</p> <p>実習:調理実習室準備を通して、環境の整え方を学ぶ。 2-1子どもの食べる機能と消化吸収機能の発育・発達を理解し、食事内容の関係を知る。 食と心の発育・発達の関係について理解を深める。 栄養素の種類と働きを理解する。(五大栄養・炭水化物) F:あり</p> <p>復習:P32-P34を読み課題に取り組む (1時間)</p> <p>第3回</p> <p>乳児期の食生活①乳汁栄養 栄養の基礎知識①栄養素 (配信)</p> <p>3-1乳汁栄養について理解する。 3-2栄養素の種類と働きを理解する。(たんぱく質・脂質) F:あり</p> <p>予習:自身の乳汁期の聞き取りをする (1時間)</p> <p>第4回</p> <p>乳児期の食生活②調乳 (実習2) 栄養の基礎知識② (対面・配信)</p> <p>実習:正しく調乳出来るようになる。色々な殺菌法を学ぶ。 4-1栄養素の種類と働きを理解する。(無機質・ビタミン) A:多 E:あり F:あり</p> <p>復習:栄養素のキャラクター作り (1時間)</p> <p>第5回</p> <p>乳児期の食生活③離乳とは (配信)</p> <p>5-1離乳の意義とその必要性を理解し、離乳の進め方、調理の特徴等を学ぶ。 C:多 F:あり</p> <p>予習:ベビーフードの試食を通して、離乳食の味や形状を体験する。(2時間)</p> <p>第6回</p> <p>乳児期の食生活④離乳食の基礎 (実習3) (対面)</p> <p>実習:離乳食の基礎となる「おかゆ」、和食の基本「だし①」を体験する。 A:多 E:あり F:あり</p> <p>予習:動画を参照し野菜を切ってみる (1時間)</p> <p>第7回</p> <p>栄養の基礎知識③食事摂取基準 食育①食の問題点 (配信)</p> <p>7-1日本人の食事摂取基準から必要な食事量を知る。 食品の基礎知識を学ぶ。 7-2現代の日本人が抱える食の問題を知り、食の在り方を考察する。(含:学齢期・思春期の食生活) F:あり</p> <p>復習:自身の推定エネルギー必要量を調べる (1時間)</p> <p>第8回</p> <p>幼児期の食生活①幼児食 栄養の基礎知識④食事構成 (配信)</p> <p>8-1幼児期の栄養の特徴を理解し、食事の留意点を考察する。 日本食への理解を深めると共に、諸外国の食文化を知る。 8-2バランスの良い食事とはどのようなものかを知り、実践の仕方を学ぶ。 F:あり</p> <p>復習:食事バランスガイドを用いて自身の食生活を評価する</p> <p>第9回</p> <p>幼児期の食生活②和食 (実習4) (対面)</p> <p>実習:和食の基本や調理技術を学ぶ。和食の基本「だし②」を体験する。 A:多 E:あり F:あり</p>		

	<p>第10回 復習：幼児用の弁当を考える 食育②今なぜ食育か 配慮の必要な子ども①脱水・食中毒（配信） 10-1食育の必要性を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活を通しての支援の仕方を考える。 10-2疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。障がいを持つ子どもの食生活を理解する。 F:あり</p> <p>第11回 復習：関心のある「食」について調べてみる 配慮の必要な子ども②食物アレルギー 食育③食育を伝える（配信） 食物アレルギー（アレルギーガイドライン）を理解し、その対応を学ぶ。 F:あり 復習：課題に沿ってアレルギー対応をまとめる（2時間） 復習：食育啓蒙ポスターの構想を練る。（1時間）</p> <p>第12回 配慮の必要な子ども③アナフィラキシー対応（実習5） 食育④食育運営（対面） 実習：食物アレルギー（アナフィラキシー）対応を体験する。 ：調理保育準備を体験する。 A：中 B：中 H：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 復習：アレルギー対応を振り返る。（1時間） 幼児期の食生活③間食（演習）（配信） おやつ作りを通して、間食の意義と内容を考える。 C：多 E:あり F：あり</p> <p>第14回 予習：課題添付の動画を視聴する（30分） 幼児期の食生活④調理保育（実習6）（対面） 実習：調理保育を想定した調理を体験、考察する。 A：多 H：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 復習：食育啓蒙ポスターを作る（2時間） 実習室整備（実習7） 生涯発達と食生活 学習到達度の確認・解説 振り返り（対面・配信） 実習：調理実習室の片付けを通して環境の整え方を学ぶ。 16-1生涯を通して健康に生活するために必要なことを考える。母体と胎児の関係を知る。 16-2理解度到達テストの設問について解説を行う。 F:あり 復習：今までの授業及び確認テストの振り返りをする（1時間）</p>
教育目標との関連	子どもの食生活は大人の作り出す食環境の影響を強く受ける。子どもにとって望ましい食環境・食生活とはどのようなものか常に考え、実践・提供できる力を身につける。

<p>到達目標（学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>3. 技能・表現</p> <p>4. 関心・意欲</p> <p>5. 人間性・社会性</p>	<p>1. 健康な生活の基となる食に関する基礎的知識を理解し、子どもの発育・発達と関連付けて説明できる。</p> <p>3. 発達段階に合わせた、正しい食事を選択、準備できる。</p> <p>3. 子どもを取り巻く食の現状から、食育の必要性を理解し、日々の生活の中で「食」の大切さを伝えることができる。</p> <p>1. 特別な配慮の必要な子どもの食に関わる対処法を理解、実践できる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップを参照</p>
<p>評価方法および評価基準</p> <p>1. 試験等の評価方法</p> <p>2. ルーブリックによる評価基準</p>	<p>● 期末試験 50%</p> <p>・ 期末試験を14回と15回の間に実施する。授業の内容全般について理解度の評価を行う。</p> <p>● 平常点評価 50%</p> <p>1、配信時：授業理解を補う課題を提出してもらい、参加姿勢を評価する。 （提出課題用のルーブリックは最初の授業で配布する。）</p> <p>2、実習時：服装（エプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き）を評価の対象とする。 ：実習中の態度、協力度を評価する。 ：実習の内容のまとめ、感想等提出してもらい、参加姿勢を評価する。</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
<p>期末試験・期末レポートのフィードバック方法</p>	<p>第15回目の配信授業内で試験の解説を行う。</p>
<p>教科書</p>	<p>子どもの食生活 第6版 上田 玲子 編著 赤石 元子著 他 ななみ書房 2,400円＋税</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に、適宜、資料を配布する。</p>
<p>準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間</p>	<p>予習・復習は宿題課題として指示する。課題は授業内容を補う、あるいは他の授業で活用するので、きちんと学習すること。</p> <p>常日頃、新聞やニュース等の食に関する記事に関心を持って、生活すること。</p>
<p>履修上の注意、条件等</p>	<p>・「子どもと食」に関して、学びたいという気持ち、態度があること。</p> <p>・調理実習時には、エプロン・三角巾・ハンドタオル・上履きが必要。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>講義前後に教室で受け付ける。</p> <p>講義以外の時間はGoogleclassroomの限定コメントにより受け付ける。</p>
<p>備考・メッセージ</p>	<p>・ハイブリットで授業を行なう。</p> <p>・調理実習の都合により、授業の順番はクラス毎に変わる。</p> <p>対面と配信の授業が混在し、変更の可能性もあるのでその都度確認すること。 （クラス毎の授業計画は最初の授業で配布する。）</p>

講義科目名称： 子ども家庭支援論

授業コード：

英文科目名称： Child and family support theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
松山 綾子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A204
添付ファイル			
カリキュラムマップ様式 子ども家庭支援論.pdf			
ルーブリック様式 子ども家庭支援論.pdf			

講義概要	<p>少子高齢化、核家族化、地域社会とのつながりの希薄化など、現代は子どもを育てる上で様々な障壁が生じやすい。保育者はこのような家庭に対する支援も重要な役割を担っている。子ども家庭支援論では、子ども家庭支援の理論と方法を踏まえ、様々な事例について共に検討し、意見発表することによって、身近なものとして捉え、学生個々の実践力へとつなげていく。</p> <p>授業者は福祉現場にて相談援助業務経験を有している。現場の経験や保育に即した事例を紹介しながら、実践的な授業を提供する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回 【対面】	子ども家庭支援の意義と必要性（対面）	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回 【対面】	<p>家族形態の変遷や家庭の社会的機能の変化を理解する。また、現代における家庭支援の意義について理解する。</p> <p>予習：教科書10～17ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>子ども家庭支援の目的と機能（対面）</p> <p>養育、保護、休息、生活文化伝承、生命倫理観の醸成の視点から子ども家庭支援機能について考える。</p> <p>予習：教科書18～26ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>E：あり F：あり</p>	
	第3回 【対面】	子どもの発達と家族（対面）	
	第4回 【対面】	<p>子どもの発達、子育てを通じた親の発達、親の発達の実際、親としての役割、子どもとしての役割について理解する。</p> <p>予習：教科書28～38ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>E：あり F：あり</p> <p>保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義（対面）</p> <p>福祉の専門職としての専門性を活かした支援、保育の専門性を活かした支援、生活の場としての特性を活かした支援、地域の施設としての専門性を活かした支援について理解する。</p> <p>予習：教科書40～49ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>E：あり F：あり</p>	
	第5回 【対面】	子どもの育ちと喜びの共有（対面）	
	第6回 【対面】	<p>不安を感じる保護者に対し、保育士としてどのように子どもの姿を伝え、共に子どもの育ちと喜びを共有することができるか、多面的に考察する。</p> <p>予習：教科書50～58ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>B：中 E：あり F：あり</p> <p>保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援（対面）</p> <p>自ら実践する力を向上させるための考え方、保護者が自ら子育てをする力の向上、地域が有する子育て力の向上について考察する。</p> <p>予習：教科書59～67ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>B：中 E：あり F：あり</p>	
	第7回 【対面】	保育士に求められる基本的態度、家庭の状況に応じた支援（対面）	
	第8回 【対面】	<p>対人援助者に求められる基本的原則とされる「バイステックの原則」を学び、対人援助職の倫理や基本的態度等について理解する。また、家庭の状況のアセスメント、対応の検討、支援方法の決定、家庭機能を念頭に置いた支援についても理解する。</p> <p>予習：教科書68～80ページを読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること。（計約2時間）</p> <p>A：中 E：あり F：あり</p> <p>地域の資源の活用と関係諸機関の連携・協力、子育て家庭の福祉を図るための社会資源（対面）</p> <p>子どもや子育て家庭の支援を行う機関や施設について理解する。地域の資源にはどのようなものがあるか理解し自分が居住する地域の資源に関心を持つ。保育士としてどのような実践をしたいか考える。</p> <p>居住地域の子育て支援の内容と対象について調べる。</p> <p>予習：教科書81～94ページを読んでおくこと。復習：発表に向けて資料を作成すること。（計約2時間）</p>	

	<p>時間) A:多 B:多 E:あり F:あり 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第9回 【対</p> <p>居住地における子育て支援について調べた内容を発表する。また、他の学生の発表を聞いて学んだことをまとめる。 予習:発表に向けて資料を完成すること。復習:他の学生の発表について学んだことをまとめ終えること。(計訳2時間) A:多 B:多 D:多 E:あり F:あり</p> <p>第10回 【対面</p> <p>子育て支援施策、次世代育成支援施策の推進(対面)</p> <p>日本の子育て支援施策、次世代育成支援に向けた取り組み等について理解する。 予習:教科書97~105ページを読んでおくこと。復習:授業で学んだ内容を復習すること。(計約2時間) E:あり F:あり</p> <p>第11回 【対面</p> <p>ワークライフバランス、男女共同参画(対面)</p> <p>男女共同参画と家庭支援、子育て家庭のワークライフバランスについて理解し、現代の若者の結婚観について考える。 予習:教科書106~116ページを読んでおくこと。復習:授業で学んだ内容を復習すること。(計約2時間) A:中 B:中 E:あり F:あり</p> <p>第12回 【対面</p> <p>保育所等を利用する子どもの家庭への支援、地域の子育て家庭への支援(対面)</p> <p>保育所を利用している家庭への支援・地域の子育て家庭への支援・幼稚園の子育て家庭への支援など様々な支援の方法を取り上げ考察する。 予習:教科書116~126ページを読んでおくこと。復習:授業で学んだ内容を復習すること。(計約2時間) E:あり F:あり</p> <p>第13回 【対面</p> <p>要保護児童およびその家庭に対する支援(対面)</p> <p>子どもの貧困、児童虐待への対応、障害への早期対応、外国につながる子どもと家族への支援、施設に入所する子どもとその家庭への支援について理解する。 予習:教科書127~131ページを読んでおくこと。復習:授業で学んだ内容を復習すること。(計約2時間) E:あり F:あり</p> <p>第14回 【対面</p> <p>子ども家庭支援に関する現状と課題(対面)</p> <p>学生自らが考える子ども家庭支援に関する課題とあるべき子ども家庭支援の姿について議論し、発表する。 予習:教科書132~135ページを読んでおくこと。復習:授業で学んだ内容を復習すること。(計訳時間) A:多 B:多 E:あり F:あり</p> <p>第15回 【対面</p> <p>授業総括(対面)</p> <p>これまでの授業を振り返り、子ども家庭支援における保育士等の役割を確認する。 期末試験に向けて資料やノートの整理を行う。 予習:教科書、資料、ノートを見直す。復習:整理した資料やノートを確認する。(計約2時間) E:あり F:あり</p> <p>試験 期末試験</p>
教育目標との関連	社会変動が家族関係や養育システムに影響を及ぼし、個々の家庭生活の質を大きく変化させていることを認識することで、決められた一通りの支援を行う保育士ではなく、目の前の家族のニーズに合わせた支援を行える保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、働き方や子育てのあり方について考えられるようにする。
到達目標(学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各家庭のニーズに合わせて家族や地域と連携することの大切さを説明できる。 2. 支援に関する基本的原則や手順を踏まえ、子育て支援に向けて適切な判断ができる。 3. 支援が必要な状況を分析し、論じることができる。 4. 支援が必要な人の気持ちに寄り添いながら、子どもの最善の利益を追求することができる。 5. 多様性を尊重し、望ましい解決策に導くことができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>授業態度:20%</p> <p>振り返りシート・発表:30%</p> <p>試験:50%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	授業態度期末試験終了後にGoogle Classroomにて配信(詳細日時は授業内で伝達)
教科書	児童の福祉を支える子ども家庭支援論 吉田眞理 萌文書林 2019年発行 2,200円
参考書	特になし
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り

履修上の注意、条件等	子どもに限定せず、子どもを取り巻く大人たちが抱える問題を取り上げていきます。 シラバスの内容は履修学生の理解度などにより多少の変更もあります。
オフィスアワー	研究室に掲示します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村 聖子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F102
添付ファイル			
ルーブリック(乳児保育 I) .pdf			
カリキュラムマップ(乳児保育 I) .xlsx			

講義概要	<p>乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も著しく成長する時期である。この時期に、乳児が「安心感」を抱いて毎日を過ごすことが、将来の健全な心と身体を形成するうえで非常に重要である。全ての子どもが、安全な環境のもとで安心感を抱き、自尊感情を高くもちながら生活できる保育のあり方が求められている。2018年から施行された新たな保育所保育指針では、乳児保育の位置付けが一層重視されている。保育者にも、乳児保育を行ううえでの様々な専門性が必要とされている。</p> <p>本講義では、健康管理や発達段階をしっかりと踏まえ、発達や人格の個性を見極めながら、乳児の健やかでなごやかな人格形成を援助するための知識や技術を学ぶ。子どもを一人の人間として受け止め、個性や可能性を尊重する保育、環境をとらして子どもの今、ここを大切に保育という、乳児保育の基本的な倫理、判断についても学ぶ。領域「健康」「表現」「人間関係」「言葉」「環境」との関連は深い。また、「食育」や「児童福祉」との関連も重要である。</p> <p>教材として、講師が勤務する認可保育所での日々の子どもの姿を事例として扱う。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について</p> <p>乳児保育の歴史をたどり、乳児保育の意識変遷について考察する。</p> <p>保育所保育指針第1章『保育所保育に関する基本原則』、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章『幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本』を確認する。</p> <p>復習：テキスト第1章『乳児保育の目的』を確認する。(1時間)</p> <p>予習：保育所保育指針第4章『子育て支援』を読み、子どもの育ちと家庭との連携の重要性及び保育士の役割について考える。(1時間)</p> <p>B:少 E:あり F:あり</p>
第2回	<p>育児不安の背景と、家庭での保育の現状と課題について</p> <p>核家族が多くを占める我が国だが女性の社会進出と家事・育児の両立に光を当て、『育児不安の背景』『父親・母親像』『父親・母親としての成長』について意見交換をする。</p> <p>復習：意見交換からいろいろな考えがあることを知り、保育士の立場から保護者支援について再考する。(1時間)</p> <p>予習：子育てに関するニュースに関心を持ち、虐待事例をひとつ取り上げ、保護者の目線からまた保育士として保護者支援の立場から考察する。(1時間30分)</p> <p>A:多 E:あり F:あり</p>
第3回	<p>3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(1) 0歳児の発育、発達</p> <p>保育所保育指針2章-1『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認する。</p> <p>母体内から外界への環境変化に適応すべく、著しい発達・発育が見られる0歳児について学ぶ。愛着の重要性について意見交換をする。</p> <p>復習：乳児(0歳)の発育、発達についてまとめる。(1時間)</p> <p>予習：テキスト第3章『0歳児の保育』及び保育所保育指針第2章-1(乳児保育の内容)を読む。(1時間30分)</p> <p>B:少 E:あり</p>
第4回	<p>3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(2) 1歳児の発育、発達</p> <p>保育所保育指針第2章-2『1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容』について確認する。</p> <p>運動機能の発達、探索活動の活発化、情緒の深まりなど、1歳児ならではの特性について押さえる。自発的、能動的な働きかけが多くなり、玩具などを実物に見立てる象徴機能が発達し、人との関わりがより強まる時期であることを理解する。</p> <p>復習：1歳児の発育、発達についてまとめる。(1時間30分)</p> <p>予習：テキスト第3章『1、2歳児クラス』及び保育所保育指針第2章-2を読む。(1時間)</p> <p>B:少 E:あり F:あり</p>
第5回	<p>3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(3) 2歳児の発育、発達</p> <p>保育所保育指針2章-2『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認していく。</p> <p>基本的運動機能や指先が発達する。行動範囲は広まり、自我の育ちの表れとして自己主張が強くなる時期であることを理解する。事例を通して、2歳児クラスの保育について考える。</p> <p>復習：2歳児の発育、発達についてまとめる。(1時間30分)</p> <p>予習：テキスト第4章『おおむね2歳児への援助』及び保育所保育指針第2章-2を読む。(1時間30分)</p> <p>B:少 E:あり F:あり</p>
第6回	<p>第3～5回まとめと幼児クラスへの移行</p> <p>保育所保育指針第2章-3『3歳以上児の保育に関するねらい及び内容』について確認する。</p> <p>乳児クラスから幼児クラス(3歳クラス)へ移行する時期と保育について、そのつながりの重要性について意見交換する。</p> <p>復習：乳児クラスから幼児クラスへの移行についての配慮点をまとめる。(1時間)</p> <p>予習：テキスト3～4章、保育所保育指針第2章-1、2、3を再読する。(1時間)</p> <p>B:少 E:あり F:あり</p> <p>【振り返り】第1回～5回の振り返りテストを行い、3歳未満児の発育発達の理解を深める。なおテストは第7回目に返却、解説する。</p>
第7回	<p>保育所における乳児保育</p> <p>保育所の1日について、朝の視診・受け入れから降園までの流れ、保育内容及び保護者対応につ</p>

	<p>いて学ぶ。基本的な生活習慣とは何か。またそれを身につけるための働きかけ、内容について考える。</p> <p>復習:朝の視診の重要性及び配慮点についてまとめる。(1時間)</p> <p>予習:テキスト第6章『家庭との連携』、保育所保育指針第1章『養護に関する基本的事項』を読む。(1時間)</p> <p>E:あり F:あり</p>
第8回	<p>保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(1) 乳児院</p> <p>乳児院の1日(24時間)について、その流れ及び保育看護について学ぶ。</p> <p>乳児院の役割と変遷、機能、乳児院での養育の基本について意見交換をする。</p> <p>復習:テキスト第1章『乳児保育の歴史的な流れ』を再確認し、その社会的役割を考える。(1時間)</p> <p>予習:テキスト第6章乳児に関する専門機関について確認する。(1時間)</p> <p>B:多 E:あり</p>
第9回	<p>保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(2) 児童養護施設</p> <p>乳児院から児童養護施設への措置変更について子どもの立場に立ち援助点考える。</p> <p>児童養護施設の歴史的変遷及び社会的役割について、考察する。</p> <p>児童養護施設に勤める保育士としての責任、位置づけについて考察する。</p> <p>復習:身近にある児童養護施設の形態及び役割、職員の配置について調査する。(2時間)</p> <p>予習:テキスト第4章保育所の果たす役割を読む。(1時間)</p> <p>C:多 E:あり</p>
第10回	<p>【振り返り】第7回～9回の授業の振り返りテストを行う。保護者を支援する施設の役割について理解し、さらに施設のあり方について深めたい内容をまとめる。なおテストは第10回目に返却、解説する。</p> <p>保護者との連携、協働・自治体や地域の関係諸機関との連携、協働</p> <p>保育所保育指針第4章に謳われているように、保育所における保護者支援は『入所している子どもの保護者』だけではなく『地域における子育て支援』も含んでいる。保護者支援は保育士等の重要な業務である。その専門性を生かした関わり及び地域での保育所の位置づけについて学ぶ。</p> <p>復習:保育所保育指針第4章を再読し『地域の保護者などに対する子育て支援』の実際について調査する。また『子どもの虐待ニュース』については常に関心をもって見るようにする。(2時間)</p> <p>予習:テキスト第6章乳児保育のネットワーク、保育士の役割を読む。(1時間)</p> <p>A:少 E:あり F:あり</p>
第11回	<p>保育者の資質向上と連絡、協力</p> <p>育児不安や悩みを抱えて子育てをしている保護者が、苦悩の末に大きな喜びを発見した事例(4例)を扱い検討する。懇談会などで保育者がファシリテータの役割をしながら、保護者の育児力を高めるためにはどうしたらよいか、また職種間の連絡、協力について意見交換をする。</p> <p>復習:保育所保育指針第5章『職員の資質向上』を読む。自分が居住する地域の様々な『子育て支援』について調査する。(3時間)</p> <p>予習:テキスト第2章家庭で育つ乳児と親の現状を読む。(1時間)</p> <p>B:多 E:あり F:あり</p>
第12回	<p>家庭における乳児の保育</p> <p>家庭における0歳児、1歳児、2歳児の日常について学ぶ。</p> <p>家庭と保育所二つの文化を行き来する入所している0歳児、1歳児、2歳児に焦点を当て、その生活の連続性について考察する。</p> <p>また事例を通して子どもとおしの衝突と保育士の関わり方について意見交換をする。</p> <p>復習:テキスト第2章『家庭で育つ・育てる』及び保育所保育指針第4章を再読しする。(1時間)</p> <p>予習:第1回～12回の授業内容の再確認をする。(3時間)</p> <p>B:多 E:あり F:あり</p>
第13回	<p>学びの振り返り I</p> <p>【振り返り】(1)乳児保育の変遷と社会的役割(2)女性の社会進出と子育ての両立・育児不安(3)3歳未満児の発育・発達(4)家庭・保育所・乳児院・児童養護施設で育つ子ども(5)専門職保育士の役割(6)地域諸機関との連携について総まとめをする。</p> <p>前半に『乳児保育 I』のミニテストを行い、後半解説する。</p> <p>復習:ミニテストの確認を行う。(1時間)</p> <p>B:あり E:多 F:多</p>
試験	<p>乳児保育 I 試験</p>
第14回	<p>学びの振り返り II</p> <p>【振り返り】育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。</p> <p>復習:第1回～14回の配布資料(テストを含む)、保育所保育指針、テキストの学習箇所を再確認する。(1時間)</p> <p>保育所の乳児保育の担当保育者の話を聞く。(1時間)</p> <p>B:あり E:多 F:多</p>
第15回	<p>学びの振り返り III</p> <p>【振り返り】育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。</p> <p>復習:第1回～14回の配布資料(テストを含む)、保育所保育指針、テキストの学習箇所を再確認する。(1時間)</p> <p>乳児院の保育者の話を聞く。(1時間)</p> <p>B:あり E:多 F:多</p>
教育目標との関連	<p>乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しつつ創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所・こども園、二つの文化の中で生きる乳児にとって、日中の保護者である保育士の存在は極めて大きい。乳児の発育発達の理解はもとより、実践に必要な知識、技術をしっかりと身につけた上で現場に立ちたい。</p> <p>主体的に行動し、職種間の連携を大切にし、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題意識を持ち探求し続けることが求められる。</p>

到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1 乳児保育の意義及び乳児の発育発達について理解し、産休明け児及び月齢、年齢に合わせた保育実践ができる。 2 育児不安の背景、乳児保育の今日的課題を把握し、入所児の保護者だけでなく地域の保護者等に対する子育て支援について考えることができる。 3 保育士として求められる基本的姿勢（時間厳守、守秘義務など）を身につけるよう努力し続ける。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1 試験 50% 総まとめとして定期試験を1回行う。授業全般から総合的な理解を確認する。 2 提出課題 30% その都度課題を与えるので授業内容を踏まえて課題意識を持ち自分なりの考えを述べてほしい。評価方法はルーブリックを用いて行う。 3 発表・平常点 20% 授業内容の振り返り（小テストを適宜行う）及び宿題確認を行う。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	試験後の授業内で解説を行う。
教科書	乳児保育演習ブック 第2版 松本峰雄 ミネルヴァ書房 2,500円 保育所保育指針 保育所保育指針解説
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	実習や日常生活の中で目にする乳児の姿に注目して、乳児について理解を深めようとする態度が必要である。毎回、授業の最後を書くリフレクションシートをもとに、次回授業では復習や補講を行う。
履修上の注意、条件等	DVDやビデオ視聴時には、その記録を基にレポート課題の提出を求める（その都度指示）。提出物の提出期限厳守のこと。また授業開始時間までに授業準備をし着席していること。毎回必ず、『教科書』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』を持参すること。
オフィスアワー	授業の前後で対応する
備考・メッセージ	乳児保育の大切さ、楽しさをみなさんと共有できる授業にしたいと思います。講義、演習を毎回行いました、また、授業の最後にリフレクションシートを記入してもらいますので、考えたことを書いて必ず提出してください。出席確認及び理解度の確認とします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1 単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
土屋 葉子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F108
添付ファイル			
乳児保育II カリキュラムマップ.pdf			
乳児保育II rubic 到達目標 .pdf			

講義概要	<p>「乳児保育II」では、次を目標に学ぶ。1. 学んだ知識や理論を実際に保育士になった場合に生かせるような実践力を養う。2. 国際感覚を養い、海外の保育事情にも目を向けて、現在特に小さい子ども達が世界でどのような状況にあるのか、その中で日本の子ども達がどのように位置づけられるのかを理解する。3. 乳児期の心身の発達段階の知識を深め、どのように保育士が関わっていくのか自らが理解できるようにする。4. 医学的、生理学的な知識を深めて乳児と成人との違いを知り、特に乳児期に注意すべき症状、病気や感染症を学び実践に結び付ける。5. とくに乳児期に起こりやすい事故やヒヤリ・ハットに注目し、それを未然に防ぐための知識や技術を習得する。6. 乳児期から始まる健全なライフスタイルが培うためにどのような支援や関わりができるのか自ら選択できるようにする。グループディスカッション、ケーススタディ、ロールプレイなどを含めて学習を進める（シラバスの内容は他の教科との関係で変更されることがある）。</p> <p>他の科目との関連：「乳児保育I」の学びを確認し実践につなげられるようにする。「子どもの健康と安全」「子どもの保健」で特に乳児期に注意すべき学びを振り返り実践につなげられるようにする。</p> <p>講師は、保育学科、健康科学学科など教育機関での講師歴の他に、外資系大手IT企業勤務。JICA（国際協力事業団）外郭団体非常勤研修管理員（通訳を含む）など多文化の環境で働いた実務経験があり、その経験を生かし多文化、多様性の中で働く意味も共有したい。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>オリエンテーション。乳児保育を学ぶ意義（The orientation, the meaning to learn infant care）</p> <p>オリエンテーション。講師自己紹介。乳児保育を学ぶ意義、世界の子ども達の現状、WHO（世界保健機関）が定義する子どもの健康とその増進、子どもに関わるSDGs、UNICEF（国連児童基金）から見る世界の子ども達、日本の人口統計（出生率、合計特殊出生率）などについて学ぶ。</p> <p>演習：ディスカッション。 予習：シラバスを読み質問があれば準備する。事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第2回	<p>乳児の成長と運動機能の発達その1（The growth of infants and development of physical function, part1）</p> <p>生物としての発達と身体の成長（胎児として胎内での発達）、乳児の成長と運動機能の発達、原始反射とその意味について学ぶ。</p> <p>演習：人形を使用した赤ちゃんのだっこの仕方、身体測定の仕方（頭囲、胸囲、身長、体重） 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第3回	<p>乳児の成長と運動機能の発達その2（The growth of infants and development of physical function, part2）</p> <p>乳児の成長と運動機能の発達、デンバー発達判定法、粗大運動、微細運動の発達について学ぶ。デンバー発達判定法の表の見方に慣れる。</p> <p>演習：デンバー発達判定法を実際に読んで乳児期の発達について再確認する。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第4回	<p>乳児の発育・発達と生活習慣その1（The growth and development of infants and their life-style part1）</p> <p>乳児の発育・発達と生活習慣、食事、排泄、睡眠、着替え、清潔を学ぶ。ここでは、乳児の発達に合わせた睡眠（睡眠のサイクル、リズム、快適な環境）と清潔の援助（沐浴の意義と方法、手を拭く、洗う）について学ぶ。</p> <p>演習：沐浴の方法について確認し、人形を使ってシミュレーションを行う。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第5回	<p>乳児の発育・発達と生活習慣その2（The growth and development of infants and their life-style part2）</p> <p>乳児の発育・発達と生活習慣を学ぶ。ここでは排泄と着脱 発達に合わせた排泄（乳児期の発達における排尿と排便の変化、トイレトレーニング）と衣類やその他の着脱とその援助（自主性の尊重と関わり方）などについて学ぶ。</p> <p>演習：おむつの交換の仕方を、人形を使用して学ぶ。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第6回	<p>乳児の発育・発達と生活習慣その3（The growth and development of infants and their life-style part3）</p> <p>乳児の発育・発達と生活習慣を学ぶ。ここでは、乳児期の食事と栄養、食習慣の確立の意義、母乳と調製乳の特徴と違い、授乳の準備と手順、乳幼児期に必要な栄養、発達に合わせた離乳食の</p>

	<p>開始と意義、スプーン使いについて、アレルギーや宗教上の制限のある子どもへの配慮などを学ぶ。 演習：哺乳瓶を使用して授乳の準備と方法を学ぶ。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第7回	<p>乳児の精神機能の発達 (The mental and psychological development of infants) 乳児期の情緒、情動の発達、認知について学ぶ。ブリッジスの感情の発達理論、エリクソンの生涯発達理論、ピアジェの認知学理論、ボウルビイのアタッチメントの形成などを学び、その理論がどのように実践に生かされるのか、ケーススタディやディスカッションを通じて学ぶ。 演習：ケーススタディを使用してディスカッションを行う。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第8回	<p>乳児の身体の構造 (The body structure of infants to know specific difference from adults) 乳幼児と大人の身体の構造の違いを学ぶ。乳児期の脳、消化管の発達、骨の役割、呼吸器（胎児呼吸から肺呼吸への移行）、循環器の発達などを学ぶ。 演習：ケーススタディを使用してディスカッションを行う。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第9回	<p>乳児の健康状態の把握 (The typical and frequent symptoms observed in infants) 乳児期によくみられる症状とその対応について学ぶ、乳児期のバイタルサインの特徴とその測定方法、発熱の症状と発熱を伴う病気とその対応、腹痛、嘔吐や下痢の症状とそれを伴う病気とその対応について学ぶ。 演習：ケーススタディおよびディスカッション。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第10回	<p>乳児期に多い注意が必要な病気 (The diseases specifically observed in infants) 乳児期にみられ注意が必要な感染症、先天性の病気、低体重出生児と対応の注意点、呼吸器疾患、乳幼児突然死症候群について学ぶ。 演習：ケーススタディおよびディスカッション。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第11回	<p>0歳の乳児の保育の流れと遊び (The daily infant care flow and plays preferred / new born to 12 months' infants) これまで学んだ発達を振り返りこの時期の発達を促す遊びやおもちゃ、絵本などについて自ら考える。おおまかな一日の流れや全体的な計画、指導計画や記録、家庭とのコミュニケーションについて学ぶ。 演習：ケーススタディおよびディスカッション（発達に合わせたおもちゃや遊びを考え発達を考えて簡単なおもちゃを作成してみる）。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第12回	<p>1歳以上3歳未満の乳児の保育の流れと遊び (The daily infant care flow and plays preferred / 1 year up to 3 years old' infants) これまで学んだ発達を振り返りこの時期の発達を促す遊びやおもちゃ、絵本などについて自ら考える。おおまかな一日の流れや全体的な計画、指導計画や記録、家庭とのコミュニケーションについて学ぶ。 演習：ケーススタディおよびディスカッション（発達に合わせたおもちゃや遊びを考え発達を考えて絵本の読み聞かせをしてみる）。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。 A:中 B:中</p>
第13回	<p>乳児の健康と安全 (The health and safety of infants) 乳児期の発達に伴って起こりやすい事故をケーススタディによって学ぶ。ヒヤリハットやハザードマップについても学ぶ。 演習：実際のケーススタディから簡単なハザードマップを作成する。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る。試験にそなえた勉強をする（30分）。 A:中 B:中</p>
第14回	<p>注意を必要とされる子どもへの対応 (The Infants who need special attentive care) 近年発達障害と診断される子どもの数の増加が目まぐるしくなっている。これらの子ども達に対する乳児期の対応について考える。 演習：ケーススタディから対応を考える。 予習：事前に配布する資料を読んでおく（30分）。 復習：復習ワークシートで授業を振り返る（30分）。試験にそなえた勉強をする。 A:中 B:中</p>
第15回	<p>期末試験の振り返りとまとめ (The review of exam and rap up of the course) 期末試験の振り返りとまとめを行う。 コースのまとめとして子どもひとりひとりに寄り添うことの出来る保育者になるためにどうしたら良いか考える。 予習：試験でわからなかったところを確認しておく（30分）。 復習：コース全体を振り返り今後の勉強に備える（30分）。</p>
教育目標との関連	<p>近年、保育所に通う子どもは低年齢化しその乳児の数は増加している。また、共稼ぎの増加、片親や外国籍の子どもが増加などそのニーズも多様化しながらも質の高い保育が求められている。社会に常に目を向けて多様性に対応しながら子ども一人一人の気持ちに寄り添って現場に立てるプロフェッショナルとして、必要な知</p>

	識や技術、また、子ども達が健全に育つことができるように地域との連携や家庭とのコミュニケーションスキルの習得を目標とする。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 子どもの成長に重要な乳児期の愛着や信頼の形成を促し子どもの主体性のある成長を援助できる力を習得できる。 2. 家庭的で落ち着いた環境の中で、乳児がのびのびと発達、成長し人的活力を得るために必要なことは何かを判断できる。 3. 乳児の多様なニーズを理解し、一人一人の気持ちに寄り添える能力を身につけている。 4. 乳児ひとりひとりの発達の差に関心を持ち、個性の違いを尊重する力を獲得している。 5. 国際感覚を持ち多様化する保育のニーズに対応しひとりひとりの子どもに寄り添う能力を身につけている。 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループブックによる評価基準	1 試験 60% 総まとめとして期末試験を指定された日に実施する。授業全般から総合的な理解を確認する。 2 中間レポート 20% 課題は授業内で連絡する。 3 取り組みの姿勢 20% 授業への取り組みの姿勢を評価する。 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第15回目の授業に期末試験のフィードバックとまとめを行う。
教科書	毎回授業前に資料を配付する。
参考書	乳児保育I・II 中央法規 児童育成協会 編集 寺田清美他 2600円 2019年3月1日 ISBN 978-4-8058-5795-3 演習で学ぶ乳児保育 わかば社 編著 善本真弓 1600円 2020年5月30日 ISBN 978-4-907270-29-2
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎回授業前に配付資料に目を通す（30分）。 復習ワークシートで授業の振り返りを行う（30分）。
履修上の注意、条件等	特になし。
オフィスアワー	質問その他は授業の前後に教室にて受け付ける。
備考・メッセージ	子育てに関するニュースを意識して見るようにすること。 全ての回で対面授業とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
赤松 広美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F201
添付ファイル			
特別支援教育（障害児保育）Ⅱカリキュラムマップ.pdf			
特別支援教育（障害児保育）Ⅱループリック.pdf			

講義概要	この科目はⅠ・Ⅱで構成される特別支援教育（障害児保育）Ⅱにあたる。本教科では、昨年度主に学んできた障害自体についての学びを基礎に、子どもの保育上のニーズを理解し、効果的に支援していくために必要な具体的な方法を考え学ぶ。さらに、障害児だけでなく特別な支援を要する子どもたちへの支援について事例を通して考えていく。また、親や関係機関等とどのように共同・協働して切れ目のない支援を行っていくかについても学ぶ。 授業者は知的障害者入所施設、児童発達支援センター等における実務経験に基づき、具体的な事例を紹介しながら授業を実施する。
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回 オリエンテーション（対面） 講義概要を理解する。 予習：特別支援教育（障害児保育Ⅰ）を復習する。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） B：少 E：あり</p> <p>第2回 なぜ特別な支援が必要なのか（対面） 保育や子育てで求められている様々な支援のニーズについて学ぶ。 予習：特別支援教育で扱ったインクルーシブ保育について復習し、授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） B：中 E：あり F：あり</p> <p>第3回 発達を理解する（対面） 「発達」という言葉をキーワードに、様々な視点から保育者として必要な知識や個人差について学ぶ。 予習：一年次に学習した発達検査について復習し、授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） B：少 E：あり</p> <p>第4回 障がいの特性を理解し、子どもと保護者への具体的な支援方法を身につける①（対面） 肢体不自由、知的障がい、視覚障がい、聴覚障がいについて学び、具体的な支援方法を身につける。 予習：一年次の授業内容を復習し、授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） A：中 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第5回 障がいの特性を理解し、子どもと保護者への具体的な支援方法を身につける②（対面） 病弱虚弱、重症心身障がい、言語発達障がいについて学び、具体的な支援方法を身につける。 予習：一年次の授業内容を復習し、授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） A：少 B：中 E：あり</p> <p>第6回 障がいの特性を理解し、子どもと保護者への具体的な支援方法を身につける③（対面） ASD、ADHD、LDについて学び、具体的な支援方法を身につける。 予習：一年次の授業内容を復習し、授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） B：少 E：あり F：あり</p> <p>第7回 障がいの特性を理解し、子どもと保護者への具体的な支援方法を身につける④（対面） 障がい当事者の事例を通じて、本人が抱える「生きづらさ」や「困り感」について再考し、保育者に求められる資質や価値観を探る。 予習：東田直樹氏の人物像を調べてから授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） B：中 E：あり F：あり</p> <p>第8回 特別な支援を必要とする子どもへの理解と保護者への具体的な支援方法を身につける①（対面） 感覚過敏、感覚鈍麻を抱える子どもが感じている「生きづらさ」や「困り感」を知り、保育者としての支援の手立てについて考える。また感覚統合の考え方を理解し、感覚遊びを実際に体験する。 予習：HSP（HSC）を調べてから授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） A：中 B：中 E：あり</p> <p>第9回 特別な支援を必要とする子どもへの理解と保護者への具体的な支援方法を身につける②（対面） LGBTQ+の子どもたちが感じている「生きづらさ」や「困り感」を知り、保育者としての支援の手立てについて考える。 予習：LGBTQ+を調べてから授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（計約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第10回 特別な支援を必要とする子どもへの理解とほごしゃへの具体的な支援方法を身につける③（対面） 外国につながるのある子どもが感じている「生きづらさ」や「困り感」について知り、保育者としての支援の手立てについて考える。</p>

	<p>予習：関心のある外国の文化・風習について調べてから授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。(計約2時間) A：中 B：中 E：あり</p> <p>第11回 個別の支援計画の作成、他機関との連携(対面) 小学校や特別支援学校への接続を知り、子どもの一生を見通したサポートプランを考える。 予習：第10回の授業時に指示した課題に取り組んでから授業に臨む。復習：授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。(計約2時間) B：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 課題発表へ向けた準備(対面) 発表に向けて各自が発表原稿や資料を作成する。 予習：第11回の授業時に指示した課題に取り組んでから授業に臨む。復習：課題発表の準備する(計約2時間) A：多 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 課題発表①グループ(対面) 発表者の話を聴き、質疑応答を行う。 予習：第12回の授業時に指示した課題に取り組んでから授業に臨む。復習：クラスメートの発表を聴いて学んだことを復習する。(計約2時間) A：多 B：多 D：多 E：あり</p> <p>第14回 課題発表②グループ(対面) 発表者の話を聴き、質疑応答を行う。 予習：第13回の授業時に指示した課題に取り組んでから授業に臨む。復習：クラスメートの発表を聴いて学んだことを復習する。(計約2時間) A：多 B：多 D：多 E：あり</p> <p>第15回 授業総括(対面) これまでの授業を振り返り、資料、ノートを整理する。 予習：授業での学びを振り返る。復習：関連箇所を資料などで確認する。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。(計約2時間) B：少 E：あり</p>
教育目標との関連	障害児保育についてIから更に学びを深め、主体的に障害児保育の理論と実践について考え、議論することで知識・思考力を身につけ、支援者としての感性を磨く。
到達目標(学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明することができる。 2. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明することができる。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について適切な判断ができる。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの人権を尊重し、保育に関する現状と課題について問題意識を持つことができる。 <p>(到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること)</p>
評価方法および評価基準	<p>授業態度：10% 発表・提出課題：40% 試験：50%</p> <p>1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末試験終了後にGoogle Classroomにて配信(詳細日時は授業内で伝達)
教科書	特になし
参考書	障害児保育ワークブック 星山麻木 萌文書林 2019年発行 2,090円
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室に掲示します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
山下晶子、八木真祈			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F206
添付ファイル			
自然遊びカリキュラムマップ.pdf			
自然遊びと生活環境保全IIループリック.pdf			

講義概要	<p>短大付近を散策すれば、都会の車の騒音などは聞こえず、風による葉の重なりあう音がまるで海の波の音のように聞こえ、歩けば落ち葉の絨毯が感じられる自然環境が豊かな場所である。また、四季の変化を実感できる場所でもある。一方、短大から駅まではバスや乗用車がひんぱんに通る中、親子が幼稚園に通う姿や公園で遊ぶ姿が見られる生活環境もそこにある。保育者として、遊びの素晴らしさについて、また安全や健康を守る観点からの生活環境について、体験や実験を通して考えていくことは非常に重要である。</p> <p>そこで、これらの学習を「資質・能力の三つの柱」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から捉え、幼稚園や保育園などの活動に役立てることができるように行う。</p> <p>他の科目との関連：1年生前期の「自然遊びと生活環境保全I」の内容は春から夏の中の活動であるが、この科目は秋から冬の季節の活動で、1年間の季節の変化が感じられる内容になっている。また、1年前期「幼児と環境」の体験型の学習内容となっている。（専攻科「保育内容特論」ではこの科目を土台にして、保育者の観点から環境構成や活動計画を立案できるようにしている。）</p> <p>担当教員は、保育者実務が35年以上の保育者としての実務（園長経験あり）の豊富な経験を生かし、具体的な子どもの姿から、言葉の発達の事例や映像等により保育を伝えていき、現場子どもをイメージできるように授業をすすめます。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション及び「育みたい資質・能力」の観点から考えるおもちゃ遊び この授業全体について「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点からこの活動を考える意義を説明する・予習：シラバスを読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出（約2時間） A：中 B：小 D：小 E：あり F：あり</p> <p>第2回 芝人形づくり 生命の営みにふれ、生物の多様性がもたらす「めぐみ」により豊かな生活は成り立っているということを知る。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出（約2時間） A：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第3回 秋の自然散策 短大から里山までネイチャーゲームを行いながら散策する。予習：ネイチャーゲームの解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出（約2時間）A：多 B：小 C：中 D：小 E：あり F：あり</p> <p>第4回 どんぐりおもちゃ製作 短大には多くの種類のどんぐりがあり、それを集め、おもちゃを製作する。多くの。予習：解説書を読んでおく。 復習：「絵日記」のメール提出（約2時間）A：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第5回 安全に配慮した自然散歩コースづくり 自然散策を行うための安全に配慮した整備を行う。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第6回 自然物モビールづくり 自然散策で集めた自然物をつかってモビールを製作する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第7回 ネイチャーゲーム① 手引書に従ってネイチャーゲーム「落ち葉の窓」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第8回 ネイチャーゲーム② 手引書に従ってネイチャーゲーム「しぜんだいすきさがし」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第9回 フリスビー遊び 古新聞紙を利用したフリスビーづくりとその遊びを行う。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。 復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第10回 交通安全 短大近くの小学校の通学路を歩き、危険だと感じられる箇所の写真を撮り、幼稚園などの安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第11回 植物を植えよう（花を育てよう） 春に花が咲く植物の球根を植える。春に花が咲くことを楽しみに植えて監査鶴をする。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 C：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 自然の風と遊ぼう（凧あげ） 風を受けて遊ぶ凧あげを楽しみながら、自然の面白さを味わう。</p>

	<p>事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 室内空気汚染 室内の化学物質による健康被害の事例から対策を安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 SDGsについて考える この授業内容に関するSDGsについて子どもたち、保育にとって環境を大切にすることはを考える。予習：授業全体をまとめておく。復習：「授業の振り返り」を classroomで提出。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 「学びの振り返り」 「自然遊びと生活環境保全」の振り返りと、試験の解説を行い、まとめとして遊びと生活環境保全Ⅱの意義について理解する（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	自然体験や安全な生活環境に関する「知識・理解」並びに「表現力」を修得する。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1 「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」を保育に役立つ視点から関係づけることができる。</p> <p>2 「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」で得た知識・理解を基にどのような保育活動が適切なのかを工夫し、思考することができる。</p> <p>3 秋から冬の自然の美しさや面白さの発見を通して生命の尊重の大切さを理解し、表現できる。</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>・授業全般について、①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（70%）、classroomなどによる振り返り「感想及びわかったこと」提出（10%）授業態度等（20%）総合的に評価します。</p> <p>評価基準は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	15回目の授業時にて、模範解答を配布する。丁寧に解説を行う。学生の疑問点等 구글クラスルームにて個別でも質問を受けて答えていく。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	授業中に適宜、資料を提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り（1日120分行うこと）
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度により変更の可能性もある。
オフィスアワー	研究室にて受け付けます。時間等は研究室に掲示します。
備考・メッセージ	原則対面授業。保育者になる意識で授業に参加するようにしましょう。シラバスの内容について、時間、天候等により変更する場合があります。

講義科目名称： 保育実習指導 I（保）

授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	保育士必修
担当教員			
渡邊 眞理、松山 綾子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G103
添付ファイル			
保育実習指導I(保)ルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>本科目を通して学生は、保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習に際しての留意事項（実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）について理解し、実習生としての心構えを養う。さらに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容などを理解した上で、具体的な準備を進めてゆく。実習終了後には、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>他の科目との関連：本科目を通して、学生は保育実習 I（保育所）の事前準備や事後の振り返りをする。</p> <p>担当教員は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 保育実習指導 I（保）の授業の概要について（学内オリエンテーション①） 保育実習 I（保）の概要と、学内で定められた履修基準について理解する。 ・保育実習 I（保）に臨むにあたっての心構えについて理解を深める。 ・実習の流れを知る。 ・実習におけるマナーなど、立ち居振る舞いの確認をする。 B：中 予習・復習：「保育・教職の手引き」を読んでおくこと。（約1時間）</p> <p>第2回 保育所について学ぶ ・保育所及び保育所保育について理解する。 ・保育所に求められていることについて学ぶ。 ・保育実習での学びを考える。 B:中 E:あり F:あり 予習：保育所保育指針、テキストに目を通す(1時間) 復習：授業内で学んだ保育所、及び保育所保育について整理しノートにまとめる(1時間)</p> <p>第3回 子ども理解と保育実習 ・子どもの発達について理解する。 ・子どもの発達に応じた生活及び遊びを学ぶ。 ・保育実習における子ども観察の視点について考える。 B:少 E:あり 予習：子どもの発達について確認する。（テキスト、保育所保育指針の読む箇所については授業内で伝える）（1時間） 復習：授業内で学んだ子どもの発達について整理しノートにまとめる（1時間）</p> <p>第4回 実習課題の明確化 ・観察の視点、参加について理解する。 ・実習園を調べる ・実習課題を考案する。 A：少 B:少 E:あり 予習：実習における観察の視点、参加についてテキストを読む。（1時間） 復習：実習課題を完成させる（1時間）</p> <p>第5回 実習に向けての教材研究 ・保育における教材について学ぶ。 ・自己紹介に向けての教材を考える。 ・自己紹介の練習をする。 A:中 B:少 D:少 E:あり 予習：自己紹介の練習をする(1時間) 復習：自己紹介の実践を通し修正する箇所をまとめノートに記述する(1時間)</p> <p>第6回 指導案の立案① ・子どもの発達に応じた指導案を立案する。 ・子どもの発達に応じた絵本、手遊びを知る。 A:少 B:中 予習：絵本、手遊びを考える(授業内で指示を出す)(2時間) 復習：指導案を立案する(1時間)</p> <p>第7回 指導案の立案② ・立案した指導案を実際に実践し実習の課題を明確にする。 ・実践を通し演じ方、声の出し方、伝え方を学ぶ。 A:中 D:少 E:あり 予習：絵本の読み聞かせ、手遊びを練習する(1時間) 復習：実践を通し指導案の加筆修正をする。指導案を完成させる（2時間）</p> <p>第8回 実習日誌の記録方法① ・日誌記述の内容を確認する。 ・観察記録の書き方についてメモの取り方やメモのまとめ方等具体的に学び、理解する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点の捉え方について理解する。 <p>B:少、E:あり 予習:日誌の記述についてテキストを読む。実習日誌に目を通す(1時間) 復習:授業の内容を整理しノートにまとめる。(2時間) 実習日誌の記録方法②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真及び映像を視聴し実際に日誌の記述をする。 ・考察、考察の書き方について理解する。 ・日々の目標と考察の関連について理解する。 <p>B:少 E:あり F:あり 予習:考察についてテキストを読む(1時間) 復習:日誌の記述について整理ノートにまとめる。視聴して記述した日誌を完成させる(2時間) 実習日誌の記録方法③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れを通し日誌記述について理解する。 ・実習のまとめ、今後に向けての課題について学ぶ。 ・日誌の提出等について流れを理解する。 <p>B:少 E:あり F:あり 予習:実習日誌の記録方法①、②を振り返り疑問点をまとめる(1時間) 復習:実習日誌の記録方法について整理しまとめる(1時間)</p> <p>第11回 自己課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間にわたる実習課題を明確にする。 ・実習の流れについて自己課題を設定することを通し確認する。 ・日誌の記述、指導案を確認し自己課題を設定する。 <p>B:中 E:あり F:あり 予習:実習期間にわたる自己課題について考えてくる(1時間) 復習:実習期間にわたる自己課題を明確にし記録す(1時間)</p> <p>第12回 先輩の実習体験報告から学ぶ(実習への理解を深める) 2年生から実習体験の話を聞き、実習に対する理解を深める。 B:中 E:あり 予習・復習:あらかじめ実習について質問したいことを考えたうえで参加する。(2時間)</p> <p>第13回 実習直前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションの受け方、電話の掛け方などの指導を行う。 ・実習日誌の事前記入欄について教員の指導を受ける。 <p>A:少 B:少 E:あり 予習・復習:各自で実習日誌の記入欄を完成させておく。(2時間)</p> <p>第14回 学内オリエンテーション②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前の心構えと諸注意事項について理解する。 ・実習後の流れについて理解する。 <p>A:少 B:少 E:あり 予習・復習:実習日誌、実習の手引き、実習園の資料を読み直しておく。(2時間)</p> <p>第15回 実習の振り返りと自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、自己課題を明確にする。 ・今後に向けての学びを考える。 ・自己評価レポート(最終レポート)に取り組み全員提出する。 <p>A:少 B:少 E:あり 予習・復習:実習日誌、実習園の資料を読み直しておく。(2時間)</p>
教育目標との関連	保育実習Ⅰ(保育所)に向けて行われる準備や振り返りを通して、学生は、社会生活に必要な教養や保育者としての確かな知識および実践的スキルを身につけてゆく。豊かな感性と愛の心を持った保育者を目指して学生は、実習に向けての努力を日々重ねていくことが求められる。
到達目標(学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実習に必要な保育スキルを習得する。 4. 子どもの人権と最善の利益について考えて、一人ひとりの子どもに配慮する心を養う。 5. 実習を振り返り今後の課題や学習目標を明確にすることで、誠実に学ぶ態度を身に付ける。 <p>※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準	提出課題 60% 受講態度 20% 実習課題の最終レポート 20% ※成績評価は添付資料のルーブリック参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	指導案、実習課題の最終レポートについて、授業内で解説し実習に向かう準備を整える。 実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。 実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』 小櫃智子他 わかば社 1400円(税別)
参考書	「保育所保育指針解説」平成30年 フレーベル館 厚生労働省/編 352円 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」平成30年、フレーベル館 内閣府/著 文部科学省/著 厚生労働省/著 385円」
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。(2時間程度は取り組むこと)他の科目との関連が深いため復習、テキストなどを読み返すなどが必要である。

履修上の注意、条件等	原則は、遅刻、欠席はできない。シラバスの変更あり。 保育者を目指すこと意識を持つこと。
オフィスアワー	質問等は各教員の研究室で、オフィスアワーに受け付ける。
備考・メッセージ	夏休みの宿題あり。基本対面授業で実施。

講義科目名称： 保育実習 I（保育所）

授業コード：

英文科目名称： Practical Training 1 (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	保育士必修
担当教員			
渡邊 眞理、松山 綾子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G102
添付ファイル			
保育実習I（保育所）ルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の5つの到達目標を達成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。 <p>他の科目との関連：1年生で学んだ科目を保育実習と結び付け理論及び技術を整理し身に付ける</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p>以上の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p>
教育目標との関連	<p>保育所での実習を通して、本学の目標である。幼児の心身の発達についての広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験を経て、保育者への適性を見直すことにより、自己理解を深める。</p>
到達目標（学修成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。 <p>※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準に従う。</p> <p>実習園が与えた評価 40%</p> <p>実習日誌などの評価 60% (最終レポートとしての実習自己評価表を含む)</p> <p>※ 委細については、保育・教職の手引きを参照すること</p> <p>※成績評価は添付資料のルーブリック参照</p>

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド わかば社 小櫃智子(代表) 1400円+税
参考書	『保育所保育指針解説書』平成30年 フレーベル館 厚生労働省/編 352円 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』平成30年、フレーベル館 内閣府/著 文部科学省/著 厚生労働省/著 385円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（保）の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅰ（保）を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰ（保）も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等についてはGoogleクラスルームまたは実習センターで受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習指導 I (施)

授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I (Welfare Facilities)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	保育士必修
担当教員			
赤松 広美、渡邊 眞理			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G204
添付ファイル			
保育実習指導 I カリキュラムマップ.pdf			
保育実習指導 I ルーブリック.pdf			
保育実習指導 I カリキュラムマップ.pdf			
保育実習指導 I ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>本科目は保育実習 I (施設) に対する事前・事後指導である。事前指導では、施設の実習の意義・目的・内容を理解したうえで自らの課題を明確にする。さらに、実習施設の種別ごとに施設の支援内容に関する理解と実習の計画・観察・記録の方法について学ぶと共に、実習準備を行う。事後指導においては、自らの実習を振り返り今後の課題と改善点を明らかにし、保育実習 II・III に繋げる。</p> <p>【他の科目との関連】 保育実習指導 I (保育所)、保育実習 I (保育所) は実習の所作等で共通するところが多い。こうした実習経験を元に、保育実習 I (施設) との差異を意識して、保育実習 I (施設) の事前準備や事後の振り返りを行う。</p> <p>【教員の実務経験】 授業担当者 (保健福祉学修士) は、障がい者支援施設、児童発達支援センター、市社協、市福祉事務所での勤務経験を有している。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を示しています。</p> <p>①アルファベットの A～F は以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】 は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多: 45分以上 中: 15分～44分 少: 15分未満</p> <p>E の振り返りと F の宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>施設実習とは 施設実習の意義と目的、実習の概要、実習に際しての留意事項などについて学ぶ。 予習・復習：シラバスと教科書を読んでおくこと。授業内容を記録し、読み返すこと。(各1時間)</p> <p>A: 少 B: 中</p> <p>第2回</p> <p>施設実習における学びの概要 (1) 実習先となる「施設」「施設の子ども (利用者)」「施設の保育者」「海外につながるのある世帯」について学ぶ。 予習・復習：教科書を読んでおくこと。授業内容を記録し、読み返すこと。(各1時間)</p> <p>B: 少 E: あり</p> <p>第3回</p> <p>施設実習における学びの概要 (2) 保育者になるために「自己」を知り、学習をより深めるための施設実習に向けた自己課題を明確化する 予習・復習：施設実習の課題と観察したいポイントを自身で考え、まとめる。(各1時間)</p> <p>B: 中</p> <p>第4回</p> <p>施設実習の基本 (1) 子ども (利用者) の観察について映像教材を用いながら、基本的な生活支援技術、療育について理解する。 予習・復習：教科書を読んでおくこと。授業内容を記録し、読み返すこと。(各1時間)</p> <p>A: 少 B: 中</p> <p>第5回</p> <p>施設実習の基本 (2) 子ども (利用者) とのかかわり方について映像教材を用いながら、実習生として現場における適切な判断について学ぶ。 予習・復習：教科書を読んでおくこと。授業内容を記録し、読み返すこと。(各1時間)</p> <p>A: 少 B: 中</p> <p>第6回</p> <p>施設実習の準備 (1) 実習先へ送付する必要書類を作成する。実習生に求められるものについて学ぶ。 予習・復習：教科書を読んでおくこと。配属先の施設について情報収集する。(各1時間)</p> <p>B: 少</p> <p>第7回</p> <p>施設実習の準備 (2) 配属先施設の事前学習、学習をより深めるための準備を行う。 予習・復習：施設実習における実習の取り組み姿勢・留意点を考えまとめる。(各1時間)</p> <p>B: 少 F: あり</p> <p>第8回</p> <p>実習日誌の書き方について (1) 施設実習において実習先が求めている記録とは何かについて知る。エピソード記録について学ぶ。 予習：保育所実習で最も記憶に残っているエピソードを1つ選び、授業内で記述できるようにする。(1時間) 復習：授業内容を記録し、読み返すこと。(1時間)</p> <p>B: 中 F: あり</p> <p>第9回</p> <p>実習日誌の書き方について (2) エピソード記録について復習し、ポイントを理解する。 予習：読み手のことを考え、課題レポートは誤字脱字なく、適切に漢字を用いて、読みやすい日本語であるよう意識すること。(1時間) 復習：授業内容を記録し、読み返すこと。(1時間)</p> <p>A: 少 F: あり</p> <p>第10回</p> <p>各施設の特徴と実習プログラム 配属先施設の特徴と実習プログラム例、日誌の記入例について学ぶ。</p>		

	<p>予習・復習：教科書を読んでおくこと。授業内容を記録し、読み返すこと。（各1時間） B：中</p> <p>第11回 実習時の諸注意、お礼状の書き方について 『実習の手引き』を中心に、改めて実習期間中の心得や実習生としてふさわしい態度について理解する。また、実習中の事務連絡方法等についても確認する。また、実習後のお礼状の書き方についても確認する。 予習：『実習の手引き』をよく読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を記録し、読み返すこと。（1時間） B：中</p> <p>第12回 施設職員による講話 実際に保育士養成校の実習生を多数受け入れしている施設の職員による講話を聞き、実習目標や自己課題について改めて明確化する。 予習・復習：『実習の手引き』を再度読んでおくこと。教科書を読み返すこと。課題レポートに取り組むこと。（各1時間） B：少 F：あり</p> <p>第13回 直前ガイダンス これまでの授業内容を総括するほか、前回の施設職員による講話を聞いた上での自身の思い・気持ちについて共有する。 予習：教科書を読み返すこと。（1時間） 復習：実習中の心得や実習生としての態度、『実習の手引き』を振り返っておく（1時間） B：少</p> <p>第14回 反省会（1） 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。 予習・復習：自身の実習施設の内容・感想・反省をまとめる。（各1時間） B：多</p> <p>第15回 反省会（2） 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。期末レポートを用いて各々が実習の自己評価を記録する。 予習・復習：級友の実習施設の内容・感想・反省をまとめる。（各1時間） B：多</p>
教育目標との関連	<p>1. 保育所以外での福祉施設における実習への準備を通して、施設保育士としての知識や倫理を修得し、社会において活躍する可能性を広げる。</p> <p>2. 福祉施設で求められる生活支援の技術を学ぶことで、保育所保育士における社会福祉的専門性を向上し、保育所や認定こども園・幼稚園に登園する子ども達の中の要保護児童や要支援児童の家庭への支援が出来る専門職になれるようにする。</p>
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 保育実習 I（施設）の意義・目的や心構え・法的根拠を理解し説明できる。</p> <p>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確に説明することができる。</p> <p>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、相手を尊重することができる。</p> <p>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習日誌に適切に記述・表現することができる。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標について自ら進んで掲げることができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p><評価方法> 期末レポート 40% 課題提出 40% 課題の成果や自分なりの考察ができていないかを評価する。 受講態度 20% 提出物の提出状況、意欲的な取り組み、発言や発表時の態度を総合的に評価する。</p> <p><評価基準> 別途ルーブリックに従う</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Google Classroom にてフィードバックを行う
教科書	「保育士をめざす人のための施設実習ガイド」 編集者：河合高鋭・石山直樹 発行：みらい（2020年）2,310円
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I（保育所）で用いた教科書 ・『保育所保育指針』 ・種別ごとの運営指針や運営ハンドブック（必要に応じて提供する）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	・予習および復習のための参考図書、課題などは必要に応じて授業時に指示する。
履修上の注意、条件等	・保育実習指導 I（保育所）、保育実習 I（保育所）を履修していること。
オフィスアワー	・研究室にて受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習 I（施設）

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical Training I（Welfare Facilities）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	2単位	保育士必修
担当教員			
赤松 広美、渡邊 眞理			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G203
添付ファイル			
保育実習 I カリキュラムMap.pdf			
保育実習 I ルーブリック.pdf			

講義概要	厚生労働省「指定保育士養成施設の指定基準について」で定められた保育所以外の福祉施設における実習を通して、福祉施設の役割や機能を理解するとともに、利用児・者の理解を深める。また、施設保育士の業務内容や職業倫理、他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。 既習の「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護 I」「特別支援教育（障害児保育） I」について実習を通じて掘り下げて考える力を養う。 授業担当者は、障害者入所施設、児童発達支援センター、市福祉事務所の勤務経験を有しており、初めての施設実習に臨む学生たちの不安や心配を払拭できるよう、施設とはどのような場所であるか具体例を挙げながら解説していく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 1. 施設の役割と機能 （1）施設における利用児（者）の生活と施設保育士等の援助や関わり （2）施設の役割と機能 2. 利用児（者）の理解 （1）利用児（者）の観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における利用児（者）の生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）利用児（者）の心身の状態に応じた生活と対応 （3）利用児（者）の活動と環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理
教育目標との関連	保育士資格は保育所を含めた児童福祉施設等で働くための資格である。保育所以外の児童福祉施設等での実習を通して保育者としての実践的な技能や倫理を身に着けることができる。また、施設の利用児・者の生活支援を通して豊かな感性と規則正しい生活習慣を身に着けることができる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 施設保育士として必要な福祉施設の社会的役割について説明することができる。 2. 利用児（者）の理解に努め、それに基づいた基本的な支援ができる。 3. 要保護児童や利用児（者）に対して、その多様な背景や課題を理解した上で、共感的・受容的態度で関わる事ができる。 4. 事後指導を通して実習を客観的に振り返り、今後の課題を明確にした上で事後学習に積極的に取り組むことができる。 5. ケアの基本となる積極的なコミュニケーションができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリック	原則として以下の基準で評価を行う。 実習機関の評価 40% 実習日誌などの評価 60% ※委細については、保育・教職の手引きならびにルーブリックを参照すること。

クによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習後にフィードバックを行う
教科書	なし
参考書	授業時に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	「保育実習指導Ⅰ（施）」の授業および「社会的養護」・「障害児保育」の授業を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、保育実習指導Ⅰ（施）をあわせて履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰ（施）も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年こども コース	1単位	保育士必修
担当教員			
石見 容子、安田 真紀子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
ループリック保育実習指導Ⅱ.pdf			

講義概要	<p>これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。</p> <p>こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。</p> <p>また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。</p> <p>他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。</p> <p>担当教員（石見）は複数の現場経験がある。これを活かして、様々な角度から”保育現場”について出るにあたって必要な知識と技能について、学生と共に考えていきたい。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>オリエンテーション 保育士の仕事と役割</p> <p>学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」</p> <p>これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。</p> <p>また、アメリカにおける実習の在り方を知り、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。</p> <p>B:中 E:あり F:あり 予習：シラバスを熟読しておく (30分) 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える (30分)</p>
第2回	<p>こども理解と日誌の書き方①</p> <p>こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(流れ記録)</p> <p>流れ記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。</p> <p>B:中 E:あり F:あり 予習：今までに行行った実習の日誌を見返す (1時間) 復習：授業内でのVTRを思い出ししながら、流れをまとめる (1時間)</p>
第3回	<p>こども理解と日誌の書き方②</p> <p>こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(エピソード記録)</p> <p>エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。</p> <p>B:中 E:あり F:あり 予習：今までに行行った実習の日誌を見返す (1時間) 復習：授業内でのVTRを思い出ししながら流れをまとめる (1時間)</p>
第4回	<p>乳児の指導計画</p> <p>0・1・2歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。</p> <p>実際に計画を立てる練習をする。</p> <p>B:中 E:あり F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する (1時間) 復習：授業内で立てた計画を見直す (1時間)</p>
第5回	<p>乳幼児の活動提案</p> <p>0・1・2・3・4・5歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたちが自ら工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換を検討する。B:中 E:あり F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する (1時間) 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく (1時間)</p>
第6回	<p>乳幼児の活動提案②</p> <p>0・1・2・3・4・5歳児の活動の提案を行う(続き)。</p> <p>責任実習を想定し、改良を加える。</p> <p>B:多 F:あり 予習：活動案を決めシミュレーションする (1時間) 復習：授業内でまとめた計画を見直す (1時間)</p>
第7回	<p>学内オリエンテーション</p> <p>学内オリエンテーション②</p> <p>実習前の心構えと諸注意について</p> <p>予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる (1時間) 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる</p>
第8回	<p>全日指導案の作成</p> <p>活動提案型全日指導案を作成する。</p> <p>課題：全日指導案の作成</p> <p>A:多 E:あり F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく (1時間) 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする (1時間)</p>
第9回	<p>模擬保育の準備</p> <p>乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。</p> <p>A:多 E:あり F:あり 予習：主活動(模擬保育)に向けての準備物をまとめる (1時間) 復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする (30分)</p>

	<p>第10回 模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多 F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）</p> <p>第11回 模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多 F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）</p> <p>第12回 日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 F：あり 予習：保育実習Ⅰの日誌を見返す（1時間） 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間）</p> <p>第13回 保育実習Ⅱに向けての討議 保育実習Ⅱでの期待される学びについて討議を以下の観点で行う。 ・今までの実習から、今回の実習に向けての課題の確認 ・各自の実習課題 ・相互の不安について ・自分の保育観 予習：今までの実習指導の授業・課題を振り返る（1時間） 復習：自身の保育観について考える（1時間） B：多 F：あり</p> <p>第14回 実習直前オリエンテーション 今までの学びの確認を行う 予習：今までの授業で使用した資料（教科書やプリント）を見直す（2時間） 復習：実習に向けて、必要なものを整理し、支度を整える（1時間） B：少 H：少ない E：多</p> <p>第15回 実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える 仲間の実習と自身の実習をそれぞれ振り返り、相互の学びの時間とする。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間） D：多</p>
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 2. 子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、社会の中の保育園の存在意義について説明できる。 3. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 4. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 5. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 6. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協働することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価方法 提出課題60%（『最終レポート（自己評価）』を含む） 受講態度40% 2. ルーブリックは添付参照
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	各実習後、実習訪問指導教員との面談をする
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円 『自分を生かす実習ハンドブック』関口はつ江監修 大学図書出版 2000円 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 250円
参考書	『保育学生のための実践国語表現』原田/留美 おうふう 1100円
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的予習内容は各授業会に記載している。 最後の実習としての意識をもち、就職を視野に入れて心身の準備を整え、子どもの手本となる保育者を意識した授業態度となるように。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	原則として全て対面授業でおこなう。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅡ (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	2単位	保育士選択必修
担当教員			
石見 容子、安田 真紀子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
保育実習Ⅱループリック.pdf			

講義概要	<p>本科目は保育所における実習である。各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。担当教員は、日本とアメリカの幼稚園、保育園での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるように説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> 養護と保育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> 環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 自己課題の明確化
教育目標との関連	<p>保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につけることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。</p>
到達目標 (学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる 2. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準で評価を行う。</p> <p>実習先が与えた評価 40%</p> <p>実習日誌の評価30%</p> <p>評価面談等の評価30%</p> <p>授業内でループリックを示し評価方法を解説する。</p>

	また保育・教職の手引きを参照すること。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	各実習後、実習訪問指導教員と個別に面談を行う。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円 『自分を生かす実習ハンドブック』 関口はつ江監修 大学図書出版 2000円
参考書	『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。実習日誌に毎日記録をおこなう。（約2時間）提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。保育実習生として謙虚で誠実な態度であること。また、子どもの手本となる言動を心がけること。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。（メール、電話）
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	保育士選択必修
担当教員			
赤松 広美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
保育実習指導Ⅲカリキュラムマップ.pdf			
保育実習指導Ⅲループブック.pdf			

講義概要	<p>保育実習Ⅰ(保育所・施設)を履修した後、さらに専門的に施設の利用児(者)を理解し、施設保育士の職務内容や役割等について学ぶことを目的とする。事前学習においては、関係図書などを自発的に調べ、各自の実習の課題・目標などを明確に持つ。事後学習では、実習内容を振り返り、施設保育士の専門性について理解を深める。</p> <p>【教員の実務経験】 授業担当者は、障害者入所支援施設や児童発達支援センターでの勤務経験を有しており、施設保育士を目指す学生が実習の意義を自ら見出せるよう指導する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション 保育実習Ⅲの全体像を掴み、その意義と目的を理解する。 予習・復習:シラバスを読んで、保育実習Ⅲの全体像を把握するとともに、保育実習Ⅰとの違いを意識して施設実習のイメージを持つ。(各1時間) B少</p> <p>第2回 保育実習Ⅰの振り返り、保育実習Ⅲの書類作成 保育実習Ⅰについて振り返り、自己課題を明らかにする。個人票や出勤簿等を作成する。 予習・復習:実習Ⅰの記録から自己課題を抽出する。授業後、実習Ⅲの課題を明確にする。(1時間) B少</p> <p>第3回 実習施設の概要・内容について調べる 実習Ⅲの配属施設についてグループごとに調べ、施設の理念、方針、社会的役割、保育士の職務、利用児者の現況について明確にする。 予習・復習:配属先施設について主体的に調べ、実習Ⅲの自己課題を具体化する。(2時間) A:中 B中 E有 F有</p> <p>第4回 実習施設の概要・内容について発表する 実習施設について調べた事柄について発表する。 予習・復習:発表資料を完成させて授業に臨む。(2時間) A中 B少 D多 E有</p> <p>第5回 実習記録の書き方について① 実習記録にふさわしい記録について考える。 予習・復習:保育実習Ⅰの実習日誌を振り返ってから授業に臨む。記録の意義について考える。(2時間) B少 C多 F有</p> <p>第6回 実習記録の書き方について② 読み手に伝わるエピソード記録・文体を学ぶ。 予習・復習:第5回で取り組んだ課題について加筆修正してから授業に臨む。記録の意義について考える。(2時間) B少 C多 F有</p> <p>第7回 施設保育士に求められる専門性と倫理について 施設保育士に必要な専門性と倫理について考える。 予習・復習:「アサーティブ」について各自で調べ、保育の専門性と倫理について考えをまとめてから授業に臨む。(2時間) B少 D多</p> <p>第8回 自己評価に基づいた実習Ⅲの自己達成目標の設定 保育実習Ⅲを通じて自身が達成したいことについて明確化する。 予習・復習:自己課題を整理してから授業に臨む。(2時間) B少 D多 E有 F有</p> <p>第9回 保育の実践力の育成① 事例をもとに、個々の子どもの状態に合った適切な関わりについて学ぶ。 予習・復習:保育実習Ⅰのエピソードの中で授業で共有した事柄を複数選び、授業に臨む。(2時間) B多 F有</p> <p>第10回 保育の実践力の育成② 映像教材を視聴し、子どもの発達段階を見極め、どのような合理的配慮が必要であるか、保育者としてどのようにかかわるべきか考える。 予習・復習:乳幼児期の発達、発達障害、合理的配慮について復習してから授業に臨む。(2時間) B多 F有</p> <p>第11回 視覚的手掛かりが有効である利用者(知的障害・発達障害・外国につながる子どもや家族)への具体的支援 ドロップレットを用いた絵カードの作成方法、効果的な提示方法について学ぶ。 予習・復習:ドロップレット、TEACCHを調べてから授業に臨む。(2時間) A多 E有 F有</p>

	<p>第12回 実習直前指導 実習Ⅲに向けた実習計画と課題の再確認を行う。 予習・復習：実習日誌や関係書類をよく読み、事前学習に漏れがないか確認する。（2時間） B中 D中 E有</p> <p>第13回 実習直前ガイダンス 実習Ⅲにおける心得や態度、また実習中の事務連絡等の方法について確認する。 予習・復習：本学の「施設実習の心得」を再読しポイントを整理する。（1時間） B少 E有</p> <p>第14回 実習の事後報告・反省会の準備 実習を振り返り、報告・反省会に向けての準備を行う。 予習・復習：実習記録などを再読し、ポイントをまとめる。（各1時間） C中 E有 F有</p> <p>第15回 実習の事後報告・反省会および総括 種別ごとに実習内容・感想・反省課題などを各自が発表する。 職業倫理に関して、実習を通して具体的に捉える。 予習・復習：授業前に評価面接を実施、自己の課題について明確にする。（各1時間） B中 D多 E有 F有</p>
教育目標との関連	施設実習に向けての準備を通して、施設保育士としての確かな知識を修得する。施設実習に必要な生活支援技術を学ぶことにより、自己覚知（自己を知り）し、自身の進路に関して熟慮できるようになる。また、多様な価値観を受容し、保育者としての実践的な技能を身につけることができる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	施設実習Ⅲにおける到達目標は以下の通りである。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に関連付けて説明することができる。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できる。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し、他者を尊重しながら自身の意見を述べるすることができる。 4. 保育士の専門性と職業倫理について問題意識を持つことができる。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を導き出し、明確にすることができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	課題提出・授業内評価（所定の手続きを含む）：70% 期末課題：30%
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末課題締切後にGoogle Classroomにて配信（詳細日時は授業内で伝達）
教科書	保育士をめざす人のための施設実習ガイド 河合高鋭 みらい 2020年発行 2,310円
参考書	保育所保育指針
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	・保育実習指導Ⅰ（施）と保育実習Ⅰ（施設）の内容を振り返っておいてください。 ・社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭支援論、特別支援教育（障害児保育）Ⅰ・Ⅱをもとに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読しておいてください。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	研究室に掲示します。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	保育士選択必修
担当教員			
赤松 広美			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
保育実習Ⅲカリキュラムマップ.pdf			
保育実習Ⅲルーブリック.pdf			

講義概要	<p>「保育実習Ⅰ(施設)」を踏まえ、児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、90時間以上の実習を行う。実践現場での体験を通して、保育士として必要な資質・能力・技術を学び、感性を磨くことを目指すと同時に、家庭と地域の実際を知る。</p> <p>授業担当者は、障害者入所施設、児童発達支援センター、市福祉事務所での勤務経験を有している。その経験を基盤として、福祉サービスを必要とする方々への支援のあり方、支援者（施設保育士）に求められる事柄について、丁寧に解説していく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う利用児(者)のニーズの把握と利用児(者)理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 利用児(者)の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 施設保育士の多様な業務と職業倫理 4. 施設保育士としての自己課題の明確化
教育目標との関連	施設における実習を通して、そこで生活する利用児(者)を受容し、共感する態度を養う。個人差や生活環境に伴う利用児(者)のニーズを把握し、理解を深め、利用児(者)、また家族への支援と対応を学ぶ。さらに社会的スキルを身につけ、他の専門職と円滑なコミュニケーションができる基礎的な力を養う。
到達目標 (学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識 2. 理解 3. 思考・判断 4. 技能・表現 5. 関心・意欲 6. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解し、自ら掘り下げて考えることができる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことができる。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明することができる。 4. 実習における自己課題を明確にし、その評価を行うことができる。
評価方法および評価基準	<p>実習施設の評価 40%</p> <p>実習日誌などの評価：60%</p> <p>評価の委細については「実習の手引き」とルーブリックを参照すること。</p>

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習期間中に教員が面談指導を行い、助言を行います。 実習終了後に個別面談を行い、実習評価について省察を行います。
教科書	保育士をめざす人のための施設実習ガイド 河合高鋭 みらい 2020年発行 2,310円
参考書	保育所保育指針
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターにて受け付けます。
備考・メッセージ	

講義科目名称： コンピューターサイエンス

授業コード：

英文科目名称： Computer science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1 単位	卒業選択
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H109
添付ファイル			
CPSr. pdf	ルーブリック		
CPSmap. pdf	カリキュラムマップ		

講義概要	<p>近年、わが国ではソサエティ5.0 (Society 5.0) を未来社会のコンセプトとして提唱し、私たちの生活も大きく変化した。これまでは「情報社会」の到来に伴い、パソコンなどの情報機器・アプリケーションソフトの利活用の為の情報リテラシが重視されてきた。これからのソサエティ5.0においては、ソフトウェアを使いこなす活用能力だけではなく、理系だけではなくすべての分野において「プログラミング的思考」が求められている。初等教育においても、プログラミング教育が必須となり、国語・算数・理科・社会の各教科の中では「プログラミング的思考」の指導が求められている。このような時代の要請を受け、この授業では、「データの利活用」の方法、「プログラミング的思考」とは何かを演習を通して理解する。さらにSTEM (S: Science「科学」、T: Technology「技術」、E: Engineering「技術」、M: Mathematics「数学」) 教育についても演習を通して理解し、Society 5.0 (ソサエティ5.0) に向かう社会に適応しうる基礎力を養う。なお、本演習におけるプログラミングは、文字によるコードの記述ではなく、ブロックの組み合わせ「ビジュアル言語」で学ぶ。</p> <p>【教員の実務経験】 SIベンダにおけるSEとしてのシステム構築経験。 企業・社会福祉法人におけるシステム管理部門部門長の経験。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多: 45分以上 中: 15分～44分 少: 15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション【なぜコンピューターサイエンスを学ぶのか?】 Society 5.0とは、どのような社会か? 初等教育で実施されたプログラミング思考の指導とその内容について、理系教育ではないことを理解する。 メタバースとは何か、実際のサイトに入り体験しながら学ぶ。</p> <p>A:多 B:中 E:有</p> <p>第2回 ビックデータの活用 [e-statの利用とデータ処理] 政府統計の総合窓口e-statの利用法を習得し、そのデータを活用するためにGoogleスプレッドシートによる加工法について学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第3回 データ処理の為のAPP活用 データ処理の為のAPP活用として、Googleスプレッドシートを使ったクロス集計、相関、検定について学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第4回 データの利活用 量的調査の基本である数値データの取り扱いを、実際のアンケート結果を利用しながら学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第5回 テキストマイニング [Webマイニング] 質的調査の基本であるテキストマイニングを体験しながら学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第6回 viscuitプログラミング① [ビスケットランドと動作の基本] 保育におけるプログラミング教育 (viscuit) の導入事例について紹介するとともに、プログラミング言語viscuitの基本操作を学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第7回 viscuitプログラミング② [動く模様とゲーム製作入門] viscuitで動く模様とゲームを製作する。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第9回 アルゴリズム アルゴリズムによるプログラミングを体験し、処理の流れ (繰り返し・条件分岐) について学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第10回 Scratchプログラミング① [イベントドリブン] 初等教育におけるプログラミング教育 (Scratch) のプログラミング言語Scratchの基本的な考え方 イベントドリブンについて学びオブジェクト指向のプログラミングの基本を習得する。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p> <p>第11回 Scratchプログラミング② [変数] もぐらたたきゲームを製作しながら変数について学ぶ。</p>

	<p>A:中 B:中 E:有 第12回 Scratchプログラミング③〔条件分岐〕 車をサーキットを走らせるプログラムを製作しながら条件分岐を学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有 第13回 Scratchプログラミング④〔論理演算〕 スノードームを製作しながら論理演算（論理和・論理積）を学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有 第14回 Scratchプログラミング⑤〔2次元配列〕 クイズゲームを製作しながら2次元配列（リスト構造）を学ぶ。</p> <p>A:中 B:中 E:有 第15回 授業総括・課題作成 各自の到達度チェックと学修成果の確認のための総合製作。</p> <p>A:中 B:中 E:有</p>
教育目標との関連	Society 5.0（ソサエティ5.0）に向っている情報社会に必要な教養を身につけ、その中で保育者として働くための確かな知識を身につける。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビックデータの利活用の方法について理解し説明できる。 2. システム思考・プログラミング思考に基づいた考え方や判断ができる。 3. プログラミングの基礎理論を理解した上で初等教育における指導の基本的な実践ができる。 4. 情報社会の課題に関心を持ち、その課題に対して積極的に関わることができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p><評価方法> 最終課題 40% 演習課題 60% 演習課題は、ワークシート・プログラミング課題、データ演習課題によって評価する。 <評価基準> 別途、ルーブリックに従う。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Google classroomにてフィードバックする
教科書	教科書については特に指定しない。 必要な授業資料はGoogle classroomにて提示します。
参考書	<p>メタバース [NTT DOOR] https://door.ntt/</p> <p>e-Stat https://www.e-stat.go.jp/</p> <p>ウェブマイニング https://textmining1.userlocal.jp/</p> <p>viscuit https://www.viscuit.com/</p> <p>アルゴロジック https://algo.jeita.or.jp/index.html</p> <p>Scratch https://scratch.mit.edu/</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	<p>【予習】 Class room上で公開する教材を利用し内容を理解する</p> <p>【復習】 Class room上で課題の提出を行う</p>
履修上の注意、条件等	本科目のGoogle classroomに必ず登録してください。
オフィスアワー	水曜日
備考・メッセージ	初心者からのプログラミング入門になります。プログラミングやシステムの学習を通して、システムティックな思考ができるようにしましょう。

講義科目名称： 児童文化

授業コード：

英文科目名称： Children's Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：H203
添付ファイル			
児童文化2023. pdf			

講義概要	<p>現代社会では様々な場面において「文化」が伝承の危機を迎えている。こどもに関しても例外ではなく、都市部の開発による環境の変化や少子化等により、こどもが自由に遊ぶことが困難となり、「児童文化」が伝承しにくい状態になって久しい。しかし、こどもたちの発達を助け、感性を豊かにするためには児童文化財は欠かせないものであることから、乳幼児にかかわる保育者を目指す者として「児童文化」の理解は必要不可欠である。そこで、本講義では、絵本や紙芝居をはじめとする様々な児童文化財を取り上げ、実践してみることにより、保育環境の中でどのように活用できるのかを体験的に学ぶことを目的とする。</p> <p>他の科目との関連：「幼児と言葉」「保育内容（言葉）の指導法」などの授業で学んだ絵本の知識や言語表現技術の実践をさらに深化・発展させる。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション—児童文化とは何か— シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 児童文化の種類を学生自身の経験を振り返ることによってまとめる。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。(約30分) 復習：配布したプリントの内容を踏まえ、こどもにとっての遊びの意義について自身の考えをまとめる。(約30分) D:中 F:あり</p> <p>第2回 保育教材としての絵本 絵本の絵の法則やこども特有の見方について学ぶ。さらに、図書館で実際の絵本を使って絵の法則を確認する。 予習：こどもの発達段階にふさわしい絵本について調べておく。(約1時間) 復習：絵本の絵の法則について、実際の絵本で確認しておく。(約1時間) A:中</p> <p>第3回 日本と外国の昔話 昔話と伝説との違いを学んだ上で、日本と外国の代表的な昔話の内容を確認する。また、昔話絵本の比較を行った上で、保育現場での活用方法についてグループディスカッションを行う。 予習：自身の知っている昔話をまとめておく。(約1時間) 復習：授業で取り上げた以外の昔話について、絵本の比較を行う。(約1時間) B:中</p> <p>第4回 保育教材の製作と実践 くつした人形の製作と実演を行う。 予習：自身の製作する作品をイメージしながら材料を準備する。(約1時間) 復習：くつした人形の保育現場における活用方法を考える。(約1時間) A:多</p> <p>第5回 伝承遊びの意義と実践 伝承遊びの種類を知る。さらに、折り紙・あやとり等の伝承遊びを実践する。その上で、伝承遊びの魅力とこどもにとっての意義を考える。 復習：授業で取り上げなかった以外の伝承遊びを実践する。(約1時間) A:多</p> <p>第6回 児童文化財を活用した展示の立案 児童文化財を活用した展示をグループごとに立案する。各グループの計画内容についてディスカッションを行い、実施する内容を決定する。 予習：児童文化財を活用した子どもが楽しめる展示を考えておく。(約30分) 復習：展示を実施するための下準備を行う。(約1時間) A:多 B:多</p> <p>第7回 児童文化財を活用した展示の準備と実践 児童文化財を活用した展示を行うための準備を行う。 復習：準備で足りなかった部分を補っておく。(約1時間) A:多</p> <p>第8回 学びの振り返り 授業の総括を行うとともに、本科目の到達目標と各自の到達度を確認する。 絵本カードの課題を提出し、感想をまとめる。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。(約1時間) E:あり</p>
教育目標との関連	<p>様々な児童文化財を知り、実践することは、保育者として必要な知識と実践力を身につけることにつながる。その中で、こどもが生きる地域や社会、文化に関心を持つとともに、多様な他者との協調性を図るようになる。</p>
到達目標 (学修成果)	<p>DP1. こどもの育ちにとっての児童文化財の意義を理解し、説明できる。 DP3. こどもの発達段階に適した児童文化財を選択し、実践できる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ (到達目標) を参照すること。</p>

性										
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>40%</td> <td>・期末試験を実施し、授業の内容全般についての理解度と実践力を評価する</td> </tr> <tr> <td>授業への取り組み</td> <td>50%</td> <td>・グループ活動や伝承遊びの実践に対する貢献度や取り組みを評価する</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>10%</td> <td>・授業内に行った課題に対する取り組みを評価する</td> </tr> </table> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>	試験	40%	・期末試験を実施し、授業の内容全般についての理解度と実践力を評価する	授業への取り組み	50%	・グループ活動や伝承遊びの実践に対する貢献度や取り組みを評価する	提出課題	10%	・授業内に行った課題に対する取り組みを評価する
試験	40%	・期末試験を実施し、授業の内容全般についての理解度と実践力を評価する								
授業への取り組み	50%	・グループ活動や伝承遊びの実践に対する貢献度や取り組みを評価する								
提出課題	10%	・授業内に行った課題に対する取り組みを評価する								
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	第8回の授業時に期末試験の解説、振り返りを行う。									
教科書	必要に応じてプリントを配布する。									
参考書	『保育における子ども文化』松本峰雄編（わかば社、2014）1,980円（税込）									
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業で取りあげた以外にも、児童文化財に触れる機会を意識的に増やしてもらいたい。									
履修上の注意、条件等	フェリシアアートウィークへの参加を予定している。保育教材の製作のため、材料費が200円程度かかる。シラバスの内容は履修学生の人数等によって変更の可能性がある。									
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。									
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。授業中に遊びを実践したり、作品を演じたりする機会があるため、意欲的に参加することが求められる。									

講義科目名称： 幼児音楽入門（ピアノ） I

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Musical Study for Child Education(piano) I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本 眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D101
添付ファイル			
「幼児音楽入門(ピアノ)」ルーブリック (1).pdf			
「幼児音楽入門(ピアノ)」カリキュラムマップ(到達目標)(1).pdf			

講義概要	<p>幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容(表現)の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	音楽の基礎を学ぶ (1) 授業の進め方について 理論：譜表（五線と加線）・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ（10枚）のカードを覚える。 書く：短いメロディーを高さを変えて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」（I-P.13ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。左右の手の指番号を覚える。 聴き取る：2音の高さの違いを聞き分ける。 プリント学習：No.1	
	第2回	音楽の基礎を学ぶ (2) 理論：音の並びについて知る。（ドレミファソラド・ドシラソファミレド）（ドミソシレファラド・ドラファレシソミド） 読む：10枚のカードを読み、ピアノで鳴らす。 書く：短いメロディーを高さを変えて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」（I-P.13ステップ1と2）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。 予習・復習 10枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」を練習する。（毎日20分） A:少 F:あり	
	第3回	音楽の基礎を学ぶ (3) 理論：音符と休符①（単純音符・単純休符の長さ） 読む：中央から下のドシラのカードを増やす。（13枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：短いメロディーを高さを変えて書く。 歌う・弾く：バイエルNo.44（テキスト1・2・3-P.23）を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 聴き取る：3つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：No.2 予習・復習 13枚のカードの音を覚え、ピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」とバイエルNo.44を練習する。（毎日20分） A:少 F:あり	
	第4回	音楽の基礎を学ぶ (4) 理論：音符と休符②（付点音符・付点休符の長さ） 読む：13枚のカードを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：高い方の音域のメロディーを写す。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。「ちょうちょ」（I-P.14ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：4つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：No.3 予習・復習 13枚のカードの音をピアノで確認する。今回までの3曲を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり	
	第5回	音楽の基礎を学ぶ (5)	

	<p>理論：リズムと拍子（拍と拍子・拍子記号） 読む：高い方のドレミファソのカードを増やす。（18枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。 歌う・弾く：「きらきらぼし」（I-P. 48ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.3（続き）</p> <p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「きらきらぼし」等4曲を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第6回	<p>音楽の基礎を学ぶ（6） 理論：和音 読む：ピアノの中央と高い方・低い方のドレミファソを復習する。（18枚） ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーを同じように写す。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「きらきらぼし」の連弾をして楽しむ。 プリント学習：No.4</p> <p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』3曲を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第7回	<p>音楽の基礎を学ぶ（7） 読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシのカードを増やす。（20枚） ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーを同じように写す。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。 バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.4（続き）</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第8回	<p>音楽の基礎を学ぶ（8） 理論：調（調子記号） 読む：これまでのカード20枚を復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーをヘ音記号に書きかえる。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。 バーナム ピアノ テクニックより。 プリント学習：No.5</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第9回	<p>音楽の基礎を学ぶ（9） 読む：ヘ音記号の低いシラソファのカードを増やす。（24枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーをト音記号に書きかえる。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。左手の練習をする。（2拍子・4拍子・3拍子） バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.5（続き）</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第10回	<p>音楽の基礎を学ぶ（10） 理論：これまでの復習をする① 読む：これまでのカード24枚を復習する。知っている音域をピアノで確認する。 書く：「たなばたさま」（I-P. 51ステップ1）を写す。（ヘ長調） 歌う・弾く：「たなばたさま」をドレミで歌いながら弾く。左手に出て来るb（フラット）の黒鍵の位置を確認する。 プリント学習：No.6</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認する。「たなばたさま」の写譜を仕上げる。「たなばたさま」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p>
第11回	<p>音楽の基礎を学ぶ（11） 読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。知っているドをピアノで鳴らして確認する。加線のラとシの読み方も知る。 書く：「うみ」（I-P. 58ステップ2）を写す。（ト長調） 歌う・弾く：「うみ」をドレミで歌いながら弾く。左手の和音の読み方・弾き方を学ぶ。左手に出て来る#（シャープ）の黒鍵の位置を確認する。</p>

	<p>プリント学習：No.6（続き）</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音と加線2本のドをピアノで確認する。「うみ」の写譜を仕上げる。「うみ」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p> <p>第12回 音楽の基礎を学ぶ（12） 理論：これまでの復習をする。② 読む：大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。楽譜の音の重なり具合を確認する。 歌う・弾く：「たなばたさま」「うみ」をドレミで歌いながら弾く。 プリント学習：No.7</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「たなばたさま」と「うみ」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p> <p>第13回 音楽の基礎を学ぶ（13） 読む：カードの復習をする。（確実にない音をさがす。）加線の音の読み方を復習し、確実にする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：やさしい『こどものうた』に和音の伴奏（分散含む）を付けて弾く。 プリント学習：No.8 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（音の高低）</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p> <p>第14回 音楽の基礎を学ぶ（14）まとめ 授業のプリントを見ながら学んだことを整理し、確実にする。 プリント学習：No.9 No.10 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（リズム）</p> <p>予習・復習 最終確認テストに向けて授業で学んだことを整理し、確実にする。 A:中 F:あり</p> <p>第15回 音楽の基礎を学ぶ（15）最終確認テスト 解説 最終確認テストをした後、解説を聞く。 E:あり</p> <p>第16回 期末レポート課題 この科目で学んだ成果や今後の課題についてまとめ提出する。 E:あり</p>
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. (DP1) 基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。</p> <p>2. (DP4) 歌ってみよう弾いてみようと意欲的に取り組むことができる。</p> <p>3. (DP2) 子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>プリント課題 60% 毎回プリント学習により理解度の確認を行い、その成果を評価する。</p> <p>最終確認テスト 期末レポート課題 20% 授業の内容全般についての理解度を評価する</p> <p>平常点評価 20% 音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。（ピアノ実技、音符カード等）</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終確認テスト後に解説を行い、期末レポート課題により更に理解を深め、今後に活かして行く。
教科書	<p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2021 1,500円（税抜）</p> <p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2022 1,500円（税抜）</p> <p>その他 適宜プリントを配付する。</p>
参考書	<p>大学所有のものを授業時のみ貸与して使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『バーナム ピアノ テクニック』 ・フランスのソルフェージュ教材 ・音符カード
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	小さな積み重ね（くり返し）の努力が大きな成果となる。「幼児音楽」で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習の音符カードとピアノの課題は必ず行うこと。（毎日20分～30分）
履修上の注意、条件等	入学時の音楽調査により読譜力アップが必要と思われる者に履修を勧める。
オフィスアワー	質問等に関してはメールにより受け付ける。

備考・メッセージ	Introduction to Musical Study for Child Education:piano ・全16回を対面授業で行う。
----------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香、Mary Jones、八木真祈			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：H205
添付ファイル			
Foreign Culture Rubric.pdf			
Foreign Culture Map.pdf			

講義概要	<p>グローバルな時代において日本国内でも多様な文化社会がある。本科目では体験を通して、異文化を理解し、多様な物の見方ができるようになることを目指す。前半はそのためのツールとなる英語力の向上を目指した内容であり、留学先での授業の受講や英語社会で通用するための英語力アップのため内容を含む。後半はEnglish Campがメインとなる。英語オンリーの環境の中、収穫祭やクリスマスの制作などを通してアメリカの文化を体験する。本授業は特別授業期間に実施する。</p> <p>ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います</p>		
授業計画および学習形態	第1回	留学英語準備1	リスニングの模擬テストを受けてみて各自の課題を見出す。 復習：授業で行った課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 G：PBL（課題解決型学習） H：反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	留学英語準備2	文法の演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第3回	留学英語準備3	リーディングの演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第4回	留学英語準備4	Vocabularyの演習を行う。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第5回	留学英語準備5	模擬テストを受けて各自の課題を見出す。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第6回	留学英語準備6	各自の課題の分野を向上させる。 予習・復習：授業で提示された課題を復習する。(1時間) A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり
	第7回	English Camp 1	ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 復習：授業で行った会話を復習し、身につけておく。(1時間) A：中
	第8回	English Camp 1 季節の製作1	Thanksgivingについて学び、製作を行う。 予習：Thanksgivingについて調べておく(30分) 復習：授業で制作を行った際の英語表現を振り返る。(30分) C：多
	第9回	English Camp 1 季節の製作2	Christmasについて学び、製作を行う。 予習：Christmasの習慣について調べておく(30分) 復習：授業で制作を行った際の英語表現を振り返る。(30分) C：多
	第10回	English Camp 2 感謝祭について学ぶ1	Thanksgivingについて学び、ターキーの調理を行う。 予習・復習ターキー調理の際の英語表現を振り返る。(1時間) C：多
	第11回	English Camp 2 English Conversation1	ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 復習：ネイティブの英語教員の会話について、ビデオなどで課題点を振り返り、練習する。(1時間) C：多
	第12回	English Camp 2 感謝祭について学ぶ2	感謝祭のディナーの説明を受け、テーブルセッティングを行いディナーを体験する。 予習・復習：感謝祭のディナーの風習について振り返る。(1時間) C：多
	第13回	English Camp 3 English Conversation2	ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。

	<p>復習：ネイティブの英語教員の会話について、ビデオなどで課題点を振り返り、練習する。（1時間） C：多</p> <p>第14回 English Camp 3 英語の歌や手遊びを学ぶ 英語の歌や手遊びを学び、実際に歌う。 復習：授業で覚えた歌を練習する。（1時間） F：あり</p> <p>第15回 English Camp 3 まとめ English Camp で経験したことを各自でまとめ、英語で発表する。 宿題：期末レポート「異文化体験Ⅱの授業で学んだこと」（1時間） D：多 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	国内における異文化体験を通して、他者や多様性を理解し、豊かな感性と愛の心を育てる。グローバル市民として自らの視野を広げ、共感性や豊かな表現力を身につけ、さらに自身の生き方について考えることができる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. 国内外での専門職としての保育者として必要な多文化・多様性について理解する。</p> <p>DP2. グローバルの視点において求められている役割について考え、問題解決に向けて適切に判断することができる。</p> <p>DP3. 他者に傾聴し、自らコミュニケーションを実践・表現する。</p> <p>DP4. 広い世界に関心を持ち、自ら積極的に学びを深めることができる。</p> <p>DP5. 他者および多様性を尊重し、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>参加状況 30% 授業への参加と課題への取組状況（貢献度・事前準備を含む）</p> <p>提出課題 30% 提出課題と発表</p> <p>期末レポート 40%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	フィードバックはGoogle Classroomにて配信する。
教科書	授業時間内に提示する。
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>予習：授業のテーマについてあらかじめ考え、調べておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことは必ず何度も復習し、身につけること。</p> <p>合計最低1時間。</p>
履修上の注意、条件等	積極的に取り組もうとする姿勢が求められる。
オフィスアワー	研究室のドアにオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： English Conversation I

授業コード：

英文科目名称： English Conversation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E101
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English Conversation II.pdf			

講義概要	<p>In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary.</p> <p>This class will be continued through English Conversation II. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>Class One</p> <p>Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye</p> <p>Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information</p> <p>Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第2回	<p>Class Two</p> <p>Elementary: One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from?</p> <p>Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality</p> <p>Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第3回	<p>Class Three</p> <p>Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language</p> <p>Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences</p> <p>Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第4回	<p>Class Four</p> <p>Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are</p> <p>Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport? Past simple: regular and irregular verbs Talking about your last holiday Understanding the key events in a story</p>	

	<p>Intermediate: Modern families Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第5回 Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different?</p> <p>Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences</p> <p>Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts</p>
	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第6回 Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings</p> <p>Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information</p> <p>Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences</p>
	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第7回 Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country</p> <p>Pre-Intermediate: TripAside Be going to (plans and predictions) Planning a tour</p> <p>Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes</p>
	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第8回 Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information</p> <p>Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments</p> <p>Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long...? Understanding the order of events</p>
	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第9回 Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody</p> <p>Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions</p> <p>Intermediate: Survive the Drive Comparatives Being a tourist Confirming predictions</p>

第10回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Ten Elementary: Family Photos Possessive 's, Whose...? Talking about family Identifying the main/supporting information</p> <p>Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors</p> <p>Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions</p>
第11回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eleven Elementary: From morning to night Prepositions of time and place Daily routine A typical weekend</p> <p>Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory</p> <p>Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph</p>
第12回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twelve Elementary: Blue Zones Position of adverbs, expressions of frequency Retelling the main information in a text Inferring information</p> <p>Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and -ing Describing your weekend</p> <p>Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood</p>
第13回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirteen Elementary: Vote for me! can/can't Talking about abilities Focusing on practical information</p> <p>Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data</p> <p>Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners</p>
第14回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fourteen Elementary: A quiet life? Present Continuous Spot the differences Identifying a situation from context</p> <p>Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences</p> <p>Intermediate: Bad Manners? Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view</p>

	<p>第15回</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fifteen Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London</p> <p>Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle</p> <p>Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved.</p> <p>2. Listening ability has improved.</p> <p>3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Homework 30% Short writing assignments</p> <p>Participation 30% Participation in group work</p> <p>Speaking test 20% 2 short speaking tests (期末テスト)</p> <p>Quizzes 20% Short weekly test</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, there will be a short interview with each student to discuss strengths and how they can improve their speaking.
教科書	<p>This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.</p> <p>「IELT 必ず出る単 スピードマスター」島津幸樹 著 Jリサーチ 出版</p>
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation II

授業コード：

英文科目名称： English Conversation II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E201
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English Conversation II.pdf			

講義概要	<p>In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary.</p> <p>This class is continued from English Conversation I in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】 は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>Class One</p> <p>Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story</p> <p>Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content</p> <p>Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第2回	<p>Class Two</p> <p>Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions</p> <p>Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details</p> <p>Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第3回	<p>Class Three</p> <p>Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music</p> <p>Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses</p> <p>Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第4回	<p>Class Four</p> <p>Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events</p>	

	<p>Pre-Intermediate: First day nerves Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words</p> <p>Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Five Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events</p> <p>Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works</p> <p>Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story</p>
第5回	
第6回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Six Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information</p> <p>Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences</p> <p>Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph</p>
第7回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seven Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information</p> <p>Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions</p> <p>Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films</p>
第8回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eight Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome</p> <p>Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information</p> <p>Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption</p>
第9回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nine Elementary: Room 333 There was/ there were Describing a room</p>

	<p>Understanding specific details</p> <p>Pre-Intermediate: Who is Vivienne? Possessive Pronouns Reacting to a story Using information to interpret a story</p> <p>Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Making deductions Understanding humor</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Ten Elementary: #mydinnerlastnight Countable/uncountable nouns Food diary for yesterday Food and drink</p> <p>Pre-Intermediate: Beware of the dog If +past, would: second conditional Would you know what to do? Animals and insects</p> <p>Intermediate: Live and Learn First conditional and future time clauses & when, until, etc Education Assessing opinions Understanding points of view</p>
第10回	
第11回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eleven Elementary: White gold Quantifiers: how much/ how many, a lot of How much salt and sugar do you have a day? Categorizing information</p> <p>Pre-Intermediate: Fearof.net Present perfect + for and since How long...? Taking notes</p> <p>Intermediate: Live and learn First conditional and future time clauses Talking about school Understanding points of view</p>
第12回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twelve Elementary: Facts and Figures Comparative adjectives Asking and answering quiz questions Understanding instructions</p> <p>Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events</p> <p>Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons</p>
第13回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirteen Elementary: The most dangerous place.. Superlative adjectives Places and buildings Tourist information</p> <p>Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions</p> <p>Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content</p>
第14回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fourteen Elementary: Five continents in a day</p>

	<p>Be going to (plans), future time expressions City holidays Taking notes</p> <p>Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons</p> <p>Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第15回 Class Fifteen Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story</p> <p>Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information</p> <p>Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved.</p> <p>2. Listening ability has improved.</p> <p>3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Homework 30% Short writing assignments</p> <p>Participation 30% Participation in group work</p> <p>Speaking test 20% 2 short speaking tests (期末テスト)</p> <p>Quizzes 20% Short weekly quizzes</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, there will be a short interview with each student to discuss strengths and how they can improve their speaking.
教科書	<p>This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.</p> <p>「IELT 必ず出る単 スピードマスター」島津幸樹 著 Jリサーチ 出版</p>
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation III

授業コード：

英文科目名称： English Conversation III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1 単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E107
添付ファイル			

講義概要	<p>In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary.</p> <p>This class is continued from English Conversation II in the first year. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: P B L (課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>Class One</p> <p>Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye</p> <p>Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information</p> <p>Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第2回	<p>Class Two</p> <p>Elementary: One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from?</p> <p>Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality</p> <p>Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第3回	<p>Class Three</p> <p>Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language</p> <p>Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences</p> <p>Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>	
	第4回	<p>Class Four</p> <p>Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are</p> <p>Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport? Past simple: regular and irregular verbs Talking about your last holiday Understanding the key events in a story</p> <p>Intermediate: Modern families</p>	

第5回	<p>Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different?</p> <p>Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences</p> <p>Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts</p>
第6回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings</p> <p>Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information</p> <p>Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences</p>
第7回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country</p> <p>Pre-Intermediate: TripAside Be going to (plans and predictions) Planning a tour</p> <p>Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes</p>
第8回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information</p> <p>Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments</p> <p>Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long...? Understanding the order of events</p>
第9回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody</p> <p>Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions</p> <p>Intermediate: Survive the Drive Comparatives Being a tourist Confirming predictions</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>

第10回	<p>Class Ten</p> <p>Elementary: Family Photos Possessive 's, Whose...? Talking about family Identifying the main/supporting information</p> <p>Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors</p> <p>Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
第11回	<p>Class Eleven</p> <p>Elementary: From morning to night Prepositions of time and place Daily routine A typical weekend</p> <p>Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory</p> <p>Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
第12回	<p>Class Twelve</p> <p>Elementary: Blue Zones Position of adverbs, expressions of frequency Retelling the main information in a text Inferring information</p> <p>Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and -ing Describing your weekend</p> <p>Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
第13回	<p>Class Thirteen</p> <p>Elementary: Vote for me! can/can't Talking about abilities Focusing on practical information</p> <p>Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data</p> <p>Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
第14回	<p>Class Fourteen</p> <p>Elementary: A quiet life? Present Continuous Spot the differences Identifying a situation from context</p> <p>Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences</p> <p>Intermediate: Bad Manners? Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>

	<p>第15回 Class Fifteen</p> <p>Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London</p> <p>Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle</p> <p>Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved.</p> <p>2. Listening ability has improved.</p> <p>3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Homework 30% Short writing assignments</p> <p>Participation 30% Participation in group work</p> <p>Speaking test 20% 2 short speaking tests (期末テスト)</p> <p>Quizzes 20% Short weekly test</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, there will be a short interview with each student to discuss strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版 「IELTS 必ず出る単 スピードマスター」 島津幸樹 著 Jリサーチ 出版
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称： English Conversation IV

授業コード：

英文科目名称： English Conversation IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E202
添付ファイル			

講義概要	<p>In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary.</p> <p>This class is continued from English Conversation III in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>Class One</p> <p>Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story</p> <p>Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content</p> <p>Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences</p>	
	第2回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>Class Two</p> <p>Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions</p> <p>Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details</p> <p>Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports</p>	
	第3回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>Class Three</p> <p>Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music</p> <p>Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses</p> <p>Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points</p>	
	第4回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>Class Four</p> <p>Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events</p> <p>Pre-Intermediate: First day nerves</p>	

	<p>Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words</p> <p>Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Five Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events</p> <p>Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works</p>
第5回	
	<p>Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Six Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information</p> <p>Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences</p>
第6回	
	<p>Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seven Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information</p> <p>Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions</p>
第7回	<p>Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eight Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome</p> <p>Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information</p> <p>Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption</p>
第8回	
	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nine Elementary: Room 333 There was/ there were Describing a room Understanding specific details</p>
第9回	

	<p>Pre-Intermediate: Who is Vivienne? Possessive Pronouns Reacting to a story Using information to interpret a story</p> <p>Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Making deductions Understanding humor</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Ten Elementary: #mydinnerlastnight Countable/uncountable nouns Food diary for yesterday Food and drink</p> <p>Pre-Intermediate: Beware of the dog If +past, would: second conditional Would you know what to do? Animals and insects</p> <p>Intermediate: Live and Learn First conditional and future time clauses & when, until, etc Education Assessing opinions Understanding points of view</p>
第10回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eleven Elementary: White gold Quantifiers: how much/ how many, a lot of How much salt and sugar do you have a day? Categorizing information</p> <p>Pre-Intermediate: Fearof.net Present perfect + for and since How long...? Taking notes</p>
第11回	<p>Intermediate: Live and learn First conditional and future time clauses Talking about school Understanding points of view</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twelve Elementary: Facts and Figures Comparative adjectives Asking and answering quiz questions Understanding instructions</p>
第12回	<p>Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events</p> <p>Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons</p>
第13回	<p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirteen Elementary: The most dangerous place.. Superlative adjectives Places and buildings Tourist information</p> <p>Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions</p>
第14回	<p>Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fourteen Elementary: Five continents in a day Be going to (plans), future time expressions</p>

	<p>City holidays Taking notes</p> <p>Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons</p> <p>Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p> <p>第15回 Class Fifteen</p> <p>Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story</p> <p>Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information</p> <p>Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence</p> <p>A:多い B:中 E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 (学修成果) 知識・理解 1. 知識 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Homework 20%</p> <p>Participation 30%</p> <p>Speaking quizzes 30% (期末テスト)</p> <p>Written assignment 20%</p> <p>なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each speaking test, there will be a short interview with each student to discuss strengths and how they can improve their speaking.
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編)」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版 「IELTS 必ず出る単 スピードマスター」 島津幸樹 著 Jリサーチ 出版
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称： 国際こども教育概論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Global Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年専攻科	2単位	1年選択 専攻科必修
担当教員			
長谷山康一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C101
添付ファイル			
「国際こども教育概論」カリキュラムマップ(到達目標) .pdf		「国際こども教育概論」カリキュラムマップ (到達目標)	
「国際こども教育概論」ループリック.pdf		「国際こども教育概論」ループリック	

講義概要	<p>国際的な保育を学ぶ上での基礎となる事柄をさまざまな角度から取り上げ、内容の理解を促す授業を展開する。海外における保育の潮流、研究の動向、子どもの権利の尊重、多文化共生社会における多様性の尊重等について、受講生が主体的に学び、保育実践に活かすことのできる知識と方法を授業を通して獲得できるようにする。</p> <p>担当教員らはイングリッシュプレスクールの教員経験があり、長期に渡る海外在住経験がある。</p> <p>他の科目との関連性：本科目では、今後の学位プログラムでのこども教育に関する学びの多くを国際的視点から独自に考察できる姿勢を養うものでもある。よって、本学で履修する全ての科目での学びにおいて、本科目との関連性自体を熟慮すること求める。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 イントロダクション：本授業の概要と目的を理解する 科目説明 (目的、内容、評価などについて) 担当教員の紹介 ※課題の説明 予習：シラバスを読み、本授業の概要と目的を知る (30分) 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる (1時間) A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第2回 もしカナダで保育士になる将来があるとしたら？ 外国の保育士像を考える 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく (30分) 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことについて調べる (1時間) 課題(1)に取り組む (30分) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第3回 国際条約「子どもの権利条約」 国際条約「子どもの権利条約」の内容を理解し、子どもの権利への考え方を学ぶ 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく (30分) 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる (1時間) 課題 (1) に取り組み、発表準備をする (1時間) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第4回 「世界の子どもの暮らし」の課題発表 課題(1)「世界の子どもの暮らし」の課題発表 予習：発表資料の作成と練習 (1時間) 復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる (30分) 発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する (1時間) B：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第5回 国際的視点から見る保育者の専門性 国内外の事例から、国際的保育者の専門性についての理解を深める 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく (30分) 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる (1時間) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第6回 国際的視点から見る保育者の勤務環境 国内外の保育者の勤務環境についての理解を深める。 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく (30分) 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる (1時間) A：中 B：多 E：あり</p>

第7回	<p>F：あり</p> <p>保育者、こども、保護者間のプロセスの国際比較</p> <p>保育者、こども、保護者間のプロセスについて国際比較をし、理解を深める。</p> <p>予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分）</p> <p>復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間）</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>
第8回	<p>多文化共生保育について</p> <p>多文化共生教育・保育の概要についての理解を深める</p> <p>予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分）</p> <p>復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間）</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>SDGsとESD(1)「持続可能な開発のための教育」</p> <p>ESD（持続可能な開発のための教育）の概要について理解し、環境と子どもに関する国際的潮流を知る</p> <p>予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分）</p> <p>復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間）</p> <p>課題（2）について考える（30分）</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>SDGsとESD(2)「持続可能な開発のための教育」の実践</p> <p>ESDの概念を保育に活かすための方法を考える</p> <p>予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分）</p> <p>復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間）</p> <p>課題（2）の資料作成と練習（1時間）</p> <p>A：中 C：多 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>「私が考えるESDの実践」の課題発表</p> <p>課題（2）「私が考えるESDの実践」の課題発表</p> <p>予習：課題（2）に取り組む、発表準備をする（1時間）</p> <p>復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる（30分）</p> <p>発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する（1時間）</p> <p>B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>「私にとっての国際的な保育実践」について</p> <p>課題（3）「私にとっての国際的な保育実践」についてクラスメイトと意見交換をし、自分の目指すべき保育について理解を深める。</p> <p>予習：今までの授業内容を踏まえ、自分の感想と意見をまとめておく（1時間）</p> <p>復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間）</p> <p>「私にとっての国際的な保育」についてまとめ、発表資料を作成する（1時間）</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション(1)</p> <p>「私にとっての国際的な保育」を発表し、クラスメイトと考えを共有する</p> <p>個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ</p> <p>予習：発表準備と練習（1時間30分）</p> <p>復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分）</p> <p>A：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション（2）&</p> <p>「私にとっての国際的な保育」を発表し、クラスメイトと考えを共有する</p> <p>個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ</p> <p>予習：発表準備と練習（1時間30分）</p> <p>復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分）</p> <p>A：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第15回	<p>授業の総括（2）授業全体を通して学んだことと今後の課題</p> <p>本科目を通して学んだことを振り返り、理解度チェックを行う。</p> <p>国際的な保育を学ぶ意味と今後の展望について考察する。</p> <p>予習：第1～14回まで授業内容を整理し、自分の感想と意見をまとめておく（1時間）</p>

	<p>復習：授業で取り組んだ内容の全体を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	国際こども教育学科で学ぶ意義を意識し、世界に視野を向ける。高い専門性を備えた保育者になり、自らのやりがいを感じると同時に、社会や地域に貢献できる力を身につける
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p> <p>1. 国際化が進む世界における幼児教育の概要と状況を理解し、説明することができる。 2. 多文化共生保育について理解し、その方法や内容について論じ合うことができる。 3. 保育における子どもの権利や多様性の尊重について考え、実践の方法を知ることができる。</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>振り返りノート（60%） グループ研究・プレゼンテーション（20%） 期末レポート（20%）</p> <p>提出課題（振り返りノート含む）発言による授業への貢献、参加の姿勢もルーブリック評価の対象とする 成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p> <p>*欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業内にてディスカッションを行う中で教員およびピア・フィードバックを行う。
教科書	必要に応じてPDF等で配布する
参考書	<p>OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書—人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店 泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著（2008）『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 咲間まり子編（2020）『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	上記に記載の通りとする
履修上の注意、条件等	<p>事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡すること。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解度、また、ゲストスピーカーに来て頂くことなどにより、変更の可能性がある。</p>
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。
備考・メッセージ	授業は基本的に遠隔授業で行うが、対面もありうる。どの授業がそうであるかは授業内で連絡する。グローバル社会において、保育者として国際的な視野を持つことは不可欠です。未来を生きる子どもたちのために、保育者としてできることを一緒に考えていきましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年 専攻科	2単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
佐治量哉			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：無し	ナンバリング：B303
添付ファイル			
乳幼児と脳科学ルーブリック2023.pdf			
乳幼児と脳科学カリキュラムマップ2023.pdf			

講義概要	<p>近年、子どもの発達に関する学術的・社会的関心は高まっている。とりわけ脳科学を標榜する書籍は数多く書店に並んでいる。しかしながら、それらの中には科学的根拠のない情報も多く、保育者として信頼できる情報と信頼できない情報を判断することが必須となっている。</p> <p>この講義では、子どもの発育（成長と発達）や凸凹をとらえる視点として、最新の発達科学や脳科学研究の有用性を示すとともに、その限界にも言及する。全15回の講義を通して、乳幼児期の脳の発達、睡眠、言語、運動、記憶、情動などを中心に上げ、さらには発達に関わる諸問題（遺伝・環境、神経発達症候群など）についても議論する。第14回目には、学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>他の科目との関連：「保育の心理学I」「子どもの保健I」で習得する項目を、発達科学・脳科学研究の視点からさらに掘り下げて学び、保育士として必要なスキルのさらなる向上を目指す。また心理学特論と共に学ぶことで、人間の理解はさらに深まることが期待される。</p> <p>乳幼児の発達科学研究・脳科学研究に従事してきた経験に基づき、最新の知見を保育現場にどのように活かすべきなのか、活かすことができるのかを授業の中で述べていく。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回 イントロダクション 近年の技術革新によって、生きている意識のある人間の脳内の活動をリアルタイムに可視化することができるようになってきた。このような脳科学研究は、乳幼児の心の理解にどのように役立つのか？限界はあるのか？脳科学を標榜する育児本や教育法は枚挙にいとまがない。しかし科学的根拠がない誤った知識が独り歩きしている実情もある。この講義では、現在の脳科学研究が人間を理解するために欠かせないものであることを学ぶ。 予習の問い：「私たちは、どうして保育（子育て）で赤ちゃんを抱っこするのか」について自分の意見を発表できるようにまとめる【1時間】</p> <p>第2回 D:少、F:あり 胎児期から乳幼児期の脳の発達 人の場合、生まれたばかりの赤ちゃんの頭部に脳があることは周知の事実である。それでは脳はいつ形成されるのか？この問いに答えるために、この授業では脳の成り立ちと脳内の神経細胞ネットワークの発達について、胎内から乳幼児期までの期間を中心に学ぶ。 予習の問い：「母親の胎内で最も早く働き始める感覚（5感）は何か」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>第3回 D:少、E:あり、F:あり 胎児期から乳幼児期の脳の発達に関わる諸問題 喫煙や飲酒と胎児の発育の関係や虐待など胎児期から乳幼児期における脳発達に影響を及ぼす諸問題について学ぶ。 予習の問い：「同居家族の喫煙は妊娠中の母体と赤ちゃんにどのような影響を与えるのか」について自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>第4回 B:少、E:あり、F:あり 乳幼児の睡眠 眠ること（睡眠）は、乳幼児期の脳のみならず心や身体の発達にとっても欠かせません。この授業では、乳幼児期の眠りの特徴について学ぶと共に、眠りが脳の働きによってコントロールされていることを学ぶ。 予習の問い：「どうして眠るときに布団を掛けるのか」について自分の経験を踏まえて自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>第5回 D:少、E:あり、F:あり 乳幼児の睡眠に関わる諸問題：午睡、夜泣き 乳幼児期には眠りが大切であると思えば思うほど、眠りに関する諸問題が顕在化してくる。たとえば、午睡は何時間とすべきなのか、夜泣きにはどのように対応すべきなのかなど、保育園でよく直面する眠りに関する諸問題について考察する。 予習の問い：「保育園で午睡をしたくない子どもがいた時、あなたならどのような対応をする</p>

	<p>か」に対して、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>B：少、E：あり、F：あり 乳幼児に適切な刺激 乳幼児の発育において適切な静けさとは何か？適切な触覚刺激や運動とは何か？適切な匂いとは何かという点について、保育環境の在り方と共に学ぶ。</p> <p>予習の問い：香水やにおいの強い柔軟剤は、（特）乳児の保育現場では避けたほうが良いといわれています。その理由について、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第6回	
第7回	<p>D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の言語 人間の言語能力は生後36カ月の間に、音声、語彙、文法の獲得とめざましい発達変化を遂げる。その後も徐々に発達は続けるが、最も急激な言語発達が観察されるのが乳幼児期である。この講義では、言語の一次的機能に焦点を当てて言語知覚と言語発話の2つの側面から、特に生後1年の言語獲得過程について学ぶ。</p> <p>予習の問い：「スマホやテレビは乳幼児のことばの発達に影響を与えるのか」という問いに対して自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第8回	<p>B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の言語と身体を育むための遊び 近年注目されていることばを育むための関わり方（インリアルアプローチ）について、SOULの視点から学ぶ。</p> <p>予習の問い：「ことばを話さない乳幼児に対して絵本の読み聞かせをすることは意味があるのか」という問いに対して、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第9回	<p>D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の記憶 記憶は私たちの日常生活の中心をなすものである。生まれたばかりの赤ちゃんに記憶はあるのでしょうか？この講義では、生後1カ月の乳児であっても潜在記憶が存在することや、生後8-10ヶ月頃に顕在記憶技能が顕著に向上することなど乳児の記憶研究の知見を学ぶ。</p> <p>予習の問い：「あなたが最も子どもの時にさかのぼれる思い出」を整理しておく。それは何歳ごろの出来事なのか、具体的に発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第10回	<p>B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の情動 表情は人間だけが持つ感情表現の一つである。基本6感情と言われる「喜び、悲しみ、怒り、嫌悪、恐怖、驚き」は、文化を超え、全人類に共通に存在する表情である。さらに生後1週間の乳児であっても母親を識別するという新生児の顔選好性はよく知られていることから、人間にとって表情認識は大変に重要なコミュニケーションツールであることが分かる。この講義では、乳幼児の表情認知能力がどのように発達していくのか、表情認識に関わる脳の神経基盤について学ぶ。</p> <p>予習の問い：「赤ちゃんはどうして笑うのか」という問いに対する意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第11回	<p>D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の発達に関する諸問題：遺伝と環境 子どもの発達において、親（家庭）の役割は絶対的に重要である。しかし、成育環境や個性を調べて分かることは、遺伝子は環境により、環境は遺伝子によってお互いに繋がっているという点である。つまり遺伝 or 環境という捉えかたではなく、遺伝 and 環境という考え方で子どもの発達をとらえる必要があると思われる。この講義では、一卵性双生児の研究などを紹介しながら、人間の心理的・行動的気質形成に及ぼす、遺伝の影響と環境のかかわりについて学ぶ。</p> <p>予習の問い：どうして兄弟姉妹なのに性格が異なるのか。この問いに対する自分なりの意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p>
第12回	<p>B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（1）ASD 自閉症スペクトラム症（ASD）は、社会性及び対人コミュニケーションの困難さ、過度に強いこだわりや常同行動によって定義される発達障害である。この講義では、自閉症スペクトラムの中心的な問題であると考えられる非定形な自己について解説する。また自己と心の理論の問題に関する脳科学研究を紹介しながら、ASD児に見られる心の理論の不全の原因について学ぶ。</p> <p>予習の問い：「“自閉的”な行動とはどんな行動か」という問いに対して具体例を挙げて発表できるようにまとめておく。【1時間】</p>

	<p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第13回 乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（2）LD 注意欠陥多動症（ADHD）は、一般社会のみならず教育・保育に関わる専門家の中でもまだ十分に認知されているとは言えない。その理由の一つに、ADHDの行動特徴は正常行動からの質的な逸脱がなく、ややあいまいな基準で診断されていることも考えられる。この講義では、最近のADHDの遺伝学的な研究、脳科学的知見、二次障害の有病率の高さ、薬物治療の状況などについて学ぶ。</p> <p>限局性学習症（LD）の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がありあいまいさを含んだ概念である。この講義では、現在LDの中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の知見について学ぶ。</p> <p>予習：「多動な子ども」と言えばどのような子どもをイメージするか、具体的に発表できるようにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第14回 乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（3）LD 限局性学習症（LD）の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がありあいまいさを含んだ概念である。この講義では、現在LDの中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の知見について学ぶ。</p> <p>予習：英語圏における「ディスレクシア」の現状（例えば、ディスレクシアであることをカミングアウトしている有名人のことなど）について、ノートにまとめておく。【1時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第15回 1～14回目までの総括 1～14回目までの授業について総括を行う。</p> <p>予習：これまでの授業プリント・スライドを参照しながら、自らのノートに授業内容を整理する。【2時間】</p> <p>【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。</p> <p>E：あり、F：あり</p>
教育目標との関連	子どもの発育を「大人中心主義」の「経験側」で見極めることは危険である。この科目では、子どもの発育（成長・発達）を捉える新しい視点として、発達科学研究や脳科学研究を紹介していく。人間（特に乳幼児）理解のための高い意欲関心を有し、そのための新しい知識、思考、判断を修得することに熱意があることが望まれる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1：乳幼児の基礎的な発育にかんして、発達科学や脳科学の知見に関連付けて説明することができる。 DP2：乳幼児の発育の凸凹に対して、科学的な知見に基づいた工夫や歩み寄りの筋道を保育環境に即して立案することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	・期末テスト：60%（14回の授業時間内に期末試験を実施し、授業内容全般についての理解度を評価する） ・予習課題、振り返り：20%（各回のはじめに前回の授業の振り返りを行い、理解度の確認をする） ・平常点：20%（出席状況や授業態度、授業内の発言などを総合的に評価する） なお、評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Google classroomにおいて総括を配信する。
教科書	授業中に随時紹介する
参考書	乳幼児の発達と保育（秋田喜代美監修、朝倉書店）など
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通りである。
履修上の注意、条件等	「保育の心理学」を履修済みかつ、1年次終了時のGPAが2.0以上であること
オフィスアワー	講義資料・プリントはGoogle classroomを利用してダウンロード可能にします。各自、必要に応じてダウンロードすること。また、講義の内容に関する質問は限定コメント欄を利用してください。
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する。

講義科目名称： 比較乳幼児教育論

授業コード：

英文科目名称： Comparative Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年専攻科	2単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
橋元知子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C302
添付ファイル			
比較乳幼児教育論ルーブリック.pdf			
比較乳幼児教育論カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>多様化する社会において、次世代の保育を担う保育者には国際的な視点を身につけることが求められている。国際化とは、相手の立場を認め尊重し、自分の考えも十分に伝えられることであり、互いの違いを知り理解しようとする姿勢が重要である。本演習では、異なった歴史、文化、社会の背景をもとに展開してきた世界各国の保育について様々な角度から考察し、多様な価値観や、共通する子ども観についての考えを深める。国際こども教育概論から発展し、より個別具体的に国家間の乳幼児教育の相違点を検討する。</p> <p>担当教員はインターナショナルプレスクールでの教員経験や北アメリカでの在住経験を持つ。実務経験を活かし、世界の絵本、遊び、保育形態、保育制度への理解を通じ、様々な文化や考え方を知り、視野を広げるための授業を多面的に展開する。保育者として子どもたちへ国際化教育を行う際の具体的な方法について、履修学生同士が学び合い、互いを高め合える授業を展開する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>イントロダクション（全遠隔授業予定） 本授業説明（目的、課題、評価などについて）（本科目は遠隔授業で実施予定である。詳細については授業内に提示する。） 担当教員紹介 予習：シラバスを読み、本演習の内容と意義を理解する（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：少 B：多 E：あり F：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>比較教育研究について 比較教育研究の意義についての知識を深める。 予習：比較教育について調べ、感想を言えるように、自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本を探し、分析の視点を探す（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第3回	<p>チリの保育について チリの保育の歴史、内容、環境、質などについて学び、日本の保育へ示唆することについて学習する。 予習：チリの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本を探し、分析の視点を紹介する準備をする（約30分） A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第4回	<p>デンマークの保育について デンマークの保育の歴史、内容、環境、質などについて知り、日本の保育へ示唆することについて学習する。 予習：デンマークの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本と、分析の視点を紹介する準備をする（1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>	
	第5回	<p>ドイツの保育について ドイツの保育の歴史、内容、環境、質などについて知識を得、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：ドイツの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本と、分析の視点を紹介する準備をする（1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>	
	第6回	<p>アイスランドの保育について アイスランドの保育の歴史、内容、環境、質などについて知り、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。</p>	

第7回	<p>予習：アイスランドの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する絵本と、分析の視点を紹介する準備をする（1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p> <p>絵本から学ぼう（個人プレゼンテーション、共有）—多様性を伝える保育 個人課題「絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」発表と共有 翻訳絵本と分析の視点について紹介する。意見を共有し、多様な視点と、子どもへの影響について考える 予習：個人課題に使用する翻訳絵本と分析の視点を紹介する準備をする（約30分） 復習：授業発表について振り返ると共に関心を持ったことを調べる（約1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第8回	<p>絵本から知ろう（個人プレゼンテーション、共有）—多様化する社会における保育 個人課題「絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」発表と共有 翻訳絵本について紹介する。意見を共有し、様々な視点をもつ大切さを学び、子どもへの影響について考える 予習：個人課題に使用する絵本と分析の視点を紹介するための準備をする（約30分） 復習：授業発表について振り返ると共に関心を持ったことを調べる（約1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>イスラエルの保育について イスラエルの保育の歴史、内容、環境、質などについて知識を習得し、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：イスラエルの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>韓国の保育について 韓国の保育の歴史、内容、環境、質などについて学び、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：韓国の保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>ノルウェーの保育について ノルウェーの保育の歴史、内容、環境、質などについて学習し、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：ノルウェーの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>トルコの保育について トルコの保育の歴史、内容、環境、質などについて知識を得、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：トルコの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>カナダの保育について カナダの保育の内容について学習する。 グループ発表の説明。 予習：カナダの保育について調べ、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） A：中 B：多 D：多 E：あり F：あり</p>

	<p>第14回 グループ発表（準備） 授業内での発表準備。 予習：発表準備と情報収集（1時間30分） 復習：本科目での学びについて振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回 グループ発表（共有）／授業の総括 発表と科目総括。 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：グループ発表の内容やプロセスについて振り返る（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	世界の子どもを取り巻く状況や保育についての理解を深め、国際的な視野を持つと同時に、子どもたちに幼児期からの平等の意識を育む国際化教育の方法を知ること目標とする
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照 DP1. 国際的な保育を学ぶ意味について理解し、世界の保育を比較乳幼児研究の観点から説明することができる DP4. 平等や子どもの権利、多様性について理解し、保育実践に活かす具体的方法を主体的に考えることができる DP5. 多文化共生社会における保育者の役割について理解し、子どもや保護者に対する配慮を学ぶことができる
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 期末レポート 20%、提出課題 20%、発表 20%、発言による授業への貢献 20%、参加の姿勢 20% 2. 成績評価は添付資料のルーブリックを参照。 *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	期末レポートのフィードバックはGoogle classroomで配信。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。教科書は使用しない。
参考書	泉千勢編（2017）『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか—子どもの豊かな育ちを保障するために—』ミネルヴァ書房 ¥3850（税込） OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書—人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店 ¥8360（税込） その他、授業内に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習復習は、上記の通りである。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解などにより、変更の可能性はある。
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業は基本的に遠隔で実施する。詳細については授業内で明示する。 自ら積極的に好奇心を持って学ぼうとする保育者は、子どもに良い影響を与え、自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ子どもを育てることにつながります。共に楽しく学び合い、新しい知識を得ることに喜びを感じましょう。

講義科目名称： 保育英語I

授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1 単位	国際こども教育コース 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E301
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 保育英語I.pdf			

講義概要	<p>In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such as nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the basic English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten.</p> <p>In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day.</p> <p>Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>What's Your Name? In this class, we will study English used to introduce yourself and give basic information.</p> <p>Vocabulary: Things children use at nursery school Grammar: Present tense</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>第2回</p> <p>Where are you from? In this class, we will study English used to talk about yourself and where you are from and ask questions.</p> <p>Vocabulary: Countries and Nationalities Grammar: Present tense questions</p> <p>A;中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours</p> <p>第3回</p> <p>Good Morning!! In this class, we will study the English used to talk about your daily life and schedule in a nursery school.</p> <p>Vocabulary: Daily life Grammar: Present tense and present continuous tense</p> <p>A;中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours</p> <p>第4回</p> <p>Are You OK? In this class, we will learn the English used to talk about sickness and not feeling well.</p> <p>Vocabulary: Illness and medical products Grammar: Be verb</p> <p>A;中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours</p> <p>第5回</p> <p>What are you doing? In this class, we will learn the English used to talk about what is happening now.</p> <p>Vocabulary: Activities children do at nursery school Grammar: Verbs that don't use the progressive</p> <p>A;中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours</p>		

第6回	<p>How are you feeling? In this class, we will learn the English used to talk about feelings.</p> <p>Vocabulary: Feeling Grammar: ~ed and ~ing adjectives</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第7回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours What's She Like? In the class, we will learn the English used to talk about people.</p> <p>Vocabulary: Family members, personality adjectives Grammar: Different uses of "like"</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第8回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours Do's and Dont's In this class, we will learn the English used to give orders.</p> <p>Vocabulary: Verbs Grammar: Imperative</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第9回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours Let's Eat Lunch! In this class, we will learn the English used to talk about food.</p> <p>Vocabulary: Food Grammar: Different uses for "let"</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第10回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours What do you want to do? In the class, we will learn the English used to invite people to do things and also how to react to news.</p> <p>Vocabulary: Children's games Grammar: Exclamatory sentences</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第11回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours What do you have to do? In the class, we will learn how to talk about your obligations and also giving advice.</p> <p>Vocabulary: Children's fights Grammar: Modal verbs</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第12回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours I need to go potty. In this class, we will learn the English needed to talk about the bathroom and making requests.</p> <p>Vocabulary: Bathroom and toilet training Grammar: Requests</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p>
第13回	<p>Study/Homework time: Approximately 2 hours Injuries and Emergencies In this class, we learn about the English needed to talk about injuries and emergencies.</p> <p>Vocabulary: Injuries and parts of the body Grammar: Past tense</p> <p>A多 B:少 E: あり F:あり</p>

	<p>第14回 Study/Homework time: Approximately 2 hours We're going to go outside In this class, we will talk about the English need when taking children on walks or playing outside.</p> <p>Vocabulary: Outside activities Grammar: Future tense B:少 E: あり F:あり</p> <p>第15回 Study/Homework time: Approximately 1 hour Presentations Students will take a final exam covering this course.</p> <p>第16回 F:あり Review Final exams will be returned and discussed. F: あり</p>
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will be able to express themselves using basic English and communicate in an early childhood education situation.</p> <p>2. Students will have a better understanding of the differences between Japan and other cultures.</p> <p>1. Students will gain the vocabulary needed to work with children.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Final Exam 30% Writing Homework 20% Vocabulary Tests 30% Homework 20%</p> <p>There will be multiple sort writing assignments which will be graded using a rubric. The presentations will also be graded a rubric.</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	The final exam will be returned in the final class and we will review it together, so students can learn where they need to study more.
教科書	「Speaking of Childcare」 Peter Vincent Naoko Nakazato 著 南雲堂 出版
参考書	None.
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	These classes will be conducted in person.

講義科目名称： 保育英語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	2年 専攻科 国際こども教育コース選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E302
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 保育英語II.pdf			

<p>講義概要</p>	<p>In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an assistant teacher.</p> <p>In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English.</p> <p>Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>Looking for a Good Preschool Asking for Directions to the Preschool Getting Information</p> <p>In this class, we will study telephone English and how to take a phone message. And also questions used when signing up for a nursery school.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>第2回</p> <p>Starting Preschool A snowy day First Day of School</p> <p>In this class, we will study greetings and questions used on the first day of nursery school. We will also learn how to write a questionnaire about the family and make a daily schedule for a nursery school.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第3回</p> <p>Going to Preschool Going to school on a rainy day Going to school on a hot day</p> <p>In this class, we will study the English used when talking about the weather. We will also learn about the passive voice and how it is used in written announcements or letters.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第4回</p> <p>Playing Inside Making Decorations for Children's day Kamishibai</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about Children's Day events and customs.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第5回</p> <p>Playing Inside 2 Dancing</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about dancing or rhythm. We</p>		

	<p>will also learn how to explain Japanese radio exercise.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第6回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Inside 3 Drawing and Painting Folding Origami Paper</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about arts and crafts. We will also begin preparations for the arts and crafts presentations.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第7回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Arts and Crafts</p> <p>In this class, students will give their arts and crafts presentations.</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p>
第8回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Eating Lunch Getting ready for lunch Second helping and cleaning time</p> <p>In the class, we will learn the English used during lunch or talking about meals. We will also learn how to create a menu in English.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第9回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Snack Time Snack time</p> <p>In this class, we will learn the English used during snack time. We will learn how to write a personal letter or notice to a parent.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第10回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Outside Playing Tag Playing Jump Rope</p> <p>In this class, we will learn the English used when playing outside. We will learn how to explain common outdoor games.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第11回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Trip Preparing for the school trip Going on a school trip</p> <p>In the class, we will learn the English used in planning and executing a school trip. We will also learn how to write a letter telling parents about the trip.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第12回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Sickness Getting a stomachache Getting a fever</p> <p>In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including calling parents to inform them.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
第13回	<p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Getting Hurt Falling down and getting hurt</p>

	<p>In this class, we will learn the English needed to talk about injuries, including how to describe pain. A:中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第14回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多い E: あり F:あり</p> <p>第15回 Study/ Homework Time: Approximately 1 hour Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多い C:あり D: あり F:あり</p>
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will acquire the basic English skills needed to work as an assistant teacher.</p> <p>2. Students will acquire greater understanding of cultural differences.</p> <p>3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Writing assignments 40%</p> <p>Presentations 40%</p> <p>Vocabulary Tests 20%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After presentations, a detailed evaluation will be passed out to each student describing their strengths and weaknesses.
教科書	「幼保英検2級テキスト」 幼児教育・保育英語検定協会 著 株式会社ブックフォレ 出版 2019年
参考書	None
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 国際理解

授業コード：

英文科目名称： Basics of International Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	国際こども教育コース（1年） 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：講義形式	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H301
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 国際理解.pdf			

講義概要	<p>As students of the International Early Education Course, you will have multiple opportunities to study abroad in different countries. While it is important to have English skills before studying abroad, it is also important to have a basic understanding of world cultures and history and how they affect the world today. In this class, you will learn basic world geography and history with a focus on English-speaking countries. We will also cover world religions and languages.</p> <p>The first four classes will be an overview, including basic world history, major world religions and language. We will then spend each of the next five classes focusing on one continent. The last four classes will focus on English speaking countries.</p> <p>Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>Class 1 Introduction</p> <ul style="list-style-type: none"> • About this class - textbooks, folders • Using Wikipedia to research • About maps <ul style="list-style-type: none"> • How to read • Kinds of maps • Continents • Oceans • Hemispheres • Time-Zones • Size Vs Population • United Nations • NATO • G7 • G20 <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 2 World History</p> <ul style="list-style-type: none"> • Eras of world history • Major empires through history • Major world events <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 3 Religions of the World</p> <ul style="list-style-type: none"> • Major Religions of the world <ul style="list-style-type: none"> • Christianity / Islam / Buddhism / Hinduism / Judaism / Shintoism • Basic tenants • Date founded / Major figures • Rules and forbidden food • Important dates and events • Ancient Religions and Mythologies <ul style="list-style-type: none"> • Norse / Greek / Roman • Dates • Examples of effects on English and cultures now <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 4 Language</p> <ul style="list-style-type: none"> • Most spoken languages in the world • Writing systems • Language Families • Relationship of Japanese to English • Japanese words in English • Foreign words in Japanese that are not English • Brief history of the English language <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 5 - Continents</p>

	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> • One continent per class: Asia / Africa / North America / South America / Europe • Major physical features (seas, rivers, mountains, desert, etc) • Regions • Major countries and cities • Major historical events • Famous buildings and sightseeing sites <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Fact sheet preparation time: 3 hours Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 10 Country Presentations Each student will give a 3-5 minute PowerPoint presentation about one country.</p> <p>Class 11-14 English Speaking Countries</p> <ul style="list-style-type: none"> • One or two countries per class: UK and Ireland / Australia and New Zealand / Canada/USA • Government • Geography • Major historical events • Major cities <p>A: 中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Fact sheet preparation time: 3 hours Quiz Study time: 1 hour</p> <p>Class 15 Presentation and Review Each student will give a 3-5 minute PowerPoint presentation about a topic related to the previous four classes.</p>
教育目標との関連	Students will gain a basic understanding of world history and geography.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1. Students will show basic knowledge of world facts including geography and history</p> <p>DP2. Students will gain ability to see how culture affects thinking and world events</p> <p>DP4. Students will gain more appreciation of other cultures and peoples</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>30% Presentations (期末テスト)</p> <p>30% Weekly Quizzes</p> <p>30% Writing Assignments</p> <p>10% Notebook</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After presentations, a detailed evaluation will be passed out to each student describing their strengths and weaknesses.
教科書	「ベーシックアトラス 世界地図帳」平凡社出版
参考書	<p>「英語の歴史 過去から未来への物語」寺澤 盾 著 中央公論新社 出版</p> <p>「読むだけですっきりわかる 世界地理」後藤 武士 著 宝島社 出版</p> <p>「エリア別だから、ながれがつながる世界史」朝日新聞 出版</p>
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	Review notes before next class(1 hour each)
履修上の注意、条件等	If you miss a class, you must come to the instructor's office and get the notes you missed before the next class.
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 世界のESDと保育

授業コード：

英文科目名称： Education for Sustainable Development in the World from the Early Childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
萩原元昭			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C305
添付ファイル			
世界のESDと保育 カリキュラムマップ・ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>子どもは未知への探検というべき遊び (spielen) が大好きです。子どもが夢中になって遊んだり、活動している時の輝きに満ちた表情や身体の様子を見せるのは、子どもが自ら選ぶ主体的な参画活動としての遊びの中に、ワクワクするような「未知への探検への喜び」が含まれているからでしょうか。地球上のすべての子どもたちが一人残らず仲間とこの自然の「センスオブワンダー」と出会い、相互にたすけあいながら協働して、ESDやSDGsに参画し、地球の温暖化や気候変動の阻止、貧困の根絶、核廃絶、資本優先の経済から人命尊重の経済への変革、ジェンダー、不平等問題の解決など、2030年までのSDGsへの行動目標への参画が一人一人の地球市民の課題となり、民族、宗教、国を超えて連帯やパートナーシップが求められています。この科目では、日本、スウェーデン、中国、韓国、ニュージーランド、イギリス、アメリカなど世界の乳幼児からのESD、SDGsへの参画とそれを支援するファシリテーターとしての保育者、教師、親の役割のあり方、それを可能とする保育環境のあり方を共に考え、民主的な地球市民の保育者、教師の養成に資することを目標としております。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>イントロダクション 「世界のESDと保育」を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもにとってのESD参画の必要性 ESDとSDGsとのちがい、関係 乳幼児からESD実践への参画の必要性について学ぶ <p>B : 中 D : 少 E : 今回の学びの振り返り (30分)</p> <p>予習：テキスト2章 (10頁～24頁) を読んでくる 重要と思われる部分に下線を引いてくる</p> <p>復習：26頁の2の事例について、あなたの考えをのべ、次回に提出する</p>	<p>第2回</p> <p>日本におけるESDの現状と課題について学ぶ</p> <p>特に、乳幼児期の子どもの自然体験にESDのルーツがあることを事例をふまえて学ぶ</p> <p>B : 中 D : 少 E : あり F : あり</p> <p>予習：3章 (25頁～39頁) まで読んで重要と思われる部分に下線をひいてくる</p> <p>復習：26頁の2の事例について、あなたの考えをのべ、次回に提出する</p>	<p>第3回</p> <p>「持続可能な開発」 (Sustainable Development) の意味およびESDのOMEPのプロジェクト、特に7つのRsについて学ぶ</p> <p>A : 少 B : 中 D : 少</p> <p>予習：テキスト28頁～32頁よく読んでくる</p> <p>復習：「持続可能な開発」の意味、およびESDの3つの主要な柱と7つのRsについての関係をまとめて次回に提出する</p>
	<p>第4回</p> <p>スウェーデンの就学前学校におけるESDのジェンダー問題、民主主義の価値観、子どもの権利の尊重、世代間の交流などの取り組みについて学ぶ</p> <p>スウェーデンの就学前学校のESDへの取り組みの特徴について、アクティブラーニングを実践</p> <p>A : 少 B : 少 D : 少 E : あり F : 次回までに、個人別にスウェーデンのESDの特徴についてまとめレポートを提出する</p>	<p>第5回</p> <p>ニュージーランドにおけるESDへの取り組みについて学ぶ</p> <p>ワカリ幼稚園、マンゲレ・ブリッジ幼稚園、スタツフォード保育園の3園の事例から、マオリ文化の尊重、持続可能な学び、菜園づくりによる自然環境に親しむ経験などの特徴を学ぶ</p> <p>A : 中 B : 中 D : 少</p> <p>予習：テキスト92頁～106頁までよく読み、マオリ文化の尊重、継承や持続可能な学びなどのニュージーランドのESDの特徴についてまとめてくる</p> <p>復習：ニュージーランドのESDへの子どもの参画について、あなたが学んだことを次回までにレポートする</p>	<p>第6回</p> <p>アメリカにおけるESDへの取り組みについて学ぶ</p> <p>50の週および連邦直轄特別区からなるUnited States of Americaでは、乳幼児、幼児教育、保育に関しても州が司り、多種多様である。ここでは、テキストで取りあげられたNAEYC (全米乳幼児教育協会) とACEI (国際乳幼児教育協会) におけるESDへの取り組みを中心に学ぶ。前者は、ESDの根柢に欠かせない人間の存在と文化の継承への尊重を表しているDAPの取り組み、後者におけるESDの取り組みとして、5歳児クラスの「種比べと種まき」などの実践事例をとりあげ、学ぶ</p> <p>A : 少 B : 少</p>

第7回	<p>D :少 E :あり 予習:テキスト132頁~145頁をよく読んで重要な特徴に下線をひいてくる 韓国におけるESDへの取り組みについて学ぶ ・幼児教育ナショナルカリキュラムにおけるESD ・事例1 緑の地球キーパー ・事例2 クラスの文化と「本の病院」の下級生への引き継ぎ:年長組の特権とは何か。 特に持続可能ではない社会問題の実状への問題点への「意思決定」や「問題解決」のプロセスに積極的な参画が可能であることを学ぶ A :中 B :中 D :少 E :あり 予習:テキスト149頁~161頁をよく読み、重要な部分に下線をひいてくる 復習:2つの実践事例を通してあなたが学んだことをレポートする</p>
第8回	<p>イギリスにおけるESDへの取り組みについて学ぶ ナショナルカリキュラムは1998年に制定され、3~18歳までをキーステージ0-5歳までに段階づけ、指導と評価システムの体系化をはかり、教育が機会均等、健康、民主主義、経済、そして持続可能な発展に重要な役割を果たすことを認めている。 ・イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド ・幼児期のESDの実践に学ぶ B :少 D :少 E :あり 予習:テキスト72~91頁をよく読んで、イギリスのイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、別々のESD参画の特徴についてまとめてくる 復習:フレーザーという名前のクマのプロジェクトとマタラジオ・プロジェクト、ジェンダーの平等について要約して、提出する</p>
第9回	<p>アフリカにおけるESDへの取り組み ・wash from the start ・プリスクールの実践 ・統合された乳幼児期の保育と教育 ・強靱性とリスク軽減などについて学ぶ A :少 B :少 D :少 予習:テキスト108頁~128頁をよく読んで、重要な部分に下線をひいてくる 復習:結論についてのあなたの感想をレポートすること</p>
第10回	<p>子どものESD参加のための変革の課題と方法について学ぶ ・参加型実践システムから参画型実践システムへの変革方法としてのSDGs17の行動目標 ・参画主体としての幼児のESDの認知傾向をとらえる研究事例 ・子どものESD参画に不可欠な保護者・教師のファシリテーターとしての質の高い専門的能力 ・これからの乳幼児期からの子どものESD、SDG参画の促進に向けての5つの課題と提言について学ぶ A :少 B :中 D :中 E :あり 予習:テキスト166頁の評10-1各国における子どもの発語の類別化の表から日本の場合についてどのような傾向が読みとれるか考えてくる 復習:テキスト168頁のブルガリアの保育者のファシリテーターとしての役割について、あなたはどんなことを学んだかレポートする</p>
第11回	<p>これからの乳幼児期からの子どものESD、SDGs参画に向けての5つの課題について学ぶ A :多 B :多 D :多 E :あり 予習:テキスト3節、171頁~175頁をよく読み、重要な部分に下線をひいてくる 復習:AからEを通して、これからの乳幼児期からのESD、SDGsへの参画を促進するためになにが必要か、あなたの考えをのべ、次回に提出する</p>
第12回	<p>OMEP、ESD評定尺度(第2版、2019年)を用いて、保育所、幼稚園、こども園の乳幼児期からのESD、SDGsの参画を促進するためのアコモデーション・システムの保育環境をいかに構築したらよいかを学ぶ A :多 B :多 D :多 E :あり 予習:テキスト176頁から180頁までよく読んできてグループワークに備えておくこと</p>
第13回	<p>乳幼児期からのSDGs・ESDへの主体的参画を促進し、ファシリテーターとしての保育者、教師、親、地域のおとなの支援力の質を向上させるアコモデーション・システムについて学ぶ 保育環境としての理念型としてドミネーション・システムVSアコモデーション・システムを学生に表示し、乳幼児期からのESD、SDGsへの参画の機会の拡充として、その表現を支援する保育者、教師のファシリテーターの支援力の質的向上をはかれるアコモデーション・システム構築について、徹底したアクティブ・ラーニングにより学ぶ A :最多 B :最多 C :フィールドワーク又は実習などの体験、エピソード D :プレゼンテーションを実施する 復習:アコモデーション・システムの構築方法について自分の意見を述べる</p>
第14回	<p>「世界のESDと保育」の模擬試験 「世界のESDと保育」で学んだ、主に乳幼児期からのSDGs、ESDへの主体的に参画の意</p>

	<p>義、ファシリテーターとしての保育者、教師のファシリテートの多種多様な方法、これらを持続可能なかんきょうとしてのアコモデーション・システムの特徴などについて、学習の総括を模擬試験という形で、学習の総括を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の実施 50分(15:20~16:10) ・正解の解説、質疑応答 あわせて50分(16:10~17:00) <p>第15回 第15回の期末テストの結果について、正解の解説で要注意の点について復習する。</p>
教育目標との関連	ESD、SDGsは地球温暖化、気候変動を阻止し、次世代に持続可能な社会づくりに必要な人間の発達、自律心、判断力、批判力などの人間性を含み、個人、社会、自然とのつながりを尊重する地球市民性を養成する教育目標は、本学の愛の教育に基礎をおく、乳幼児の人間力、保育支援力の向上の目標と軌を一にするものである。
到達目標 (学修成果)	<p>1. 世界のESDと保育において生ずる課題を理解し、説明することができる</p> <p>2. ESD参画のファシリテーターとして、園児の最善の利益をもたらす環境づくりに自分の考えを提案できる</p> <p>3. 園児のESDへの参画のファシリテーターとしての保育者のあり方について論じあえる</p> <p>5. 園児のESD参画についての価値観・多様性を尊重し、受け入れることができる</p> <p>カリキュラムマップは添付資料参照</p>
評価方法および評価基準	<p>1. 評価方法</p> <p>期末テスト80%</p> <p>レポート、20%</p> <p>2. ルーブリックは添付資料参照</p>
1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終回授業にて解説、フィードバックを行う。
教科書	「世界のESDと乳幼児期からの参画 ファシリテーターとしての保育者の役割を探る」萩原元昭編著 北大路書房 2020年 ¥3,400
参考書	「多文化保育論」萩原元昭 学文社 2008年 ¥1,868
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画の通り 異文化接触、多文化環境や保育者のあり方などについては、中村麻衣子先生の「多文化間心理学」の講義を参考にされたい
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度により、変更があります
オフィスアワー	授業終了後などで質問すること
備考・メッセージ	第1回~第15回 対面授業 総括として、試験を実施。第15回で解説を行う

講義科目名称： 言語教育と幼児教育

授業コード：

英文科目名称： Additional Language Education and ECE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
橋元 知子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E305
添付ファイル			
言語教育と幼児教育 カリキュラムマップ&ループブリック.pdf			

講義概要	<p>国際こども教育の現場では、学び手のこども達や教え手の教育者にとり、非母国語教育は大変重要である。本科目では特に、この言語教育を幼児教育における資源として捉える視点を持つものとする。イマージョン教育など比較的新しい概念について学び、これらを検討することで、言語教育と幼児教育の関係性と意味を考え、その可能性や問題点について知る。先行して履修している「保育内容」系の科目での学びを、幼児教育に係る考察要素の一部土台とする。</p> <p>他の科目との関連：国際こども教育概論で学習した言語教育と幼児教育の共存とその特徴を考察する。他の英語系科目での学びも言語的知識の基となる。</p> <p>担当教員は保育士としてイングリッシュプレスクールに勤務していたことから実務経験を活かした授業を展開する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション (全遠隔授業予定)	<p>授業の概要、評価、担当教員について知る。言語教育と幼児教育とは何かについてと、意義や目標を理解する。(本科目は遠隔授業で実施予定である。詳細については授業内に提示する。)</p> <p>予習：言語教育と幼児教育のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておく。(約1時間)</p> <p>復習：自己省察(約1時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 G：PBL (課題解決型学習) H：反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	外国語教育の経緯と意義	<p>幼児英語教育は初等外国語教育の影響を大きく受けている。よって外国語教育が小学校まで降りてきた経緯とその意義について知る。</p> <p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
	第3回	第二言語習得論と英語教育	<p>第二言語習得論と英語教育について理解する。</p> <p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
	第4回	英語教育と第一言語の影響	<p>英語教育と第一言語の影響について学ぶ。</p> <p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
	第5回	外国語教授法	<p>こどもに外国語を教える際の教授法について学習する。</p> <p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
	第6回	外国語教授法—行動主義に基づくアプローチ	<p>行動主義に基づく外国語教授法について知る。</p> <p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。(約2時間)</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>
	第7回	外国語教授法—生得主義・相互交流主義に基づくアプローチ	<p>生得主義・相互交流主義に基づく外国語教授法について学ぶ。</p>

	<p>予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第8回 こども外国語教育一関連領域との比較から こどもの外国語教育の目標について関連領域との比較から考える。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第9回 こども外国語教育とこどもの発達 こども外国語教育をこどもの発達の視点から知る。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第10回 諸外国におけるこども外国語教育一ヨーロッパ、アジア ヨーロッパやアジアにおけるこども外国語教育について理解する。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第11回 諸外国におけるこども外国語教育一アメリカ アメリカにおけるこども外国語教育について学習する。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 こども外国語教育における活動 こども外国語教育における活動を学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 クラスルームイングリッシュと個人プロジェクトのテーマの探求 クラスルームイングリッシュの活用について知る。プロジェクトについて説明する。こども外国語教育について探求したいテーマを見つけ、プロポーザル原稿を作成する。 予習・復習：前回学んだ内容を復習する。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回の授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 プロジェクト：プロポーザルの熟考、練習 個人プロジェクトのプロポーザルを熟考し、予行練習をする。 予習・復習：原稿作成。自己省察（約2時間）</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回 プロジェクト：プレゼンテーションの共有と考察 独自のテーマにおける探究成果物の発表、共有と考察。 予習：発表準備。復習：自己省察（約2時間）</p> <p>D：多 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	<p>保育現場等での円滑な国際レベルでの他言語コミュニケーション能力の必要性や有用性に関わるステークホルダーは、こども達に限らず、教員、職員、保護者など多岐にわたる。本科目では教育・保育資源としての言語教育の理論と実践への検討を通して、先述の各ステークホルダーの視点から言語教育と幼児教育について考察し、さらにはそれらを包括的に検討する。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 知識・理解 DP1【知識・理解】 幼児教育や保育現場で言語教育に関する有用な知識について理解し、述べることができる。</p> <p>2. 思考・判断 DP2【思考・判断】 言語が教育の対象及び手段の両方となりうることを踏まえ、保育環境に応じて利用法を判断できる。</p> <p>3. 技能・表現 DP4【関心・意欲】 言語教育と幼児教育の連関性と両分野を共に学ぶ意義について、問題意識を持つことができる。</p> <p>4. 関心・意欲</p> <p>5. 人間性・社会性</p> <p>※添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照。</p>

評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 自己省察ノート 20%、プレゼンテーション 30%、期末プレゼンテーション・レポート 30%、参加姿勢 20% 2. 成績評価は添付資料のルーブリックを参照。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	成績の開示及び質問があればメールで受け付ける。期末レポートのフィードバックはGoogle classroomで配信する。
教科書	「初等外国語教育 (MINERVAはじめて学ぶ教科教育)」 (2018年) 卯城祐司 編者 ミネルヴァ書房 ¥2420 (税込)
参考書	適宜授業内で指示する。
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な時間	準備学習については授業計画を参照。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合は、あらかじめ連絡をすること。 シラバスの内容は、履修生のスケジュールや理解度などにより変更の可能性がある。
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	外国語教育のありかたをこども主体で考える姿勢と、ご自身がどのような保育者になりたいのかというイメージを持ち、授業に臨むことを期待する。基本的に15回遠隔で実施するが、授業内容や授業形態などを変更する場合には事前に連絡をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年2年	3	選択
担当教員			
大見由香、八木真祈			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：	ナンバリング：G104
添付ファイル			
海外FW2CMR. pdf			

講義概要	<p>本科目では、ニュージーランド・クライストチャーチでの4週間の語学研修を中心に、現地大学等の高等機関に関連する乳幼児教育保育施設、及び現地社会活動の場の視察や学びを行う。ホームステイにより現地家庭での交流や海外での体験を通して、異文化理解を深め、グローバルな視野で保育を実践することに繋がるものである。</p> <p>他の科目との関連：本科目は本学における乳幼児教育保育に関するすべての科目と関連している。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回【対面】 事前学習 (1) 海外フィールドワークIIの意義と、渡航準備・手続き</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外フィールドワークの概要を把握し意味と意義を確認する 渡航に必要な心構えと下準備の確認を行う アプリケーションフォームを作成し、異文化での生活への意識を高める 予習：シラバスを読む (30分) 復習：クライストチャーチでの日程表を読み込む (30分) 宿題：アプリケーションフォームの内容を確認し完成させる (1時間) A：中、B：中、C：該当なし、D：該当なし、E：あり、F：あり <p>第2回【対面】 事前学習 (2) ニュージーランドの文化・生活について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドの文化・生活について理解する ニュージーランドについてのクイズを行う 予習：ニュージーランドの文化・生活についてインターネットなどで調べておき、ニュージーランドについてのクイズを考える (1時間) 復習：今後の自分の課題を認識する (1時間) A：中、B：中、C：該当なし、D：該当なし、E：あり、F：あり <p>第3回【対面】 事前学習 (3) ニュージーランド 滞在経験者との対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドの生活、習慣、保育について学ぶ 日本とニュージーランドの保育や文化の違い、アメリカ英語とイギリス英語、ニュージーランドの生活、Te Whāriki について学ぶ 予習：ニュージーランド滞在における注意事項等を調べておく。 (1時間) 復習：講義内容を振り返り、自己の渡航に向けての課題を考える。 宿題：自己紹介を考える。ARAホームページのよくある質問を読み、現地アドバイザーへの質問を考えておく (1時間) A：中、B：多、C：該当なし、D：少、E：あり、F：あり <p>第4回【対面】 事前学習 (4) 研修先について理解する (現地アドバイザーとの対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> クライストチャーチ滞関連の具体的な情報を得て、フィールドワークへの意識を高める 予習：ARAホームページを観ておく (1時間) 復習：研修先での生活について理解する。 (1時間) A：中、B：中、C：該当なし、D：少、E：あり、F：あり <p>第5回【対面】 事前学習 (5) レベル分けテストと手続き</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインテストを受ける 入国に必要な手続きを行う (NZeTAなど) 予習：入国に必要な手続き (NZeTAなど) について調べておく (20分) 復習：海外フィールドワークIIにおける探究課題の焦点を定める (30分) E：あり F：あり <p>第6回【対面】 事前学習 (6) ニュージーランドにおける海外フィールドワークでの学びの目標を定める</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修のしおりの内容を確認し、渡航準備、手続きについて理解を深める 記録の仕方や、情報の扱いへの配慮について学ぶ ホームステイでの留意点について確認する 復習：しおりの読み込み、渡航準備を行う (2時間) B：中、C：該当なし、D：少、E：あり、F：あり <p>第7回【対面】 事前学習 (7) 渡航準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 手続き、準備状況を確認する。 復習：学生個人の課題に取り組む、NZの乳幼児教育カリキュラムガイドライン” Te Whāriki”を読む ティマルの乳幼児教育視察施設における問いを考える (2時間) A：中、B：中、C：該当なし、D：少、E：あり、F：あり <p>第8回【対面】 事前学習 (8) 海外安全研修と最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 渡航時や滞在国の安全対策について理解し、演習を行う。 しおりの最終確認を行う。

	<p>予習：海外での安全について確認する（1時間） 復習：安全研修で学んだ留意点について振り返る。 A：多 E：多 F：中</p> <p>第9回【対面】 海外研修：フィールドワーク</p> <p>ニュージーランドクライストチャーチ市にて研修 ・英語学習・保育施設視察・フィールドトリップ・ホームステイ C：多</p> <p>第10回【対面】 事後学習 海外フィールドワークIIでの学びの振り返りと今後の展望</p> <p>・海外フィールドワークのプレゼンテーションを行う。 ・今後の学びへの課題を口頭で発表し、履修者間で分かち合う。 ・まとめとフィードバックを行う。 予習：プレゼンテーション（パワーポイントの作成）を準備する（2時間） 復習：学生個人の課題について認識する（30時間） A：中、B：中、C：該当なし、D：多、E：あり、F：あり</p>
教育目標との関連	国際こども教育学科の学生としての自覚を高めると同時に、グローバルな視座で身の回りの事象を捉え、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障する保育実践者としての知識・スキル・態度を養うことにつなげる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する体験を通じて、専門職としての高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識を修得する。</p> <p>2. 異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、柔軟かつ理論的な視点を持つことができる。</p> <p>3. 専門職として必要な説明や日本の紹介など、コミュニケーション能力を試行錯誤しながら体得し、表現できるようになる。</p> <p>4. 実際に海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちやこども教育の発展に関心を持ち、自らのテーマを見出して取り組むことができる。</p> <p>5. 海外での学びや生活を通して異文化に直接触れる事により、ダイバーシティを尊重できるようになる。</p> <p>到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>・授業への参加・貢献（海外フィールドワーク実習を含む） 60%</p> <p>・プレゼンテーション 40%</p> <p>評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	事後学習のプレゼンテーション時に振り返りとフィードバックを行う。
教科書	授業にてプリントを配布するほか、Google Classroomにて資料などを配信する。
参考書	使用しない。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	学期を通し、各自授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。事前面談を行う。事前学習にはすべて出席、無断欠席厳禁。提出物は期限内に出すこと。連絡はLINE、Google Classroomにて行う。
オフィスアワー	大見研究室のドアに掲示する その他質問はGoogle Classroomにて受け付ける
備考・メッセージ	世界中の子ども、生活・文化との出会いと驚き、発見を大切にするように。「何故？何だろう？知り合い？」という好奇心を持って履修者、教員と共に学び成長したい、との心持ちで受講されたい。

講義科目名称： Intensive EAL

授業コード：

英文科目名称： Intensive EAL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：E306
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 Intensive EAL.pdf			

講義概要	<p>During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English in daily life, but also study English that is needed in the classroom.</p> <p>This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important.</p> <p>Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>Class 1 College Life In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to introduce yourself and talk about basic facts about your life. We will also learn about some differences between American and Japanese universities.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 2 Future Plans In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about your future plans and dreams. We will also learn the vocabulary for occupations.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 3 Part-time Jobs and Weekends In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about your hobbies and part-time jobs. We will also learn about differences of "otaku" and "geek".</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 4 Movies In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about movies and making plans with friends. We will also talk about the differences between American and Japanese movie theaters.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 5 Festivals In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about special events and asking for a favor. We will also talk about the differences in barbeque in multiple countries.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 6 Friends In this class, we will learn the vocabulary and expressions needed to apologize to people and showing appreciation.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 7 Study Abroad In this class, we learn the vocabulary and expressions need to talk about study abroad programs and how to ask for clarification. We will also learn about world Englishes.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 8 SNS / Fashion In the class, we will learn the vocabulary and expressions used to make small talk. We will also learn vocabulary related to weather.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 9 Cultures / Anime In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about Japanese popular culture, including anime and idols.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 10 Music In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about music. We will also learn how to ask for permission and make suggestions.</p>

	<p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 11 Relationships In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to describe people and talk about likes and dislikes. We will also learn adjectives related to personality and appearance.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 12 Traveling Overseas In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about travel and practice expressions for survival English.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 13 Shopping In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about shopping and negotiation. We will also talk about the difference in shopping between Japan and America.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 14 Social Media In the class, we will learn the vocabulary and expressions needed to talk about social media. We will also learn common expressions used on phone calls.</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 15 Final Exam We will have the final exam.</p> <p>Class 16 Review We will review the course and talk about the upcoming study abroad.</p> <p>A: 多 B:少 E:あり</p>
教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to live abroad.
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad.</p> <p>2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences.</p> <p>1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>50% Written and speaking exams</p> <p>30% Vocabulary quizzes</p> <p>20% Homework & Participation</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	We will review and discuss the final exam during the final class.
教科書	Activator Next 金星堂 出版
参考書	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
オフィスアワー	This class will be conducted in person.
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育とアート

授業コード：

英文科目名称： Early Childhood Care and Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	1単位	専攻科 選択
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D301
添付ファイル			
Early Childhood Care and Art Curriculum Map.pdf			
Early Childhood Care and Art Rubric.pdf			

講義概要	<p>社会における同時代の保育とアートについての理解を深める。フィールドワークを通じ、保育者として必要となるこどもの育ちとアートに関する知識や技能を身につける。当科目は「幼児造形Ⅰ」、「幼児造形Ⅱ」に加え、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ」、「保育内容（表現）表現の指導法Ⅱ」との関連性を持つ。</p> <p>担当講師はアーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。それらの経験を活かし造形の魅力について幅広く伝えていく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>Class 1 オリエンテーション 授業概要や具体的なスケジュール、課題の説明を行った後、世界各国の保育とアートの関わりについて学ぶ それぞれの考える保育とアートの関わりについてディスカッションする 授業の記録として提出するポートフォリオ（期末レポート扱い）の制作方法と情報機器の活用について学ぶ 準備学習（計1時間） （予習）シラバスに目を通しておく。（30分） （復習）授業内容やスケジュールなどを再度確認する。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 2 フィールドワーク1 事前学習 保育とおもちゃについて学び、ディスカッションする 訪問予定の施設について調べ、質問を考える 準備学習（計1時間） （予習）施設について自分なりに調べておく。（30分） （復習）質問内容をより具体的にしておく。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 3 フィールドワーク1 施設見学（学外） 保育とおもちゃに関する施設を見学し、学んだことをまとめる 準備学習（計1時間） （予習）再度施設について調べておく。（30分） （復習）見学した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 4 フィールドワーク1 施設体験（学外） 保育とおもちゃに関する専門家の話を聞き、学んだことをまとめる 準備学習（計1時間） （予習）再度質問について考えておく。（30分） （復習）体験した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 5 フィールドワーク1 振り返り（学内） フィールドワーク1で学んだことを振り返り、ディスカッションする 成果をポートフォリオにまとめる 準備学習（計1時間） （予習）学外学習について振り返っておく。（30分） （復習）ポートフォリオ作成で学んだことについて自分なりに振り返る。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 6 フィールドワーク2 事前学習 保育と表現について学び、ディスカッションする 訪問予定の施設について調べ、質問を考える 準備学習（計1時間） （予習）施設について自分なりに調べておく。（30分） （復習）質問内容をより具体的にしておく。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 7 フィールドワーク2 施設見学（学外） 保育と表現に関する施設を見学し、学んだことをまとめる （予習）再度施設について調べておく。（30分） （復習）見学した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 8 フィールドワーク2 施設体験（学外） 保育と表現に関する専門家の話を聞き、学んだことをまとめる</p>

	<p>準備学習（計1時間） （予習）再度質問について考えておく。（30分） （復習）体験した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 9 フィールドワーク2 振り返り（学内） フィールドワーク2で学んだことを振り返り、ディスカッションする 成果をポートフォリオにまとめる</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）学外学習について振り返っておく。（30分） （復習）ポートフォリオ作成で学んだことについて自分なりに振り返る。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 10 フィールドワーク3 事前学習 保育と絵本について学び、ディスカッションする 訪問予定の施設について調べ、質問を考える</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）施設について自分なりに調べておく。（30分） （復習）質問内容をより具体的に。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 11 フィールドワーク3 施設見学（学外） 保育と絵本に関する施設を見学し、学んだことをまとめる</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）再度施設について調べておく。（30分） （復習）見学した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 12 フィールドワーク3 施設体験（学外） 保育と絵本に関する専門家の話を聞き、学んだことをまとめる</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）再度質問について考えておく。（30分） （復習）体験した内容を簡単にまとめる。（30分） C：多、E：あり、F：あり</p> <p>Class 13 フィールドワーク3 振り返り フィールドワーク3で学んだことを振り返り、ディスカッションする 成果をポートフォリオにまとめる</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）学外学習について振り返っておく。（30分） （復習）ポートフォリオ作成で学んだことについて自分なりに振り返る。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p> <p>Class 14 制作 フィールドワーク1、2、3でそれぞれまとめたポートフォリオの表紙やデザインを制作する 授業後にポートフォリオを提出する</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）フィールドワーク1、2、3について振り返っておく。（30分） （復習）ポートフォリオ作成で学んだことについて自分なりに振り返る。（30分） E：あり、F：あり</p> <p>Class 15 発表 全体まとめ 提出したポートフォリオをもとに、それぞれが学んだことについてスライド発表する ディスカッションを行った後、ポートフォリオ、発表および授業全体について振り返る</p> <p>準備学習（計1時間） （予習）授業全体について振り返っておく。（30分） （復習）授業全体で学んだことを、どのように保育現場で役立てられるかについて自分なりに考える。（30分） B：少、E：あり、F：あり</p>
教育目標との関連	保育とアートについて学ぶことは、社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付けることにつながる。 また、フィールドワークを通じた学びは、自分を知り、豊かな感性を育てることと、保育者としての実践的な技能を身につけることにつながる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 世界のこどもの育ちとアートに関する事例について理解し、説明できる DP3. アートに関する多様な技法について習得し、自己表現できる DP4. 世界のこどもの育ちとアートについて関心意欲を持つことができる 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	フィールドワークへの主体的な参加（60%） ポートフォリオ（期末レポート扱い）（30%） 授業への関心、意欲、態度（10%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業において振り返る。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 共にフレーベル館
準備学習（予習・	準備学習の具体的内容および必要な時間については授業計画に記載。

復習等)の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	フィールドワークが主となる演習授業のため、学生各自の主體的な参加が必須となる。 上記の条件を備える学生のみ履修を認める。
オフィスアワー	フィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	全15回の授業はすべて対面での実施となる。 ※学外活動の日程は開講後に決定、発表する。 様々な事柄について興味関心を掘り下げる習慣を持つこと。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： こどもと国際貢献

授業コード：

英文科目名称： Children and intergenerational exchange

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
金田利子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C304
添付ファイル			
子どもと国際貢献カリキュラムマップ.pdf			
子どもと国際貢献ループリック.pdf			

講義概要	<p>子どもは、人類の未来である。子ども時代からの国際的交流は、世界平和の礎となり子どもの国際貢献を意味する。今年は、子どもの権利条約の国連における採択から34年、日本批准から29年となるが、子どもの生存と発達はまだまだ保障されているとはいえない。それどころか、一方では飢餓や戦時下の中で苦しい生活を余儀なくされる子どもが多く、また一方では児童虐待が増加するなど、一層子どもたちが生きにくい社会になってきている。ここでは、子どもの権利条約の視点から国際的視野で持続可能な社会のありようを考えていく（子どもとESD）。</p> <p>「子どもと国際貢献」の学びの応用として、外国籍の子どもの保育をインクルーシブな関係になるようにしていくコーディネーターになり得る力も養っていききたい。</p> <p>以下の授業内容は、参加者の意見と討論により適宜変わることがある。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>イントロダクション：国際貢献とは？子どもと国際貢献の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際貢献とは？子どもを取り巻く世界から考える ・子どもの位置：①子ども自身の国際貢献と、②子どもを育てる大人の側の貢献 ・授業の内容説明・担当教員と参加学生の相互紹介 <p>B 多</p>	
	第2回	<p>世界の子どもの現状と国際貢献—世界の子どもの今—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深める ・その中での子どもの実態を探る—光と影 ・国際貢献の取り組みの事例 <p>A, B 多</p>	
	第3回	<p>世界の子どもの現状と国際貢献—日本の子どもの今—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の子どもを取り巻く日本の情勢について理解を深める。 ・新聞記事文献等からワークショップを試みる ・年間に適宜入れるフィールドワークを計画する。 <p>A, B 多</p>	
	第4回	<p>子どもの国際貢献とESD (外国籍の子どもの保育を考える中で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD(Education for Sustainable Development)とは？ ・ESDと国際貢献をつなぐOMEP (世界幼児教育・保育機構) <p>A, B多</p>	
	第5回	<p>子ども自身の国際貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期からの多文化理解教育 ・子ども自身が次世代に継続 (持続) する存在であること ・子どもの心に平和のタネを <p>A, B 多</p>	
	第6回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献： ①ESDとSDGsと子どもの権利条約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESDと子どもの権利条約の理解 ・上記両者の関連の理解 <p>A, B 多</p>	
	第7回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：保育者・保育学生にできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OMEPにおける子どもの権利条約の絵本作りとその効果 ・上記のテーマで討論する—子どもに自身の権利を知らせるための参加者による教材づくり <p>A, B 多</p>	
	第8回	<p>子どもの関わるNGO/NPOの国際貢献：①OMEP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OMEPのこれまでの取りみ—7つのR ・World OMEP のESDに関する取り組みと日本の取り組み 世代間交流における子どもの意味 <p>A, B 多</p>	
	第9回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：Save the children Japan他国際貢献組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動についての聞き取り ・自身の理解を冊子のまとめる <p>A, B C 多</p>	
	第10回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ</p> <p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ</p>	
	第11回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会)</p>	
	第12回	<p>子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会)</p> <p>外国籍の子どもの保育と日本の貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献に学ぶ ・実態の把握 <p>A, B 多</p>	
	第13回	<p>子どもと国際貢献のまとめ—これまでの学びから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの振り返りからの整理—子ども自身の国際貢献 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者及び社会的機関の取り組み A, B 多 <p>第14回</p> <p>子どもの国際貢献のまとめ—改めて子どもの権利条約との関係から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約に当たって考える。 ・報告してあって考えをまとめる。 A, B 多 <p>第15回</p> <p>学びの振り返りと今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのまとめを整理しプレゼンテーションをする。 ・学ぶ前と今を比較し自己評価をする。 B, D, E, 多 				
教育目標との関連	子どもも国際貢献の担い手であると認識して、受講者が国際貢献者であるという当事者意識を高めること、そして保育現場における国際貢献の働きについての考え、実践する力を身につける。				
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く事象について地域・社会・世界視座から捉え、理解し説明できる。 2. 子どもの理解者・探究者・代弁者として、国際貢献のあり方について専門家意識を蓄え、考えることができる。 5. 保育の専門家として歩むための学びであるとしての意識を持ち、他者と学び合うことを理解し、協調できる。 <p>カリキュラムマップは添付資料参照</p>				
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">授業態度・参加・課題への取り組み</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション</td> <td style="text-align: right;">70%</td> </tr> </table> <p>成績評価はルーブリックを参照</p>	授業態度・参加・課題への取り組み	30%	提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション	70%
授業態度・参加・課題への取り組み	30%				
提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション	70%				
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最後の授業で振り返り学習をし、それぞれの到達点と課題を各自確認できるようにする。				
教科書	授業にて提示・紹介します。（OMEP・ユネスコ・ユニセフ・全国私立保育連盟等の発刊図書を授業で購入することもある。）				
参考書	五島敦子・関口知子編著『未来をつくる教育ESD』明石書店、2010年、2,160（税込） 萩原元昭著『多文化保育論』学文社、2008年、1,200（税別）他新しいものは授業内で紹介				
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。				
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・携帯電話等の教室内における使用を控えましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。 				
オフィスアワー	授業終了後に教室で受け付ける				
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・子ども・保育について知りたい、分かち合いたいとの思いで履修しましょう。 				

講義科目名称： 保育英語研究

授業コード：

英文科目名称： Research in English for Nursery Schools

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E304
添付ファイル			
カリキュラムマップ様式 保育英語研究.pdf			
ルーブリック様式 保育英語研究.pdf			

講義概要	<p>In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an teacher.</p> <p>In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English.</p> <p>Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>Going to School Asking for Directions to the Preschool A Snowy Day</p> <p>In this class, we will study English for talking about coming to school and weather. We will also how to write a sign-up sheet.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/Homework time: Approximately 2 hours.</p> <p>第2回</p> <p>Fun School Events - Summer Tanabata Festival A Day in the poll</p> <p>In this class, we will study English to describe and explain Japanese events and playing in the pool.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第3回</p> <p>Fun School Events - Fall Horizontal Bar Sports Day</p> <p>In this class, we will study the English used when talking about sports day.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第4回</p> <p>Fun School Events - Winter Performance Day Omochitsuki Event</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about performance day and omochitsuki.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p> <p>第5回</p> <p>Fun School Events- Spring Setsubun Hinamatsuri</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about Japanese events, setsubun and hinamatsuri.</p>		

	<p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第6回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation Drawing and Painting In this class, students will prepare their presentations</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第7回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Arts and Crafts In this class, students will give their arts and crafts presentations.</p> <p>A:中 E:あり F:あり</p> <p>第8回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours The Developmental Stage of an Infant Infant (0-2 months) Infant (3-5 months) Infant Daycare program</p> <p>In the class, we will learn the English used during lunch or talking about infants.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第9回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Absence and Illness A Painful Cavity Taking Precautions against the Flu School Closure</p> <p>In this class, we will learn the English used when talking about illnesses and how they effect the school.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第10回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Emergency Drill Emergency Pick-Up Drill Evacuation Drill</p> <p>In this class, we will learn the English used when running emergency drills.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第11回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Listen to a Story and Visualize Learning Hiragana and the Alphabet</p> <p>In the class, we will learn the English used in teaching the children how to tell time and how to read.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第12回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Learning to Tell Time Learning about Numbers</p> <p>In the class, we will learn the English to teach children about numbers.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p> <p>第13回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Phonics</p> <p>In this class, we will learn about phonics and how it can be used to help children.</p> <p>A:中 B:少 E:あり F:あり</p>
--	---

	<p>第14回</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. We will watch several videos from the Teaching Phonics in Early Childhood open education course from Queensland University of Technology.</p> <p>A:多い E: あり F:あり</p> <p>第15回</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 1 hour Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course.</p> <p>A:多い C:あり D: あり F:あり</p>
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 (学修成果) 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarten.</p> <p>2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences.</p> <p>3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>Writing assignments 40%</p> <p>Presentations 40%</p> <p>Vocabulary Tests 20%</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	After each presentation, a detailed evaluation will be given to each student.
教科書	「幼保英検準1級テキスト」 幼児教育・保育英語検定協会 著 株式会社ブックフォレ 出版 2019年
参考書	None
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
中村 麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B301
添付ファイル			
多文化間心理学 .pdf			

講義概要	文化・社会的要因が人の心の形成に与える影響を学ぶ。文化による人の行動の差異や普遍性を理解するとともに、多文化接触・体験や多文化環境において生じる心理的現象について学び、多文化共生社会をめざす保育者のあり方を考える。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」で学んだ心理学の基礎知識を基に、本科目では異文化接触の心理学理論およびその支援を学び、グローバルな視点を獲得する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>第1回 あなたの常識は私の非常識。多文化心理学への招待 現在進行中であるグローバル化社会にいる私たちの周りで起こっていることを概観し、文化に関する心理学的な知見を学ぶ。また、認知発達視点から文化の問題を考え、多文化理解の心理学を学ぶことの意義を理解する。 予習：あなたが常識だと思っていることが、他の人にとってそうではなかった経験、あるいは逆に、「他の人の常識が、あなたにとって非常識だったという経験」を考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第2回 日本在住外国人の心理 日本に住む外国人はどのように日本の社会に適応しているのか、または、どのような不便さを感じているのかを理解する。特に、子どもの教育においては、日本の学校についていけないため未就学になっているような児童が相当数存在している現状などを、事例を通して学ぶ。 予習：偏見やステレオタイプがなぜ起こるのかについて考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第3回 共文化コミュニケーション 共文化とは、居住地域、年代、職業、ジェンダーなどの差異や、障害の有無など、「日本文化」という1つの文化の中に存在しているが、独自の考え方や行動様式を備えているグループが持っているものである。私たちは、同じように日本で育ったとしても、それぞれ育った地域、性別、職業などによって大きな影響を受けており、若者文化、女性文化、教員文化など、さまざまな共文化を併せ持つことになる。この共文化の違いによる諸問題や現象を理解する。 予習：ある朝起きたら、あなたの性が変わっていた。さて、あなたの生活はどのように変化すると思いますか。また、将来の夢や希望も含めて、あなたが経験するであろう変化について、できるだけ具体的に考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第4回 帰国日本人の心理 一定期間海外に暮らした後で日本に帰国した場合、母国日本においてさまざまな問題に遭遇し、困惑するということがよくある。この現象をスクールカウンセラーとしての経験を持つ教員の事例を通して理解する。 予習：あなたの周りに帰国児童・生徒はいたのだろうか。また海外生活が長かった有名人・芸能人の言動で気になったことについて考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第5回 海外留学での多文化経験 日本人が外国に出かけて現地と異文化と出会ったとき、心に何が起きるのかについて、自らの体験や事例をもとにグループディスカッションを通して具体的に考える。 予習：インターネットを使って、今まで日本人留学生が何らかの事件に巻き込まれた例を探しておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第6回 海外駐在での多文化体験 海外赴任者と、それに同伴する家族の心を理解する。現地での生活は、日本で得られたような普通の便利さが大幅に欠乏すると感じることが多い。また、子どもは現地の言葉をいかに習得し、学校に適応するのか。これらの現象について、事例をもとにケーススタディーを通して理解する。 予習：海外に赴任することが決まったら、どのような準備をしたら良いと思うか考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第7回 国際舞台で起きる多文化交流の諸相① 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、本講から3回にわたり、国際交渉、国際協力、マスメディアの観点から考察する。本講では、国際交渉に欠かせない多文化コミュニケーション能力とは何かについて理解する。 予習：捕鯨問題について概略を調べておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第8回 国際舞台で起きる多文化交流の諸相②</p>

	<p>国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、国際協力の視点で考察する。国際協力とは、社会や経済の開発、平和問題、人命や人権など人道上の問題、環境問題などに対して、国を越えて行われる援助活動のことである。このような援助の実態と、そこで起こる援助する側・される側の心の問題について、事例をもとにグループディスカッションを通して考える。 予習：青年海外協力隊について、文献やインターネットなどで調査しておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>国際舞台で起きる多文化交流の諸相③ 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、マスメディアとパーセプションギャップについて考察する。映画「パッチギ」を視聴し、グループディスカッションを通して考える。 予習：外国人が登場する映画やドラマを見たことがあるだろうか。あるいは、逆に外国映画に日本人が登場する映画やドラマを見たことがあるだろうか。その中に出てくる人物の国籍、職業、性別、外見、性格、役について書き出しておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>英語圏のマンガから見える子どもの生活文化とユーモア 文化が人間の発達や認知に与える影響をマンガを通して楽しく学ぶ。 予習：スヌーピーなど英語圏のマンガを読んでおもしろいと感じられない、意味がわからない、という経験はあるだろうか。考えておくこと。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>多言語アイデンティティー 複数の文化と言語環境で成長する子どもたちの生活と心理について考える。また、カナダなどにおける二言語教育やそれに関する研究の知見から、二言語併用が子どもの認知過程やその発達に与える影響について考察する。 予習：日本での外国語教育について、今のままで良いと思いますか。自分の考えをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>多文化共生をめざす保育者のあり方 多文化共生保育とは、さまざまな違いを認めあい、すべての子どもが自分らしく生きるために必要な力を身につけることである。多文化をもつ子どもは園内では比較的早期に適応したかに見えるために、保育者は「慣れたら問題なし」としてしまいがちである。ここからは多文化共生の保育は生まれてこない。保育者の多文化をもつ子どもや保護者に対して、相手の文化を尊重する深い配慮をもった関わり方、それを周囲の子どもが見て学ぶことが多文化共生保育の重要なポイントの一つである。また、保育者が日常の保育上困ったこととしてあげていることには、多文化を持つ保護者との言葉・文化の違いに起因する様々な行き違いに端を発していることが多い。保育を行う上では保育者と保護者間の信頼関係の構築とそのための保育者の多文化理解が必須であることを理解する。 予習：実習やボランティア活動などで異文化の子どもと関わった経験はあるだろうか。その時に感じたことをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>多文化コミュニケーションスキル 文化背景の異なる人々と共生していくには相手を理解しようとオープンな心で接することが大切だが、自分の考えや感じたことを相手に正確に伝えることも大切である。本講ではコミュニケーションスキルの1つであるアサーティブ・コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 予習：これまで、自分の思っていることや考えていることが相手にうまく伝わらなかった経験や、そもそも伝えることを諦めてしまった経験はあるだろうか。その原因を考えておく。(約1時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>異文化適応力 私たちが、いかに文化のフィルターを通して物事を見ているのか、また、どんなに客観的に物事をとらえていると思っても、その見方さえ多大な文化の影響を受けていることに気づく。その上で、自分の文化的な偏狭に気づき、異なる価値観を受け入れる柔軟性をもち、自分自身のものの見方を広げていく。 復習：授業内容を振り返る。(約2時間) E：あり</p>
第15回	<p>総まとめ・学習成果の振り返り 授業の総まとめ、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと (約2時間) 復習：授業内容を振り返る。(約1時間) E：あり</p>
教育目標との関連	<p>グローバルな視野を持ち、文化的背景の異なる人々を理解するための知識、技法、態度を習得する。国際社会に生きる一員として、多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自分なりの考えを持てるようになる。また、文化的背景の異なる人々が共生する国際社会で活躍できる保育者をめざす。</p>
到達目標 (学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP1：異文化接触・多文化環境において生じる心理的問題を理解し、説明することができる DP3：多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自ら考え、論じ合うことができる DP5：グローバルな視野を持ち、異なる価値観や多様性を尊重し、受け入れることができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>期末レポート：40% 提出課題：30% 課題は授業内で指示する。 平常点：30% 授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業への貢献度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照</p>

期末試験・期末レポートのフィードバック方法	Google Classroomにて期末レポートの解説を配信する。
教科書	なし。授業でレジюмеや資料を配布する。
参考書	授業中に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。レジюме・Google Classroomにアップした資料等を有効に活用し、授業内容の理解と定着に努めること。
履修上の注意、条件等	世界情勢に関心を持ち、多文化共生について自分なりの意見・考えを持つよう心掛けてください。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する。

講義科目名称： カナダ保育研究

授業コード：

英文科目名称： Inquiry Seminar: ECE in Canada

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
長谷山 康一、大見 由香			
授業形態：演習（実習）	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：G301
添付ファイル			
curriculum .pdf			
rubric .pdf			

講義概要	<p>本科目では、カナダ保育を包括的に研究するに当たって、カナダ・プリティッシュコロンビア州での現地保育園の視察、その他現地社会活動の視察及び体験を通じて、海外の保育活動をその社会的文脈を含め、実体験と並行して考察をするものである。</p> <p>他の科目との関連：本来、在学中に学ぶ全ての科目群の内容は多様な形及び側面で一つの学びとして織り込まれるべきである。その上で、在学期間を通して国際こども教育を考える際、個々の学生の位置によって、その基となったり、きっかけとなる知識や思想、または既得のそれらを深め、より有効なものにするための即社会的見地を、本科目で得る異国の教育現場や社会環境における実体験から見出すことも可能となる。これにより、存在論的にも認識論的にもより学生個々に即した新鮮な材料を提供できるものと考えられる。</p> <p>教員の本科目関連する実務経験としては、担当教員は、現地保育者資格の保有、現地大学における保育士資格学位プログラムの現役教員及び教育実習指導教員であり、現地社会においても10年ほどの滞在歴を持っており、それらの経験と知識を用いて、「保育」を養成教育及び社会文化的な側面から学生と共に紐解いていく。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>1 カナダ基礎知識 社会文化、社会歴史、社会政治的な方面からの国家としてのカナダを一定程度、理解する。 (総括Miniプロジェクト(導入))</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>2 ブリティッシュコロンビア州保育施設の基礎情報 ブリティッシュコロンビア州保育の基礎的な現状、制度の理解。</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>3 カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて知る カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて、その概要を理解する。</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>4 カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて考察する 前回授業の内容から、各学生で異なる焦点を担当し、考察・共有する。</p> <p>A: 中 B: 中 D: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>5 カナダの乳幼児教育 (フレンチ・イマージョン/先住民族) カナダ全土の乳幼児教育をフレンチイマージョンやインディジナス教育から考察する。</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>6 こども教育と社会的制度 こども教育と社会的制度について考察する。 (総括Miniプロジェクト(プロポーザル作成開始))</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>7 カナダ・ブリティッシュコロンビア州乳幼児教育者免許課程 州の教育者資格制度を理解し、保育者に求められる質や教育を考察する。</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2時間)</p> <p>8 カナダの保育現場 概論 保育現場の社会的位置付けや、その様々な形態の理解を社会文化的側面から掘り下げる。</p> <p>A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1時間) 復習: 授業内容を記</p>

9	録ノートに省察（2時間） 現地保育所の実態 前回授業を、さらに細かな「事例」を通じて、考察、理解する。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
10	現地保育士や他のこどもに関わる専門職の現状 働き手に焦点を当て、考察する。 （総括Miniプロジェクト（仮プロポーザル発表/個別調査開始）） A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
11	カナダ現地の社会文化とこども 概論 以下5回の授業では、それぞれのカナダにおける社会的側面から「こども」について考察する。今回は、そのイントロダクション。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
12	街と人 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
13	社会的構造と営み A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
14	異文化コミュニケーション A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
15	こども、家族、教育、コミュニティ A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
16	施設視察1 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 C：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
17	施設視察省察1 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 D：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
18	施設視察2 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 C：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
19	施設視察省察2 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 D：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
20	施設視察3 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 C：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
21	施設視察省察3 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 （総括Miniプロジェクト（調査中間報告）） B：中 D：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）
22	施設視察4 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B：中 C：多 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）

	<p>録ノートに省察（2時間） 施設視察省察4 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>23</p> <p>施設視察5 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>24</p> <p>施設視察省察5 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。</p> <p>B:中 C:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>25</p> <p>カナダ保育者との対話1 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>26</p> <p>カナダ保育者との対話2 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。</p> <p>B:多 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>27</p> <p>総括プロジェクト Step 1 Mini研究プロジェクト：プロポーザル共有と協同再考</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>28</p> <p>総括プロジェクト Step 2 Mini研究プロジェクト：付加リサーチ</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>29</p> <p>総括プロジェクト Final Mini研究プロジェクト：発表・共有</p> <p>B:中 D:多 E:あり F:あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）</p> <p>30</p>
教育目標との関連	国際こども教育者としての実践力、すなわち行動力は発揮されることを前提と考えると、実際に国際社会的環境を身をもって感じ、考える機会がより多く必要である。これは、その核となる経験と学びを提供するものである。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生個々にとって国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する比較的現地化した体験を通じて、専門職としてのより高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識・思想を深めることができる。 2. 異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、理論的な視点をより柔軟かつ多様化できる。 3. 専門職として必要かつ、より高度な説明理論や表現、コミュニケーション能力を継続した挑戦から体得し、発揮できるようになる。 4. 実際に多様な海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちに関し、自らのテーマを幅広い見識から見出し、こども教育の発展を主体的に考え、より高度な探究をする技能を得る。 5. 教育という活動において、国外の教育現場体験からなる視点を深めることで、自らのこども愛を能動的に表現する多角的な術を向上できる。
評価方法および評価基準	<p>授業記録 20%</p> <p>研究ノート 50%</p> <p>1. 試験等の評価方法 30% カナダからの帰国後の報告会におけるプレゼンテーションを評価対象とし、各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。</p> <p>2. ルーブリックによる評価基準</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	学生の発表時に対話的授業を持って教員とピア・フィードバックを行う。
教科書	授業中に指示します。購入するものはない。
参考書	使用しない
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。

履修上の注意、条件等	特になし
オフィスアワー	各週の授業前後で設定。
備考・メッセージ	本授業はカナダ滞在中の現地での活動および帰国後の報告会が中心となります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D202
添付ファイル			
声楽1CMR.pdf			
Rubric Vocal 1.pdf			

講義概要	<p>子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行い、子どものうたを歌う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。学修の成果は、わらべうた歌を用いたグループ発表、子どもの歌や、合唱曲や子どもの歌を用いて子どもへの出し物を想定した発表作品を準備し、発表する。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得したうたの技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイトムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p> <p>第1回 授業の概要 呼吸と発声について 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 各自選んだ子どものうたを独唱し、各自の声質と声域を確認する。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習とうたの練習。(20分) 宿題：声楽に関する意識を見出すアンケートを行う。(20分) A:多 E:あり F:あり</p> <p>第2回 2部合唱・春のうた・歌詞について 「Believe」を2部で歌う。歌詞の意味とフレーズを理解して表現する。 グループで選んだ曲の歌詞を模造紙にわかりやすく書くことを想定して縮小版を作成する。 音程(重唱)の練習。 予習・復習：春のうたを覚え、両パートともいつでも歌えるようにする。(20分) A:中 B:あり E:あり F:あり</p> <p>第3回 保育現場における歌唱活動(1) こどものうた 春のこどもの歌の歌唱のポイントを学び練習する グループで選んだ曲の歌詞を模造紙を用いて子どもに教えることを想定して、グループで発表する 予習・復習 春のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。各自のパートを練習する。(20分) A:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第4回 保育現場における歌唱活動(2) わらべうた 保育現場における歌唱活動について：弾き歌い、手遊び、わらべうた。わらべうたのグループ練習。 予習・復習：『幼児のための音楽教育』のわらべうたをうたい遊び方を覚える。(20分) A:中 B:中 F:あり</p> <p>第5回 保育現場における歌唱活動(3) わらべうた わらべうたのグループ発表を鑑賞し保育現場でのわらべ歌について考える 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。(20分) D:中 E:あり F:あり</p> <p>第6回 外国のこどもの歌に取り組む 外国のこどもの歌を練習し、レパートリーに加える。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。(20分) A:中 E:あり F:あり</p> <p>第7回 合唱曲に取り組む(2) 2パートの曲の両パートを練習し、お互いのパートを聴きながら歌うことに慣れる。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。(20分) A:中 E:あり F:あり</p> <p>第8回 合唱曲に取り組む(3) 合唱曲のレパートリーを増やし、自分の声や全体のバランスの中で貢献できるパートを見出す。 A:中 E:あり F:あり 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。(20分)</p> <p>第9回 最終プロジェクト(1) 発表する曲を決める お誕生日会の出し物を想定してグループで発表する曲の候補を歌ってみる 予習：発表したい曲を考えアンケートに入力する(20分) 復習：発表曲を練習する。 A:中 B:中 E:あり F:あり</p> <p>第10回 最終プロジェクト(2) 発表する曲を練習する 発表曲を練習し、歌詞、パートを覚える。 予習・復習：授業で決まった役割を暗譜で演じられるように練習し、準備をする。(20分) A:中 B:中 E:あり F:あり</p> <p>第11回 最終プロジェクト(3) 発表する曲の演出方法を考える。</p>

	<p>発表曲の意味を考え、子どもの状況を考慮した上で演奏順や振り付けなどの演出方法を考える。 予習・復習：曲について考え、意見交換できるように指定おく。(20分) A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 最終プロジェクト(4) 発表する曲の練習と流れの確認 各発表曲を子どもの方を見て歌うことを想定して練習する。司会者を決定し、司会の内容についてディスカッションする。立ち位置、流れを確認する。 予習・復習：各自の役割の練習、準備をする。(20分) A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 最終プロジェクト(5) リハーサル リハーサルを行い、こどもの視点でどのように見える、聞こえるのかを意識し、立ち位置、音響などを確認する。 予習・復習：個々、グループで発表曲の練習を行う。(20分) A：中 B：中 C：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回 最終プロジェクト(7) 発表 ゲネプロを行い最終確認をする。 お誕生日会を想定したで発表会を行い、振り返る。 予習：発表曲のうた、振り付け、流れなどの最終チェックを行う。(20分) 宿題：振り返りレポートを行う。 A：中 B：中 C：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回 まとめとフィードバック 最終プロジェクトの振り返りとフィードバックを行う。 本授業で取り組んだ歌を歌う。期末レポートを提示する。 A：中 B：中 C：多 E：あり 期末レポートを作成する(60分)</p>
教育目標との関連	<p>保育者として必要な音楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。</p>
到達目標 (学修成果)	<p>1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性</p> <p>1. (DP1) 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 2. (DP2) 童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 3. (DP3) 子どもの歌を各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 4. (DP4) うたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 5. (DP5) お互いに聴き合う感覚を磨き、協働の重要性を理解している。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準	<p>受講態度 40% 課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表 30% グループ発表、こどものうたや合唱曲を用いたプレゼンでの演奏。 期末レポート30% 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>期末レポートのフィードバックはオンラインにて伝える。</p>
教科書	<p>改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円(税抜) その他授業内にてプリントを配付する。</p>
参考書	
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	<p>予習・復習：授業で取り組んだ子どものうたは、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。(45分)</p>
履修上の注意、条件等	<p>うたを学びたいという気持ちのある者。グループでの発表に際しては、リハーサルを円滑に行うための協力、連絡、役割を全うする姿勢が不可欠。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管し、毎回各自の楽譜を持ってくること。</p>
オフィスアワー	<p>Google Classroomもしくは大見研究室で受け付ける。オフィスアワーは、研究室に掲示する。</p>
備考・メッセージ	<p>本クラス用のYouTubeの練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。</p>

講義科目名称： 声楽Ⅱ (Sing in English)

授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅱ (Sing in English)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1、2年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D206
添付ファイル			
Sing2023 - Map.pdf			
Sing2023 rubric.pdf			

講義概要	<p>英語の子どものうたやミュージカルソングなどの楽曲に取り組む。英語で歌うための発音、フレージングなどのポイントを学び、授業では毎回英語の歌を歌うための発声器官発達のための発声練習を行い、筋肉を鍛える。文化祭などのイベントでグループ発表を行う。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得したうたの技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」において身体表現、指導案作成の学習や全ての英語科目に関連する。</p> <p>大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイトムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多: 45分以上 中: 15分～44分 少: 15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 授業の概要 呼吸と発声について 呼吸と発声、英語の歌のフレージング・リンキングについて説明を受け、実際に歌ってみる。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習とうたを練習する。(25分) 宿題：声や英語の歌に関する意識を見出すアンケートを行う。(20分) A: 中 E: あり F: あり</p> <p>第2回 英語の歌・こどものうた1 英語の子どものうたを歌う。英語の歌の歌唱のポイントを学ぶ。 予習・復習：授業で学んだ歌を練習する。英語のうたを一曲練習し独唱できるようにしておく。(45分) A: 中 E: あり F: あり</p> <p>第3回 第3回 英語の歌・こどものうた2 各自選んだ子どものうたを独唱し、各自の声質と声域を確認する。 rhymeについて理解し、楽しみ、歌詞を覚える。 予習・復習 英語の子どものうたの歌詞を覚え、いつでも歌えるようにする。(25分) 授業で歌った英語の歌を練習する。(20分) A: 中 D: 中 E: あり F: あり</p> <p>第4回 文化祭発表の企画 文化祭において発表するステージ・ミニシアターなどの企画を考える。 予習・復習：今まで授業で歌った歌を練習しておく・文化祭の企画案を考える。(45分) A: 多 B: 中 F: あり</p> <p>第5回 文化祭発表の準備 文化祭において発表する歌の表現やふり、設定を考える。 予習・復習：文化祭で歌う歌を練習し、暗譜で歌えるようにする。(45分) A: 多 B: 中 F: あり</p> <p>第6回 文化祭発表のリハーサル 文化祭において発表する際の各自の役割を確認しリハーサルを行う。 予習・復習：今まで授業で歌った歌を練習しておく。(45分) A: 多 B: 中 D: 中 F: あり</p> <p>第7回 文化祭発表のリハーサル後の修正 リハーサルの振り返りを行い、子どもや聴衆にメッセージが伝わり、楽しめるように工夫する。 予習・復習：文化祭の歌を個人で練習しておき、文化祭リハーサルに参加する。(1時間) A: 中 B: 中 D: 中 E: あり F: あり</p> <p>第8回 第8回文化祭発表 準備した企画、歌を文化祭にて発表する 予習・復習：文化祭の歌を個人で練習しておき、文化祭リハーサルに参加する。(1時間) 宿題：文化祭発表の振り返りをGoogle Classroomにて提出する。(30分) A: 中 D: 多 E: あり F: あり</p> <p>第9回 第9回 文化祭の振り返り 文化祭の振り返りをクラス単位で行い、歌をプレゼンすることの意義を見出す。 子どものうた・英語の歌を歌う。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。最終プロジェクトで歌いたい歌を考えアンケートを入力する(45分) A: 中 B: 中 E: あり F: あり</p> <p>第10回 クリスマスソング 最終プロジェクトで歌うたの候補曲を実際に歌い、声質・テーマにあった曲を考える。 クリスマスソングを練習する。 予習・復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。(45分) A: 中 E: あり F: あり</p> <p>第11回 クリスマスソングパーティの企画</p>

	<p>クリスマス会を想定した企画を考える。 予習・復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。(45分) A：中 B：中 F：あり</p> <p>第12回 クリスマスソングパーティの準備 クリスマスソングパーティの環境設定を行う。 予習・復習：授業で歌ったクリスマスソングを練習する。パーティに必要な作品・備品などを準備しておく。(45分) A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 第13回 クリスマスソングパーティ クリスマスソングパーティに参加し、準備した曲の発表を行う。 予習：発表曲のうた、振り付け、流れなどの最終チェックを行う。(30分) 宿題：振り返りレポートを行う。(15分) A：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回 最終プロジェクトの歌の決定 最終プロジェクトの歌を決め、練習する。 予習・復習：最終プロジェクトの歌を練習する。(45分) A：中 B：中 F：あり</p> <p>第15回 最終プロジェクトの歌の仕上げとまとめ 最終プロジェクトの歌を練習し自信を持って歌えるようにする。 ふりかえりアンケートを行う。 予習・復習：最終プロジェクトの歌を練習する。(45分) 宿題(期末試験)：最終プロジェクトの歌を発表もしくはビデオ提出する。 A：中 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	<p>グローバルな保育者として必要な英語の歌唱の技術と知識を身につける。 英語の子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。</p>
到達目標 (学修成果)	<p>1. 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 2. 英語の子どものうたのレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 3. 英語の子どものうたを各音域で通る声で歌い、子どもが楽しめる表現で歌える。 4. 英語のうたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに興味を持つ。 5. 英語のうたの意味や背景、文化を理解している。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。</p>
評価方法および評価基準	<p>受講態度 40% 課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表 30% 文化祭でのプレゼンでの演奏とそれにつわる準備。 期末プロジェクト 30% 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。</p>
1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>フィードバックはGoogle Classroom にて行う</p>
教科書	<p>授業中に適宜プリントを配布する</p>
参考書	<p>なし</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	<p>授業で取り組んだ歌は毎回練習すること(45分)。 以上の個人練習の他、文化祭、最終プロジェクト前にはグループリハーサルに参加すること。</p>
履修上の注意、条件等	<p>英語の歌を学びたい、歌いたいと思う学生対象。発表・リハーサルは各自責任を持って周囲とコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談を怠らないこと。</p>
オフィスアワー	<p>質問、相談は研究室(308)もしくはGoogle Classroomにて受け付ける。オフィスアワーは研究室前に掲示。</p>
備考・メッセージ	<p>「耳と体」でうたによく慣れて、心をこめて歌いましょう。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
中村麻衣子、相澤京子、山下晶子、大見由香、渡邊眞理、石見容子、成清北斗、赤松広美、安田真紀子			
添付ファイル			
カリキュラムマップ演習ゼミ.pdf			
ルーブリック演習ゼミ.pdf			

講義概要	<p>演習ゼミでは、世界の乳幼児教育・保育に関して一人ひとりの興味や関心に応じて主体的に学びを深め、探究することの面白さを体験的に学んでいく。このことを通じて、現代の乳幼児が抱える保育・教育上の諸問題について理解を深め、これからの保育・教育のあり方や保育の質に関する調査研究をすることにより、自身の保育・教育観を構築することを目的とする。子どもの発達をめぐる様々な疑問や課題について、日本国内だけではなく海外の動向・取組みも含め、多角的に分析、考察していくことで、課題解決に挑む。子どもの幸せを守る！世の中を良くする！という気持ちで、自分の興味・関心のある課題を探究しましょう。</p> <p>他の科目との関連性：本学で学ぶすべての科目が関連している。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多: 45分以上 中: 15分～44分 少: 15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>イントロダクション(ガイダンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス内容と授業概要を理解し、1年間の目標を確認する 予習: シラバスを読む (約30分) 復習: 授業で学んだことを振り返り、授業を通じた自らの目標を立てる (約1時間) A: 中 B: 多 E: あり F: あり <p>第2回</p> <p>研究論文とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチクエストの見つけ方、レポートとの違い、情報源の信頼性について理解する 予習: 研究論文とレポートの違いについての意見をまとめる (約1時間) 復習: リサーチクエストについて省察する (約1時間) A: 中 B: 多 E: あり F: あり <p>第3回</p> <p>研究論文を探す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文の検索システムの使い方、調べ方について学ぶ 予習: 関心のあるテーマについての意見をまとめる (約1時間) 復習: 論文の検索方法の基本について省察する (約2時間) A: 中 B: 多 E: あり F: あり <p>第4回</p> <p>研究論文の形式と構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクトのテーマの選択と、仮タイトルの決定を通じて、自らの研究課題についての理解を深める 予習: 関心のある論文を入手し、3本以上読む (約1時間) 復習: 3本の研究論文についてのポイントをまとめる (約1時間) A: 中 B: 多 E: あり F: あり <p>第5回</p> <p>多様な研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質的研究法/量的研究方法 ・先行研究を基に多様な研究方法を理解する 予習: 自分の関心のある研究方法(メソッド)を調べる (約1時間) 復習: 多様な研究方法について省察する (約1時間) A: 中 B: 中 C: 中 E: あり F: あり <p>第6回</p> <p>フィールドワーク法についての学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を用いたフィールドワークの演習を通じて、研究方法についての理解を深める 予習: フィールドワークについて自分なりの意見をまとめる (約1時間) 復習: 写真を用いたフィールドワークのレポートを完成する (約1時間) A: 少 B: 少 C: 多 E: あり F: あり <p>第7回</p> <p>先行研究の収集と整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献・資料の収集方法、図書館の利用(発展) ・引用文献の書き方について学ぶ 予習: 自分の研究テーマに関連する先行文献について調べる (約1時間) 復習: 先行文献を調べ、論文における記載の仕方を理解する (約1時間) A: 多 B: 中 C: 少 E: あり F: あり <p>第8回</p> <p>研究倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナリティーと剽窃(ひょうせつ)、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習: 論文における倫理についての指定文献を読む (1時間) 復習: 論文における倫理と剽窃についての理解を定着させる (約1時間) A: 中 B: 多 E: あり F: あり <p>第9回</p> <p>人に伝わるプレゼンテーション(基礎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの作成とディスカッションを通して、より良く人に伝える方法について理解する 予習: プレゼンテーションを作成し、発表リハーサルの準備をする (約1時間) 復習: 教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する (約1時間) B: 中 D: 多 E: あり F: あり <p>第10回</p> <p>中間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備、実施、ディスカッション、振り返りを通して、研究課題についての考察を深める 予習: 中間発表のプレゼンテーションのナレーションを準備する (約1時間) 		

	<p>復習：教員や他の学生からのアドバイスをもち、研究論文について修正を加え、改善する(約1時間) B：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第11回 論理的な文章の書き方 ・論理的な文章、要旨、本文、文献註の書き方について理解する 予習：指定文献を読む(約1時間) 復習：自分の研究論文の要旨を書く(約1時間) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第12回 統計的データの分析手法 ・説得力のある論文を書くための数字の扱い方、分析手法(平均値や比較)を知る 予習：指定文献を読む(約1時間) 復習：統計的データを用いた比較について調べる(約1時間) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第13回 思考を深めるディスカッション ・自分の意見を言うことと人の意見を取り入れることについて、演習を通じて理解する 予習：指定文献を読む(約1時間) 復習：有意義なディスカッションの方法についての考察を深める(約1時間) A：中 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回 人に伝わるプレゼンテーション(発展) ・効果的なプレゼンテーションの方法と実践をプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ ・タイムマネジメントや、ポインターの使い方などを学ぶ 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションを準備する(約1時間) 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもちにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回 最終口頭発表と質疑応答 ・自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションを実施し、今後の展望を見据える 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションのリハーサルを実施する(約1時間) 復習：自らの研究プロジェクトに関し得られた学びについて省察する(約1時間) B：中 D：多 E：あり F：あり</p>
教育目標との関連	演習ゼミにおける研究活動は専攻科での学びの集大成である。自身の問いをたて、多様な研究方法を用いて調査、考察し、論文にまとめるという一連の活動は、保育者としての確かな知識を用いた論理的思考力、表現力、学びに向かう意欲を育成することにつながる。
到達目標(学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>DP2：自身の問いについて、客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。</p> <p>DP3：十分な根拠に基づいた考えや主張を、筋道立てて、わかりやすい文章で表現することができる</p> <p>DP4：研究に主体的・意欲的に取り組むことができる</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>個人研究プロジェクト(研究、論文、プレゼンテーション)について下の①～③を基に評価する：70%</p> <p>平常点(積極性や貢献度など取組み姿勢)について下の①～③を基に評価する)：30%</p> <p>①中間発表(20点：DP2：5点、DP3：5点、DP4：10点) ②最終発表(20点：DP2：5点、DP3：5点、DP4：10点) ③論文提出(60点：DP2：20点、DP3：30点、DP4：10点) *ルーブリック評価による(添付資料参照のこと)</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終授業回(最終口頭発表)でフィードバックを行う。
教科書	演習授業内で適宜指示する
参考書	演習授業内で適宜指示する
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業時間以外にも論文作成のための研究を自主的に進めていくことが求められる。
履修上の注意、条件等	授業は対面で行う。諸般の状況を鑑み、遠隔(Googlemeetを使用した双方向)に変更することがある。欠席等の扱いについては、「履修要綱」に準ずる。やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ教員に連絡をし、課題に関する指示を受けること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。随時メール・Google Classroomでも受け付ける。
備考・メッセージ	専攻科の学生としての高い意識と倫理観をもち、主体的・積極的に学びましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E104
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 留学英語準備講座I.pdf			

講義概要	<p>During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English needed to succeed in the classroom, but will also study English that can be used in daily life.</p> <p>This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important.</p> <p>Each unit of the textbook will be covered over three lessons including speaking, grammar, listening and reading. At the end of the third class, a writing assignment will be given covering the topic to gauge student's comprehension of the unit goals and topic.</p> <p>Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>Class 1-3 Unit 1: Great Places to Be Reading: Cities and countries Listening: Filling out a form Speaking: Answering basic questions about yourself Writing: Describing pie charts and bar charts Vocabulary: Prepositions, Adjectives to describe places Grammar Focus: Present simple and present continuous</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 4-6 Unit 2: People's lives Reading: Biography Listening: Note completion Speaking: Talking about your childhood Writing: Discussing advantages and disadvantages Vocabulary: Working out the meanings of words Grammar focus: Pas simple</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 7-9 Unit 3: Getting from A to B Reading: Traffic, electric cars Listening: Labelling a diagram Speaking: Talking about a journey you made Writing: Describing tables and comparing data Vocabulary: Vocab related to traffic/transportation Grammar Focus: Making comparisons</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 10-12 Unit 4: It was All New Once Reading: Famous inventions Listening: Sentence completion Speaking: Describe and electronic device you use Writing: Agreeing and disagreeing Vocabulary: Vocab related to technology Grammar Focus: Present perfect</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 13-15 Unit 5: Animal World Reading: About animals Listening: Labeling a map Speaking: Talking about nature and animals Writing: Summarising two charts Vocabulary: Vocab related to nature and animals Grammar Focus: Countable and uncountable nouns</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>

教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to study abroad.
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	50% Writing assignments 30% Vocabulary quizzes 20% Homework & Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	We will review and discuss the final exam during the final class.
教科書	Complete IELTS Bands 4-5 Student's Book Guy Brook-Hart and Vanessa Jakeman 著 Cambridge University Press 出版 IELTS 必ず出る単語スピードマスター 嶋津幸樹 著 Jリサーチ 出版
参考書	瞬時にわかる英語リスニング大特訓 山崎祐一 著 金星堂 出版 究極の英語リスニング Vol. 1 アルク 出版 マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 留学英語準備講座II.pdf			

講義概要	<p>During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on the English you will need to study abroad. We will focus on English needed to succeed in the classroom, but will also study English that can be used in daily life.</p> <p>This class will focus on listening and speaking, so class participation is very important.</p> <p>Each unit of the textbook will be covered over three lessons including speaking, grammar, listening and reading. At the end of the third class, a writing assignment will be given covering the topic to gauge student's comprehension of the unit goals and topic.</p> <p>Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 G: PBL (課題解決型学習) H: 反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>Class 1-3 Unit 6: Being Human Reading: Health and science Listening: Matching Speaking: Talking about memory Writing: Answering a single question in depth Vocabulary: Vocab related to the human body Grammar Focus: Zero and first conditionals</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 4-6 Unit 7: Literacy Skills Reading: Speed reading Listening: Form completion Speaking: Giving your opinion and reasons Writing: Describing trends Vocabulary: raise v. rise, Grammar focus: Prepositions</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 7-9 Unit 8: Tourist Attractions Reading: Tourism Listening: Sentence completion Speaking: Talking about a past vacation Writing: Answering two questions Vocabulary: Vocab related to tourism Grammar Focus: Relative pronouns</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 10-12 Unit 9: Every Drop Counts Reading: Water and the environment Listening: Flow-chart completion Speaking: Talking about water sports Writing: Summarizing a diagram Vocabulary: Vocab related to water and the environment Grammar Focus: Passive voice</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>Class 13-15 Unit 10: Building Design Reading: Famous buildings Listening: Note completion Speaking: Talking about buildings Writing: Discussing opposing views and giving your opinion Vocabulary: Vocab related to architecture Grammar Focus: Modal verbs</p> <p>A: 多 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>

教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to study abroad.
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループリックによる評価基準	50% Writing assignments 30% Vocabulary quizzes 20% Homework & Participation
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	We will review and discuss the final exam during the final class.
教科書	Complete IELTS Bands 4-5 Student's Book Guy Brook-Hart and Vanessa Jakeman 著 Cambridge University Press 出版 IELTS 必ず出る単語スピードマスター 嶋津幸樹 著 Jリサーチ 出版
参考書	瞬時にわかる英語リスニング大特訓 山崎祐一 著 金星堂 出版 究極の英語リスニング Vol. 1 アルク 出版 マーフィーのケンブリッジ英文法 中級編 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will be available in her office. Office hours will be posted on the door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 多文化保育論

授業コード：

英文科目名称： Early childhood education and care for multi-cultural preschool

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	1年 選択
担当教員			
萩原元昭			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C305
添付ファイル			
多文化保育論2023 カリキュラムマップ・ルーブリック.pdf			

講義概要	<p>日本語を母語としない外国籍の乳幼児や保護者の生活習慣のちがいを、子育ての観念や考え方のちがいや人間関係の文化的なちがいを理解し、乳幼児や親の要求によりその現実的な支援の方法について学ぶ。あわせて、外国籍の乳幼児にとっては、母国の文化を表現する機会が尊重され、日本の乳幼児にとっては、異文化を理解するだけでなく、日本の伝統的文化を発信するよい機会となり、多文化保育が目指す人権、民族、性別、年代のちがいを越えて多文化共生の感性と思考力、行動力を身につけ、次世代の乳幼児を一地球市民としての資質を向上させる保育の内容方法、環境のあり方について学ぶことを意図している。</p> <p>他の科目との関連性については、専攻科における「多文化間心理学」「家族と多文化社会」等との関連がある。</p> <p>担当教員は、群馬大学教育学部附属幼稚園の園長として2年間の実務経験があり、海外視察研修等の経験もあわせて、より多角的な視点から授業をおこなう。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>イントロダクション 多文保育の意味と意義を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化保育の意義、実践の必要性について、事例(2)をあげ学ぶ <p>B：中 D：少 E：あり</p> <p>予習：シラバスを読んでくる(1時間) 復習：学びの振り返り(1時間)</p>	<p>第2回</p> <p>外国籍の園児と保育者の二者間の意識のズレの調整を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の保護者の園・保育者への要望と、保育者の外国籍の保護者に対する保育者の要望の調整の仕方を学ぶ <p>B：中 D：少 E：あり F：あり</p> <p>予習：テキストP7～11、多文化保育の必要性を読んでくる(1時間) 復習：今日の学びの振り返り(1時間)</p>	<p>第3回</p> <p>多文化保育の鍵概念としてのアコモデーションについて学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や保護者が乳幼児の心理的要求によりそい、適応しようとする働きとしてアコモデーションaccomodationの概念を学ぶ <p>B：中 E：あり</p> <p>予習：テキストP11～17まで読んでくる(1時間) 復習：本日学んだことをノートに要約する(1時間)</p>
	<p>第4回</p> <p>多文化保育の鍵概念としての最善の利益の保障について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化保育の中核概念としての最善の利益の保障について学ぶ <p>B：中 E：あり</p> <p>予習：乳幼児にとって最善の利益の場面を探してくる(1時間) 復習：学んだことの振り返り(1時間)</p>	<p>第5回</p> <p>園児のESD/SDGsへの参画について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESDやSDGsの意味、意義について学ぶ ・参加(passive participation)と参画(active participation)とのちがいを理解する ・園児のESD(SDGs)への参画の意義について学ぶ <p>A：少 B：少 D：少 E：あり</p> <p>予習：テキストP18～79を読んでくる(1時間) 復習：学びの振り返り(1時間)</p>	<p>第6回</p> <p>参画実現のファシリテーターとしての保育者の役割を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参画支援の方法としてのファシリテーターとfacilitateの概念を学ぶ ・多文化保育の方法としての保育者のファシリテーターとしての役割について、事例にそって学ぶ <p>A：少 B：少 D：少 E：あり</p> <p>予習：テキストP58の事例とP60事例2を読んでくる(1時間) 復習：参画支援のファシリテーターとしての保育者の役割を要約する(1時間)</p>
	<p>第7回</p> <p>多文化保育の内容方法についてアンチ・バイアスカリキュラムを中心に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンチバイアスカリキュラムの意義について学ぶ ・当日、human inequality (人間関係の不平等)の資料を配布し、検討する <p>A：多</p>		

	<p>B：中 D：少 E：あり 予習：テキストP 8～23 多文化保育の内容と方法を読んでくる（1時間） 復習：アンチ・バイアスカリキュラムについて要約する（1時間）</p> <p>第8回 多文化保育環境の構成の視点 ・構成の視点として、1）異文化性、2）多様性、3）アンチバイアス性、4）環境を通しての保育、5）園児の内容・方法についての選択の自由度、6）園児の参画支援のファシリテーターとしての保育者の役割の重要性について理解する</p> <p>B：中 D：少 E：あり 予習：テキストP 26～29 多文化保育環境の構成を読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間）</p> <p>第9回 多文化保育環境の2つのシステムの構成のちがいを学ぶ ・園児の保育内容と保育方法を選択する自由度から析出される多文化保育環境の2つのモデル：ドミネーションシステムとアコモデーションシステムの構造の違いについて学ぶ</p> <p>B：中 D：少 E：あり 予習：テキストP 29～40 をよく読んでくる（1時間） 復習：2つの多文化保育環境を要約する（1時間）</p> <p>第10回 多文化保育環境としてのアコモデーション・システムーバーンステイン理論を中心に学ぶ ・多文化保育内容の分析の視点としての類別と多文化保育方法の分析視点としての枠づけの概念について学び、両視点のクロスによるアコモデーション・システムモデルの理念型について学ぶ</p> <p>B：中 E：あり 予習：テキストP 35～40 読んで理解してくる（1時間） 復習：テキストP 11の事例1、P 12の事例2、P 16の事例3・4について、学んだアコモデーション・システムについて確認してみる（1時間）</p> <p>第11回 多文化保育と地域保育システムとの関係について学ぶ ・個性閉鎖系地域保育システム（Aタイプ）と個性開放系地域保育システムのちがいについて学ぶ</p> <p>B：中 E：あり 予習：テキストP 40～49 をよく読んでくる（1時間） 復習：Bタイプの地域保育システムについて自分の考えを要約する（1時間）</p> <p>第12回 外国籍の幼稚園児をふくむ施設を訪問、観察し、フィールドワークを実施する もし、不可能な場合は、事例を収集し、図書館に於いて各自プレゼンテーションを作成する作業ワークを実施する A又はC D：中 E：あり 予習：現地集合地の確認と観察記録の準備（1時間） 復習：観察された記録の整理（1時間）</p> <p>第13回 第12回に実施したフィールドワーク又は事例調査の事例について、記録されたものにもとづくグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し、「多文化保育環境の実践」についてグループ別にまとめ、発表し、グループ別に講評を行う</p> <p>A：多 B：中 D：中 E：あり F：宿題（グループ発表・講評をまとめ総括する）</p> <p>第14回 多文化保育環境における園児のESD/SDGsへの参画とファシリテーターとしての保育者の役割を促進する園環境への変革の試み—OME P ESD rating scaleオメップESD評定尺度（第2版）を用いての試みについて学ぶ ・具体的な例示資料を当日配布し、多文化保育環境の変革の方法について学ぶ</p> <p>B：中 E：あり</p> <p>第15回 第15回の期末テストの結果について、正解の解説で要注意の点について復習する。</p>
教育目標との関連	外国籍の乳幼児の要求を理解し、異文化を尊重し、愛の教育の基礎に基づいて支援可能なファシリテーターとしての保育者の多文化保育の支援力を育成する。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. 多文化保育環境において生ずる課題を理解し、説明することができる。 2. 園児の最善の利益をもたらす環境づくりに自らの考えを提案できる。 3. 園児の参画のファシリテーターとしての保育者のあり方について、自らの考えを論じ合うことができる。 4. 異文化の価値観・多様性を尊重し、受け入れることができる。</p> <p>カリキュラムマップは添付資料を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>1. 評価方法 テスト 80%（期末テストの結果の成績） レポート 20%（第13回のフィールドワークのレポートの評価） 2. ルーブリックは添付参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終回授業にて解説、フィードバックを行う。

教科書	「多文化保育論」萩原元昭 学文社 2008年 ¥1,868
参考書	「世界のESDと乳幼児期からの参画 ファシリテーターとしての保育者の役割を探る」萩原元昭 北大路書房 2020年 ¥3,400
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画のとおり。 外国籍乳幼児、日本の乳幼児の発達心理についての理解については、中村麻衣子先生の「多文化間心理学」の講義を参考にすること。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もあります。
オフィスアワー	授業終了後質問に応ずる。
備考・メッセージ	第1回～第15回 対面授業 第12回 対面・フィールドワーク併用 総括として多文化保育テストを実施後、第15回で解説、フィードバック

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D102
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			
カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。またピアノ実技については、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行なっている。</p> <p>他の科目との関連：入学後に学ぶ「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容(表現)の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>音楽の基礎を学ぶ(1) 授業の進め方について</p> <p>理論：譜表(五線と加線)・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ(10枚)のカードを覚える。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(ステップ1)の右手をドレミで歌いながら弾く。左右の手の指番号を覚える。 聴き取る：2音の高さの違いを聞き分ける。 プリント学習：No.1</p> <p>予習・復習 音符カード10枚と左右の手の指番号を確実に覚える。「ぶんぶんぶん」(ステップ1)の右手を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり</p>	
	第2回	<p>音楽の基礎を学ぶ(2)</p> <p>理論：音の並びについて知る。(ドレミファソラド・ドシラソファミレド)(ドミソシレファラド・ドラファレシソミド) 読む：10枚のカードを読み、ピアノで鳴らす。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(ステップ1)の右手をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。</p> <p>予習・復習 10枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」(ステップ1)の右手を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり</p>	
	第3回	<p>音楽の基礎を学ぶ(3)</p> <p>理論：音符と休符①(単純音符・単純休符の長さ) 読む：中央から下のドシラのカードを増やす。(13枚)ピアノで鳴らして確認する。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：バイエルNo.44を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 プリント学習：No.2</p> <p>予習・復習 13枚のカードの音を覚え、ピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」(ステップ1)とバイエルNo.44を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり</p>	
	第4回	<p>音楽の基礎を学ぶ(4)</p> <p>理論：音符と休符②(付点音符・付点休符の長さ) 読む：13枚のカードを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：高い方の音域のメロディーを写す。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(ステップ1)を両手で弾く。 「ぶんぶんぶん」(ステップ2)の左手を歌いながら弾く。 バイエルNo.44を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 プリント学習：No.3</p> <p>予習・復習 13枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)とバイエルNo.44を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>	
	第5回	<p>音楽の基礎を学ぶ(5)</p> <p>理論：リズムと拍子(拍と拍子・拍子記号)</p>	

	<p>読む：高い方のドレミファソのカードを増やす。(18枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(ステップ1)を仕上げる。 「ぶんぶんぶん」(ステップ2)の左手を練習した後、両手で弾く。 プリント学習：No.3(続き)</p> <p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第6回	<p>音楽の基礎を学ぶ(6) 理論：和音 読む：ピアノの中央と高い方・低い方のドレミファソを復習する。(18枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーを同じように写す。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(ステップ2)を仕上げる。 「ちょうちょ」(ステップ1)の譜読みをする。必ずドレミで歌いながら弾く。 プリント学習：No.4</p> <p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)と「ちょうちょ」(ステップ1)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第7回	<p>音楽の基礎を学ぶ(7) 読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシのカードを増やす。(20枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーを同じように写す。 歌う・弾く：「ちょうちょ」(ステップ1)を片手ずつ練習した後、両手で弾く。 プリント学習：No4(続き)</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)と「ちょうちょ」(ステップ1)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第8回	<p>音楽の基礎を学ぶ(8) 理論：調(調子記号) 読む：これまでのカード20枚を復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーをヘ音記号に書きかえる。 歌う・弾く：「ちょうちょ」(ステップ1)を仕上げる。 「ちょうちょ」(ステップ2)の左手の譜読みをする。 プリント学習：No.5</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)と「ちょうちょ」(ステップ1・2)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第9回	<p>音楽の基礎を学ぶ(9) 読む：ヘ音記号の低いシラソファのカードを増やす。(24枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーをト音記号に書きかえる。 歌う・弾く：「ちょうちょ」(ステップ2)の左手の伴奏形を練習する。 プリント学習：No.5(続き)</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「ぶんぶんぶん」(ステップ1・2)と「ちょうちょ」(ステップ1・2)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第10回	<p>音楽の基礎を学ぶ(10) 理論：これまでの復習をする① 読む：これまでのカード24枚を復習する。知っている音域をピアノで確認する。 歌う・弾く：「ちょうちょ」(ステップ2)の要点を学び、両手で弾く。 プリント学習：No.6</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認する。「ちょうちょ」(ステップ1・2)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第11回	<p>音楽の基礎を学ぶ(11) 読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。知っているドをピアノで鳴らして確認する。加線のラとシの読み方も知る。 歌う・弾く：「ちょうちょ」(ステップ2)を仕上げる。 「おおきなくりの木のしたで」(ステップ1)の譜読みをする。 プリント学習：No.6(続き)</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音と加線2本のドをピアノで確認する。「ちょうちょ」(ステップ1・2)と「おおきなくりの木のしたで」(ステップ1)を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり</p>
第12回	<p>音楽の基礎を学ぶ(12) 理論：これまでの復習をする② 読む：大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。楽譜の音の重なり具合を確認する。</p>

	<p>歌う・弾く：「おおきなくりの木のしたで」（ステップ1）の要点を学び、両手で弾く。 プリント学習：No.7</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「ちょうちょ」（ステップ1・2）と「おおきなくりの木のしたで」（ステップ1）を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり</p> <p>第13回 音楽の基礎を学ぶ（13） 読む：カードの復習をする。（確実にない音をさがす。）加線の音の読み方を復習し、確実にする。 歌う・弾く：「おおきなくりの木のしたで」（ステップ1）を仕上げる。 やさしい『こどものうた』に和音の伴奏（分散含む）を付けて弾く。 プリント学習：No.8</p> <p>予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』3曲を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり</p> <p>第14回 音楽の基礎を学ぶ（14） まとめ 授業のプリントを見ながら学んだことを整理し、確実にする。 プリント学習：No.9 No.10</p> <p>予習・復習 最終確認テストに向けて授業で学んだことを整理し、確実にする。 A:中 F:あり</p> <p>第15回 音楽の基礎を学ぶ（15） 最終確認テスト 解説 最終確認テストをした後、解説を聞く。 E:あり</p> <p>第16回 音楽の基礎を学ぶ（16） 期末レポート課題 この科目で学んだ成果や今後の課題についてまとめて提出する。 E:あり</p>
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標（学修成果） 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. (DP1)基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。</p> <p>2. (DP4)歌ってみよう弾いてみようと意欲的に取り組むことができる。</p> <p>3. (DP2)子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>プリント課題 60% 毎回プリント学習により理解度の確認を行い、その成果を評価する。</p> <p>最終確認テスト・期末レポート課題 20% 授業の内容全般についての理解度を評価する</p> <p>平常点評価 20% 音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。（ピアノ実技、音符カード等）</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	最終確認テスト後に解説を行い、期末レポート課題により更に理解を深め、今後活かして行く。
教科書	適宜プリントを配付する。
参考書	大学所有のものを貸与して使用する。 ・音符カード
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	小さな積み重ね（くり返し）の努力が大きな成果となる。授業で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習の音符カードとピアノの課題は必ず行うこと。（毎日20分～30分）
履修上の注意、条件等	フェリシアこども短期大学に進学を希望する者に履修を勧める。
オフィスアワー	質問等に関してはメールにより受け付ける。
備考・メッセージ	全16回を対面で行う。

講義科目名称： 幼児音楽入門（ピアノ）Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Early Childhood Music (Piano)Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D103
添付ファイル			
ルーブリック.pdf			
カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	<p>幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。またピアノ実技については、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行なっている。</p> <p>他の科目との関連：入学後に学ぶ「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容(表現)の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L(課題解決型学習) H:反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>ピアノの基礎を学ぶ(1) バイエル12・13・14 「メリーさんの羊」(ハ長調)</p> <p>授業の内容と進め方について説明を受ける。 ピアノを弾く時の姿勢や手の形、指番号について復習する。 バイエル12・13・14の練習方法を学ぶ。 「メリーさんの羊」(ハ長調)の要点を学び、片手ずつ練習する。</p> <p>予習・復習 バイエル12・13・14と「メリーさんの羊」(ハ長調)を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>	<p>第2回</p> <p>ピアノの基礎を学ぶ(2) バイエル12・13・14 「メリーさんの羊」(ハ長調)</p> <p>バイエル12・13・14を仕上げる。 「メリーさんの羊」(ハ長調)の左手の動きを練習した後、両手で弾き仕上げる。 フランスのソルフェージュ教材より No.1 No.2へ音記号のミファソを覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 バイエル12・13・14と「メリーさんの羊」(ハ長調)を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>	<p>第3回</p> <p>ピアノの基礎を学ぶ(3) 「メリーさんの羊」(ハ長調) 「チューリップ」(ステップ1・2)</p> <p>「メリーさんの羊」(ハ長調)の左手の動きを練習した後、両手で弾き仕上げる。 「チューリップ」(ステップ1)の右手の移動や指の返しを学び、両手で弾く。 「チューリップ」(ステップ2)の左手の譜読みをする。 フランスのソルフェージュ教材より No.3 No.4へ音記号のミファソを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「メリーさんの羊」(ハ長調・ハ長調)と「チューリップ」(ステップ1・2)を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
	<p>第4回</p> <p>ピアノの基礎を学ぶ(4) 「チューリップ」(ステップ1・2) 音階の練習(ハ長調)</p> <p>「チューリップ」(ステップ1)を仕上げる。 「チューリップ」(ステップ2)の要点を学び、両手で弾く。 音階の練習(ハ長調) 片手ずつ指のくぐらせ方と返し方を学んだ後、両手で反行を弾く。 フランスのソルフェージュ教材より No.5 No.6へ音記号のドソを覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「チューリップ」(ステップ1・2)と音階(ハ長調)の反行を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>	<p>第5回</p> <p>ピアノの基礎を学ぶ(5) 「チューリップ」(ステップ2) 「きらきらぼし」(ステップ1) 音階の練習(ハ長調)</p> <p>「チューリップ」(ステップ2)を仕上げる。 「きらきらぼし」(ステップ1)の譜読みをする。 音階の練習(ハ長調) 反行を練習した後、並行の練習をする。 フランスのソルフェージュ教材より No.7へ音記号のドソを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「チューリップ」(ステップ2)と「きらきらぼし」(ステップ1)、音階(ハ長調)の反行・並行を練習する。(毎日30分)</p>	

	A:中 F:あり
第6回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (6) 「きらきらぼし」 (ステップ1) 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) 音階の練習 (ハ長調)</p> <p>「きらきらぼし」 (ステップ1) の要点を学び、両手で弾く。 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) の譜読みをする。 音階の練習 (ハ長調) 反行と並行の練習をする。 フランスのソルフェージュ教材より No. 8 ヘ音記号のドソを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「きらきらぼし」 (ステップ1) と「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2)、音階 (ハ長調) の反行と並行を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第7回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (7) 「きらきらぼし」 (ステップ1) 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) 「かたつむり」 (和音伴奏)</p> <p>「きらきらぼし」 (ステップ1) を仕上げる。 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) の要点を学び、両手で弾く。 「かたつむり」 (和音伴奏) の譜読みをする。 和音の練習 左手の伴奏形を学ぶため、ドミソとシレソ・ドミソとシファソ・ドミソとドファラを交互に練習する。</p> <p>予習・復習 「きらきらぼし」 (ステップ1) と「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2)、「かたつむり」 (和音伴奏) を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第8回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (8) 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) 「かたつむり」 (和音伴奏) カデンツ (ハ長調)</p> <p>「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) を仕上げる。 「かたつむり」 (和音伴奏) の要点を学び、両手で弾く。 カデンツの練習 (ハ長調) 和音の練習をした後、和音を連結して弾く。 フランスのソルフェージュ教材より No. 15 No. 16 ヘ音記号のソラシドを覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「あくしゅでこんにちは」 (ステップ2) と「かたつむり」 (和音伴奏) を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第9回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (9) 「かたつむり」 (和音伴奏) 「おかたづけ」 (ステップ2) カデンツ (ハ長調)</p> <p>「かたつむり」 (和音伴奏) を仕上げる。 「おかたづけ」 (ステップ2) の譜読みをする。ヘ長調に慣れる。左手の音形を練習する。 カデンツの練習 (ハ長調) 和音の練習をした後、和音を連結して弾く。 フランスのソルフェージュ教材より No. 17 ヘ音記号のソラシドを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「かたつむり」 (和音伴奏) と「おかたづけ」 (ステップ2) を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第10回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (10) 「おかたづけ」 (ステップ2) 「ハッピー・バースデー」 (ステップ2) 「きらきらぼし」 (ステップ2)</p> <p>「おかたづけ」 (ステップ2) の要点を学び、両手で弾く。 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 (ステップ2) の譜読みをする。 「きらきらぼし」 (ステップ2) の左手の譜読みをする。 フランスのソルフェージュ教材より No. 13 ヘ音記号の下のソラシドを覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「おかたづけ」 (ステップ2) と「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 (ステップ2)、「きらきらぼし」 (ステップ2) を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第11回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (11) 「おかたづけ」 (ステップ2) 「ハッピー・バースデー」 (ステップ2) 「きらきらぼし」 (ステップ2)</p> <p>「おかたづけ」 (ステップ2) を仕上げる。 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 (ステップ2) の要点を学び、両手で弾く。 「きらきらぼし」 (ステップ2) の要点を学び、両手で弾く。 フランスのソルフェージュ教材より No. 14 ヘ音記号の下のソラシドを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「おかたづけ」 (ステップ2) と「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 (ステップ2)、「きらきらぼし」 (ステップ2) を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p>
第12回	<p>ピアノの基礎を学ぶ (12) 「ハッピー・バースデー」 (ステップ2) 「きらきらぼし」 (ステップ2) 「おべんとう」 (ステップ3)</p>

	<p>「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」(ステップ2)を仕上げる。 「きらきらぼし」(ステップ2)を仕上げる。 「おべんとう」(ステップ3)の譜読みをする。 フランスのソルフェージュ教材より No.18へ音記号のド〜ドを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」(ステップ2)と「きらきらぼし」(ステップ2)、「おべんとう」(ステップ3)を練習する。(毎日30分) A:中 F:あり</p> <p>第13回 ピアノの基礎を学ぶ(13) 「おべんとう」(ステップ3) 「おはようのうた」(ステップ2) 実技発表の曲 「おべんとう」(ステップ3)左手は和音の動きがスムーズにいくように、右手は手の移動やリズムが正確にできるように練習する。 「おはようのうた」(ステップ2)の譜読みをした後、練習方法を学ぶ。 実技発表の曲を練習する。 フランスのソルフェージュ教材より No.19へ音記号のド〜ドを確実に覚えるため、歌いながら弾く。</p> <p>予習・復習 「おべんとう」(ステップ3)と「おはようのうた」(ステップ2)、実技発表の曲を練習する。(毎日45分) A:中 F:あり</p> <p>第14回 ピアノの基礎を学ぶ(14) 「おべんとう」(ステップ3) 「おはようのうた」(ステップ2) 実技発表の曲 「おべんとう」(ステップ3)を仕上げる。 「おはようのうた」(ステップ2)を仕上げる。 実技発表の曲を練習する。</p> <p>予習・復習 実技発表の曲を練習する。(毎日45分) A:中 F:あり</p> <p>第15回 ピアノの基礎を学ぶ(15) 実技発表(最終確認テスト) 実技発表として、これまでに学んだ童謡の中から2曲を選び演奏する。 発表後に教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>D:多 E:あり</p> <p>第16回 ピアノの基礎を学ぶ(16) 期末レポート課題 この科目で学んだ成果や今後の課題についてまとめて提出する。 E:あり</p>
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標(学修成果) 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	<p>1. (DP1)基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。</p> <p>2. (DP4)歌ってみよう弾いてみようとい欲的に取り組むことができる。</p> <p>3. (DP2)子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。</p> <p>添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照</p>
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<p>毎回のピアノの課題に対する取り組みと進捗を評価する。 60%</p> <p>実技発表と期末レポート課題を評価する。 20%</p> <p>グループ学習での取り組みを評価する。 20%</p> <p>成績評価は添付資料のルーブリックを参照</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実技発表後に教員よりアドバイスを受け、期末レポート課題により更に振り返りを行う。
教科書	適宜プリントを配付する。
参考書	<p>大学所有のものを授業時のみ貸与して使用する。</p> <p>・フランスのソルフェージュ教材</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	小さな積み重ね(くり返し)の努力が大きな成果となる。授業で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習のピアノの課題は必ず練習すること。(毎日30分〜45分)
履修上の注意、条件等	フェリシアこども短期大学に進学を希望する者に履修を勧める。
オフィスアワー	質問等に関してはメールにより受け付ける。
備考・メッセージ	全16回を対面で行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	1 単位	保育士選択必修
担当教員			
渡邊 眞理			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
ルーブリック保育実習指導Ⅱ.pdf			

講義概要	<p>これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。</p> <p>担当教員は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>オリエンテーション 保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。 また、アメリカにおける実習の在り方を知り、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。 B:中 E:あり F:あり 予習：シラバスを熟読しておく（30分） 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える（30分）</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G:PB L（課題解決型学習） H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（時系列の記録） 時系列の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中 E:あり F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習：時系列の記述について流れをまとめる（1時間）</p>	
	第3回	<p>こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（エピソード記録） エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中 E:あり F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習：エピソード記述式の記録の取り方のポイントをまとめる（1時間）</p>	
	第4回	<p>乳児の指導計画 0・1・2歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 実際に計画を立てる練習をする。 B:中 E:あり F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内で立てた計画を見直す（1時間）</p>	
	第5回	<p>乳幼児の活動提案 0・1・2・3・4・5歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。 B:中 E:あり F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく（1時間）</p>	
	第6回	<p>乳幼児の活動提案② 0・1・2・3・4・5歳児の活動の提案を行う（続き）。 責任実習を想定し、改良を加える。 B:多 F:あり 予習：活動案を決めシミュレーションする（1時間） 復習：授業内でまとめた計画を見直す（1時間）</p>	
	第7回	<p>学内オリエンテーション 学内オリエンテーション②(実習先のオリエンテーションに向けての諸注意及び確認) 実習前の心構えと諸注意について F:あり 予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる（1時間） 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる</p>	
	第8回	<p>全日指導案の作成 活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A:多 E:あり F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく（1時間） 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする（1時間）</p>	
	第9回	<p>模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A:多 E:あり F:あり</p>	

	<p>予習：主活動（模擬保育）に向けての準備物をまとめる（1時間） 復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする（30分） 模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多 F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）</p> <p>第11回 模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 A：多 F：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間）</p> <p>第12回 日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 F：あり 予習：保育実習Ⅰの日誌を見返す（1時間） 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間）</p> <p>第13回 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴 ・保育者の姿勢や助言から学んだこと ・困ったことへの対応 ・これまでの実習と比較して成長したところ ・自分の保育観 B：多 F：あり 予習：実習を振り返る（1時間） 復習：自身の保育観について考える（1時間） 最終課題：指導案及び実習課題のレポートを提出</p> <p>第14回 実習課題の明確化 実習の課題を明確にし課題達成に向けて流れを明確にする B：多 F：あり 予習：保育実習Ⅱの意義を考えまとめて授業に参加する（1時間） 復習：保育実習Ⅱの意義を理解し実習の準備を整える（1時間）</p> <p>第15回 実習の振り返りとまとめ（学生によるプレゼンテーション及び自己評価と課題設定） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 D：多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間）</p>
教育目標との関連	<p>保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。</p>
到達目標（学修成果）	<p>1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性</p> <p>1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、社会の中の保育園の存在意義について説明できる。 2. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協働することができる。</p>
評価方法および評価基準	<p>1. 評価方法 提出課題50% : 指導案、実習課題の最終レポート 受講態度50%</p> <p>1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準</p>
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	<p>指導案、実習課題の最終レポートについて、授業内で解説し実習に向かう準備を整える。実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。</p>
教科書	<p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 250円</p>
参考書	<p>『保育学生のための実践国語表現』原田/留美 おうふう 1100円</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的予習内容は各授業会に記載している。</p>
履修上の注意、条件等	<p>保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。</p>
オフィスアワー	<p>質問等は各教員の研究室で、オフィスアワーに受け付ける。</p>
備考・メッセージ	<p>原則として全て対面授業でおこなう。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	保育士選択必修
担当教員			
渡邊 眞理			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
保育実習Ⅱループリック.pdf			

講義概要	<p>本科目は保育所における実習である。各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。</p> <p>担当教は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 G: PBL (課題解決型学習) H:反転授業 (知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> 養護と保育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> 環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 自己課題の明確化
教育目標との関連	<p>保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につけることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。</p>
到達目標 (学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる 2. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準で評価を行う。</p> <p>実習先が与えた評価 40%</p> <p>実習日誌などの評価 60%</p> <p>授業内でループリックを示し評価方法を解説する。また保育・教職の手引きを参照すること。</p>

	最終レポート 実習自己評価票の提出
期末試験・期末レポートのフィードバック方法	実習指導の最終授業において実習の振り返りを実施する。また、実習園の評価及び実習自己評価票をもとに個別に面談を行い実習の振り返りを行う。
教科書	幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド わかば社 1400円＋税
参考書	『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。実習日誌に毎日記録をおこなう。（約2時間）提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	授業内で指示する。
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）